

## 共通〔教養科目〕

### 〔英語科目〕

<p>英語1 .....[1クラス].. 1            [2クラス].. 2            [3クラス].. 3            [4クラス].. 4            [5クラス].. 5            [6クラス].. 6            [7クラス].. 7            [8クラス].. 8            (再)クラス.. 9</p> <p>英語2 .....[1クラス].. 10            [2クラス].. 11            [3クラス].. 12            [4クラス].. 13            [5クラス].. 14            [6クラス].. 15            [7クラス].. 16            [8クラス].. 17            (再)クラス.. 18</p> <p>英語3 .....[1クラス].. 19            [2クラス].. 20            [3クラス].. 21            [4クラス].. 22            [5クラス].. 23            [6クラス].. 24            [7クラス].. 25            [8クラス].. 26            (再)クラス.. 27</p> <p>英語演習1 .....[1クラス].. 28            [2クラス].. 29            [3クラス].. 30            [4クラス].. 31            [5クラス].. 32            [6クラス].. 33            [7クラス].. 34            [8クラス].. 35            (再)クラス.. 36</p> <p>英語演習2 .....[1クラス].. 37            [2クラス].. 38            [3クラス].. 39            [4クラス].. 40            [5クラス].. 41            [6クラス].. 42            [7クラス].. 43            [8クラス].. 44            (再)クラス.. 45</p>	<p>英語演習3 .....[1クラス].. 46            [2クラス].. 47            [3クラス].. 48            [4クラス].. 49            [5クラス].. 50            [6クラス].. 51            [7クラス].. 52            [8クラス].. 53            (再)クラス.. 54</p> <p>英語I .....(再)..... 55            英語V .....(再)..... 56</p> <p>〔留学生科目〕</p> <p>日本語I ..... [01クラス].. 57            日本語I ..... [02クラス].. 58            日本語II ..... [01クラス].. 59            日本語II ..... [02クラス].. 60            日本語III ..... [01クラス].. 61            日本語III ..... [02クラス].. 62            日本語IV ..... [01クラス].. 63            日本語IV ..... [02クラス].. 64            日本事情I ..... 65            日本事情II ..... 66</p> <p>〔必修科目〕</p> <p>情報リテラシー I ..... [01クラス].. 67            [02クラス].. 68            [03クラス].. 69            [04クラス].. 70            [05クラス].. 71</p> <p>情報リテラシー II ..... [01クラス].. 72            [02クラス].. 73            [03クラス].. 74            [04クラス].. 75            [05クラス].. 76</p>
--	--

## 共通〔教養科目〕

### 〔選択必修科目・選択科目〕

20世紀の世界史	77	経営学概論	114
20世紀の日本史	78	経済学概論	115
TOEIC I	79	芸術論	116
TOEIC II	80	現代社会理解	117
インターンシップ	[情社01]・81	自己理解の心理学	118
	[情社02]・82	社会学概論	119
	[心理01]・83	浄土教の歴史と文化	120
	[心理02]・84	心理学入門	121
キャリアと自立	[1クラス]・85	身近な物理	122
グローバル社会と地誌	86	人生と職業	123
コンピュータ概論I	87	人体の構造と機能及び疾病	124
コンピュータ概論II	88	数理基礎	125
ジェンダー論	89	世界の宗教と歴史	126
スポーツ文化論	90	政治学概論	127
ドイツの言語と文化	91	生命の仕組み	128
ネットワーク・リテラシー	[01クラス]・92	西洋史概論	129
	[02クラス]・93	総合教養演習	130
ビジネス英語入門	94	総合情報演習	131
プラクティカル・イングリッシュ I	95	体育実技I	[1クラス]・132
プラクティカル・イングリッシュ II	96	体育実技II	[1クラス]・133
フランスの言語と文化	[01クラス]・97		[2クラス]・134
ボランティアの研究	[01クラス]・98	地域学	135
	[02クラス]・99	中国の言語と文化	[01クラス]・136
	[03クラス]・100	哲学概論	137
マルチメディア・リテラシー	[01クラス]・101	東洋史概論	138
	[02クラス]・102	働くことの科学と実践I	139
メディア論	103	働くことの科学と実践II	140
名異文化コミュニケーション(海外研修)	104	日本国憲法	[04クラス]・141
宇宙の科学	105	日本史概論	142
英語記事・論文読解	106	脳と行動	143
英語圏文化論	107	福祉ビジネス論	144
音楽音響学概論	108	仏教の歴史と思想	145
化学と生活	109	仏教精神I	146
科学技術史	110	仏教精神II	147
会計学概論	111	文化人類学	148
教育と社会	[01クラス]・112	簿記演習	149
	[02クラス]・113	法学概論	150

## 情報社会学科 〔専門科目〕

〔必修科目〕

情報学概論 .....	151	情報社会総合演習I .....	[01クラス]・ 186
基礎演習I .....	[01クラス]・ 152		[02クラス]・ 187
	[02クラス]・ 153		[03クラス]・ 188
	[03クラス]・ 154		[04クラス]・ 189
	[04クラス]・ 155		[05クラス]・ 190
	[05クラス]・ 156		[06クラス]・ 191
基礎演習II .....	[01クラス]・ 157		[07クラス]・ 192
	[02クラス]・ 158		[08クラス]・ 193
	[03クラス]・ 159		[09クラス]・ 194
	[04クラス]・ 160		[10クラス]・ 195
	[05クラス]・ 161	情報社会総合演習II .....	[01クラス]・ 196
プロジェクト演習I .....	[01クラス]・ 162		[02クラス]・ 197
	[02クラス]・ 163		[03クラス]・ 198
プロジェクト演習II .....	[01クラス]・ 164		[04クラス]・ 199
	[02クラス]・ 165		[05クラス]・ 200
情報社会一般演習I .....	[01クラス]・ 166		[06クラス]・ 201
	[02クラス]・ 167		[07クラス]・ 202
	[03クラス]・ 168		[08クラス]・ 203
	[04クラス]・ 169		[09クラス]・ 204
	[05クラス]・ 170		[10クラス]・ 205
	[06クラス]・ 171		
	[07クラス]・ 172		
	[08クラス]・ 173		
	[09クラス]・ 174		
	[10クラス]・ 175		
情報社会一般演習II .....	[01クラス]・ 176		
	[02クラス]・ 177		
	[03クラス]・ 178		
	[04クラス]・ 179		
	[05クラス]・ 180		
	[06クラス]・ 181		
	[07クラス]・ 182		
	[08クラス]・ 183		
	[09クラス]・ 184		
	[10クラス]・ 185		

## 情報社会学科 〔専門科目〕

### 〔選択必修科目・選択科目〕

3DCG演習	206	企業と業界の分析 I (製造・技術・IT)	245
e-ビジネス論	207	企業と業界の分析 II (流通・物流)	246
Webデザイン応用演習	208	空間構成演習I	247
Webデザイン基礎演習	209	空間構成演習II	248
アート・コミュニケーション論	210	経営情報システム	249
アート批評論 I	211	現代経済史	250
アート批評論 II	212	現代経済論	251
コンピュータ画像処理	213	現代社会と宗教	252
サウンド・プログラミング演習	214	現代社会と倫理	253
システム管理	215	行政学	254
デジタルサウンド演習I	216	行政法	255
デジタルサウンド演習II	217	国際関係論	[1クラス]・256
デジタルデザイン応用演習	218	国際法	257
デジタルデザイン基礎演習	219	財務管理論	258
デジタル映像表現	220	自然地理学	259
データベース論	221	情報システム論	260
データ解析法	222	情報セキュリティ	261
テキスト情報処理	223	情報と職業	[02クラス]・262
テクノロジーと音楽	224	情報ネットワーク論	263
デザイン論	225	情報の分析と活用	264
ネットワーク管理	226	情報メディア演習	265
ネットワーク社会論	227	情報関連法	266
ビジネス関連法	228	情報社会特講II	267
プログラミングI	229	情報社会特講VI	268
プログラミングII	230	人文地理学	269
プログラミング入門	231	西洋史特講	270
マーケティング論	232	知識管理論	271
マルチメディア論	233	知的財産権法	272
映像・音楽の総合表現と人間	234	地誌学	273
映像と音楽	235	哲学の源流	274
映像環境論	236	東洋史特講	275
映像制作演習	237	日本史特講	276
映像文化論	238	平面構成演習	277
音楽とメディアの歴史	239	法学応用演習	278
音楽情報演習I	240	民法A(総則・物権)	279
音楽情報演習II	241	民法B(債権)	280
音楽文化論	242		
音響環境論I	243		
音響環境論II	244		

## 心理学科 〔専門科目〕

### 〔必修科目〕

心理学概論I	281
心理学概論II	282
基礎演習I(学習法基礎)	283
基礎演習II(課題演習)	284
心理統計学I	285
心理統計学II	286
心理学実験	287
心理学研究法基礎(心理学研究法I)	288
臨床心理学(臨床心理学概論)	289
心理演習	290
ビジネス心理学	291
一般実験演習I	[01クラス]・292
	[02クラス]・293
	[03クラス]・294
	[04クラス]・295
	[05クラス]・296
	[06クラス]・297
	[07クラス]・298
	[08クラス]・299
一般実験演習II	[01クラス]・300
	[02クラス]・301
	[03クラス]・302
	[04クラス]・303
	[05クラス]・304
	[06クラス]・305
	[07クラス]・306
	[08クラス]・307
総合研究演習I	[01クラス]・308
	[02クラス]・309
	[03クラス]・310
	[04クラス]・311
	[05クラス]・312
	[06クラス]・313
	[07クラス]・314
	[08クラス]・315
総合研究演習II	[01クラス]・316
	[02クラス]・317
	[03クラス]・318
	[04クラス]・319
	[05クラス]・320
	[06クラス]・321
	[07クラス]・322
	[08クラス]・323

### 〔選択必修科目・選択科目〕

映像・音楽の総合表現と人間	234
コミュニケーション技法	324
コミュニケーション技法演習I	325
コミュニケーション技法演習II	326
ビジネス心理原典講読	327
家族臨床心理学	328
学校臨床心理学	329
学習心理学(学習・言語心理学I)	330
企業組織における人間行動	331
教育心理学	332
言語心理学(学習・言語心理学II)	333
交通心理学	334
公認心理師の職責	335
産業心理学	336
社会心理学	337
社会臨床心理学	338
消費者理解の心理学	339
情報処理心理学	340
心理データ解析法	341
心理学と職業	342
心理学研究法応用	343
心理調査概論	344
深層心理学	345
神経心理学	346
人格心理学	347
精神疾患とその治療	348
対人援助論	349
対人関係論	350
知覚心理学(知覚・認知心理学I)	351
動機づけと情動	352
認知心理学(知覚・認知心理学II)	353
発達心理学	354
発達臨床心理学	355
犯罪心理学	356
比較心理学	357
非行臨床心理学	358
福祉心理学	359
臨床心理査定・検査	360
臨床心理査定・面接	361
臨床心理実習I	362
臨床心理実習II	363

## 教職課程

教職論 .....	[01クラス]	364	メディア教育論 .....	[01クラス]	396
教育原理 .....		365		[02クラス]	397
発達・学習論 .....	[01クラス]	366	教育制度論(教育課程を含む。)		398
	[02クラス]	367	学習指導I .....		399
情報科教育法I .....		368	学習指導II .....		400
情報科教育法II .....		369	教職実践演習(中・高) .....	[01クラス]	401
社会科・公民科教育法I .....	[01クラス]	370		[02クラス]	402
社会科・公民科教育法II .....	[01クラス]	371			
社会科・地歴科教育法I .....		372			
社会科・地歴科教育法II .....		373			
社会科教育法III .....		374			
社会科教育法IV .....		375			
教育方法・技術論 .....	[01クラス]	376			
教育方法・技術論 .....	[02クラス]	377			
特別活動の理論と方法 .....	[01クラス]	378			
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 .....		379			
生徒・進路指導の理論と方法 .....	[01クラス]	380			
道徳教育の理論と方法 .....	[01クラス]	381			
特別支援教育概論 .....		382			
教育相談 .....	[01クラス]	383			
	[02クラス]	384			
教育実習I .....	[01クラス]	385			
	[02クラス]	386			
	[03クラス]	387			
教育実習II .....	[01クラス]	388			
	[02クラス]	389			
	[03クラス]	390			
	[04クラス]	391			
教育実習III .....	[01クラス]	392			
	[02クラス]	393			
	[03クラス]	394			
	[04クラス]	395			

科目名	英語1				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1			
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	山本 久美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			



科目名	英語1			
クラス	[3クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	藤田 晃代			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1				
クラス	[4クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1				
クラス	[5クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1			
クラス	[6クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1				
クラス	[7クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1			
クラス	[8クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1			
クラス	(再)クラス	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 金2
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語2				
クラス	[1クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				



科目名	英語2			
クラス	[2クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 金2
担当教員	宇野 知佐子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に進められるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語2			
クラス	[3クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 金4
担当教員	宇野 知佐子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語2				
クラス	[4クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[5クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[6クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	町田 純子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[7クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2			
クラス	[8クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 金1
担当教員	藤田 晃代			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語2				
クラス	(再)クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				



科目名	英語3				
クラス	[1クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	町田 純子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語の文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。又、リスニングの速聴やシャドウイング練習により英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできるようになることもねらいである。				
授業方針	基本的に、教科書のタスクベースで、毎回語彙のチェックから始め、翻訳訳読式で返り読みせずに、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の Topic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。会話文等を含め、ペアワーク ティスをした後に全体で確認する。(履修人数により多少の変更が有り)				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1・2回 Unit 1 A Pirate & The Power of Laughter(Flowchart, Topic Sentences and Main Ideas; Sense Group Reading and Shadowing) 第3・4回 Unit 2 Hobbits & Homo Floresiensis – Real Life Hobbits? (Skimming; Making a Summary; Using 5W Questions) 第5・6回 Unit 3 A Return Flight from Space(Paragraph Development:Classification) 第7・8回 Unit 4 A Traveler & Mythology(Paragraph Development: Paragraphs of Chronological Order Spatial Order) 第9回 中間試験 第10・11回 Unit 5 Struggling Youth & Family Survey(Paragraph Development: Paragraphs of Definition and Paragraphs of Comparison and Contrast) 第12回 Unit 6 Our World & An Inspirational Story (Paragraphs of Cause and Effect) 第13回 Unit 7 Reading 1: Writing Your Fears Away 第14回 Reading 2: New Media 第15回 まとめと試験				
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分)間違えた箇所を確認し理解し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)				
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。・英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできるか。(中間テスト)/ 英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができ、又一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができるか。(期末テスト)			
	成績評価 方法	中間テスト40%、課題10%、期末試験50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『Fresh Starts—楽しく学ぶ速読スキル』町田純子、八木茂那子、アーロンドットソン 南雲堂				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[2クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に更なる語彙力upを図る。				
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の小テスト、14回目には音読のtestを行う予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction と学習目標の立て方 他 第2回 Unit 1 3つのshadowing 第3回 Unit 2 quiz 1 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 英語のレシピ quiz2 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 emails quiz 3 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 7 第10回 Unit 8 quiz 4 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 quiz5 第13回 Oral test・まとめ1 第14回 Oral test・まとめ2 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。				
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。				
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語をどれくらい「自然にかつ英語らしく言いたいことを」伝達できるか。			
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz 20% +平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『It's Time to Read! 』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストコピーでの使用はは不可とする。				

科目名	英語3				
クラス	[3クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	藤田 晃代	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	本授業では単に英会話練習を繰り返すのではなく、本当の意味で使える「大人の英語力」を身につける。まとまった内容の英語を聴き、読み、そして話し、書くことを繰り返すことで「即応力」となる英語を学ぶ。				
授業方針	暗記中心の英文法ではなく、「なぜそうなるのか」に重点を置いた英文法の確認からはじめ、聴き、読み、話し、書く練習をする。授業内課題や発表も取り入れる。なお、授業は英語で行われる場合もあるので、積極的に参加すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 時制 第2回 名詞、代名詞、冠詞 第3回 助動詞 第4回 to不定詞、動名詞 第5回 接続詞、前置詞 第6回 進行形、使役動詞 第7回 形容詞、副詞 第8回 完了形 第9回 否定 第10回 疑問文、命令文 第11回 分詞 第12回 関係詞 第13回 比較、数詞 第14回 仮定法、態 第15回 まとめと試験				
準備学習	毎時、教科書で扱う練習問題を事前に予習しておくこと(10時間) 新出単語は必ず辞書で意味を調べ、品詞も確認しておくこと(2時間) 授業内発表の事前準備をすること(3時間)				
学習到達目標	英文を読んで、内容について自ら考えることを論理的に説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語を使うために必要な英文法の基本はしっかり押さえてあるか。 日常のやり取りが英語でできるか。 身近な話題について書かれた読み物の内容を理解し、それらに関する自分の意見や考えを英語で発表できるか。			
	成績評価 方法	授業内課題20%(英文法問題を提出できたか) 授業時発表20%(授業で学んだ事からについて、自分なりの意見や考えを英語で述べられたか) 試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規定第15条に定める。			
教材	教科書 Viewpoints: Japan and England(南雲堂) 参考書 学生の関心に応じて随時紹介する。				
備考	英和辞典(電子辞書も可)を毎時持参すること。英英辞典もあればのぞましい。				

科目名	英語3				
クラス	[4クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	様々なテーマの英語演習とリスニング問題を通して、英語運用能力の養成を図る。				
授業方針	演習中心の授業なので、熱心かつ積極的に授業に参加すること。また、必ずテキストを購入して授業に臨むこと。テキストを購入しなかった場合、単位の取得は望めないの、注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方、評価などについて説明する。Unit1 Nice to meet you!を学習する。 第2回 Unit1の続きとUnit2 What do you do?を学習する。 第3回 Unit2の続きとUnit3 Do you like spicy food?を学習する。 第4回 Unit3の続きとReview & Checkを学習する。 第5回 Review & Checkの続きとUnit4 How often do you do yoga?を学習する。 第6回 Unit4の続きとUnit5 What are you watching?を学習する。 第7回 Unit5の続きとUnit6 What were you doing yesterday?を学習する。 第8回 Unit6の続きとReview & Checkを学習する。 第9回 Review & Checkの続きとUnit7 Which one is cheaper?を学習する。 第10回 Unit7の続きとUnit8 What's she like?を学習する。 第11回 Unit8の続きとUnit9 What can you do there?を学習する。 第12回 Unit9の続きとReview & Checkを学習する。 第13回 Review & Checkの続きとUnit10 Is there a bank near here?を学習する。 第14回 Unit10の続き今まで学んできたことを復習する。				
準備学習	宿題として出された箇所は必ずやってくる。				
学習到達目標	基本的な英文を読んだり、聞き取ることができるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	普通の学習態度20%、期末試験80%で成績を算出する。その60%以上を合格とする。 普通の学習態度の中に、出席状況も含まれる。			
	成績評価 方法	普通の授業時での態度・発言などと出席状況をそれぞれ点数化し、期末試験80点と合計する。			
	成績評価	成績評価基準、評価方法に記したとおりである。			
教材	Smart Choice Workbook 1 2nd Edition (Oxford)				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[5クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に更なる語彙力upを図る。				
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の単語テスト、14回目には音読のtestを行う予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction と学習目標の立て方 他 第2回 Unit 1 3つのshadowing 第3回 Unit 2 quiz 1 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 英語のレシピ quiz2 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 emails quiz 3 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 7 第10回 Unit 8 quiz 4 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 quiz5 第13回 Oral test・まとめ1 第14回 Oral test・まとめ2 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。				
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。				
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語をどれくらい「自然にかつ英語らしく言いたいことを」伝達できるか。			
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz 20% +平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『It's Time to Read! 』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストコピーでの使用はは不可とする。				

科目名	英語3				
クラス	[6クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	町田 純子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語の文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。又、リスニングの速聴やシャドウイング練習により英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできるようになることもねらいである。				
授業方針	基本的に、教科書のタスクベースで、毎回語彙のチェックから始め、翻訳訳読式で返り読みせずに、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の Topic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。会話文等を含め、ペアワーク ティスをした後に全体で確認する。(履修人数により多少の変更が有り)				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1・2回 Unit 1 A Pirate & The Power of Laughter(Flowchart, Topic Sentences and Main Ideas; Sense Group Reading and Shadowing) 第3・4回 Unit 2 Hobbits & Homo Floresiensis – Real Life Hobbits? (Skimming; Making a Summary; Using 5W Questions) 第5・6回 Unit 3 A Return Flight from Space(Paragraph Development:Classification) 第7・8回 Unit 4 A Traveler & Mythology(Paragraph Development: Paragraphs of Chronological Order Spatial Order) 第9回 中間試験 第10・11回 Unit 5 Struggling Youth & Family Survey(Paragraph Development: Paragraphs of Definition and Paragraphs of Comparison and Contrast) 第12回 Unit 6 Our World & An Inspirational Story (Paragraphs of Cause and Effect) 第13回 Unit 7 Reading 1: Writing Your Fears Away 第14回 Reading 2: New Media 第15回 まとめと試験				
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分) 間違えた箇所を確認し理解し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)				
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。・英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクトアウトできるか。(中間テスト)/ 英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができ、又一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができるか。(期末テスト)			
	成績評価 方法	中間テスト40%、課題10%、期末試験50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『Fresh Starts—楽しく学ぶ速読スキル』町田純子、八木茂那子、アーロンドットソン 南雲堂				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[7クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	藤田 晃代			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	本授業では単に英会話練習を繰り返すのではなく、本当の意味で使える「大人の英語」を身につける。まとまった内容の英語を聴き、読み、そして話し、書くことを繰り返すことで「即応力」となる英語を学ぶ。				
授業方針	暗記中心の英文法ではなく、「なぜそうなるのか」に重点を置いた英文法学習をもとに、聴き、読み、話し、書く練習をする。授業内課題や発表も取り入れる。なお、授業は英語で行われる場合もあるので積極的に参加すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 時制 第2回 名詞、代名詞、冠詞 第3回 助動詞 第4回 to不定詞、動名詞 第5回 接続詞、前置詞 第6回 進行形、使役動詞 第7回 形容詞、副詞 第8回 完了形 第9回 否定 第10回 疑問文、命令文 第11回 分詞 第12回 関係詞 第13回 比較、数詞 第14回 仮定法、態 第15回 まとめと試験				
準備学習	毎時、教科書で扱う練習問題を事前に予習しておくこと(10時間) 新出単語は必ず辞書で意味を調べ、品詞も確認しておくこと(2時間) 授業内発表の事前準備をすること(3時間)				
学習到達目標	英文を読んで、内容について自ら考えることを論理的に説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文法の基本はしっかり押さえてあるか 日常のやり取りが英語でできるか 身近な話題について書かれた記事や読み物の内容を理解し、それらに関する自分の考えを英語で発表できるか			
	成績評価 方法	授業内課題20%(英文法問題を提出できたか) 授業時発表20%(授業で学んだ事からについて、自分なりの意見や考えを英語で述べられたか) 試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規定第15条に定める。			
教材	教科書 Viewpoints: Japan and England (南雲堂) 参考書 学生の関心に応じて随時紹介する。				
備考	英和辞典(電子辞書も可)を毎時持参すること。英英辞典もあればのぞましい。				

科目名	英語3				
クラス	[8クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	永本 義弘			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	1・2年で学習した内容を復習すると同時に、総合的な力を更にアップさせることを目的としている。具体的には、毎回読み切り型のreading materialを通じて、語彙・文法・構文・解釈・作文・聴解の総合的な力を鍛える内容となっている。				
授業方針	unit毎にテーマの異なるreading materialを使って、以下の方針で授業を進めていく。 ① 受講者の実力と理解度を勘案しながら授業を行うが、『英語の総合力アップ』という目的に沿ったものとする。 ② 毎回学生を指名し、授業への自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各unitのトピック並びに文法テーマは、以下となる。 第1回 ① 授業方針・目的及び成績評価に関する説明 ② 英語の総合力アップを図るには？ 第2回 ① Hydroponics in Japan ② 受動態 第3回 ① Waste Recycling ② 助動詞 第4回 ① El Nino ② 否定表現 第5回 ① Potassium and Strokes ② 時制の一致 第6回 ① Autumn Colors ② 準動詞 第7回 ① AIDS ② 比較表現 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 ① Honeybees ② 動詞の変化 第10回 ① The Moon's Influence ② 句と節 第11回 ① Sleep ② 無生物主語構文 第12回 ① Threats to the Environment ② 完了形 第13回 ① Hiccups ② 代名詞 第14回 ① Water and Health ② 前置詞 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。				
学習到達目標	① 語彙を増やす。 ② 基本的な文法知識を再確認する。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ④ 内容把握のスピードをアップさせる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 活用できる語彙は増えたか。 ② 基本的な文法知識を再確認できたか。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ④ 内容把握のスピードはアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験(50%)と授業内の課題(50%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	"VOA Science Briefs" 鈴木寛次 / 中畑繁 / ジョセフ・ベンソン 南雲堂				
備考					



科目名	英語3				
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に更なる語彙力upを図る。				
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の小テスト、14回目には音読のtestを行う予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction と学習目標の立て方 他 第2回 Unit 1 3つのshadowing 第3回 Unit 2 quiz 1 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 英語のレシピ quiz2 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 emails quiz 3 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 7 第10回 Unit 8 quiz 4 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 quiz5 第13回 Oral test・まとめ1 第14回 Oral test・まとめ2 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。				
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。				
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語をどれくらい「自然にかつ英語らしく言いたいことを」伝達できるか。			
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz (20%)+平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『It's Time to Read! 』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストコピーでの使用はは不可とする。				

科目名	英語演習 1				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[3クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[4クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[5クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[6クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[7クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				



科目名	英語演習 1				
クラス	[8クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	(再)クラス	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習2			
クラス	[1クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[2クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	レメディオス・木村			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[3クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[4クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 木3
担当教員	伊藤 公博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[5クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[6クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			



科目名	英語演習2			
クラス	[7クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[8クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	宇野 知佐子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	(再)クラス	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	宇野 知佐子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語演習2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語演習2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験(70%)、授業時の課題(30%)で成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語演習2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習3			
クラス	[1クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	生の生きたメディア英語のCNNニュースを音声や動画で触れ、速聴やシャドウイング練習により、英語のリズム、音声現象に慣れる。又英文スクリプトの内容を把握することで、段落展開を踏まえた大意把握やサマリーの仕方等を習得し、英語の4スキルの言語運用能力を身に付けることが目的である。			
授業方針	基本的に教科書のタスクベースで進み、毎回予習中心で語彙のチェックから始め、ペアプラクティスを取り入れながら、要約までを完結させる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回Unit 1: 金の歴史とスイスの事情 第2回Unit 2: 標準時間と夏時間 第3回Unit 3: 図書館を作ろう 第4回Unit 4: ピラミッドとテクノロジー 第5回Unit 5: 不思議な顔料 第6回Unit 6: 未来型ショッピング 第7回Unit 7: 科学者で折り紙職人 第8回Unit 8: アイスcream大学 第9回Unit 9: ナイジェリア出身の女性ボブスレー選手 第10回Unit 10: 動物を管轄する動物 第11回Unit 11: グーグルがなかった時代には 第12回Unit 12: 料理を3Dプリンターで 第13回Unit 13: ビットコインのオモテとウラ 第14回Unit 14: 古くなった紙幣は土へ、 Unit 15: ネットワーク中立性を考えよう 第15回 まとめと試験			
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分) 間違えた箇所を確認し理解し、シャドウイング練習し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)			
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英文を最初から最後まで読み通し、パラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語で聞き取り、発話ができる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語のリズム、音声現象に慣れ、英語を音読、速聴できるか。英語のニュースを最初から最後まで読み通し、パラグラフの構成を理解し概要をつかむことができるか。又実用的な語彙を習得できるか。		
	成績評価 方法	課題15%、授業中参加度15%、小テスト20%、期末試験50%で総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『CNN 10-Student News—Vol.2』ASAHI PRESS ISBN: 978-4-255-15633-0 1800円			
備考				

科目名	英語演習3			
クラス	[2クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に語彙力upを図る。			
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の単語テスト、14回目には音読のtestを行う予定である			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction 基本5文型その他 第2回 Unit 11 3つのshadowingについて 第3回 Unit 12 quiz 6 第4回 Unit 13 第5回 Unit 14 quiz 7 第6回 Unit 15 第7回 Unit 16 quiz 8 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 17 第10回 Unit 18 quiz 9 第11回 Unit 19 第12回 Unit 20 quiz 10 第13回 Oral test・まとめ1 第14回 Oral test・まとめ2 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。			
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。			
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語演習3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語を使ってどれくらい「自然に英語らしく」言いたいことを伝達できるか。		
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz 20% +平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『It's Time to Read! 』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂			
備考	テキストは各自で購入すること。テキストをコピーしての使用は不可とする。			

科目名	英語演習3			
クラス	[3クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	生の生きたメディア英語のCNNニュースを音声や動画で触れ、速聴やシャドウイング練習により、英語のリズム、音声現象に慣れる。又英文スクリプトの内容を把握することで、段落展開を踏まえた大意把握やサマリーの仕方等を習得し、英語の4スキルの言語運用能力を身に付けることが目的である。			
授業方針	基本的に教科書のタスクベースで進み、毎回予習中心で語彙のチェックから始め、ペアプラクティスを取り入れながら、要約までを完結させる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回Unit 1: 金の歴史とスイスの事情 第2回Unit 2: 標準時間と夏時間 第3回Unit 3: 図書館を作ろう 第4回Unit 4: ピラミッドとテクノロジー 第5回Unit 5: 不思議な顔料 第6回Unit 6: 未来型ショッピング 第7回Unit 7: 科学者で折り紙職人 第8回Unit 8: アイスcream大学 第9回Unit 9: ナイジェリア出身の女性ボブスレー選手 第10回Unit 10: 動物を管轄する動物 第11回Unit 11: グーグルがなかった時代には 第12回Unit 12: 料理を3Dプリンターで 第13回Unit 13: ビットコインのオモテとウラ 第14回Unit 14: 古くなった紙幣は土へ、 Unit 15: ネットワーク中立性を考えよう 第15回 まとめと試験			
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分) 間違えた箇所を確認し理解し、シャドウイング練習し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)			
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英文を最初から最後まで読み通し、パラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語で聞き取り、発話ができる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語のリズム、音声現象に慣れ、英語を音読、速聴できるか。英語のニュースを最初から最後まで読み通し、パラグラフの構成を理解し概要をつかむことができるか。又実用的な語彙を習得できるか。		
	成績評価 方法	課題15%、授業中参加度15%、小テスト20%、期末試験50%で総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『CNN 10-Student News—Vol.2』ASAHI PRESS ISBN: 978-4-255-15633-0 1800円			
備考	携帯電話の辞書機能の使用は不可。紙の辞書か電子辞書を持参すること。			

科目名	英語演習3				
クラス	[4クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	今まで学んだ英語の知識を再確認しながら、練習問題に取り組む授業である。				
授業方針	受講生のレベル・理解度に合わせて授業を行うため、以下の学習内容は変わりうる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業方針・成績評価などに関する説明、ガイダンス 第2回 主な品詞 第3回 時制(1) 第4回 時制(2) 第5回 助動詞 第6回 受動態 第7回 完了形 第8回 原級・比較級・最上級 第9回 to不定詞 第10回 動名詞 第11回 分詞 第12回 句と節 第13回 関係詞 第14回 仮定法 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	授業のはじめに、前回の授業内容の理解度を確認する小テストを行うのでその準備をする。				
学習到達目標	各回の文法事項を理解できているか。 語彙力は増強されているか。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	扱った文法事項・語彙を使い英語で表現できるか。			
	成績評価 方法	定期試験70%、平常点30%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	初回の授業で発表する。教科書は必ず買うこと。				
備考	必ず初回の授業から出席し、予習・復習を怠らないこと。				

科目名	英語演習3				
クラス	[5クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	様々なテーマの英語演習とリスニング問題を通して、英語運用能力の養成を図る。				
授業方針	演習中心の授業なので、熱心かつ積極的に授業に参加すること。また、必ずテキストを購入して授業に臨むこと。テキストを購入しなかった場合、単位の取得は望めないので、注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方、評価などについて説明する。Unit1 Nice to meet you!を学習する。 第2回 Unit1の続きとUnit2 What do you do?を学習する。 第3回 Unit2の続きとUnit3 Do you like spicy food?を学習する。 第4回 Unit3の続きとReview & Checkを学習する。 第5回 Review & Checkの続きとUnit4 How often do you do yoga?を学習する。 第6回 Unit4の続きとUnit5 What are you watching?を学習する。 第7回 Unit5の続きとUnit6 What were you doing yesterday?を学習する。 第8回 Unit6の続きとReview & Checkを学習する。 第9回 Review & Checkの続きとUnit7 Which one is cheaper?を学習する。 第10回 Unit7の続きとUnit8 What's she like?を学習する。 第11回 Unit8の続きとUnit9 What can you do there?を学習する。 第12回 Unit9の続きとReview & Checkを学習する。 第13回 Review & Checkの続きとUnit10 Is there a bank near here?を学習する。 第14回 Unit10の続き今まで学んできたことを復習する。 準備学習 宿題として出された個所は必ずやってくる。				
準備学習	宿題として出された個所は必ずやってくる。				
学習到達目標	基本的な英文を読んだり、聞き取ることができるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	全体評価の60%以上に達していること。			
	成績評価 方法	普段の授業態度、授業における発言、出席状況、小テスト(必ずしも行うとは限らない)、期末試験を総合して評価する。			
	成績評価	授業参加度等 20% 期末試験 80%			
教材	Smart Choice Workbook 1 2nd Edition (Oxford)				
備考					



科目名	英語演習3			
クラス	[6クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	藤田 晃代			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	本授業では、単に英会話練習を繰り返すのではなく、本当の意味で使える「大人の英語力」を身につける。まとまった内容の英語を聴き、読み、そして話し、書くことを繰り返すことで「即応力」となる英語を学ぶ。			
授業方針	習った表現はすぐ使うことを実践する。毎時、聴き、読むインプットからはじめて習った表現にもとづいて話し、書く練習をする。授業内課題や発表も取り入れる。なお、授業は英語で行われることもあるので、積極的に参加すること。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 時制 第2回 名詞、代名詞、冠詞 第3回 助動詞 第4回 to不定詞、動名詞 第5回 接続詞、前置詞 第6回 進行形、使役動詞 第7回 形容詞、副詞 第8回 完了形 第9回 否定 第10回 疑問文、命令文 第11回 分詞 第12回 関係詞 第13回 比較、数詞 第14回 仮定法、態 第15回 まとめと試験			
準備学習	毎時、各Unitにある内容を予習、確認しておくこと(10時間) 会話文を事前に各自音読しておくこと(2時間) 授業内発表の事前準備をすること(3時間)			
学習到達目標	身の回りのことについて書かれた英文を読んで理解したり、身近なことについて英語で話したり、説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文法の基本を押さえているか。 英文の記事や説明書が読めるか。 様々な話題について英語で聴き、読み、それらにもとづいて自分の意見を論理的に発表、述べることができるか。		
	成績評価 方法	授業内課題20%(英文法問題を提出できたか) 授業時発表20%(授業で学んだ事からについて、自分なりの意見や考えを述べられたか) 試験60%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規定第15条に定める。		
教材	教科書 Viewpoints: Japan and England (南雲堂)  参考書 学生の関心に応じて随時紹介する。			
備考	英和辞典(電子辞書も可)を毎時、持参すること。英英辞典もあればのぞましい。			

科目名	英語演習3			
クラス	[7クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に語彙力upを図る。			
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の単語テスト、14回目には音読のtestを行う予定である			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction 基本5文型その他 第2回 Unit 11 3つのshadowingについて 第3回 Unit 12 quiz 6 第4回 Unit 13 第5回 Unit 14 quiz 7 第6回 Unit 15 第7回 Unit 16 quiz 8 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 17 第10回 Unit 18 quiz 9 第11回 Unit 19 第12回 Unit 20 quiz 10 第13回 Oral test・まとめ1 第14回 Oral test・まとめ2 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。			
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。			
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語演習3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語を使ってどれくらい「自然に英語らしく」言いたいことを伝達できるか。		
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz 20% +平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『It's Time to Read!』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂			
備考	テキストは各自で購入すること。テキストをコピーしての使用は不可とする。			

科目名	英語演習3				
クラス	[8クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	藤田 晃代			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	本授業では、単に英会話練習を繰り返すのではなく、本当の意味で使える「大人の英語力」を身につける。まとまった内容の英語を聴き、読み、話し、書くことを繰り返すことで「即応力」となる英語を学ぶ。				
授業方針	習った表現はすぐ使うことを実践する。毎時、聴き、読むインプットからはじめて習った表現にもとづいて話し、書く練習をする。授業内課題や発表も取り入れる。なお、授業は英語で行われることもあるので、積極的に参加すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 時制 第2回 名詞、代名詞、冠詞 第3回 助動詞 第4回 to不定詞、動名詞 第5回 接続詞、前置詞 第6回 進行形、使役動詞 第7回 形容詞、副詞 第8回 完了形 第9回 否定 第10回 疑問文、命令文 第11回 分詞 第12回 関係詞 第13回 比較、数詞 第14回 仮定法、態 第15回 まとめと試験				
準備学習	毎時、各Unitにある文法事項を予習、確認しておくこと(10時間) 会話文を事前に各自音読しておくこと(2時間) 授業時発表の事前準備をすること(3時間)				
学習到達目標	身の回りのことについて書かれた英文を読んで理解したり、身近なことについて英語で話したり、説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文法の基本を押さえているか。 英文の記事や説明書が読めるか。 様々な話題について英語で聴き、読み、それらにもとづいて自分の意見を論理的に発表、述べることができるか。			
	成績評価 方法	授業内課題20%(英文法問題を提出できたか) 授業時発表20%(授業で学んだ事からについて、自分なりの意見や考えを英語で述べられたか) 試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書 Viewpoints: Japan and England(南雲堂)  参考書 学生の関心に応じて随時紹介する。				
備考	英和辞典(電子辞書も可)を毎時、持参すること。英英辞典があればのぞましい。				

科目名	英語演習3				
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	社会人となった後に必要と考えられる様々な状況における英語コミュニケーション能力を育成する。				
授業方針	初級レベルのTOEIC形式の問題に取り組むことにより、英語基礎力を身につけると同時に日常生活、旅行、学校、職場といった実践的な場面での英語によるコミュニケーションを学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. Travel 2. Dining Out 3. Shopping 4. Entertainment 5. Advertising 6. Events 7. Daily Life 8. Media 9. Recruiting 10. Production & Sales 11. Meeting 12. Offices 13. 復習 14. 期末テスト				
準備学習	・次回授業に出てくる新しい単語や表現について辞書を使用して予習しておくこと。 ・授業の最初に前回授業で学んだ単語等の小テストを実施するので、復習しておくこと。				
学習到達目標	・英語基礎力を確実に身につける ・実践的な場面における英語コミュニケーション能力を身につける				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・単語力・リスニング力が向上しているか。 ・授業で解説した文法事項を確実に理解しているか。			
	成績評価 方法	平常点(課題・単語テスト含)40%、期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	早川幸治・岸洋一『レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース:初級編』金星堂、2019				
備考	授業中のスマートフォンの辞書アプリの使用は不可。				

科目名	英語I			
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修),○(選必)
				単位数 1,2
概要 (目的・内容)	語彙・イディオムの拡大を図って基礎英語で学んだ基礎的な文法知識を活性化させ、初歩的な英語が自由に使えるように練習する。テキストに出てくる基本的な構文を身につけ、英語を書いたり話したりすることに慣れるよう努める。			
授業方針	200～300語程度の語彙で書かれたテキストを用い、基礎英語で学んだ知識を確実なものにしつつ、語彙・イディオムの拡大を図る。一回に読むテキストの量は決して多くないが、これをもとに基礎文法の確認・拡大をする。英文の構造を意識して読む訓練をするとともに、簡単な英語の文を作る練習を重点的に行う。また、テキストの文章を声に出して朗読することにより、英語のリズムに慣れることをめざす。これらの作業を通して「読む」「書く」「聴く」「話す」の一体化を図る。テキストは暗記するほど繰り返し読むことを期待する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本練習 第2回 音読・読解・文法 第3回 作文練習・発話 第4回 音読・読解・文法 第5回 作文練習・発話 第6回 音読・読解・文法 第7回 作文練習・発話 第8回 音読・読解・文法 第9回 作文練習・発話 第10回 音読・読解・文法 第11回 作文練習・発話 第12回 音読・読解・文法 第13回 作文練習・発話 第14回 応用練習,総合練習 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	予習として、テキストの英文を日本語に訳しておく。授業中に学んだことを復習し、応用できるようにする。			
学習到達目標	平易な英文の構造を把握し、構文を意識して英文を組み立てる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	どれほどテキストの英文に慣れたか。テキストに出てきた単語を全て覚え構文を理解したか。テキストの語彙・文型を用いて応用表現ができるか。		
	成績評価 方法	定期試験60%、平常点40%(課題提出・小テスト・確認テストなど)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	ガイダンスで発表する。教科書は必ず買うこと。			
備考	必ず初回の授業から出席し、予習・復習を怠らないこと。			

科目名	英語V				
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	語彙・イディオムの拡大を図って基礎英語で学んだ基礎的な文法知識を活性化させ、初歩的な英語が自由に使えるように練習する。テキストに出てくる基本的な構文を身につけ、英語を書いたり話したりすることに慣れるよう努める。				
授業方針	200～300語程度の語彙で書かれたテキストを用い、基礎英語で学んだ知識を確実なものにしつつ、語彙・イディオムの拡大を図る。一回に読むテキストの量は決して多くないが、これをもとに基礎文法の確認・拡大をする。英文の構造を意識して読む訓練をするとともに、簡単な英語の文を作る練習を重点的に行う。また、テキストの文章を声に出して朗読することにより、英語のリズムに慣れることをめざす。これらの作業を通じて「読む」「書く」「聴く」「話す」の一体化を図る。テキストは暗記するほど繰り返し読むことを期待する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 基本練習 第 2回 音読・読解・文法 第 3回 作文練習・発話 第 4回 音読・読解・文法 第 5回 作文練習・発話 第 6回 音読・読解・文法 第 7回 作文練習・発話 第 8回 音読・読解・文法 第 9回 作文練習・発話 第10回 音読・読解・文法 第11回 作文練習・発話 第12回 音読・読解・文法 第13回 作文練習・発話 第14回 応用練習,総合練習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習として、テキストの英文を日本語に訳しておく。授業中に学んだことを復習し、応用できるようにする。				
学習到達目標	平易な英文の構造を把握し、構文を意識して英文を組み立てる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	どれほどテキストの英文に慣れたか。テキストに出てきた単語を全て憶え構文を理解したか。テキストの語彙・文型を用いて応用表現ができるか。			
	成績評価 方法	定期試験60%、平常点40%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	ガイダンスで発表する。教科書は必ず買うこと。				
備考	必ず初回の授業から出席し、予習・復習を怠らないこと。				

科目名	日本語I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金5
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語及び日本文化について学ぶ。キーワード: 語順・動詞の形・指示詞・自動詞 / 他動詞など				
授業方針	受講者の日本語運用力及び日本文化理解力が向上するよう、教室での授業にとどまらず、フィールドワークなども取り入れながら授業を進める。なお受講生は多くないと思われるため、受講者の希望に沿って授業を行う予定である。ゆえに、以下の授業計画は目安である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞の活用</li> <li>2. 動詞の3分類</li> <li>3. 動詞の「た」形と「て」形</li> <li>4. 動詞の自他</li> <li>5. ふつう形</li> <li>6. ていねい形</li> <li>7. 指示詞「こ・そ・あ」と相手との関係</li> <li>8. 話の中に出てくる「こ・そ・あ」</li> <li>9. 申し出・勧誘の表現</li> <li>10. 依頼・指示・忠告・命令などの表現</li> <li>11. 自分か他者かについて</li> <li>12. 意志の表現</li> <li>13. 継続性と瞬間性について</li> <li>14. 「～ている」の意味, 話者基準「～ていく・～てくる」</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	日本語と自国語の相違点・類似点を理解できること。日本文化と自国文化の相違点・類似点を理解できること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	定期試験70%、平常点30%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					

科目名	日本語I				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語及び日本文化について学ぶ。キーワード: 語順・動詞の形・指示詞・自動詞 / 他動詞など				
授業方針	受講者の日本語運用力及び日本文化理解力が向上するよう、教室での授業にとどまらず、フィールドワークなども取り入れながら授業を進める。なお受講生は多くないと思われるため、受講者の希望に沿って授業を行う予定である。ゆえに、以下の授業計画は目安である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自己紹介及びレベルチェックテスト 第2回 ① 日本語基本文型 第3回 続き 第4回 続き及び小テスト 第5回 ② 動詞の活用 第6回 続き 第7回 続き及び小テスト 第8回 ③ 授受関係 第9回 続き 第10回 続き及び小テスト 第11回 ④ 文書語と会話語 第12回 続き 第13回 続き及び小テスト 第14回 文章を書いて、発表してみよう 第15回 テスト				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	日本語と自国語の相違点・類似点を理解できること。日本文化と自国文化の相違点・類似点を理解できること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	定期試験60%、平常点40%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					



科目名	日本語II				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生生活に必要な日本語力を身につける。				
授業方針	日本語の基本文法を理解し、聞く・話す・書くを通して確実に身に着けること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自己紹介&プレースメントテスト 第2回 話し言葉と書き言葉 第3回 目上・目下・友人と話す 第4回 話し言葉と書き言葉練習 第5回 丁寧語 第6回 謙遜語 第7回 敬語 第8回 可能形 第9回 授受関係 第10回 可能形・授受関係練習 第11回 受け身 第12回 使役 第13回 受け身使役 第14回 受け身・使役・受け身使役練習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。(10時間) ② 毎回授業前に予習しておくこと。(5時間)				
学習到達目標	日本語の基本文法を理解し、使えるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①場面や立場に応じた表現ができるようになったか。 ②文書から正確に情報を読み取れるようになったか。 ③文法や語彙を正しく用いて文章が書けるようになったか。			
	成績評価 方法	小テスト30%、課題の提出とその内容30%、期末試40%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	毎回プリントを配布する。				
備考					

科目名	日本語II				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生生活に必要な日本語力を身につける。				
授業方針	日本語の基本文法を理解し、聞く・話す・書くを通して確実に身に着けること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自己紹介&プレースメントテスト 第2回 話し言葉と書き言葉 第3回 目上・目下・友人と話す 第4回 話し言葉と書き言葉練習 第5回 丁寧語 第6回 謙遜語 第7回 敬語 第8回 可能形 第9回 授受関係 第10回 可能形・授受関係練習 第11回 受け身 第12回 使役 第13回 受け身使役 第14回 受け身・使役・受け身使役練習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。(10時間) ② 毎回授業前に予習しておくこと。(5時間)				
学習到達目標	日本語の基本文法を理解し、使えるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①場面や立場に応じた表現ができるようになったか。 ②文書から正確に情報を読み取れるようになったか。 ③文法や語彙を正しく用いて文章が書けるようになったか。			
	成績評価 方法	小テスト30%、課題の提出とその内容30%、期末試40%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	毎回プリントを配布する。				
備考					

科目名	日本語Ⅲ				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金5
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語及び日本文化について学ぶ。キーワード:動詞の活用・可能・条件・授受・助詞など				
授業方針	受講者の日本語運用力及び日本文化理解力が向上するよう、教室での授業にとどまらず、フィールドワークなども取り入れながら授業を進める。なお受講生は多くないと思われるため、受講者の希望に沿って授業を行う予定である。ゆえに、以下の授業計画は目安である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞の活用と文型</li> <li>2. 「する」と「なる」</li> <li>3. 「～ある」と「～ている」</li> <li>4. 可能表現</li> <li>5. 条件文</li> <li>6. 授受表現</li> <li>7. 場所を表す助詞「で」「に」</li> <li>8. 場所を表す助詞「を」「に」</li> <li>9. 動作の助詞「に」「と」</li> <li>10. 起点・着点の助詞「から」「に」</li> <li>11. 目的・原因の助詞「に」「で」</li> <li>12. 手段・方法の助詞「で」</li> <li>13. 材料・原因の助詞「で」「から」</li> <li>14. 時間関係の助詞「に」「から」「まで」「までに」「で」「は」と「が」</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	日本語と自国語の相違点・類似点を理解できること。日本文化と自国文化の相違点・類似点を理解できること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験70%、平常点30%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					

科目名	日本語Ⅲ				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語の重要表現文型を大学生活・勉強に使えるようにする。				
授業方針	教科書上の勉強に留まらず、学生たちの勉強・生活に役立つような例文を挙げる・あげてもらうようにする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. 行為の対象 2. 目的・手段・媒介 3. 起点・終点・限界・範囲 4. 時点・場面 5. 時間的同时性・時間的前後関係 6. 進行・相関関係 7. 付帯・非付帯 8. 限定 9. 比較・程度・対比 10. 判断の立場・評価の視点 11. 基準 12. 関連・対応 13. 無関係・対応 14. 例示 15. まとめ及び試験 15. テスト				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	大学学習に必要な日本語力を身に着けること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験40%、課題提出30%・小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					

科目名	日本語Ⅳ				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した日本語文法を応用してレポートや論文など論理的な文章を正確かつ専門的に書けるようになることを目指す。				
授業方針	実践的に文書を書く。提出された文章をもとに授業でフィードバックしながら進める。課題は必ず提出すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 1.「自己アピール文」を書く 第2回 語彙と表現、課題文提出 第3回 課題文のフィードバック 第4回 2.「紹介文」を書く 第5回 語彙と表現、課題文提出 第6回 課題文のフィードバック 第7回 3.「比較文」を書く 第8回 語彙と表現、課題文提出 第9回 課題文のフィードバック 第10回 4.「理由文」を書く 第11回 語彙と表現、課題文提出 第12回 課題文のフィードバック 第13回 5.「意見文」を書く、語彙と表現 第14回 課題文提出と課題文のフィードバック 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	「語彙と表現」については翌週に確認テストをするので復習しておくこと。(15時間)				
学習到達目標	構成、表現ともに論理的な文章が書けるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①論理的な文章展開を意識して文章の構成を考えるようになったか。 ②読み手にわかりやすく、論理的に自分の考えや意見を述べられるようになったか。			
	成績評価 方法	小テスト30%、課題の提出とその内容30%、期末試40%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	毎回、プリントや資料を配布する。				
備考					

科目名	日本語IV			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	日本語 I・II・IIIで学習した日本語文法を応用し、レポートや論文など論理的な文章を正確かつ専門的に書けるようになることを目指す。			
授業方針	実践的に文書を書く。提出された文章をもとに授業でフィードバックしながら進める。課題は必ず提出すること。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 1.「自己アピール文」を書く 第2回 語彙と表現、課題文提出 第3回 課題文のフィードバック 第4回 2.「紹介文」を書く 第5回 語彙と表現、課題文提出 第6回 課題文のフィードバック 第7回 3.「比較文」を書く 第8回 語彙と表現、課題文提出 第9回 課題文のフィードバック 第10回 4.「理由文」を書く 第11回 語彙と表現、課題文提出 第12回 課題文のフィードバック 第13回 5.「意見文」を書く、語彙と表現 第14回 課題文提出と課題文のフィードバック 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	「語彙と表現」については翌週に確認テストをするので復習しておくこと。(15時間)			
学習到達目標	構成、表現ともに論理的な文章が書けるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①論理的な文章展開を意識して文章の構成を考えるようになったか。 ②読み手にわかりやすく、論理的に自分の考えや意見を述べられるようになったか。		
	成績評価 方法	小テスト30%、課題の提出とその内容30%、期末試40%で総合評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	毎回、プリントや資料を配布する。			
備考				

科目名	日本事情I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	岡本 光生			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本に関する知識を身に付け、日本及び日本人について理解を深め、日本の生活に活かせるようにする。日本語能力の向上も目指す。				
授業方針	毎回、新聞記事を読みながら、現代日本の社会、経済、文化のありさまを自分の国と比べながら理解していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 日本に関する基礎知識チェック 第2回 新聞を読む 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上				
準備学習	事前に指示がある場合は、指示に従って準備をしておくこと。				
学習到達目標	日本に関する知識を深め、日常生活や日本人とのコミュニケーションに活かせるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①日本に関する知識や日本人の考え方、習慣などについて理解を深め、実生活に活かせるようになったか。 ②自分の意見や考えをわかりやすい文章で記述することができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業への参加態度40%、課題(作文)の提出とその内容30%、期末レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じてプリント、資料を配布する。				
備考					

科目名	日本事情II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	岡本 光生			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語で書かれたややむづかしい文章を読みながら、現代日本の文化のありさまを認識する。。				
授業方針	日本語の文章をはなしの筋道を追いながら理解していく。日本の事情を理解するとともに、論理的な思考力を養っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 中級程度の日本語を読んでいく 第2回 同上 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 ややむづかしい文章を辞書を引きながら読む 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 話の筋道に気を付けながら文章を読む 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	事前に指示がある場合は、指示に従って準備をしておくこと。				
学習到達目標	筋道の通った文章を読み、またかくことができるようになる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	筋道を追って文章を理解することができるか。そのためには、適切に接続の言葉を使うことが実際の場面に応用できるか。			
	成績評価 方法	授業への参加態度60%、期末レポート40%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じてプリント、資料を配布する。				
備考					



科目名	情報リテラシー I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	高畑 一夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	網代 孝			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	光岡 重徳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	光岡 重徳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	網代 孝			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	高橋 広治			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水2
担当教員	光岡 重徳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			



科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	光岡 重徳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	20世紀の世界史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	前川 陽祐			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	20世紀という時代には、二度にわたる世界大戦、ナチスのユダヤ人大虐殺(ホロコースト)、東西陣営による冷戦、ベトナム戦争等、歴史上きわめて大きな意義を有する出来事が多く起こりました。その影響は現在の世界情勢にも、深い影響を与え続けています。本講義では、こうした20世紀の世界史を、ドキュメンタリー番組を主な題材として学習します。				
授業方針	20世紀の世界史に関するドキュメンタリー番組『映像の世紀』(NHK制作、1995～96年放送)を視聴したうえで、その次の週の授業で前回の映像を解説する形で講義を行ないます。つまり、映像回→講義回(解説回)の二回でワンセットの授業になります。映像回には毎回ワークシートを配布するので、視聴の間に適宜作業をしてもらいます。ワークシートは各回の最後に提出してもらいます(次回授業時に返却)。また、講義回にはコメントシートを配布するので、講義内容に関するコメント(簡単で可)を書いてもらいます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>おおよそ以下の順番で授業を進める予定ですが、変更もありえます。</p> <p>第1回:オリエンテーション  第2回:第一次世界大戦に関する映像  第3回:第一次世界大戦に関する講義  第4回:ナチスの台頭に関する映像  第5回:ナチスの台頭に関する講義  第6回:第二次世界大戦に関する映像  第7回:第二次世界大戦(とくにホロコースト)に関する講義  第8回:東西冷戦に関する映像  第9回:東西冷戦に関する講義  第10回:「核を伴った冷戦」に関する映像  第11回:「核を伴った冷戦」に関する講義  第12回:ベトナム戦争に関する映像  第13回:ベトナム戦争に関する講義  第14回:番外編:「ユーラシア外交史」に関する講義  第15回:まとめ及び試験</p>				
準備学習	高校世界史の教科書の20世紀にあたる箇所にあらかじめ目を通しておいてください。教科書はどの出版社のものでも構いません。				
学習到達目標	受講生が20世紀という時代の世界史の大まかな流れを理解できること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)映像回・講義回を問わず、毎回の授業に積極的に参加しているかどうか。(2)20世紀の世界史に関する関心と理解が深められているかどうか。			
	成績評価 方法	(1)平常点50% (2)試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:とくに指定しません。映像回にはワークシートを、講義回(解説回)にはレジメを配布します。(2)参考文献は授業中に適宜紹介します。				
備考					

科目名	20世紀の日本史				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	久米 高史			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	(テーマ)20世紀の日本史(特に経済史・経営史を中心に) (内容)戦後60年の日本経済は、欧米型の市場経済とは異質の、独特の性格をもっていると指摘されるが、日本人の経済観念は、本当に「世界の非常識」なのかを考察する。また昨今社会問題となっている「談合」についても、その歴史及び日本人の経済観念との関係について浮き彫りにする。 (目的)この講義を通じて、「歴史を通して現在を見る」目を養う。				
授業方針	テキストとして、①武田晴人『日本人の経済観念』(岩波現代文庫、2008年、1100円＋税)②武田晴人『談合の経済学』(集英社文庫、1999年、533円＋税)を用い、加えて毎回プリントその他の資料を配布して授業を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入講義『日本人の経済観念』第1章(1)「企業と出資者」を基に講義する。キーワード 企業の安定 銀行法の歴史 第2回 第1章(2)「近世商人の伝統」「財閥の総有制」を基に講義する。キーワード 三井家 財閥 第3回 第2章 市場と競争(1)「市と取引」を基に講義する。キーワード マーケットメカニズム 日本の「市」 第4回 第2章 市場と競争(2)「手段としての競争と協調」を基に講義する。産業資本 商業資本 機会主義的行動 第5回 第3章 契約と紛争解決(1)「あいまいな契約」を基に講義する。キーワード 契約観念の日・米・欧比較 第6回 第3章 契約と紛争解決(2)「紛争解決の手段」を基に講義する。キーワード 契約変更 アメリカの大企業 第7回 第4章 労働の規律と雇用の保障(1)「勤勉さと時間の規律」を基に講義する。キーワード 勤勉の意味 第8回 第4章 労働の規律と雇用の保障(2)「職人から従業員へ」を基に講義する。キーワード 労働力市場の流動性 第9回 第4章 労働の規律と雇用の保障(3)「立身出世とホワイトカラー」を基に講義する。キーワード 大戦景気 第10回 第5章 国益と政府(1)「目標としての国益」を基に講義する。キーワード 藩専売 貿易 第11回 第5章 国益と政府(2)「最後の拠り所としての政府」を基に講義する。キーワード カルテル トラスト 第12回 『談合の経済学』第1部を基に講義する。キーワード 談合の歴史 第13回 『談合の経済学』第2部を基に講義する。キーワード 談合の功罪 第14回 『談合の経済学』まとめ 第15回 講義全体の総括:まとめ及び試験				
準備学習	シラバスに書かれている指定テキストの該当箇所を、事前に読んでくること。				
学習到達目標	20世紀の日本史について、特に経済史を中心に学ぶことにより、現代の政治・経済・社会に対する歴史的教訓が身につくようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎講配布するプリントの最後に、簡単な設問課題を設け、それに回答してもらう。 それによって、受講生の授業に対する取り組みと、毎講の授業内容を把握できているかどうかを確認する。			
	成績評価 方法	授業への積極的取り組み＋毎講の設問課題への回答50% 期末試験50% 授業への積極的取り組み＋毎講の設問課題への回答、および期末試験の成績を上記の割合で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:①武田晴人『日本人の経済観念』(岩波現代文庫、2008年、1100円＋税)②武田晴人『談合の経済学』(集英社文庫、1999年、533円＋税)および、配布プリント。 (2)参考書 適宜授業で紹介する。				
備考	講義は指定テキストと配布プリントを中心に進める。指定テキストと筆記用具を必ず持参すること。				

科目名	TOEIC I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	最終的には、TOEIC試験でのスコアアップを目標とする。TOEICは一昨年問題形式が一部変更され、難易度が増したが、語彙・文法・構文・読解・聴解面での総合力向上が要であることは当然である。本授業では、過去問形式に準拠したリスニングとライティング演習を中心に進めていくが、同時に音声面や読解面での実力アップも目指す。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験も伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① テキストにあるTOEIC形式の問題を解きながら、基礎レベルの英語力を確実に習得するとともに、さまざまな場面で使われる表現や語彙、コミュニケーションスタイルについて解説していく。 ② 毎回の授業内では、学生を何度か指名し、演習問題に対する自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業スケジュール)	各Unitに沿った学習内容を紹介します。以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針および成績評価に関する説明 ② TOEIC試験に関する説明 第2回 体の一部をベースにした表現(1) 第3回 体の一部をベースにした表現(2) 第4回 色が意味する表現(1) 第5回 色が意味する表現(2) 第6回 動物を使った表現(1) 第7回 動物を使った表現(2) 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 食べ物・飲み物を使用した表現(1) 第10回 食べ物・飲み物を使用した表現(2) 第11回 生活習慣から生まれた表現(1) 第12回 生活習慣から生まれた表現(2) 第13回 遠回しの表現(1) 第14回 遠回しの表現(2) 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 前回の授業で学んだ語彙、文法、構文、表現を繰り返し復習すること。 ② テキスト以外にも、TOEIC語彙集や過去問集を通じて、実戦感覚を養っておくこと。				
学習到達目標	① 基礎的文法力の理解を進める。 ② TOEIC必須語彙を増強させる。 ③ リスニング力を向上させる。 ④ TOEIC試験で500点前後を取得する。				
成績評価基準	達成度評価基準	① テキスト内容は理解できたか。 ② 語彙力はアップしたか。 ③ 英文を読むスピードはアップしたか。 ④ リスニング力はアップしたか。 ⑤ 過去問や練習問題において、正答率がアップしたか。			
	成績評価方法	定期試験(70%)、授業内での課題(30%)で評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト: "TOEIC L&R Test:500 Power Phrases" 竹村日出夫 / 永田喜文他著 南雲堂				
備考	テキスト必携。				

科目名	TOEIC II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水1
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	TOEICも英語力を試すものである以上、語彙・文法・構文・読解・聴解面での総合力が向上しない限り、得点力向上は望めない。本授業では過去問形式に準拠しながら、リスニング演習とライティング演習を反復していく。そうした訓練を通じて、基礎学力の要である語彙力・文法力も充実させ、TOEIC本試験での得点力アップを目指す。また、民間企業海外部勤務と外務省通訳としての実務経験も伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① 受講学生の実力並びに理解度を勘案しながら授業を進めていくが、『TOEIC本試験での得点力アップ』という目的に沿って行うのは、前期と同様である。 ② 前期に引き続き、毎回授業内で受講者を指名し、積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各Unitに沿った学習内容を紹介すれば、以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針及び成績評価に関する説明 ② TOEIC試験に関する説明 第2回 センスの良い表現(1) 第3回 センスの良い表現(2) 第4回 ビートの効いた表現(1) 第5回 ビートの効いた表現(2) 第6回 困難なときの表現(1) 第7回 困難なときの表現(2) 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 誇張する表現(1) 第10回 誇張する表現(2) 第11回 評価をする表現(1) 第12回 評価をする表現(2) 第13回 人間関係の表現 第14回 暮らしの表現 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の意味と構造を把握するように努めること。 ② 次の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ テキスト以外にも、TOEIC語彙集や過去問集で実戦感覚を養っておくこと。				
学習到達目標	① 基礎的英文法の理解を深める。 ② TOEIC必須語彙を増強させる。 ③ 語彙力・文法力の向上と比例して、読解力をアップさせる。 ④ シャドーイングを通じて、リスニング力を向上させる。 ⑤ 全体を通じて、前期よりも英語力を向上させる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① テキストの内容を理解できたか。 ② 語彙力は増えたか。 ③ 英文を読むスピードはアップしたか。 ④ リスニング力はアップしたか。 ⑤ 前期よりも得点力はアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験70%、授業内での課題30%で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト: TOEIC L&R Test: 500 Power Phrases 竹村日出夫 / 永田喜文他著 南雲堂				
備考	テキスト必携。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[情社01]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……日程は掲示により連絡する。 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成 ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……マナー講座を開講するので受講すること。 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出、日誌の提出				
準備学習	ビジネスマナーを身につけること。				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌50%、報告書50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[情社02]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	時間外
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……日程は掲示により連絡する。 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成 ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……マナー講座を開講するので受講すること。 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出、日誌の提出				
準備学習	ビジネスマナーを身につけること。				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌50%、報告書50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				



科目名	インターンシップ				
クラス	[心理01]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	大塚 聡子			単位区分	__ (選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……火曜日5時限目「就職支援プログラム」 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成(本学が紹介した企業・官庁への申し込みが単位取得の条件となる) ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……土曜日1日間を使って就職課が指導 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ(指導教員とともに準備を進める) 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出 日誌の提出				
準備学習	1 ビジネスマナーを身につけること。(10時間) 2 経験した職務についての記録および考察。(20時間) 3 最終的な報告書の作成。(30時間)				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌、報告書。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	インターンシップ			
クラス	[心理02]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 時間外
担当教員	大塚 聡子			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。			
授業方針	夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)			
学習内容 (授業 スケジュール)	1・ガイダンスの実施……火曜日5時限目「就職支援プログラム」 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成(本学が紹介した企業・官庁への申し込みが単位取得の条件となる) ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……土曜日1日間を使って就職課が指導 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ(指導教員とともに準備を進める) 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出 日誌の提出			
準備学習	1 ビジネスマナーを身につけること。(10時間) 2 経験した職務についての記録および考察。(20時間) 3 最終的な報告書の作成。(30時間)			
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。		
	成績評価 方法	日誌、報告書。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	特になし			
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。			

科目名	キャリアと自立				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	西田 優, 藤田 拓勸			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>■挨拶 担当教員は就職指導のプロです。採用担当者時代の本音をすべてお話しします。一緒に、沢山の小さな挑戦を始めましょう！</p> <p>■授業概要 現代日本人の人生において、「働く時間」は非常に大きな割合を占める。本授業では、大学3年次に、社会に出て働く準備を進めるために必要な心の持ち方、具体的な知識や技法などの講義・演習を展開する。</p> <p>この科目は 企業での人事・採用業務経験に基づいた講義を行う実践的科目です【実務】</p>				
授業方針	<p>個別の学習到達目標を包含する以下の全体目標を達成するために講義と演習を交えて授業を展開する。</p> <p>(1)社会に自らが提供した価値への対価として収入を得るということの意味を知ること (2)自分が築きたいキャリアを一旦思い描き、そのスタートラインに立つための意志を持つこと</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第01回【講義・演習】キャリア論概説、職務適性検査(受験・自己採点) 第02回【講義・演習】日本の産業のいま、性格検査(受験・後日結果返却) 第03回【講義・演習】コミュニケーション理解:論理的思考、学力検査(受験) 第04回【講義・演習】コミュニケーション理解:グループディスカッション 第05回【講義・演習】コミュニケーション理解:自己紹介書(履歴書) 第06回【講義・演習】コミュニケーション理解:プレゼンテーション 第07回【講義・演習】コミュニケーション理解:個人面接・集団面接 第08回【講義・演習】キャリア論1、職種適性検査(受験) 第09回【講義・演習】キャリア論2 第10回【講義・演習】人生の振り返り1 第11回【講義・演習】人生の振り返り2 第12回【講義・演習】働くことの意味 第13回【講義・演習】学生生活と社会人生活 第14回【講義・演習】働くために必要な準備 第15回【講義・演習】総復習:まとめ、及び試験</p>				
準備学習	授業終了時に示す課題に取り組むこと				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然の要素が非常に多い環境下で自らキャリアを築くことの必要性を理解すること</li> <li>・日本の産業における業種・職種、それらへの就職活動の実態を理解していること</li> <li>・日常生活の中で筋道立てて考え、判断や決定をくだそうと考えられること</li> <li>・先輩社会人のキャリアに興味と敬意を持てること</li> <li>・自らの今後のキャリアと現在の行動との関係性に興味を持てること</li> <li>・社会や経済の動きに興味を持てること</li> <li>・自分の経験・考え・思いを伝える表現力を駆使できること</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアと自立の重要性について理解できていること</li> <li>・自分を客観的に知り、それを話す、書くなどして表現できること</li> </ul>			
	成績評価 方法	課題66%、期末試験34%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	グローバル社会と地誌				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	田中 大介			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	今日の世界を理解するためには複眼的な洞察力が要求されるのは論を待たない。それでは、グローバル化という現象をどこかで起きている他人事ではなく、自分の生活に食い込んでいる諸要素として読み解こうとする時、我々はそこにどのようなメカニズム(仕組み)とダイナミズム(動き)を垣間見ることができるのだろうか。この授業で、積極的に「新たな世界のかたち」の発見に努めてもらいたい。				
授業方針	この授業では、グローバル化というテーマを通じて、学問的な思考方法を自らの生活にフィードバックすることを目標とする。したがって、毎回の授業の中で実際の社会現象などを盛り込みながら、主要な理論と結びつけた上で考えていくという段階的な手順を経ることにより、各自の問題意識を掘り起こしていくことを目指したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 グローバリゼーションとは何か①:その構図と文脈 第2回 グローバリゼーションとは何か②:「近代」を考える 第3回 フローとネットワーク:流れる・つながる・伝わる 第4回 グローバル・スケープ①:5つの風景から 第5回 グローバル・スケープ②:文化の多元性 第6回 国境・国民・国家①:ネーションの現在 第7回 国境・国民・国家②:揺れ動く領域、移動する人間 第8回 エスニシティを見つめる①:行為主体とは誰なのか 第9回 エスニシティを見つめる②:マイノリティの政治 第10回 社会問題としてのグローバル化:摩擦から抵抗へ 第11回 場所と非一場所:脱領土化をめぐる議論 第12回 文化とコミュニケーション:再帰性、あるいは現代生活の技法 第13回 リスク化する現代社会 第14回 グローバルな視点を持つために 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。				
学習到達目標	グローバル化という現象をめぐる多角的な理解と、自文化の尺度だけでモノゴトを判断しない国際的な視点を養うことが、この授業の到達目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の講義内容の理解度に加えて、各自の問題意識をどこまで深く探究しているかを重視する。			
	成績評価 方法	試験(50%)、課題(30%)、授業への参加態度(20%)に基づき総合的に評価する。尚、全授業回数の3分の2以上の出席を確認できない者は、定期試験の受験資格を認めないので注意すること。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	この授業では特定のテキストを用いないが、必要な教材や資料がある場合には授業中に配布する。また、参考文献がある場合は別途指示する。				
備考	講義の進捗度に応じて各回の内容や順番を変更する場合がある。尚、前期の「文化人類学」を履修した者は、この授業で展開する内容が応用編となるため、積極的な履修を推奨する。				

科目名	コンピュータ概論I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	高畑 一夫			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータは開発された当初は科学者だけが使う「計算機」であった。しかし、現代では携帯電話、スマホ、ゲーム機を含めれば、全日本国民がコンピュータを日常的に使用していることになる。本講義ではコンピュータの機械そのものであるハードウェアについて焦点をあて、その基本的な動作原理を学ぶ。				
授業方針	コンピュータハードウェアを支える電気、電子、通信、情報技術の発展の各側面を切り口として、その基本的原理や考え方の概要を学ぶ。また、いかにしてコンピュータを代表とした情報機器が構成されているのかを、ハードウェアの面から、簡単な演習を交えながら、その基本および今後の発展について考察する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 現代社会とコンピュータテクノロジー 第 2回 コンピュータテクノロジーを学ぶための電気の基礎知識 第 3回 コンピュータテクノロジーを学ぶための電子の基礎知識 第 4回 コンピュータテクノロジーを学ぶための情報の基礎知識 第 5回 データと情報 第 6回 アナログデータとデジタルデータ 第 7回 コンピュータの仕組み 第 8回 基本論理関数 第 9回 応用論理関数 第10回 基本論理演算 第11回 応用論理演算 第12回 基本論理回路 第13回 応用論理回路 第14回 マイクロプロセッサ,主記憶装置 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	中学校程度の電気に関する知識が必要である。また授業内容の復習が特に重要である。				
学習到達目標	計算、情報、制御、電子技術などの基本的な原理や考え方の概要を知り、説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コンピュータハードウェアに関連する基本的な概念、用語、動作原理を理解しているか。			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 特に指定なし 参考書 随時、指定する				
備考					

科目名	コンピュータ概論II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	高畑 一夫			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータは開発された当初は科学者だけが使う「計算機」であった。しかし、現代では携帯電話、スマホ、ゲーム機を含めれば、全日本国民がコンピュータを日常的に使用していることになる。本講義ではハードウェア、ソフトウェア、コンピュータネットワーク、データベースなど、その基本的な動作原理および概念を学ぶ。				
授業方針	コンピュータシステムを支える電気、電子、通信、情報技術の発展の各側面を切り口として、その基本的原理や考え方の概要を学ぶ。また、簡単な演習を交えながら、その基本および今後の発展について考察する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 コンピュータ概論 I の復習 第 2回 補助記憶装置 第 3回 入力装置 第 4回 出力装置 第 5回 コンピュータ通信機器 第 6回 コンピュータとソフトウェア 第 7回 プログラムとプログラミング言語 第 8回 基本ソフトウェア 第 9回 応用ソフトウェア 第10回 コンピュータネットワーク 第11回 データベース 第12回 コンピュータネットワークが社会へ及ぼす影響 第13回 セキュリティ対策 第14回 ネットワーク倫理 第15回 今後のコンピュータ:まとめ及び試験				
準備学習	コンピュータ概論 I の講義内容を理解してしておくこと。また授業内容の復習が特に重要である。				
学習到達目標	コンピュータハードウェア、コンピュータソフトウェア、コンピュータネットワークおよびセキュリティ対策などの基本的な原理や考え方の概要を知り、説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コンピュータハードウェア、コンピュータソフトウェアおよびコンピュータネットワークに関連する基本的な概念、用語、動作原理を理解しているか。 セキュリティに関する基本的な概念、用語、対策法を理解しているか。			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定なし。 (2)参考書 随時、指定する。				
備考	履修条件:コンピュータ概論 I の単位を取得していること				

科目名	ジェンダー論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>私たちが無意識にもつ「女だから」「男のくせに」などという考えや思い込みが、学校、家庭、スポーツなど身近な社会の様々な場に存在することを明らかにする。          高校まで学んできた、政治・経済・社会の主流の男性＝人間という歴史ではなく、女性や非主流の男性の存在に目を向け、そこから見えてくる政治的・社会的状況を明らかにし、歴史に対する新たな理解と視点を養う。</p>				
授業方針	<p>現在のジェンダー問題を様々なテーマに基づいて解説を行う。同様のテーマのジェンダー史研究を紹介し、過去と比較しながら、「女らしさ」「男らしさ」の変遷や、背後の政治権力や社会的状況を考察する。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロ 近代社会とジェンダー</li> <li>2. 歴史の中のジェンダー</li> <li>3. セクシュアリティとジェンダー</li> <li>4. 家族とジェンダー1</li> <li>5. 家族とジェンダー2</li> <li>6. 労働とジェンダー1</li> <li>7. 労働とジェンダー2</li> <li>8. 教育とジェンダー1</li> <li>9. 教育とジェンダー2</li> <li>10. 日常生活とジェンダー</li> <li>11. 国家とジェンダー</li> <li>12. 身体とジェンダー</li> <li>13. フェミニズムとジェンダー</li> <li>14. まとめと復習</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>				
準備学習	<p>毎回の授業について、次回までに質問やコメントを考えておく。          前回の授業のキーワードの意味を確認しておく。</p>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーの基本概念を理解している。</li> <li>・「女らしさ」「男らしさ」は社会が構築したものであり、それらによる思い込みがしばしば偏見や排除の原因となることを理解している。</li> <li>・ジェンダー視点を体得し、過去や現代社会を観察する際のツールとなっている。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代のジェンダー問題の背後にある、政治権力や社会状況が理解できているか。</li> <li>・ジェンダーという観点から、現代社会の様々な問題について自らの考えを論じることができるか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	平常点(出席・コメント含)40%、期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて資料を配布する。</li> <li>・参考書については講義の中で指示する。</li> </ul>				
備考	参考文献: 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論を掴む』有斐閣、2017				

科目名	スポーツ文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	茂木 宏子			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちが社会生活を営んでいくうえで、いまやスポーツは大きな影響を与える文化現象になっている。スポーツに関わる諸相や変遷をテーマごとに取り上げて、その社会背景とともに多面的な視点から捉えて理解を深めていく。なお、この科目は、講師自身がジャーナリストとして20年余り取材活動してきた経験をもとに講義を行う実践科目であり、現代スポーツが抱える「負」の部分にも触れながら、21世紀のスポーツのあり方を考える。【実務】				
授業方針	スポーツに関わる諸相をテーマごとに取り上げて基本的な事項を学習するとともに、私たちが日頃接しているスポーツについても掘り下げながら社会との関係を読み解いていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 スポーツ文化論とは何か 第2講 スポーツの概念と歴史 第3講 オリンピックの復活と変遷 第4講 メディア化するスポーツ 第5講 消費文化としてのスポーツ 第6講 スポーツと政治・権力 第7講 スポーツとジェンダー・人種問題 第8講 スポーツする身体 第9講 スポーツと教育 第10講 職業としてのスポーツ 第11講 スポーツファンの文化 第12講 スポーツと地域社会 第13講 日本のスポーツ文化 第14講 グローバル化するスポーツと共生社会 第15講 まとめ及び試験				
準備学習	指定した参考文献に目を通し、事前に授業の大枠をつかんでおくこと。日頃から試合の勝敗結果だけでなく、スポーツに関連したニュースや話題について関心を持つよう心がける。				
学習到達目標	現代社会におけるスポーツを取り巻く状況と課題を客観的に理解し、自分なりの意見を論理的に発せられるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回で講義するスポーツの諸相や課題について理解し、自分なりの考えを論理的に表現できるか。			
	成績評価 方法	2/3以上の出席が単位取得の前提。簡易レポート(60%)、定期試験(40%)を合計して評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は特に使用しない。ただし、以下の書籍を参考文献とする。 ・よくわかるスポーツ文化論／井上俊・菊幸一編／ミネルヴァ書房／2012年、2,500円＋税 ・スポーツを考える／多木浩二著／ちくま新書／1995年、760円＋税 ・教養としてのスポーツ人類学／寒川恒夫編／大修館書店／2004年、2,500円＋税				
備考	毎回の講義で課す簡易レポートに、キーワードと講義内容に関する自分の考えや意見を記述し、講義終了時に提出すること。				



科目名	ドイツの言語と文化			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	火4
担当教員	藤崎 剛人		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	ドイツ語とドイツの文化について、入門的な講義を行います。ドイツ語については、『ドイツ語アルファ 改訂版』(朝日新聞出版社)を教科書として、ドイツ語初級文法の、さらに基礎的な部分を学びます。ドイツの文化については、教員が用意した資料をもとにして、毎回ドイツの歴史や社会の様々な分野について、講義していきます。具体的な項目については「学習内容」を参照してください。			
授業方針	1コマを言語パートと文化パートに分け、半分は言語、半分は文化、といったかたちで進めていきます。 <言語パート> 教科書に基いて、ドイツ語初級文法の基礎的な部分を勉強します。日本語や英語との比較も交えながら、なるべく丁寧にゆっくりと進めていきます。学んだ内容を定着させるため、定期的に簡単な小テストも行います。 <文化パート> 教員が用意した資料(レジュメ)をもとにして、毎回ドイツの歴史や社会の様々な分野について、講義していきます。特に歴史については回数を多くとり、近現代史を中心に講義			
学習内容 (授業スケジュール)	第1回:授業ガイダンス/アルファベットと発音/ドイツの基本データ 第2回:あいさつができる/ドイツの地理と自然・交通 第3回:自己紹介ができる/ドイツと日本・ドイツの教育制度 第4回:食べ物・飲み物の好き嫌いが言える/ドイツの食べ物とスポーツ *小テスト 第5回:趣味やスポーツについてたずね・答えることができる/ドイツの音楽と美術 第6回:自分の家族や職業について説明できる/ドイツの文学と神話 第7回:町の建物のついてたずね、道案内をすることができる/ドイツの都市と建築 第8回:買い物のやりとりをすることができる/ドイツの政治経済と環境対策 第9回:気に入った物などについて話すことができる/ドイツの思想 *小テスト 第10回:行き先と交通手段が言える/近代以前のドイツ社会 第11回:一日の行動や時刻についての表現ができる/ナポレオンとビスマルク 第12回:過ぎ去った出来事について話すことができる1/第一次世界大戦とワイマール 第13回:過ぎ去った出来事について話すことができる2/ナチスと第二次世界大戦 第14回:休暇中の予定を離すことができる/戦後ドイツのあゆみ 第15回:まとめ及び試験			
準備学習	<言語パート> 教科書に準じ、その単元の練習問題等など宿題として課します。その他、小テストや学期末試験のための勉強が必要になります。 <文化パート> レジュメの最後に、次回授業のキーワードを記しておくので、それについて調べておいてください。			
学習到達目標	<言語> ・ドイツ語文法の基礎を習得し、さらなる学習の土台をつくる。 ・ドイツ語と日本語の相違点や共通点を比較できるようになる。 <文化> ・ドイツの文化や社会について、様々な事柄を教養として身に着ける。特に現代日本のあり方ともかかわってくる近現代史については、ひとつの流れとして理解できるようになる。 ・日本とは異なった社会の文化や歴史を学ぶことで、自文化を相対できる広い視野をもてるようになる。			
成績評価基準	達成度 評価基準	<言語> ・それぞれの単元におけるキー・フレーズを覚えているか。また、それについて文法的な説明ができるか。 ・基礎的な単語や文法を用いた文を作成できるか。あるいは日本語に訳することができるか。 <文化> ・学習したドイツの歴史の様々なキーワードについて覚えているか。また、それについて説明できるか。 ・学習したドイツの社会や文化の内容について第三者に聞かれたとき、日本との違いも踏まえながら自分の言葉で説明できるか。		
	成績評価 方法	小テスト30% 期末試験70%  ※期末試験では、授業で配布したプリントを持ち込み可とします。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『ドイツ語アルファ 改訂版』(朝日出版社)			
備考				

科目名	ネットワーク・リテラシー			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 金3
担当教員	網代 孝		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	Windowsの基本操作、およびインターネットを使った情報の収集・発信などについての知識・技能を習得する。特に、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用法・セキュリティの確保に関する知識、検索エンジンを用いた情報の収集などの操作技能を習得する。また、HTMLおよびCSSの文法と機能について理解し、コードの打ち込み(タグ打ち)・ブラウザ表示・修正の一連の作業によって、自力でWebページが作成できるようになることを目指す。			
授業方針	ネットワーク・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回の序盤は知識の習得が中心になるが、回数が進むにつれてPC作業の比率が上がっていく構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本操作I(コンピュータの基本操作) 第2回 基本操作II(WindowsとGUIの基本) 第3回 情報通信ネットワークの仕組みと運用管理 第4回 情報セキュリティ 第5回 インターネットの利用I(基本:情報収集・検索) 第6回 インターネットの利用II(応用:コミュニケーション、ビジネス) 第7回 電子メールの基本操作 第8回 Webページによる情報発信、HTMLの概要 第9回 Officeを用いたWebページデザイン 第10回 ホームページの制作I(HTML基礎) 第11回 ホームページの制作II(HTML発展) 第12回 ホームページの制作III(CSS基礎) 第13回 ホームページの制作IV(CSS発展) 第14回 サーバーへのUP方法、ホームページ制作課題 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) キーボード・マウスによるWindowsの入力操作を修得する。 (2) メモ帳やペイントなどの基礎的なアプリケーションを使えるようにする。 (3) ネットワークシステムを理解し、インターネットを使いこなすことができる。 (4) HTML・CSSを理解し、タグ打ちでWebページが作成できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) コンピュータおよび情報機器の操作が習得できたか。 (2) インターネットを通して情報の活用・収集・検索などが行えたか。 (3) タグ打ち・ブラウザ表示・修正までの一連の作業を習得し、Webページが作成できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるホームページHTML&CSS入門(佐藤和人・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-2966-4) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。			

科目名	ネットワーク・リテラシー				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	網代 孝			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	Windowsの基本操作、およびインターネットを使った情報の収集・発信などについての知識・技能を習得する。特に、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用法・セキュリティの確保に関する知識、検索エンジンを用いた情報の収集などの操作技能を習得する。また、HTMLおよびCSSの文法と機能について理解し、コードの打ち込み(タグ打ち)・ブラウザ表示・修正の一連の作業によって、自力でWebページが作成できるようになることを目指す。				
授業方針	ネットワーク・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回の序盤は知識の習得が中心になるが、回数が進むにつれてPC作業の比率が上がっていく構成となっている。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本操作I(コンピュータの基本操作) 第2回 基本操作II(WindowsとGUIの基本) 第3回 情報通信ネットワークの仕組みと運用管理 第4回 情報セキュリティ 第5回 インターネットの利用I(基本:情報収集・検索) 第6回 インターネットの利用II(応用:コミュニケーション、ビジネス) 第7回 電子メールの基本操作 第8回 Webページによる情報発信、HTMLの概要 第9回 Officeを用いたWebページデザイン 第10回 ホームページの制作I(HTML基礎) 第11回 ホームページの制作II(HTML発展) 第12回 ホームページの制作III(CSS基礎) 第13回 ホームページの制作IV(CSS発展) 第14回 サーバーへのUP方法、ホームページ制作課題 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)				
学習到達目標	(1) キーボード・マウスによるWindowsの入力操作を修得する。 (2) メモ帳やペイントなどの基礎的なアプリケーションを使えるようにする。 (3) ネットワークシステムを理解し、インターネットを使いこなすことができる。 (4) HTML・CSSを理解し、タグ打ちでWebページが作成できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) コンピュータおよび情報機器の操作が習得できたか。 (2) インターネットを通して情報の活用・収集・検索などが行えたか。 (3) タグ打ち・ブラウザ表示・修正までの一連の作業を習得し、Webページが作成できたか。			
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。			
教材	(1) 教科書:文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるホームページHTML&CSS入門(佐藤和人・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-2966-4) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。				

科目名	ビジネス英語入門				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	ビジネス英語を初めて学ぶ学生を対象としている。所謂、グローバル化と高速通信技術の進歩に伴い、ビジネス英語の分野も多岐に亘るようになった。本授業では、新たなビジネス環境に対応したビジネス英語を、その基礎から総合的に学ぶことを目的としている。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① 受講者の実力や理解度を勘案しながら授業を進めていくが、ビジネス英語の基礎力を身に付けるという目的には忠実に沿っていく。 ② 毎回の授業において、受講生を適宜指名しながら、演習問題に対する自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各授業の学習内容は以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針及び成績評価に関する説明 ② ビジネス英語の必要性に関する説明 第2回 <ビジネス通信の基本> ① 手紙 第3回 <ビジネス通信の基本> ② ファックス 第4回 <ビジネス通信の基本> ③ 電子メール 第5回 <ビジネス通信の基本> ④ 電話 第6回 <社交関係での表現> ① 面会の申入れ 第7回 <社交関係での表現> ② ホテルの予約 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 <社交関係での表現> ③ レセプションへの招待 第10回 <社交関係での表現> ④ 資料の送付依頼 第11回 <社内での表現> ① 会議の通知 第12回 <社内での表現> ② 議事録 第13回 <社内での表現> ③ 物品の購入 第14回 <社内での表現> ④ 日程の中間報告 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明な語句を調べ、文意と構造の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ 平素から、ビジネス英文を書く訓練を通じて、実戦感覚を養うこと。				
学習到達目標	① ビジネス関連の語彙は増えたか。 ② 初歩的なビジネス英語は、何も見ないで書けるようになったか。 ③ 将来、企業においてビジネス英語を活用していきたいという希望を抱くようになったか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 基礎的な語彙力の定着度。 ② 簡単なビジネス英文の理解力。 ③ 簡単なビジネス英文を使った表現力。			
	成績評価 方法	定期試験(60%)と授業内での課題(40%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Essentials of Global Business English 豊田暁著 南雲堂				
備考					

科目名	プラクティカル・イングリッシュ I			
クラス		対象学年		開講学期 前期
				曜日・時限
担当教員	レメディオス・木村			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	Objective of this class: To improve the speaking level of the students in a warm atmosphere.			
授業方針	Teaching methods; First, I will try to encourage and motivate the students in oral communication. First and foremost, help them get rid of their shyness. Second, apply the book that we are using and teach them the proper pronunciation.			
学習内容 (授業 スケジュール)	First week, warm up activities. Self-introduction. Second week; Unit I. Talk time. Interaction. Third week; Review Unit 1. Practice oral communication. Fourth week; This Is My Friend. Practice. Fifth week; Review Unit 2. Oral practice. Sixth week; Where Do People Hang Out? Talk time. Seventh week; Review the previous unit. Practice. Eighth week; I Went to That Place . Ninth week; Review unit 4. Tenth week; I Have A Question Eleventh ; Review and practice Twelfth; Unit 6. Thirteenth week; Review and practice. Fourteenth week; I Have to Miss Next Class Fifteenth week; Final Test			
準備学習	Message to students in preparing for this class. First and foremost, secure a copy of this book. Then, prepare for a class you have never experienced before. Be ready for English oral communication.			
学習到達目標	Achievement or target of this class; The students should be able to be aware of the necessity of English skill.			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	The criteria for the students in evaluating themselves is whether they can properly interact with foreigners.		
	成績評価 方法	In class, we will always have oral communication. Talk time will be normal for us.		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書「Encounters on Campus すぐ使える英語コミュニケーション」(Michael P.Critchley, 南雲堂)			
備考	Let's speak in English! Good luck!			

科目名	プラクティカル・イングリッシュⅡ			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	レメディオス・木村			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	Objective: To encourage and motivate students in their oral communication in a friendly atmosphere.			
授業方針	Teaching methods: Always encourage the students to speak in English without hesitation. Apply what is written in the book.			
学習内容 (授業 スケジュール)	First week; Warm- up exercises. Unit 8 Second week; Review " What Are You Doing on Sunday" Third week; Oral practice. Interaction. Fourth week; What Should We Get? Talk time. Fifth week; Review the previous lesson. Sixth week; Yeah, I'll Give You That Seventh week; Review . Eighth week; Language Focus Ninth week; Come On! Tenth week; Talk time Eleventh week; Oral practice Twelfth week; What Should We Do Thirteenth week; I Can Book the BBQ Fourteenth week; We Are Ready To Scroll Fifteenth week; Final Test			
準備学習	Message to students: Please secure a book . Let's have fun and learn .			
学習到達目標	Achievements or targets: The students should be able to increase their speaking ability.			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	The students should be able to practice their English outside the classroom. Be friendly to fforeign people.		
	成績評価 方法	Always encourage the students to speak with passion.		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書「Encounters on Campus すぐ使える英語コミュニケーション」(Michael P.Critchley, 南雲堂)			
備考	No more further remarks.			

科目名	フランスの言語と文化			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 木5
担当教員	吹田 映子			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	初級フランス語およびフランス語圏文化に関する学習。初級フランス語の学習を第一の目的としつつ、その過程でフランス語圏文化について理解を深めることを目指す。			
授業方針	授業は指定の教科書に沿い、CD音声を活用しながら進める。授業中の遣り取りは基本的にフランス語で行う。そのために、初回授業時には定型の口頭表現をまとめて学習する。発音やリズムを体得するには真似ることが肝要なので、授業中は教員の口の動きや形をよく見て真似ること。また、綴り字と発音の関係に慣れるため、なるべく多く書くことを課題では求める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	指定の教科書に沿って授業を進める。 第1回 授業方針の説明。授業内で使用する口頭表現の学習。 第2回 綴り字と発音の学習。挨拶、数。 第3回 名詞の性・数、冠詞、提示の表現。 第4回 自己紹介に関する表現の練習。主語人称代名詞と動詞《 être 》《 avoir 》の学習。 第5回 自分の好きなものや住んでいるところに関する表現。第1群規則動詞。疑問文と答え方。 第6回 買い物に関する表現。部分冠詞、複数形、否定文。 第7回 人や物の特徴に関する表現。形容詞、指示形容詞と所有形容詞。 第8回 フランス語圏文化に関する映像を用いた紹介。 第9回 場所を尋ねる表現。近い未来や近い過去。 第10回 時、場所、方法、量、理由を尋ねる疑問文の表現。 第11回 天気、時間などの表現。 第12回 買い物に関わる表現。準助動詞、比較級。 第13回 道を尋ねる表現。命令文、補語人称代名詞の学習。 第14回 まとめ 第15回 試験			
準備学習	1)授業の前に指定教科書の該当部分を読み、単語の意味と文法事項を予習しておく。(20時間) 2)授業の後には、教科書内容に対応したフランス語学習サポート教材「Webなびふらんせ」(PCやスマートフォンを利用)の「学習コンテンツ」に挙げられている項目の復習をする。(30時間) 3)各課のまとめとして授業内に行う練習問題の復習(10時間)			
学習到達目標	初級レベルの語彙、発音、文法事項を習得し、フランス語で自己紹介や好きなものを言えるようになる。言語の学習を通じてみずからフランス語圏文化の特色を見出し、それについて説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	フランス語の定型表現や文法の基礎を理解しているか。		
	成績評価 方法	課題50%、期末試験50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『なびフランセ1 ―パリをめぐる―』 有富智世ほか (朝日出版社)			
備考				

科目名	ボランティアの研究			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	古川 秀雄			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	東京2020大会にも、多くのボランティアの力を必要としているが、その活動内容については賛否両論が存在する。「ボランティア」という言葉を、多角的、かつ身近なものとして捉え、その概念を本質から理解することで実践につなげられるようにする。そのために本講義では、専門的な理論の解説にとどまらず、学生ボランティアセンターでの勤務経験に基づき、旬な事例をグループワークなどといった手法を用いて研究する実践的科目である。【実務】			
授業方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>①統計などといった客観的な数値をもとに実態を把握する。</li> <li>②ボランティアの「いま」を知るため、できるだけ多くの「生」の声を提供する。</li> <li>③事例を多く学ぶため、AV機器などを活用する。</li> <li>④ボランティアを実践に移すため、良質のボランティアプログラムの紹介を行う。</li> <li>⑤グループワークやワークシートなどを用いて、双方向的な講義とする。</li> </ol>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション →授業の進め方とアンケート。</li> <li>2.ボランティアとは何か →ボランティアという言葉から作り上げてしまった固定観念を払拭し、真のボランティアについて探求する。</li> <li>3.ボランティアの公益性 →個の領域だったボランティア活動が、同じ目的を持った者同士で集まりグループ化し、更にはシステムチックに機能するよう変化していく。公益性のボーダーラインはどこなのか。ボランティア団体の変遷と実例をあげて検証する。</li> <li>4.ボランティア活動の類型 →様々な領域や活動内容が輻輳しているボランティア活動を類型化し、幾つかの統計数値をもとに活動状況を整理し、その実態を明らかにすることで、ボランティア活動への理解度を認識する。</li> <li>5～7.事例紹介 →「日常／非日常」という側面からボランティア活動を紹介し、その多様性について理解する。また、災害時に見られる「受け入れ側」の実態を学び、現状と課題を考察する。</li> <li>8.「オリンピック・パラリンピック」とボランティアの関連性 →大規模なスポーツイベントには、今や必要不可欠なボランティア活動。その変遷や実態を考察する。</li> <li>9.「Philanthropy」と「Social Responsibility」 →近年、様々な領域で「Social Responsibility」が叫ばれている。ボランティアの領域との関連性について探求する。</li> <li>10.新しいボランティアの価値観がもたらす影響と期待 →幾つかの事例を交え、若者が期待するボランティア活動と、若者に期待するボランティア活動を対比し、参画した若者の成長と、それをより良いものにするための手法を学び、今後の活動に生かせるスキルを習得する。</li> <li>11.コミュニケーションツール →インカレ型の活動では、活動を円滑にするための必須アイテム。</li> <li>12～14.諸課題から考えるボランティアの可能性 →ボランティアの可能性を様々な問題から考え、検討する。</li> <li>15.まとめ及び教場レポート作成</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業時に示す課題を作成する。／30時間</li> <li>②毎授業開始前迄に、国内外で報道されている関連記事のアウトラインを纏め、授業中に見解を求められた時でも、自らの言葉でコメントできるよう整理しておく。／20時間</li> <li>③授業中に今までの復習を兼ねた質問を投げかけるので、都度回答できるように復習しておく。／10時間</li> </ol> また、義務ではないが、ボランティア活動へ参加することを奨励する。その体験をふまえ、自分の視点を持ちながら受講することを勧める。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの概念を理解する。</li> <li>②身近なもの(実践の選択肢のひとつ)としてボランティアをとらえるようになる。</li> <li>③多様なボランティアの事例を理解し、自ら社会に貢献する意欲を向上させ、様々な問題を課題に落とし込み、解決へ導く力を養成する。</li> <li>④自分の意見を言葉で伝える力と、相手の話を聞く力を養成する。</li> <li>⑤ボランティアを通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの事例を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>②ボランティアの可能性を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>③ボランティア活動の背景にある社会情勢を理解し、それを説明できるか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	課題レポート40%、期末(教場)レポート60%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	参考図書) Giving Japan 2017『寄附白書2017』日本ファンドレイジング協会、2017年。『10000円のカレーライス』日本実業出版社。スピノザ著『エチカ』。			
備考	履修上の注意点を記載します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①やむを得ない理由で授業を欠席し、課題を提出できなかった場合、次回授業時に提出すること。</li> <li>②病気・公式行事等で教場レポートを受けられなかった場合には、追試験に準ずる課題を希望する者に対してのみ、別途、指示します。</li> </ol>			



科目名	ボランティアの研究			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月4
担当教員	古川 秀雄			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	東京2020大会にも、多くのボランティアの力を必要としているが、その活動内容については賛否両論が存在する。「ボランティア」という言葉を、多角的、かつ身近なものとして捉え、その概念を本質から理解することで実践につなげられるようにする。そのために本講義では、専門的な理論の解説にとどまらず、学生ボランティアセンターでの勤務経験に基づき、旬な事例をグループワークなどといった手法を用いて研究する実践的科目である。【実務】			
授業方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>①統計などといった客観的な数値をもとに実態を把握する。</li> <li>②ボランティアの「いま」を知るため、できるだけ多くの「生」の声を提供する。</li> <li>③事例を多く学ぶため、AV機器などを活用する。</li> <li>④ボランティアを実践に移すため、良質のボランティアプログラムの紹介を行う。</li> <li>⑤グループワークやワークシートなどを用いて、双方向的な講義とする。</li> </ol>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション →授業の進め方とアンケート。</li> <li>2.ボランティアとは何か →ボランティアという言葉から作り上げてしまった固定観念を払拭し、真のボランティアについて探求する。</li> <li>3.ボランティアの公益性 →個の領域だったボランティア活動が、同じ目的を持った者同士で集まりグループ化し、更にはシステムチックに機能するよう変化していく。公益性のボーダーラインはどこなのか。ボランティア団体の変遷と実例をあげて検証する。</li> <li>4.ボランティア活動の類型 →様々な領域や活動内容が輻輳しているボランティア活動を類型化し、幾つかの統計数値をもとに活動状況を整理し、その実態を明らかにすることで、ボランティア活動への理解度を認識する。</li> <li>5～7.事例紹介 →「日常／非日常」という側面からボランティア活動を紹介し、その多様性について理解する。また、災害時に見られる「受け入れ側」の実態を学び、現状と課題を考察する。</li> <li>8.「オリンピック・パラリンピック」とボランティアの関連性 →大規模なスポーツイベントには、今や必要不可欠なボランティア活動。その変遷や実態を考察する。</li> <li>9.「Philanthropy」と「Social Responsibility」 →近年、様々な領域で「Social Responsibility」が叫ばれている。ボランティアの領域との関連性について探求する。</li> <li>10.新しいボランティアの価値観がもたらす影響と期待 →幾つかの事例を交え、若者が期待するボランティア活動と、若者に期待するボランティア活動を対比し、参画した若者の成長と、それをより良いものにするための手法を学び、今後の活動に生かせるスキルを習得する。</li> <li>11.コミュニケーションツール →インカレ型の活動では、活動を円滑にするための必須アイテム。</li> <li>12～14.諸課題から考えるボランティアの可能性 →ボランティアの可能性を様々な問題から考え、検討する。</li> <li>15.まとめ及び教場レポート作成</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業時に示す課題を作成する。／30時間</li> <li>②毎授業開始前迄に、国内外で報道されている関連記事のアウトラインを纏め、授業中に見解を求められた時でも、自らの言葉でコメントできるよう整理しておく。／20時間</li> <li>③授業中に今までの復習を兼ねた質問を投げかけるので、都度回答できるように復習しておく。／10時間</li> </ol> また、義務ではないが、ボランティア活動へ参加することを奨励する。その体験をふまえ、自分の視点を持ちながら受講することを勧める。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの概念を理解する。</li> <li>②身近なもの(実践の選択肢のひとつ)としてボランティアをとらえるようになる。</li> <li>③多様なボランティアの事例を理解し、自ら社会に貢献する意欲を向上させ、様々な問題を課題に落とし込み、解決へ導く力を養成する。</li> <li>④自分の意見を言葉で伝える力と、相手の話を聞く力を養成する。</li> <li>⑤ボランティアを通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの事例を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>②ボランティアの可能性を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>③ボランティア活動の背景にある社会情勢を理解し、それを説明できるか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	課題レポート40%、期末(教場)レポート60%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	参考図書) Giving Japan 2017『寄附白書2017』日本ファンドレイジング協会、2017年。『10000円のカレーライス』日本実業出版社。スピノザ著『エチカ』。			
備考	履修上の注意点を記載します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①やむを得ない理由で授業を欠席し、課題を提出できなかった場合、次回授業時に提出すること。</li> <li>②病気・公式行事等で教場レポートを受けられなかった場合には、追試験に準ずる課題を希望する者に対してのみ、別途、指示します。</li> </ol>			

科目名	<b>ボランティアの研究</b>			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	古川 秀雄			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	東京2020大会にも、多くのボランティアの力を必要としているが、その活動内容については賛否両論が存在する。「ボランティア」という言葉を、多角的、かつ身近なものとして捉え、その概念を本質から理解することで実践につなげられるようにする。そのために本講義では、専門的な理論の解説にとどまらず、学生ボランティアセンターでの勤務経験に基づき、旬な事例をグループワークなどといった手法を用いて研究する実践的科目である。【実務】			
授業方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>①統計などといった客観的な数値をもとに実態を把握する。</li> <li>②ボランティアの「いま」を知るため、できるだけ多くの「生」の声を提供する。</li> <li>③事例を多く学ぶため、AV機器などを活用する。</li> <li>④ボランティアを実践に移すため、良質のボランティアプログラムの紹介を行う。</li> <li>⑤グループワークやワークシートなどを用いて、双方向的な講義とする。</li> </ol>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション →授業の進め方とアンケート。</li> <li>2.ボランティアとは何か →ボランティアという言葉から作り上げてしまった固定観念を払拭し、真のボランティアについて探求する。</li> <li>3.ボランティアの公益性 →個の領域だったボランティア活動が、同じ目的を持った者同士で集まりグループ化し、更にはシステムチックに機能するよう変化していく。公益性のボーダーラインはどこなのか。ボランティア団体の変遷と実例をあげて検証する。</li> <li>4.ボランティア活動の類型 →様々な領域や活動内容が輻輳しているボランティア活動を類型化し、幾つかの統計数値をもとに活動状況を整理し、その実態を明らかにすることで、ボランティア活動への理解度を認識する。</li> <li>5～7.事例紹介 →「日常／非日常」という側面からボランティア活動を紹介し、その多様性について理解する。また、災害時に見られる「受け入れ側」の実態を学び、現状と課題を考察する。</li> <li>8.「オリンピック・パラリンピック」とボランティアの関連性 →大規模なスポーツイベントには、今や必要不可欠なボランティア活動。その変遷や実態を考察する。</li> <li>9.「Philanthropy」と「Social Responsibility」 →近年、様々な領域で「Social Responsibility」が叫ばれている。ボランティアの領域との関連性について探求する。</li> <li>10.新しいボランティアの価値観がもたらす影響と期待 →幾つかの事例を交え、若者が期待するボランティア活動と、若者に期待するボランティア活動を対比し、参画した若者の成長と、それをより良いものにするための手法を学び、今後の活動に生かせるスキルを習得する。</li> <li>11.コミュニケーションツール →インカレ型の活動では、活動を円滑にするための必須アイテム。</li> <li>12～14.諸課題から考えるボランティアの可能性 →ボランティアの可能性を様々な問題から考え、検討する。</li> <li>15.まとめ及び教場レポート作成</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業時に示す課題を作成する。／30時間</li> <li>②毎授業開始前迄に、国内外で報道されている関連記事のアウトラインを纏め、授業中に見解を求められた時でも、自らの言葉でコメントできるよう整理しておく。／20時間</li> <li>③授業中に今までの復習を兼ねた質問を投げかけるので、都度回答できるように復習しておく。／10時間</li> </ol> また、義務ではないが、ボランティア活動へ参加することを奨励する。その体験をふまえ、自分の視点を持ちながら受講することを勧める。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの概念を理解する。</li> <li>②身近なもの(実践の選択肢のひとつ)としてボランティアをとらえるようになる。</li> <li>③多様なボランティアの事例を理解し、自ら社会に貢献する意欲を向上させ、様々な問題を課題に落とし込み、解決へ導く力を養成する。</li> <li>④自分の意見を言葉で伝える力と、相手の話を聞く力を養成する。</li> <li>⑤ボランティアを通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアの事例を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>②ボランティアの可能性を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>③ボランティア活動の背景にある社会情勢を理解し、それを説明できるか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	課題レポート40%、期末(教場)レポート60%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	参考図書) Giving Japan 2017『寄附白書2017』日本ファンドレイジング協会、2017年。『10000円のカレーライス』日本実業出版社。スピノザ著『エチカ』。			
備考	履修上の注意点を記載します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①やむを得ない理由で授業を欠席し、課題を提出できなかった場合、次回授業時に提出すること。</li> <li>②病気・公式行事等で教場レポートを受けられなかった場合には、追試験に準ずる課題を希望する者に対してのみ、別途、指示します。</li> </ol>			

科目名	マルチメディア・リテラシー			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	網代 孝			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	マルチメディア技術に関して、音声・画像データの形式およびコンピュータ・シミュレーションに関する知識を習得する。また、画像編集・動画編集のためのソフトを利用して、各種マルチメディアデータを編集するための操作技能を習得する。さらに、PowerPointの高度な機能とその使用法を理解し、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになることを目指す。Accessのフォーム・レポートの詳細機能についても学習する。			
授業方針	マルチメディア・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回のごく序盤のみ知識の習得が中心となるものの、全体的にPC作業の割合が高い構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報メディアとマルチメディア表現 第2回 図形処理と画像表現 第3回 コンピュータ・シミュレーション 第4回 ペイントツールによるドットレベルの画像編集 第5回 画像データの編集・加工(1) 基本操作 第6回 画像データの編集・加工(2) レイヤー 第7回 図形データの編集・加工(1) ドロー系ソフトの基本操作 第8回 図形データの編集・加工(2) オブジェクトの移動と変形 第9回 図形データの編集・加工(3) 色の設定 第10回 動画データの編集 第11回 プレゼンテーション(3) オブジェクトによる装飾 第12回 プレゼンテーション(4) アニメーション設定 第13回 データベース(3) フォームの詳細 第14回 データベース(4) レポートの詳細 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) 音声・画像データの符号化・複合化の原理について理解する。 (2) コンピュータ・シミュレーションの方法・種類について理解する。 (3) 画像・動画編集アプリケーションを用いて、各種マルチメディアデータの加工ができる。 (4) PowerPointの高度な機能を用いて、プレゼンテーションが作成できる。 (5) Accessのフォーム・レポートの詳細機能について理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) マルチメディア技術全般について理解しているか。 (2) 画像・動画編集ソフトの基本的な使用法、およびそれらを用いた各種マルチメディアデータの基本的な加工法が習得できたか。 (3) PowerPointの高度な機能を用いて、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになったか。 (4) Accessのフォーム・レポートの詳細機能を理解し、操作方法が習得できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文化系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるAccess 2016 Windows 10/8.1/7対応(広野忠敏・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-8066-5) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。			

科目名	マルチメディア・リテラシー			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	網代 孝			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	マルチメディア技術に関して、音声・画像データの形式およびコンピュータ・シミュレーションに関する知識を習得する。また、画像編集・動画編集のためのソフトを利用して、各種マルチメディアデータを編集するための操作技能を習得する。さらに、PowerPointの高度な機能とその使用法を理解し、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになることを目指す。Accessのフォーム・レポートの詳細機能についても学習する。			
授業方針	マルチメディア・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回のごく序盤のみ知識の習得が中心となるものの、全体的にPC作業の割合が高い構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報メディアとマルチメディア表現 第2回 図形処理と画像表現 第3回 コンピュータ・シミュレーション 第4回 ペイントツールによるドットレベルの画像編集 第5回 画像データの編集・加工(1) 基本操作 第6回 画像データの編集・加工(2) レイヤー 第7回 図形データの編集・加工(1) ドロー系ソフトの基本操作 第8回 図形データの編集・加工(2) オブジェクトの移動と変形 第9回 図形データの編集・加工(3) 色の設定 第10回 動画データの編集 第11回 プレゼンテーション(3) オブジェクトによる装飾 第12回 プレゼンテーション(4) アニメーション設定 第13回 データベース(3) フォームの詳細 第14回 データベース(4) レポートの詳細 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) 音声・画像データの符号化・複合化の原理について理解する。 (2) コンピュータ・シミュレーションの方法・種類について理解する。 (3) 画像・動画編集アプリケーションを用いて、各種マルチメディアデータの加工ができる。 (4) PowerPointの高度な機能を用いて、プレゼンテーションが作成できる。 (5) Accessのフォーム・レポートの詳細機能について理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) マルチメディア技術全般について理解しているか。 (2) 画像・動画編集ソフトの基本的な使用法、およびそれらを用いた各種マルチメディアデータの基本的な加工法が習得できたか。 (3) PowerPointの高度な機能を用いて、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになったか。 (4) Accessのフォーム・レポートの詳細機能を理解し、操作方法が習得できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文化系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるAccess 2016 Windows 10/8.1/7対応(広野忠敏・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-8066-5) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。			

科目名	<b>メディア論</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	二本木 かおり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちが媒介するメディアは、昔から、私たちのものの見方を変更し、社会のあり方を大きく変革してきました。ラジオの登場は音楽の聴き方を変え、テレビの登場は団欒のあり方を変え、インターネットは人との関係の仕方を変えています。そうした、社会を変革するメディアの力を観察し、未来へ向けて、よりスムーズな社会を形成するためのメディアのあり方を探ることが、この授業の目的です。				
授業方針	身近なメディアの特徴を、その背景・歴史も含めて、社会的な目線から分析します。今やメディアは、個人的な生活と切り離せないばかりでなく、そうした個人生活と経済活動の媒介ともなっており、だからこそ急速に発展し、それ故に生じる危険性も見逃せません。ただし、様々なことを可能にし、新しい世界を築き上げてきたのもメディアです。誰もが発信者となる今、未来に向けたメディアの活路を健全に展開するために、一人ひとりが身近なメディアをあらゆる観点から吟味するための総合的な視線を持つことを目指します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 メディアとは何か 第2回 レコードとラジオ 一回性をなくした音楽、文化の変容と交流 第3回 テレビ テレビ報道 人々の視線を操る 第4回 テレビ 家族の団欒の形、エンターテインメント価値の変質 第5回 テレビ 多チャンネル化、データ放送による個人ツール化 第6回 ポケベル・携帯電話 新たな交流文化の形成、記憶ツール 第7回 カラオケ 自己表現としてのカラオケと、共同体意識としてのカラオケ 第8回 インターネット マスメディアから双方向メディアの時代へ 第9回 インターネット 金銭的見返りを求めない労働 第10回 インターネット SNS 拡大し拘束されるライフスタイルと、新たな連帯 第11回 スマートフォン 公共空間を私的空間へ 第12回 メディアと報道 視聴覚情報特有の方向付け、権威と個人 第13回 メディアと広告 欲望の動機付け 第14回 メディアとコンテンツ コンテンツ第一の現代 第15回 試験				
準備学習	各回のテーマに入る前に、講義で取り上げるメディアに対する自分自身を分析的に見ておきましょう。普段どう利用しているのか、昔とどこが同じでどこが違うのか、何に価値を置いて判断しているのか。単に便利だというだけでなく、メディアが人の意識や人間関係のあり方に作用していることを自分自身の実感として自覚した上で、メディアを利用した情報収集・情報発信を心がけてください。				
学習到達目標	単純にメディアを利用するためのリテラシーだけでなく、何ゆえのリテラシーなのか、社会的視点から理解する力を持つことが目的です。主体的な情報受信力、責任ある情報発信力はもちろん、メディアによって動きを変化させる社会のありようを冷静に捉える力を身につけます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	メディアを社会と関連づけて総合的に俯瞰できるか。具体的なメディアのあり方から大きな社会構造分析へと繋げていけるか。問題点の指摘だけでなく、未来の可能性を発見する力を育てているか。そうした捉え方を評価します。			
	成績評価 方法	各講義終了時に提出する「本日の講義の概要」 40% 試験 60% * 出席率よりも内容重視です。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テーマにより、音声・映像資料を利用します。				
備考	講義ではメディアの捉え方のサンプルを展開し、試験でそれを実際にみなさんにやってもらいます。講義内容の転記や感想を求める試験ではありませんので、その点を踏まえて参加し、自分なりの主体的なノートを積極的にとってください。				

科目名	異文化コミュニケーション(海外研修)			
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 時間外
担当教員	永本 義弘			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	世界が国際性と相互依存性を深める中、異文化コミュニケーションの能力は今後益々必要なものとなる。この授業では、 ①異文化コミュニケーションで要となる英語によるコミュニケーション能力を育成すること、 ②異文化コミュニケーションを行う上での問題点及びそれらへの対応策を理解すること、 を目的とする。			
授業方針	夏休みの後半2週間を利用して、異文化が重層的に共存するフィリピン・セブ島にある語学学校 Kredo において集中的に研修を行う。具体的には、 ①ネイティブ・スピーカーの教授者を相手に様々な場面での実用英語表現を繰り返し練習することにより、英語コミュニケーション能力を高める、 ②異文化コミュニケーションを行う上での問題点及びそれらへの対応策を現地での経験豊富な実務者からセミナー形式で指導を受ける、 ことを眼目とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 セミナー1 [フィリピンにおける異文化受容の歴史 - 市内史跡の見学] 第2講 異文化コミュニケーションの英語1(フィリピン文化を知る) 第3講 異文化コミュニケーションの英語2(日本文化を説明する) 第4講 異文化コミュニケーションの英語3(自己紹介等の英語) 第5講 異文化コミュニケーションの英語4(挨拶等の英語) 第6講 セミナー2 [異文化を旅する] 第7講 旅する英語1(空港等での英語) 第8講 旅する英語2(ホテルやお店等での英語) 第9講 旅する英語3(病院等での英語) 第10講 セミナー3 [異文化で仕事をする] 第11講 ビジネス英語・IT英語1(仕事場面での英語) 第12講 ビジネス英語・IT英語2(イラストレーターを使う等) 第13講 ビジネス英語・IT英語3(Webサイトを制作する①) 第14講 ビジネス英語・IT英語4(Webサイトを制作する②) 第15講 まとめ及び課題レポート作成			
準備学習	講義1回につき1時間の予習及び1時間の復習を要する。 海外渡航に必要な基本的会話表現を整理しておくこと。			
学習到達目標	①様々な場面で必要となる基本的な実用英語表現を使いこなすコミュニケーション能力を向上させること。 ②異文化コミュニケーションにおける問題点とその対応策を理解すること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日に学んだ実用英語表現を整理し、実際の場面で使えるようにしてあるか。 ②異文化コミュニケーションに関する現地実務者のセミナーを聞き、問題点とその対応策をレポートとして纏められているか。		
	成績評価 方法	日誌50%、課題レポート50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	1. Basic English 1 Kredo 編 2. IT English Kredo 編			
備考	定員および研修費用等は別途掲示する説明会に必ず出席して確認すること。			

科目名	宇宙の科学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	宇宙の構造と進化を科学的に理解することを目標として、宇宙科学諸分野における重要事項を系統的に解説する。具体的には、太陽系から出発して、恒星の世界、銀河の世界、そして宇宙全体の歴史と進化へと話を進める。				
授業方針	近年、宇宙に関する我々の知識は急速な発展を遂げている。これは主として、観測技術の進歩に応じて、新しい種類の天体・天体現象の発見が相次いでいることによる。宇宙を理解することは、我々が存在する世界を理解することであり、ひいては我々自身を理解することにつながる。この授業を通して科学技術に対する理解を深め、宇宙を探求する心を育ててもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 宇宙について学ぶことの意義 第2回 宇宙観の変遷(1)古代～中世 第3回 宇宙観の変遷(2)近代～現代 第4回 太陽系(1)概要 第5回 太陽系(2)個々の天体 第6回 太陽 第7回 天体の観測 第8回 恒星の世界(1)明るさ、距離、運動／中間試験 第9回 恒星の世界(2)温度、スペクトル 第10回 恒星の一生 第11回 銀河系 第12回 銀河と宇宙 第13回 宇宙の歴史と進化 第14回 太陽系の起源と系外惑星 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)LiveCampusからの資料のダウンロードと予習。(30時間) (2)ノートと資料の整理と復習。(30時間)				
学習到達目標	(1)宇宙についての基礎的な知識を習得する。 (2)自然界の現象を科学的に考察する態度を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)宇宙についての基礎的な知識を習得できたか。 (2)自然界の現象を科学的に考察する態度を身につけることができたか。			
	成績評価 方法	平常点10%＋中間試験20%＋期末試験70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	英語記事・論文読解				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英文記事・論文を本格的に読むための構文把握力並びに読解力を涵養することを目的としている。今回は政治・経済・法律といった社会科学的なテーマではなく、現代人や現代社会が抱える心的問題に焦点を当てた論文を中心に読んでいく。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	英文記事・論文を読むための読解力が求められている以上、基礎的な語彙や文法知識は、各自が自助努力で身に付けなければならない。各授業では、一定量の英文読破をノルマとするため、『予習が前提』の授業を展開していく。受講学生は、毎回授業内で指名され、発表を求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各回のreading materialのトピックは、以下となる。 第1回 ① 授業方針・内容及び成績評価に関する説明 ② 『英文を読む重要性・必要性』について 第2回 Never Fail: Achieving Your Goals 第3回 FYI: Cyberpsychology 第4回 Kick it! Addictions Old and New 第5回 Mind over Matter: Boosting Brain Power 第6回 Don't Worry! Handling Stress and Anxiety 第7回 Best Behavior: A Better, Nice You 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 About Face: Appearance and Personality 第10回 True or False?: Spotting Liars 第11回 What a Jerk!: Dealing with Difficult People 第12回 So Sad: Depression in Japan 第13回 For the Children's Sake: Effective Parenting 第14回 It's All Good: Happiness and Positive Psychology 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ 一文単位の理解を超えて、reading material全体の論理構成の把握に努めること。				
学習到達目標	① 基礎レベルを超えた語彙力を身に付ける。 ② 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ③ 文章論理を意識しながら、英文を読めるようになる。 ④ 英文を読むスピードをアップさせる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 基礎レベルを超えた語彙力が身に付いたか。 ② 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ③ 文章論理を意識しながら、英文を読めるようになったか。 ④ 英文を読むスピードはアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験(50%)と授業内の課題(50%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	PRACTICAL PSYCHOLOGY Jim Knudsen著 南雲堂				
備考					



科目名	英語圏文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近・現代の国際関係において覇権を握ってきたのは、英語圏の国であった。したがって、その代表国であるイギリスとアメリカについて知ることで、現代世界の特徴の一側面を垣間見ることができる。この授業では、英米2か国の歴史・社会・文化について概観し、日本を含む現代世界に英語圏国家が如何なる影響を与えているのかを学ぶ。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えることにより、現在の英語圏文化の一端にも触れる。【実務】				
授業方針	<p>基本的には、次の流れで授業を進めていく。</p> <p>① 授業の初めに、扱うテーマに関する簡単な解説を行う。</p> <p>② 受講生各自が問題意識を持ち、そのテーマの何について掘り下げたいのかを話し合う。</p> <p>③ 発表者を1～2名指定し、次回の授業においてプレゼン形式(レジュメの提出を含む)で発表をしてもらう。</p>				
学習内容 (授業スケジュール)	<p>第1回 ガイダンス(授業方針、成績評価等について)、英語圏とは</p> <p>第2回 英語の歴史</p> <p>第3回 イギリス国王と議会(議院内閣制について)</p> <p>第4回 近代イギリスの工業力(産業革命を中心として)</p> <p>第5回 植民地帝国への道(近代イギリスを支えた工業力と軍事力)</p> <p>第6回 2つの世界大戦とイギリス</p> <p>第7回 現代のイギリスを旅する</p> <p>第8回 アメリカの歴史</p> <p>第9回 アメリカ社会の特徴を歴史から考察する(モンロー主義、孤立主義、理想主義等について)</p> <p>第10回 議院内閣制と大統領制</p> <p>第11回 2つの世界対戦とアメリカ</p> <p>第12回 第2次大戦後の超大国としてのアメリカと東西冷戦</p> <p>第13回 アメリカ文化</p> <p>第14回 現代のアメリカを旅する</p> <p>第15回 まとめ及び期末レポート</p>				
準備学習	毎回の授業のテーマについて自学自習を行い、ある程度の予備知識を持って授業に臨むこと。資料はテキスト、関連図書、インターネットなど幅広く利用すること。				
学習到達目標	英語圏文化の源であるイギリスの歴史と社会、そして、現在の英語圏を代表するアメリカの歴史および社会を知ることによって、現代世界の一側面を学ぶ。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の授業で扱うテーマに関し、テキスト内外の知識をどれだけ身に付けたか。また、それらをどの程度自分の言葉で表すことができるかが最大の基準となる。			
	成績評価 方法	① 期末レポート: 30% ② 授業内での発表: 70%			
	成績評価	人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業内で随時資料を配布する。				
備考	授業には積極的・主体的に参加すること。特に、自分が関心のあるテーマについて、授業内で発表することが求められる。				

科目名	音楽音響学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	丸井 淳史			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を理解する方法の一つとして、音響の側面からの視点があります。この講義では、音楽と音響に関わる様々なことがらについて幅広く基礎から解説を行います。				
授業方針	音とはなにかという基本的なことから様々な分野での音の扱われ方や考え方について、具体的な事例を取り上げつつ歴史から最先端の技術動向までを解説します。幅広いテーマを扱い、音響の世界全体を俯瞰できる講義を目指します。音響学の深い理解には数学や物理が欠かせませんが、大学入学までにそれらを専門的に勉強してこなかった学生でも理解できるよう配慮します。 下記の授業スケジュールに挙げたように広範な講義内容になりますが、極端に高度になりすぎることのないよう、実例や体験を交えつつ、受講生の興味に合わせて柔軟に対応し				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(講義概要、音とは何か) 第2回 楽器音響(1)管楽器 第3回 楽器音響(2)弦楽器・打楽器 第4回 空間音響(1)部屋での音の振る舞い 第5回 空間音響(2)残響の測定とその利用 第6回 電気音響(1)オームの法則、フレミング左手の法則 第7回 電気音響(2)マイクロホンとスピーカーの仕組み 第8回 電気音響(3)マイクロホンの種類と用途 第9回 電気音響(4)音のデジタル記録方式 第10回 音響技術史(1)音記録の歴史 第11回 音響技術史(2)音の伝送と空間表現の歴史 第12回 心理音響(1)音の高さと音の大きさの知覚 第13回 心理音響(2)音色の知覚と評価 第14回 心理音響(3)音の到来方向の知覚 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	特に指定する準備学習はありませんが、上記の講義内容に書かれたキーワードを図書館やインターネットで調べておくことをおすすめします。また、次の講義はそれまでの内容を踏襲するので、講義内での集中と授業後の十分な復習を期待します。				
学習到達目標	授業スケジュールに挙げた各項目について理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義の項目についての試験を行い、理解度を判断します。			
	成績評価 方法	試験70%、発言・質問など授業への貢献30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定めます。			
教材	(1)教科書 とくになし (2)参考書 講義内で紹介します (3)その他 必要に応じて資料を配付します				
備考					

科目名	化学と生活				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	岩佐 健太郎			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	食品添加物や医薬品など人体に影響する物質、エネルギー・環境問題に関わる物質、科学技術を支えている物質など、現代人は多種多様な化学物質に囲まれて生活している。化学は様々な物質を合成し、その性質を理解するための学問である。安全で豊かな生活のために、身の回りの物質や化学的な現象に対して関心を持つことは大変重要である。本科目では化学の基礎、および生活、科学技術、生命、環境に関わる様々な物質の性質について学び、理解することを目的とする。				
授業方針	高校で化学をほとんど勉強してこなかった学生もいることを前提にして基礎から講義を行う。化学の理論的・学問的な解説は必要最小限にとどめ、化学の現象や化学の技術に関する様々なトピックを紹介していく講義とする。講義中は主にスライド(パワーポイント)を用いる。また講義資料のプリントを配布する。指定の教科書の内容に沿って講義を行い、図やイラストを用いてわかりやすく説明する。授業の終了前に小テストを行い、講義の理解度を確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 「物質科学の基礎Ⅰ」 原子の構造と原子を構成する粒子 原子の種類 分子とイオン 第2講 「物質科学の基礎Ⅱ」 周期表と元素の性質 第3講 「物質科学の基礎Ⅲ」 化学結合 化学式 化学反応式 第4講 「生活と物質Ⅰ」 生活の中の無機化合物 (ガラス セメント 金属材料) 第5講 「生活と物質Ⅱ」 有機化合物① (表記法 異性体 官能基) 第6講 「生活と物質Ⅲ」 有機化合物② (芳香族化合物 反応性) 第7講 「生活と物質Ⅳ」 生活の中の有機化合物 (洗剤 医薬品) 暮らしの中の貴金属 レアメタル 第8講 「生活と物質Ⅴ」 電池 (ダニエル電池 乾電池 太陽電池 燃料電池) 第9講 「生活と物質Ⅵ」 日常のなかの高分子 (樹脂 繊維 ゴム) 第10講 「生命にかかわる物質Ⅰ」 タンパク質 (アミノ酸 タンパク質の摂取 高次構造) 第11講 「生命にかかわる物質Ⅱ」 核酸① (DNAの構造 核酸塩基 DNAの複製) 第12講 「生命にかかわる物質Ⅲ」 核酸② (RNA タンパク質の合成) ビタミンとホルモン 第13講 「地球の環境と化学Ⅰ」 環境に影響を及ぼす物質 (大気汚染物質 地球温暖化 ダイオキシン類) 第14講 「地球の環境と化学Ⅱ」 エネルギーの化学 (化石燃料 原子力 再生可能エネルギー) 第15講 レポート作成				
準備学習	指定の教科書の講義内容に該当する箇所を読み、予習すること。(20時間) 講義内容の復習、教科書の章末問題を演習、小テストの復習を行うこと。(20時間) 授業と関連する内容についても化学の教科書、関連書籍、インターネットなどで調べて理解を深めるよう努めること。(20時間)				
学習到達目標	① 原子の構造、元素の性質、周期表の見方、化学反応式の書き方を理解できるようになる。 ② 生活に役立つ化学物質や科学技術について学び、説明できるようになる。 ③ 生命活動にかかわる物質の構造と生体内での役割について理解し、説明できるようになる。 ④ 環境問題やエネルギー問題について化学の知識を使って理解し、考察できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 原子の構造、元素の性質、周期表、化学反応式など化学の基礎事項を理解したか。 ② 身近な化学物質、技術、材料などについて、化学組成や分子構造を理解し、説明できたか。 ③ 生体分子や生理活性物質の構造と役割を理解し、説明できたか。 ④ 環境問題とエネルギー問題について化学の観点から考察できるようになったか。			
	成績評価 方法	学期末レポート80%、小テスト20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書「身のまわりの化学－物質・環境・生命－」大場 好弘(著) 化学同人				
備考	連絡先 E-mail: iwasa-k@sit.ac.jp				

科目名	科学技術史			
クラス	対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
			曜日・時限	木3
担当教員	詫間 直樹		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	今日、科学技術のアウトプット(科学知識や人工物など)は社会のすみずみまで浸透している。また、大抵の社会問題に科学技術が絡んでくるようになって来ているので、科学技術なしには問題を語ることも解決することもできないと言ってよいほどの状況にある。この授業は、科学・技術がこれほどまでに大きな存在となった歴史的経緯をたどり、科学・技術に対する理解を深めることを目的とする。			
授業方針	講義形式で行う。スライド(PowerPoint)を用いる。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。 科学技術に関する個別の専門的知識は必要としない。文科系の学生にも分かりやすいように、科学と技術の歴史的・社会的性格を論じる。 毎回の授業の終わりに、小テストとして、授業に対する感想や意見、疑問などをコメントシートに記入してもらう。この作業は、記憶を定着させ理解を深めるための有効な作業であるので、あなどらずにしっかり記入してもらいたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業の目的・進め方、成績、その他)およびイントロダクション(「科学」「技術」「科学技術」の簡単な定義と由来) 第2回 古代ギリシャ・ローマの科学と技術 第3回 中世の科学・技術(1)(西欧における農業生産の拡大、都市の発達、イスラムの科学・技術、12世紀ルネサンス、など) 第4回 中世の科学・技術(2)(火薬、鉄砲、製紙、活版印刷、など) 第5回 科学革命への先駆け ― 地動説の発達 第6回 科学革命と科学の制度化 第7回 産業革命の始まり 第8回 産業革命の他部門への波及 第9回 産業革命のイギリス以外の国々への波及 第10回 科学の専門職業化 第11回 第二次産業革命 第12回 戦争と科学・技術 第13回 大量生産方式 第14回 イノベーションのリニアモデルとノンリニアモデル 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	① 毎回の授業の前までにその前の週の授業内容について、復習を充分しておくこと。(30時間程度) ② 中間レポートには十分な時間を掛けて取り組むこと。(15時間程度) ③ 期末試験の前には再度復習を行い、2000年に及ぶ歴史のおおよその流れを把握しておくこと。(10時間程度) ④ 毎回の授業で紹介する関連文献やインターネットサイトについて積極的に閲覧し、理解を深めることを推奨する。(5時間程度)			
学習到達目標	・科学技術の歴史がどのように展開してきたのか、その流れをイメージできるようになること。 ・科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・科学と技術の歴史について、基本的な事柄を説明することができるか。 ・重要な出来事や人物について理解し、概略を説明できるか。 ・社会における科学技術のあり様とあり方について、具体的な事例と結び付けて説明できるか。 ・科学技術の歴史について書かれた文章を読み、要点をまとめることができるか(中間レポート)。		
	成績評価 方法	毎回の授業の終わりに小レポートとしてコメントを書いてもらう。 期末に試験を行う。また、学期の中頃に中間レポート課題に取り組んでもらう。 小レポート(30%)、中間レポート(20%)、期末テスト(50%)。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は指定しない。毎回資料を配布する。必要に応じて参考になる文献を紹介する。			
備考				

科目名	会計学概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	企業は顧客に満足してもらい、その対価として利益を得ることを最大の目的としている。そのため、企業経営者、企業で働く人々は「利益を得るためにはどうしたらよいか?」、「活動の結果、利益は出たのか?」について大きな関心を持つ。会計はそのようなニーズに役立つ情報をもたらす。会計事務所において様々な企業の会計実務に携わった経験を活かし、知識だけではなく、頭と手を駆使し、「使える」会計の習得を目指す。【実務】				
授業方針	会計と企業経営の関係をイメージしやすいように、具体的な企業活動の流れに焦点をあてたアプローチをとる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 会計の基本 第 2回 会計の種類と役割 第 3回 損益と資産・負債の関係 第 4回 売上高を決める要素 第 5回 利益を決める要素 第 6回 固定費と変動費 第 7回 在庫と会計 第 8回 設備投資と会計 第 9回 財務三表の関係 第10回 貸借対照表(1) 第11回 貸借対照表(2) 第12回 損益計算書(1) 第13回 損益計算書(2) 第14回 キャッシュフロー計算書 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	会計と企業活動の関係が理解できるようになる。 企業の経営成績、財政状態に対して関心が向くようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	企業経営における会計の役割を理解し、説明できるか。 企業活動を会計の視点から理解し、説明できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、参考資料を紹介する。				
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	教育と社会				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	小島 博明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育と社会」では、現代社会におけるさまざまな教育問題を取り上げて、今何が起きているのか(現状の把握)→なぜそうなったのか(歴史的背景や状況の客観的分析)→今後はどうすればいいのか(課題の整理)を多角的に考えていく。→その上でそれらについて自分の考えを述べることができ(発表能力)→さらに自分の考えをエッセイとしてまとめることができる。(文章表現能力)				
授業方針	一授業に一課題を提示する。それについて話し合うことから始め、友達の意見や教師の説明を聞くことを通して自分の考えを構築する。最後に、その構築した自分の考えをエッセイとしてまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入(話し合いの仕方、エッセイの書き方など)、科目「教育と社会」の教育と社会との関係とは 第2回 日本の学校の歴史 第3回 最近の学校(中高一貫教育) 第4回 学力格差と社会階層 第5回 小学校における英語必修化 第6回 グローバリゼーションと学校 第7回 よい教師とは 第8回 よい学校とは 第9回 教師の多忙 第10回 道徳教育 第11回 個性重視教育 第12回 いじめ 第13回 体罰 第14回 青年とアイデンティティ 第15回 まとめ及びレポート作成(本授業を通して学んだことと、思ったこと)				
準備学習	日頃から文献を購読するとともに、新聞などで報じられる教育問題に関心を持ち、何が起きているのか、なぜそうなったのか、どんな対策が考えられるのかなどを考える習慣をつける。具体的記には下記の課題をやる。 ①第1週～7週 基礎文献(第1回目の授業で指示)を読む。(合計30時間) ②第8週～15週 数社の新聞の「社説」を読む。(合計30時間)				
学習到達目標	①現代社会のなかで教育をめぐるどんな問題が起きているのか、現状の把握 ②なぜそのような状況になったのか、歴史的背景や状況の客観的分析 ③今後はどうすればいいのかを多角的に考え、課題を整理 ④自分の意見を適切に表現することができる発表能力 ⑤エッセイを適切に書くことができる文章表現能力				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標に照らして評価する。			
	成績評価 方法	平常点30%、レポート70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	<b>教育と社会</b>				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	小島 博明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育と社会」では、現代社会におけるさまざまな教育問題を取り上げて、今何が起きているのか(現状の把握)→なぜそうなったのか(歴史的背景や状況の客観的分析)→今後はどうすればいいのか(課題の整理)を多角的に考えていく。→その上でそれらについて自分の考えを述べることができ(発表能力)→さらに自分の考えをエッセイとしてまとめることができる。(文章表現能力)				
授業方針	一授業に一課題を提示する。それについて話し合うことから始め、友達の意見や教師の説明を聞くことを通して自分の考えを構築する。最後に、その構築した自分の考えをエッセイとしてまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入(話し合いの仕方、エッセイの書き方など)、科目「教育と社会」の教育と社会との関係とは 第2回 日本の学校の歴史 第3回 最近の学校(中高一貫教育) 第4回 学力格差と社会階層 第5回 小学校における英語必修化 第6回 グローバリゼーションと学校 第7回 よい教師とは 第8回 よい学校とは 第9回 教師の多忙 第10回 道徳教育 第11回 個性重視教育 第12回 いじめ 第13回 体罰 第14回 青年とアイデンティティー 第15回 まとめ及びレポート作成(本授業を通して学んだこと、思ったこと)				
準備学習	日頃から文献を購読するとともに、新聞などで報じられる教育問題に関心を持ち、何が起きているのか、なぜそうなったのか、どんな対策が考えられるのかなどを考える習慣をつける。具体的には下記の課題をやる。 ①第1週～7週 基礎文献(第1回目の授業で指示)を読む。(合計30時間) ②第8週～15週 数社の新聞の「社説」を読む。(合計30時間)				
学習到達目標	①現代社会のなかで教育をめぐるどんな問題が起きているのか、現状の把握 ②なぜそのような状況になったのか、歴史的背景や状況の客観的分析 ③今後はどうすればいいのかを多角的に考え、課題を整理 ④自分の意見を適切に表現することができる発表能力 ⑤エッセイを適切に書くことができる文章表現能力				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標に照らして評価する。			
	成績評価 方法	平常点30%、レポート70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	経営学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	宮崎 洋			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	会社(組織)の仕組みや経営に関する基礎的事項を学ぶ。特にいろいろな業態を取り上げ、その業務内容や組織の一般的な形態や役割について学習する。また企業の社会における存在意義やそこで働く意味、社会生活/企業組織、経営活動などの実態や心構えについて学ぶ。この科目は民間シンクタンクで多くの企業の経営改革に携わってきた実務経験を有する教員による経営関連分野の入門科目である。【実務】				
授業方針	会社(組織)の仕組みに関する基礎的事項の概略を解説する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 この授業でどんなことを学ぶのか(目的/狙い)。 第2回 社会と企業 第3回 企業経営の歴史 第4回 企業の見方や捉え方(産業分類と特徴、組織と役割) 第5回 企業の見方や捉え方(製造業:消費財) 第6回 企業の見方や捉え方(製造業:生産財) 第7回 企業の見方や捉え方(金融業) 第8回 企業の見方や捉え方(サービス業) 第9回 企業の見方や捉え方(情報・通信) 第10回 企業の見方や捉え方(商業) 第11回 企業の見方や捉え方(公共サービス) 第12回 企業の仕組み:会社は誰のもの コーポレートガバナンス、経営倫理/コンプライアンスの考え方 第13回 企業の仕組み:企業活動の目的 第14回 企業の仕組み:企業経営/経営資源 第15回 総復習/予備:総復習と課題:まとめ及び試験				
準備学習	資料を通読する。				
学習到達目標	企業や組織の役割や機能、社会との関係を理解する				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	○企業の中で行われていること、その意義について基本的理解を得る ○企業活動の目的について基本的理解を得る			
	成績評価 方法	授業への参画、課題、期末テストを概算20%:20%:60%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○参考図書「はじめて学ぶ人のための経営学」(文真堂) ○参考図書「価値創造の経営学」(言視舎) ○参考資料は都度紹介・配布する				
備考					



科目名	経済学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	申 鉉珏			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	複雑多様な経済現象を理解するためのツールとして経済学の基礎理論を解説する。 経済学は分析対象と方法の違いによってミクロ経済学とマクロ経済学に大別されるが、両方のアプローチを理解することにより日々起こるもろもろの経済現象を経済理論に基づき、自分なりに整理し理解できることを目標とする。				
授業方針	現代経済学は抽象的で、複雑高度な研究方法により理解の困難な科目になってきているが、初めての学生でもその本質を覗けるように、数式よりはグラフを多く使うことにより平易に解説し、より多くの学生が理解できるように講義を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 インTRODクシヨンー講義の進め方と内容の紹介 第2回 経済学とはなにか 第3回 需要・供給と市場 第4回 消費者行動の理論(1)・・・消費者効用、無差別曲線、最適消費 第5回 消費者行動の理論(2)・・・需要曲線の傾きと弾力性 第6回 企業行動の理論(1)・・・生産関数と生産費用 第7回 企業行動の理論(2)・・・最適生産と供給曲線 第8回 余剰分析・・・消費者余剰と生産者余剰 第9回 市場理論(1)・・・完全競争市場 第10回 市場理論(2)・・・独占市場、寡占市場、独占的競争市場 第11回 市場の失敗・・・外部性と公共財 第12回 国民所得の決定 第13回 貨幣市場と中央銀行 第14回 労働市場 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①毎回の授業の内容をしっかりと復習し、理解しておくこと。 ②参考書に目を通し、議論される内容の概要を理解しておくこと。				
学習到達目標	①市場の役割と機能を理解し、その重要性を確認すること。 ②各種の市場における経済政策の効果を理解すること。 ③市場の失敗が起こるときの政府の役割を理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①市場の役割と機能を説明できるか。 ②各種の市場における経済政策の効果を説明できるか。 ③市場の失敗が起こるときの政府の役割を説明できるか。			
	成績評価 方法	定期試験100%(中間テスト50%、期末テスト50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 「スタンフォード大学で一番人気の経済学入門」ミクロ編、マクロ編 ティモシー・テイラー著、高橋璃子訳、かんき出版、2013年				
備考					

科目名	芸術論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	西洋美術を中心にした様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきます。さらに、作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。基本的には毎回の授業でいくつかの芸術作品を取り上げ、その作品に関する情報や背景を解説します。そのあと作品そのものに焦点をあて、その作品の特徴をいろいろな側面から探っていきます。一緒に「芸術とは何か」を考えていきましょう。				
授業方針	毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めていきたいと思っています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 芸術と美:ヴィーナス 第2回 芸術と美:パリの審判 第3回 芸術作品を見る:原始美術 第4回 芸術論を読む:バタイユとゴンブリッチ 第5回 芸術作品を見る:ゴシック建築 第6回 芸術作品を見る:ゴシック建築(2) 第7回 芸術作品を見る:イタリア・ルネサンス 第8回 芸術作品を見る:イタリア・ルネサンス(2) 第9回 芸術作品を見る:バロックの時代 第10回 芸術作品を見る:聖から俗の世界へ 第11回 芸術作品を見る:近代(新古典主義・ロマン主義) 第12回 芸術作品を見る:近代(印象派) 第13回 芸術作品を見る:近代から現代へ 第14回 これまでのおさらい 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう(30時間) また芸術に興味を持つことが大切です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しようと努めてください(15時間)				
学習到達目標	様々な芸術作品を見ることによって芸術をより身近なものにします。さらに作品を見て何かを考えたり述べたりする判断能力を身につけます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容をしっかりと把握し、身につけられたのかをチェックします。			
	成績評価 方法	授業への参加度30%、定期試験70%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書の指定はなし。 2)参考書は、毎回の内容に応じてその都度紹介する。				
備考					

科目名	現代社会理解				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金1
担当教員	磯田 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は、今後就職活動を経て社会人となっていく3年生を主たる対象として、就職活動において求められる現代社会に関する知識を習得してもらうことを目的とします。講師は、大手シンクタンク・コンサルティング機関である(株)三菱総合研究所に勤務しており、本科目は、シンクタンクの有する豊富な知見を背景に、実学的な視点から、国内外の情勢やその読み解き方等を学修できる実践的科目です。【実務】				
授業方針	現代社会に関して、日本、世界、技術等の切り口から、特に注視すべき具体的なテーマを取り上げ、その内容や背景、それらが将来に及ぼす影響等を解説します。なお、一方的な知識の伝達に終始しないよう、学生とのディスカッションも適宜行う予定です。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 現代社会を理解するとは？(イントロダクション) 第2回 日本を理解する(1)日本の政治と経済の変遷と課題 第3回 日本を理解する(2)日本企業の現状と課題 第4回 日本を理解する(3)社会構造の変化と課題 第5回 日本を理解する(4)地方の現状と課題 第6回 世界を理解する(1)アメリカ 第7回 世界を理解する(2)アジア 第8回 世界を理解する(3)欧州・ロシア(その1) 第9回 世界を理解する(4)欧州・ロシア(その2) 第10回 世界を理解する(5)中東 第11回 世界を理解する(6)アフリカ 第12回 技術を理解する(世界を変える新たな技術) 第13回 企業経営を体感する 第14回 働くことを理解する 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)本シラバスで指定した参考書および前回授業時に提示する参考書籍等を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)授業の最初に小テストを実施するので、復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	現代社会で起こっている事象について知り、説明ができることに加え、それに対する自分なりの意見が言えるようになることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	現代社会で起こっている事象について理解し、説明や自分なりの意見を言うことができるか。			
	成績評価 方法	授業内での貢献30%、小テスト25%、期末試験45%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書は特に指定せず、毎回授業プリントを配布します。 (2)参考書 大守隆 編「日本経済読本(第21版)」東洋経済新報社 (3)その他の参考資料 日本経済新聞、「週刊東洋経済」(東洋経済新報社)、「週刊ダイヤモンド」(ダイヤモンド社)、「週刊エコノミスト」(毎日新聞出版)等の経済誌				
備考	授業への主体的な参加を希望します。授業の詳しい内容については、初回の講義で説明します。				

科目名	自己理解の心理学			
クラス	対象学年	1年	開講学期	前期
			曜日・時限	火5
担当教員	小島 弥生		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	自分とは何か。思春期・青年期にある人々が、程度の差こそあれ一度は思い悩む問題である。そして、自分なりの答え(すなわち、自己理解)を見出し、責任ある一個人として人間社会の構成員に参画していくのが人生の次段階での課題になる。この講義では自己を理解する方法として心理学で研究されている考え方(理論)や手法を紹介し、自分自身について科学的な手法を活かして理解できるようになることを受講学生に求める。			
授業方針	基本的には講義スタイルをとる。パワーポイントを用いるが、パワーポイントの主要部分をプリントにして配付するので、そこに必要事項を補って記入していくことを受講学生には求める。また、毎回の授業終了前にリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに記された疑問等に対し、翌週の授業冒頭に追加の説明や補足の講義を行うこともある。講義内容を3部構成にしているが、原則として各部の終了時に授業内小テストを実施する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 「自己」という用語について 第2回 自己過程の心理学(1)自己に注目する 第3回 自己過程の心理学(2)自己に関する情報を判断・評価する 第4回 自己過程の心理学(3)自己を表出する 第5回 小テスト① 自己過程の心理学 第6回 自己理解の方法(1)心理尺度を用いた測定 第7回 自己理解の方法(2)投影法と作業検査法 第8回 自己理解の方法(3)無意識的な自己の測定方法 第9回 小テスト② 自己理解の方法 第10回 発達段階と自己(1)自己に気づく時期はいつか 第11回 発達段階と自己(2)自己同一性(アイデンティティ) 第12回 発達段階と自己(3)対人関係と自己 第13回 小テスト③ 発達段階と自己 第14回 発達段階と自己(4)職業適性という考え方 第15回 レポート作成			
準備学習	①毎回の講義時に配付するパワーポイントや、不定期に配布する補足プリントを使い、授業内容を復習する(20時間) ②小テストの返却結果を受けて、理解が十分にできているポイントと不足があるポイントを整理し、不足がある点について復習する(20時間) ③小テストの成果を利用し、レポート作成作業を進める(20時間)			
学習到達目標	講義内容を通し、自分自身について心理学的な視点を用いて考えることができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自己という概念を理解し、説明できるか。 自己を理解するための方法について、具体的に説明できるか。 自己の形成に関わる人間の発達上の出来事や課題について理解し、説明できるか。		
	成績評価 方法	小テスト30%+リアクションペーパーへの記述20%+レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は指定しない。講義はパワーポイントと配布プリントによって進める。ただし、手元に何らかの書籍があった方が望ましいと考える学生のために、以下の書籍を参考書として紹介する。 [参考書]松井豊・櫻井茂男(2015)。スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学(ライブラリスタンダード心理学9)。サイエンス社 (ISBN:978-4-7819-1366-7)			
備考				

科目名	<b>社会学概論</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	荻 翔一			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちが生きている社会は、「当たり前」とされるものが満ち溢れていますが、視点をずらせば、それはある時期や空間、状況等で生じた特殊なものであるかもしれません。この授業では、視点をずらす道具として、社会学的なものの方を紹介し、まず、社会学の基礎的な学説史や重要な社会学概念を説明したのち、家族や地域、グローバル化、宗教、社会運動の現状と問題状況の理解を通じて、個人と社会構造の関連について考えていきます。				
授業方針	受講生には社会学的なものの方を身につけ、実践的に活用することで、現代社会(やそこに生きる私たち自身)について理解を深めることを期待します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会学とは何か 第2回 社会調査の基礎 第3回 社会学理論の系譜① 第4回 社会学理論の系譜② 第5回 家族をめぐる社会学① 第6回 家族をめぐる社会学② 第7回 地域をめぐる社会学① 第8回 地域をめぐる社会学② 第9回 グローバル化をめぐる社会学① 第10回 グローバル化をめぐる社会学② 第11回 宗教をめぐる社会学① 第12回 宗教をめぐる社会学② 第13回 社会運動をめぐる社会学① 第14回 社会運動をめぐる社会学② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①社会問題に関する記事やニュースに普段から触れ、自分なりの疑問・関心を持っておくこと。(30時間) ②毎回配布する資料に参考文献を記載するので、それを参照するなどして復習しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	社会学の基礎的な理論、学説史を理解し、社会学的なものの方を習得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	基礎的な社会学史を理解し、自分の言葉で説明できるか。 重要な社会学概念について理解し、具体的な事例を交えながら説明できるか。			
	成績評価 方法	平常点(コメント・シート)30%、期末試験70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	教科書は特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。また、必要に応じて参考文献を紹介する。				
備考	授業に主体的に参加する学生を歓迎します。				

科目名	浄土教の歴史と文化				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>本学は浄土宗開祖の法然上人の仏教精神に基づいている。その法然浄土教を中心に、本講義では浄土教の歴史を論ずる。法然浄土教の意義について、浄土教の歴史における法然の位置づけ、日本仏教史・歴史における法然の位置づけの二方向から考察する。また、浄土思想・信仰が寺院(建築)や仏像(彫刻)、極楽・地獄図(絵画)といった美術や文学に表現されていることを、具体例を通して考察する。</p>				
授業方針	<p>一つには、基本的な浄土教の知識を身につけることを目標とするが、本来的には、浄土教の歴史を素材として、思想史的なものの見方を獲得すること、とりわけ法然浄土教をモデルとして、新しい思想が成立し受容される過程を理解することを目標とする。前回の内容についての復習小テスト(授業中に実施)、ほぼ毎回のコメント・シートの提出、2回程度の小レポートの提出を求め、期末テストを行う。出席回数ではなく、小テスト、コメント・シート、小レポートの提出回数・内容を重視する。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 仏教の基礎知識  第2回 浄土教とは  第3回 浄土教の歴史(1)——はじまり(インド～中国南北朝)  第3回 浄土教の歴史(2)——中国 曇鸞  第4回 浄土教の歴史(3)——道綽  第5回 浄土教の歴史(4)——善導  第6回 浄土教の歴史(5)——日本 奈良・平安時代(法然以前)  第7回 浄土教の歴史(6)——法然 ①生涯と時代背景  第8回 浄土教の歴史(7)——法然 ②思想  第9回 浄土教の歴史(8)——法然 ③位置づけ  第10回 浄土教の歴史(9)——法然以後 ①親鸞  第11回 浄土教の歴史(10)——法然以後 ②鎌倉期以後  第12回 浄土教の文化(1)——美術 ①絵画  第13回 浄土教の文化(2)——美術 ②建築・彫刻  第14回 浄土教の文化(3)——文学  第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①ほぼ毎回授業中に前回の授業の内容や術語の復習小テストを実施するので、復習しておくこと。(20時間)  ②復習時に配布の文献プリントや参考文献を読んで、わからないことは質問できるようにしておくこと。(20時間)  ③課題(小レポート)に取り組むこと。(20時間)</p>				
学習到達目標	<p>①浄土教に関する基本的知識を獲得し、②浄土教の歴史、③法然浄土教成立の意義を理解し、④浄土教の文化を知ることを目指す。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>①浄土教に関する基本的知識が獲得できたか。②浄土教の歴史が理解できたか。③法然浄土教成立の意義が理解できたか。④浄土教の文化について知見を深めたか。</p>			
	成績評価 方法	<p>平常点(復習小テストおよびコメント・シート)20% 小レポート30% 期末試験(またはレポート)50%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める</p>			
教材	<p>(1)教科書 レジユメを配布する。  (2)参考書 授業中随時紹介する。</p>				
備考	<p>「仏教の歴史と思想」を履修しておくことが望ましい。</p>				

科目名	心理学入門				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	田邊 資章			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自分と相手の「心」を科学的に把握しなければならないことはないし、逆に科学的ではいけないこともあるかもしれない。しかしながら、相手と共有する「心」を考えると、相手もそれを確認できる方法が保証されている必要があるだろう。心理学が「心」をどのように表現しているのかを紹介していく。				
授業方針	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や相手の「心」の働きを考える手がかりを得る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学への招待(心理学が扱う「心」とは) 第2回 見え方や見方の心理(人間行動の基盤) 第3回 学ぶこと(経験による行動の獲得・維持・変容・消失) 第4回 覚えること 第5回 考えること(新しい考え方の獲得や考え方の変化) 第6回 育つこと・育てること 第7回 その人「らしさ」(人格の構造や形成) 第8回 「知能」 第9回 人と人とのやりとり(人間関係に関連する問題) 第10回 ことば(文法や文の産出/言葉を伴う学習) 第11回 動機づけと情動(欲求との関係は?) 第12回 産業と組織の心理学(人間と職場・仕事との関係) 第13回 老年の心理学(加齢変化/死と死にゆく過程) 第14回 「心」の病 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回の内容について復習すること。				
学習到達目標	心理学には様々な人間理解の視点があることを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常場面における現象について、心理学的に整理できるようになったか。			
	成績評価 方法	期末試験80%、毎回のコメントシート20%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書:山村豊著 心理学[カレッジ版](2017) 医学書院 参考書:講義中に適宜紹介する。				
備考					

科目名	身近な物理				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	西村 拓史			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	身近な物事を具体例にしながら、物理学について横断的な講義を行う。				
授業方針	中学・高校までの物理を新たな視点から学びなおし、理解を深めると同時に、物理学を日常生活で活用できるようにする。また、大学以降の物理学や先端的な話題にも触れていく。ただ講義を聴くだけでなく、簡単な演習課題を行うことで、実用的な計算能力も身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1 講 ガイダンス(物理学とは何か) 第 2 講 身の回りの物理量と国際単位系 第 3 講 身の回りの物質の構造と状態 第 4 講 身の回りの保存則と対称性 第 5 講 身の回りの運動と力学 第 6 講 身の回りの熱力学1(熱力学現象) 第 7 講 身の回りの熱力学2(情報と生命活動) 第 8 講 身の回りの波と音 第 9 講 身の回りの電磁気学1(電気と磁気) 第10 講 身の回りの電磁気学2(電気回路と電子工学) 第11 講 身の回りの電磁波(光と相対性理論) 第12 講 現代社会における量子力学とその応用 第13 講 原子構造と放射線の基礎知識 第14 講 コンピュータと物理学(シミュレーション、人工知能等) 第15 講 まとめ				
準備学習	授業中に出題する演習課題のレポートを作成すること。また、学習内容を定着させるため、復習に努めること。合計60時間。				
学習到達目標	物理についての基礎知識を学び、物理学を日常生活で活用できるようにする。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習到達目標の習熟度による。			
	成績評価 方法	授業中に行う小テスト50%、授業中に出題する演習課題のレポート50%の総点による。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	参考書は必要に応じて授業中に紹介する。				
備考	高校で物理を習っていない人、物理を苦手だと感じている人の受講も歓迎する。				



科目名	人生と職業			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	火5
担当教員	西田 優, 藤田 拓勸		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>この授業は、社会に出て働く上で必要な考え方・知識・スキルを修得することを目的としています。</p> <p>この授業の中では、採用担当者時代の本音や、社会で自立して働く為のキャリアの築き方をすべてお話します。私と一緒に、沢山の小さな挑戦を繰り返し、一歩ずつこれからのキャリアを築いていきましょう！その過程で、「自分が変わる物語」がはじまります。</p> <p>この科目は、大手上場企業での人事・採用業務経験に基づいた講義を行う実践的科目です。【実務】</p>			
授業方針	<p>現代日本人の人生において、「働く時間」の割合は非常に大きい。そこで本授業では、社会に出て働く準備を進めるために必要な心の持ち方、具体的な知識や技法などの修得を目指します。</p> <p>全15回の授業参加後の到達目標は以下のとおりです。</p> <p>(1)社会に自らが提供した価値への対価として収入を得るということの意味を知ること  (2)自分が築きたいキャリアを一旦思い描き、そのスタートラインに立つための意志を持つこと</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回【講義・演習】オリエンテーション: キャリア論概説、適性検査(受験・当日自己採点)  第2回【講義・演習】世界における日本の産業(業種・理系文系それぞれの学生が就き得る職種)  第3回【講義・演習】コミュニケーション理解: 誰にでもできる論理的思考  第4回【講義・演習】コミュニケーション理解: 今日からできるグループディスカッション  第5回【講義・演習】コミュニケーション理解: 読んだ人が会いたくなる自己紹介書(履歴書)  第6回【講義・演習】コミュニケーション理解: 人をひきつけるプレゼンテーション  第7回【講義・演習】コミュニケーション理解: 自分を伝える個人面接・集団面接  第8回【講義・演習】キャリアとは何か  第9回【講義・演習】キャリアを考える必要性  第10回【講義・演習】人生の振り返り  第11回【講義・演習】ライフスタイルとキャリア  第12回【講義・演習】働くことの意味  第13回【講義・演習】学生生活と社会人生活  第14回【講義・演習】働くために必要な準備  第15回【講義・演習】おさらい: 社会への扉の開き方</p>			
準備学習	授業終了時に示す課題に取り組むこと(45時間)。講義前に予習をして内容をある程度理解しておくこと(15時間)			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然の要素が多い環境下でもキャリアを築くのは自らだと理解していること</li> <li>・日本の産業における業種・職種、それらへの就職活動の実態を理解していること</li> <li>・日常生活の中で判断や決定を要する際に、まずは筋道立てて考えようと思えること</li> <li>・先輩社会人のキャリアに興味と敬意を持てること</li> <li>・自らの今後のキャリアと現在の行動との関係性に興味を持てること</li> <li>・社会や経済の動きに興味を持てること</li> <li>・自分の経験・考え・思いを伝える表現力を駆使できること</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアと自立の重要性について演習を通じて理解できていること</li> <li>・自分を客観的に知り、それを表現する書類をかけること</li> </ul>		
	成績評価 方法	課題66%、期末試験34%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材				
備考				

科目名	人体の構造と機能及び疾病				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	加藤 奈津江			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	1. 身体構造と機能及び疾病や障害(病気の成立に関する病態)を解説する 2. 心理に関する支援が必要な主な疾病についても解説する				
授業方針	身体の構造とともに、器官系、器管、組織、細胞の機能について学習するとともに、各種の疾病について、心身の健康も踏まえ、授業を進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス 人体の構造(個体—器官系—器官—組織—細胞) 第2回 心臓の構造と循環器系疾患 第3回 腎臓の構造と泌尿器系疾患 第4回 呼吸器の構造と呼吸器系疾患 第5回 消化器の構造と消化器系疾患 第6回 骨の構造と働き、骨疾患と障害 第7回 神経(シナプス)の構造と中枢神経の働き 第8回 脳血管疾患・認知症での心理的支援 第9回 内分泌疾患と糖尿病での心理的支援 第10回 悪性新生物での心理的支援 第11回 遺伝性疾患での心理的支援 第12回 感染症の種類と原因(後天性免疫不全症候群含む)での心理的支援 第13回 難病(ALSなどの神経難病)での心理的支援 第14回 依存症(薬物、アルコール)での心理的支援 第15回 まとめと試験				
準備学習	1. あらかじめシラバスの内容の該当する教科書のページを読み、基本的な用語の意味を理解しておくこと(第1回から第14回 2時間×14=28時間) 2. 理解度を確認するために、授業の最初に前回の復習小テストを行うため、各回の授業内容を復習しておくこと(2時間×13=26時間) 注)第14回授業後は、定期試験対策として6時間の準備学習とする 準備学習の総時間 60時間				
学習到達目標	人体の構造を知ることにより、各器官系の働きの知識を得ることができる。器官系に障害がおきると疾病になる。その原因を習得することにより、心理的なケアとともに、どのように対処していくかを考えることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 2～14回授業内での復習テストについて理解しているか 2. 疾病の原因について、各器官系のどこに障害がおきているか理解しているか 3. 心理的支援の必要な疾病については、対処の仕方について理解しているか			
	成績評価 方法	課題20% 定期試験80%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	公認心理師の基礎と実践 人体の構造と機能及び疾病(21巻)(遠見書房) 必要に応じて資料配付				
備考					

科目名	数理基礎				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	数理的な思考力は、理系分野に限らず、一般に文系とみなされている分野においても重要である。本授業は、講義と演習を通して、社会で必要とされる数理的思考力の基礎を身につけることを目的とする。				
授業方針	本授業は数学的な内容を扱うが、数学の授業ではない。数理的な思考法を身につけ、実際問題に応用できるようになることを重視する。また、就職試験で問われる数理的な能力にも注目する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 数と式(1) 第2回 数と式(2) 第3回 数と式(3) 第4回 数と式(4)／集合 第5回 推論(1)／第1回小テスト 第6回 推論(2) 第7回 推論(3)／図表の読み取り 第8回 場合の数(1) 第9回 場合の数(2) 第10回 確率(1)／第2回小テスト 第11回 確率(2) 第12回 グラフと領域／物流／ブラックボックス 第13回 総合演習(1) 第14回 総合演習(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業ノートを整理し、復習する。(30時間) 課された練習問題を解く。(30時間)				
学習到達目標	(1) 基礎的な数理的な手法に関する知識と技能を習得する。 (2) 問題解決において、数理的な思考法を応用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 基礎的な数理的な手法に関する知識と技能を習得できたか。 (2) 問題解決において、数理的な思考法を応用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点10%＋小テスト20%＋期末テスト70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	世界の宗教と歴史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	木澤 景			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>テーマ 比較を通して学ぶ三大宗教</p> <p>目的 世界の諸宗教の概要を知り、異なる信仰を持つ他者との相互理解を深める基礎を作る。</p> <p>内容 世界の主要な宗教であるキリスト教・イスラーム・仏教が、人間社会のさまざまな問題について、どのような考えを持っているのかを比較検討する。それを通じて、世界の様々な隣人たちのものの考え方の基盤を学ぶ。</p>				
授業方針	実際の聖典の文献に触れながら、諸宗教の思想的 content について基本事項を理解、把握する。毎回、前回の内容についての小テストを実施し、理解度、把握度を確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス、科学の時代の私たちと宗教 特定の信仰を持たなくても宗教心は誰にでもあることを実感し、宗教を学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2.キリスト教の死生観 キリスト教が人の死や生をどのようなものと考えているのか、『旧約聖書』『新約聖書』を読みながら理解する。</li> <li>3.イスラームの死生観 イスラームが人の死や生をどのようなものと考えているのか、『クルアーン』を読みながら理解する。</li> <li>4.仏教の死生観 仏教が人の死や生をどのようなものと考えているのか、仏典(現代語訳)を読みながら理解する。</li> <li>5.キリスト教の恋愛観 キリスト教が男女の性愛をどのようなものと考えているのか、『旧約聖書』『新約聖書』を読みながら理解する。</li> <li>6.イスラームの恋愛観 イスラームが男女の性愛をどのようなものと考えているのか、『クルアーン』を読みながら理解する。</li> <li>7.仏教の恋愛観 仏教が男女の性愛をどのようなものと考えているのか、仏典(現代語訳)を読みながら理解する。</li> <li>8.キリスト教の経済観 キリスト教が貧富の格差をどのようなものと考えているのか、『旧約聖書』『新約聖書』を読みながら理解する。</li> <li>9.イスラームの経済観 イスラームが貧富の格差をどのようなものと考えているのか、『クルアーン』を読みながら理解する。</li> <li>10.仏教の経済観 仏教が貧富の格差をどのようなものと考えているのか、仏典(現代語訳)を読みながら理解する。</li> <li>11.キリスト教の自然観 キリスト教が環境問題をどのようなものと考えているのか、『旧約聖書』『新約聖書』を読みながら理解する。</li> <li>12.イスラームの自然観 イスラームが環境問題をどのようなものと考えているのか、『クルアーン』を読みながら理解する。</li> <li>13.仏教の自然観 仏教が環境問題をどのようなものと考えているのか、仏典(現代語訳)を読みながら理解する。</li> <li>14.まとめ、質疑応答</li> <li>15.テスト</li> </ol>				
準備学習	毎回の小テストに備えて、前回の配付資料の読み直し、不明な箇所の調査、授業概要の復習をしておくことが望ましい。本講座の予習時間の目安は30分、復習時間の目安は60分である。				
学習到達目標	多様な内容とスタイルをもつ聖典・教典を読み、内容を理解して考えを深めること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の小テストにおいて、基本的事項の理解、把握を確認する。期末テストにおいて、諸宗教が何を問題視し、何の解決の方途を示しているのか、それは自分たちの問題としてはどのような意味を持つか、ということについて論述する。			
	成績評価 方法	毎回の小テスト(7割)＋期末テスト(3割)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	原則として、毎回資料を配付いたします。また、参考文献は講義内で提示いたします。				
備考					

科目名	政治学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	一ノ瀬 佳也			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義は、政治学の基本的な概念や制度について学ぶ入門として位置づけられる。自分たちの社会を支える様々な制度や仕組みを理解して、現代社会が直面する政治課題について具体的に検討していく。				
授業方針	本講義においては、毎回授業の内容に関わる具体的な問いを提起するので、受講生には積極的に自分の意見を述べる事が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 政治学を学ぶ理由 第2講 国家とは何か？—統治機構の仕組み 第3講 議会と裁判所の役割 第4講 議会と政党 第5講 選挙の仕組み 第6講 官僚制、利益集団と世論 第7講 地方自治について 第8講 前半のまとめ 第9講 民主政治について 第10講 民主政治の変容 第11講 福祉と政治 第12講 国際政治と国民国家 第13講 日本政治の課題 第14講 後半のまとめ				
準備学習	事前に教科書や参考書を読んできてください。もし理解できない箇所があったら、授業の中で積極的に質問してください。				
学習到達目標	政治学についての基本的な用語や概念を知ることによって、自分たちの社会を支える政治の制度や仕組みを理解できるようになります。また、そうした制度や仕組みを支える政治の哲学や思想についても論じていきます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 授業中にいかに積極的に意見を提起しえたか (2) 政治学の用語や概念をよりよく理解できたか			
	成績評価 方法	(1)授業参加 80% (2) レポート 20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 教科書はしていない。 (2)参考書 阿部齊『政治学入門』岩波書店、1996年。 川崎修・杉田敦編『現代政治理論』(第2版)、有斐閣アルマ、2012年。 砂田庸一、稗田健志、多湖淳『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア、2015年。 川出良枝・谷口将紀『政治学』東京大学出版会、2012年。				
備考					

科目名	生命の仕組み				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1
担当教員	坂井 隆浩			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	生命科学の基本的概念および知識に基づき、分子・細胞・個体における「生命の仕組み」を理解する。				
授業方針	中学・高校で学んだ生物学の復習を織り交ぜ、生命科学の基礎的な事項に重点を置いた解説を行う。予習および復習がしやすいように、指定した教科書を中心とした内容の講義を行う。講義の前半には、前回の講義の復習、講義の後半には練習問題を交えた復習を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 生物の基本概念 第2講 タンパク質と核酸 第3講 遺伝子の発現と遺伝 第4講 バイオテクノロジー 第5講 生体膜と細胞の構造 第6講 代謝 第7講 細胞内輸送と分解 第8講 シグナル伝達系 第9講 神経系の機能と恒常性 第10講 発生 第11講 ゲノムと進化 第12講 免疫とがん 第13講 創薬と生命科学 第14講 生物の情報科学 第15講 まとめ及び試験				
準備学習	①教科書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に確実に習得すべき「ポイント」を示すので、授業当日復習もかねて図書館などを活用し復習する。(30時間) ③毎回授業の最後に、当日の授業内容に係る練習問題を実施するので、必ず予習・復習を怠らないこと。(10時間)				
学習到達目標	①細胞の構造や機能について説明できる。 ②生物のからだの構造や組織・器官の働きについて説明できる。 ③生命活動を支える分子の構造や役割について説明できる。 ④遺伝子の構造と機能について説明できる。 ⑤生命活動に必要なエネルギーの産生について説明できる。 ⑥生体内の情報伝達機構について説明できる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	①細胞の構造や機能について理解できたか。 ②生物のからだの構造や組織・器官の働きについて理解できたか。 ③生命活動を支える分子の構造や役割について理解できたか。 ④遺伝子の構造と機能について理解できたか。 ⑤生命活動に必要なエネルギーの産生について理解できたか。 ⑥生体内の情報伝達機構について理解できたか。			
	成績評価 方法	演習・レポート・授業への積極性:50% 期末試験:50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	教科書:理系総合のための生命科学 第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会 羊土社 ISBN:978-4-7581-2039-5				
備考	基礎に重点を置いた分かりやすい講義を実施するように心がけますが、分からない点や疑問点が生じたときには積極的に質問してください。				

科目名	西洋史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	高橋 裕子			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	西洋史を概観する。各時代における西洋の政治や社会、経済、文化などの特質を理解し、なおかつ、現代社会に生きる上で、それを実際の思考に運用できるようにすることを目的とする。				
授業方針	図版や写真を紹介し、西洋の歴史や文化というものを肌で感じられるように授業を進めていく。現代の社会を見つめる際に、歴史の知識をどのように役立てればいいのか、歴史(学)というものの見方には、どのような意義があるのか、受講に際して、常に意識の片隅に置いてもらいたい。登録者の人数によっては、グループによる議論や発表を組み込んでいく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 導 論(史学史と歴史学の現在) 第 2回 古代1(ギリシア) 第 3回 古代2(ローマ) 第 4回 古代3(キリスト教の成立と発展) 第 5回 中世1(西ヨーロッパ世界) 第 6回 中世2(ビザンツ) 第 7回 近世1(ルネサンス) 第 8回 近世2(勢力の再編) 第 9回 近世3(革命の時代) 第 10回 近代1(国民国家の展開) 第 11回 近代2(帝国主義) 第 12回 現代1(第一次世界大戦) 第 13回 現代2(第二次世界大戦) 第 14回 現代3(戦後の世界) 第 15回 まとめ  上記を一応の目安とし、適宜内容を検討しながら授業を進めていく。				
準備学習	1)講義中に参考書を紹介するので、事前に目を通しておくこと(30時間)。 2)授業後は復習を行い、学期末のレポート作成に備えること(30時間)。				
学習到達目標	西洋の歴史や文化に関する深い知識を身につけ、現代社会を考察するに際してそれを役立てることができるようになることを目標とする。講義をヒントに各人が調べ、読み、分析および検討することにより、自ら考える力を身につけてほしい。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	西洋世界の歴史や文化を理解し、その知識を現代社会に生きていく上で役立てることができるようになる。			
	成績評価 方法	学期末レポート80%、授業への積極的な参加の姿勢20%とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:特に指定しない。 (2)参考書:授業中に内容に応じて指示する。				
備考					

科目名	総合教養演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	岡本 浩行,上村 信秋,三浦 一郎,田村 行夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	就職(教員採用、公務員、民間)の試験には、一般教養のテストがあります。それは社会人として最低限の教養や一般常識があるかどうかを調べるためです。本授業はその社会人として最低限の教養を身につけ、就職試験や実際仕事をするとき役に立つ内容を行います。				
授業方針	人文科学、社会科学、自然科学の知識分野を中心に、数的処理(非言語分野)や文章理解(言語分野)にも役立つ内容を演習方式で問題を解きながら解説を行います。また、面接試験等でも必要な時事の内容も随時取り入れて行きます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>授業の順序は変更になる場合があります。 最初の授業の時に確定した順序の時間割を配付します。</p> <p>第1週、自然科学 化学の分野 第2週、自然科学 物理の分野 第3週、自然科学 生物の分野 第4週、自然科学 地学の分野 第5週、自然科学 数学の分野 第6週、人文科学 日本史の分野 第7週、人文科学 世界史の分野 第8週、人文科学 地理の分野 第9週、人文科学 思想・文学芸術の分野 第10週、社会科学 政治・法律の分野 第11週、社会科学 政治・法律の分野 第12週、社会科学 経済の分野 第13週、数的処理(非言語)の分野 第14週、国語・文章理解(言語)の分野 第15週、まとめ及び試験</p>				
準備学習	8月9日に行う、キャリア支援センター・就職課主催の「公務員・民間企業筆記試験対策講座」に出席することが望ましい。また、当日に教材を配付するので予習は必要ないが、授業終了後の復習に力を入れ授業で行った内容に関しては必ず取得し知識を確認すること。また、2月3日にも行うキャリア支援センター・就職課主催の「公務員・民間企業筆記試験対策講座」に出席するとより知識が確実なものになります。				
学習到達目標	一般常識を身につけ、就職試験における教養科目が確実に解けるようになる。 また、社会に出ても恥かしくない教養を取得できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	一般常識が身についたか。 また、興味を持って世の中の事を常に気にするようになったか。 社会人になる自覚と自信がついたか。			
	成績評価 方法	随時授業終了後行う小テストと期末試験の結果で評価する。 配分割合は、小テスト40%、期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	毎回プリント教材を配付します。				
備考					



科目名	総合情報演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	高畑 一夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ITパスポート試験に合格できるようなITに関する知識を習得・理解すること。				
授業方針	各自、学習内容について調査研究し、レポートを作成して、調査結果を発表する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1) ITとコンピュータ 2) コンピュータ構成機器 3) ネットワーク構成機器 4) コンピュータシステム 5) 有線ネットワークシステム 6) 無線ネットワークシステム 7) 情報セキュリティ 8) 表計算とデータベース 9) 企業と法務 10) 企業活動と経営戦略 11) ソフトウェア開発 12) システム戦略 13) プロジェクトマネジメント 14) サービスマネジメント 15) まとめ及び試験				
準備学習	毎回、学習内容に関連する事柄について、教科書や参考書を熟読し、レポートを作成する。				
学習到達目標	ITパスポート試験に合格できることを目標とする。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	ITパスポート試験出題範囲であるテクノロジ系、ストラテジ系、マネジメント系の各分野の理解度			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	(1)教科書:受講者と相談して決定する (2)参考書:随時、指定する				
備考					

科目名	体育実技I				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	近年、人を取り巻く環境を考えると「ストレス」等が人々に大きな影響をあたえている。こういった生活環境の中で「ストレス」等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことのできるスポーツを通じてもたらされる楽しみや充足感を得ることで「ストレス」等の軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。それに加え、スポーツに必然的に生じるチームワーク等を通して、コミュニケーションの大切さを再確認し、健康への関心も高めていく。				
授業方針	チームスポーツとしてのバスケットボール・サッカー・ソフトボール・ソフトバレーボール等、および個人種目としてのテニス・バドミントン・卓球等を軸として、種目の経験・未経験を問わず「楽しく汗をかく」を大前提として授業を構成する。 未経験の種目にも積極的にチャレンジしてみる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束事等の確認) 第 2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第 3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第 6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第 7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくこと。				
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康に対する意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。			
	成績評価 方法	1.平常点(授業への意欲・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性の妨害等を考慮)100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	体育実技II			
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分 _(選択)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	近年、人を取り巻く環境を考えると「ストレス」等が人々に大きな影響をあたえている。こういった生活環境の中で「ストレス」等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことのできるスポーツを通じてもたらされる楽しみや充足感を得ることで「ストレス」等の軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。それに加え、スポーツに必然的に生じるチームワークを通して、コミュニケーションの大切さを再確認し、健康への関心も高めていく。			
授業方針	チームスポーツとしてのバスケットボール・サッカー・ソフトボール・ソフトバレーボール等、および個人種目としてのテニス・バドミントン・卓球等を軸として種目の経験・未経験を問わず「楽しく汗をかく」を大前提として授業を構成する。 未経験の種目にも積極的にチャレンジしてみる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束事等の確認) 第 2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第 3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第 6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第 7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくこと。			
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康にたいする意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(授業への意欲・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性の妨害等を考慮)100%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	体育実技II			
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分 _(選択)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	近年、人を取り巻く環境を考えると「ストレス」等が人々に大きな影響をあたえている。こういった生活環境の中で「ストレス」等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことができるスポーツを通じてもたらされる楽しみや充足感を得ることで「ストレス」等の軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。それに加え、スポーツに必然的に生じるチームワークを通して、コミュニケーションの大切さを再確認し、健康への関心も高めていく。			
授業方針	チームスポーツとしてのバスケットボール・サッカー・ソフトボール・ソフトバレーボール等、および個人種目としてのテニス・バドミントン・卓球等を軸として種目の経験・未経験を問わず「楽しく汗をかく」を大前提として授業を構成する。 未経験の種目にも積極的にチャレンジしてみる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束ごと等の確認) 第 2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第 3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第 6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第 7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくこと。			
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康に対する意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(授業への意欲・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性の妨害等を考慮)100%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	地域学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	高橋 優			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講座は、歴史、伝統、産業、行政、教育等の視点から地元地域について講義する。これらの様々な知識から地域の課題・ニーズ、コミュニティ形成、まちづくりなどに複合的にアプローチし、地元市民とかかわりながら郷土愛を醸成し、自らの新たな発見と創造的な思考力を高める。本講座による未来社会への意欲的な取組は、本学建学の精神である使命感、人生観、連帯感と相まって、グローバル社会に対応した国際的な社会人の育成を目指すものである。				
授業方針	大学内外の7名の講師を招聘しオムニバス形式の授業を行う。また、フィールドワークとして、地域の施設の見学・体験を実施する。講座及びフィールドワークをとおして、深谷市及びその近隣地域の歴史、伝統、産業、行政、教育などにおける地元地域について学ぶ。毎回コーディネータ(高橋)が同席し、講師の紹介や質疑を担当する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 深谷における地域政策(1) 2 深谷における地域政策(2) 3 渋沢栄一の生き方に学ぶ ～渋沢栄一が現代に残した ひともの ころ～ 4 コミュニティ論(1) 5 富岡製糸場と深谷の偉人たち 6 災害時のソーシャルメディアと情報発信 7 埼玉工業大学の歴史 8 コミュニティ論(2) 9 フィールドワーク(1): 渋沢栄一記念館等 10 フィールドワーク(2): 渋沢栄一記念館等 11 フィールドワーク(3): 深谷市関連施設等 12 フィールドワーク(4): 深谷市関連施設等 13 フィールドワーク(5): 富岡製糸場等 14 フィールドワーク(6): 富岡製糸場等 15 まとめ				
準備学習	①指定した書物や参考文献を事前に読み、専門用語の意味などを理解しておくこと。 ②授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 ③前回の授業内容に係る小テスト等を実施するので、復習しておくこと。 予習・復習に必要な学習時間は毎回おおよそ4時間である。				
学習到達目標	①地域(深谷)における基礎知識について説明することができるようになる。 ②地域の課題・ニーズ等からまちづくりについて考察し、説明することができるようになる。 ③本講座から、自らの新たな発見と創造的な思考力を高めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①地域(深谷)における基礎知識について説明することができるか。 ②地域の課題・ニーズ等からまちづくりについて考察し、説明することができるか。 ③本講座から、自らの新たな発見と創造的な思考力を高めることができるか。			
	成績評価 方法	各講座の小レポート40%、フィールドワークのための事前レポート60%とする。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	各講座で連絡する。				
備考	毎週の講義に遅刻しないこと。				

科目名	中国の言語と文化				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金5
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業では中国語の基本発音とすぐに使える実用性の高い中国語会話を学びながら、中国の文化、習慣と最新事情を紹介していこうと思います。				
授業方針	教科書をもとに会話を練習しながら文法を説明していきます				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 あいさつ 第2回 発音(母音・子音・声調) 第3回 あなたは中国人ですか？ 第4回 これは何ですか？ 第5回 どこへ行くんですか？ 第6回 このかばんはいくらですか？ 第7回 時間がありますか？ 第8回 食事しましたか？ 第9回 何人家族ですか？ 第10回 アルバイトは何時からですか？ 第11回 アメリカに行ったことがありますか？ 第12回 歌を歌えますか？ 第13回 何をしていますか？ 第14回 良い旅を！ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。(30時間) ② 毎回授業前に予習しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	中国語のしくみ(文法、発音)を理解でき、簡単な会話ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 中国語の発音ができたか？ ② 中国語で自己紹介できるか？ ③ 場面に応じて、習った中国語を話せるか？			
	成績評価 方法	小テスト30% 課題30% 定期試験40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書【中国語 はじめの一步】 (2)参考書 なし				
備考					

科目名	哲学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	真田 乃輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「哲学的に思考する」とはどのようなことか、が本講義の主題となる。われわれはこの問いに、歴史的な手法をつうじて接近することになる。つまり、本講義では、主として西欧の、過去の古典的な、また重要な哲学上の学説がいくつか取り上げられ、その各々について概要が説明されることとなる。過去のすぐれた学説を知ることをつうじて哲学的思考そのものについての反省と主体的なその実践とをともに深化させること、これが本講義の目標である。				
授業方針	(1) そのつど配布される関連する資料にもとづき講義形式で授業はおこなわれる。(2) 資料の内容の大半は、関連する著述家からの引用により占められる。文章を精確に読解する能力を身につけること、これもまた本講義の目的の一つである。そもそも、哲学することと文章を読むことは切り離されえない。(3) 授業終了前に、毎度、小テストを課す。そこでは、授業内容についての正確な理解にもとづいて、その内容についてみずから疑問や意見を提起することが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第一回 インTRODクシヨソ——哲学とはどのような学か、あるいは、哲学することと古典を読むこと 第二回 アウグスティヌス 第三回 トマス・アキナス 第四回 ドゥンス・スコトゥス 第五回 デカルト 第六回 スピノザ 第七回 ライプニツツ 第八回 ルソー 第九回 カント 第十回 ヘーゲル 第十一回 実証主義・プラグマティズム・科学的世界観について 第十二回 新カント派とカッシーラー 第十三回 ハイデガー 第十四回 ウィトゲンシュタイン 第十五回 まとめと試験				
準備学習	① 講義内容の整理(20時間) ② 講義内容の補完:各回で紹介される古典や関連する参考文献にみずから目を通す(40時間)				
学習到達目標	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できるようになる。② 哲学的古典に属する文章を精読することにある程度慣れる。③ 豊富な内容を含み、広い射程を有した古典を読む意義を理解する。④ 紹介される(一つないし複数の)学説について、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できたか。② 自分なりの問題関心をもって、一つないし複数の哲学的古典を選ぶことができたか。③ ②と関連して、当該古典について、その内容の正確な理解にもとづいて、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができたか。			
	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 特定の著作を教科書として指定し、使用することはしない。そのつど資料を配布する。 (2) 参考図書については、必要に応じてそのつど明示・指示する。				
備考	上記「学習内容(授業スケジュール)」は、状況によっては変更されうる。				

科目名	東洋史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	岡本 光生			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	中国の歴史におけるいくつかの問題を授業スケジュールにしたがって論じてゆきます。				
授業方針	講義が中心になりますが、テーマにかかわる資料を配布します。資料にもとづいて考えを深めていくことを目標にします。				
学習内容 (授業 スケジュール)	中国の風土をふまえ、そして比較史的観点をもふくみながら、以下に示すテーマについて15回にわけて論じます。 1 アジアの風土、中国の風土 2 中国史のラフスケッチ——中心の移動 3 「中国」の成立 4 秦・漢帝国 5 中国の分裂——北と南 6 唐帝国の繁栄 7 中国と周辺諸国 8 近世中国の原型 9 近世中国の展開と停滞 10 西洋との出会い 11 「中国」存立の危機 12 人民共和国の60年 13 中国と日本—20世紀前半 14 中国と日本—20世紀後半から現在 15 中国と日本—未来を展望して: まとめ及び試験				
準備学習	配布した地図、年表に目をとおしておくこと				
学習到達目標	現代の中国のさまざまなできごとを中国の歴史の流れとの関連でとらえられるようになったか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	中国の歴史の流れを把握できたか、を試験をとおして確認します。			
	成績評価 方法	定期試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	講義ノートを作成するにあたって講義者が参照した文献を以下に示します。 松田寿男「アジアの歴史」(岩波書店) 宮崎市定「中国史」(岩波書店) 梅棹忠夫「文明の生態史観」(中央公論社) G・クラーク「十万人の」世界経済史」(日経BP社) E・L・ジョーンズ「経済成長の世界史」(名大出版会)				
備考					



科目名	働くことの科学と実践I				
クラス		対象学年	2年,3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	小野 広明,秋田 祐介,井上 聡,高坂 祐顕,林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	働くための専門的かつ実践的な知識習得を目的に、機械工学、生命環境化学、情報技術、経営学、心理学の専門教員が、人々の生存・生活を根幹で支える営みである開発、生産、物流・販売の事業サイクルを教授するとともに、事業サイクルの現場の実務家の講話と座談会によって学生の就業力強化を図る。				
授業方針	講義形式のみならず、演習形式及び実務家の講話と座談会を取り入れ、働くことに関する実践的、現実的な感覚を磨く。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業全体の展望(小野・林) 第2回 開発① 発電、機械製作技術開発、機械に関する安全(高坂) 第3回 開発② 見学:工学部機械製作工場(高坂) 第4回 開発③ 植物品種改良技術開発(秋田) 第5回 開発④ 見学:工学部植物温室、実験室(秋田) 第6回 開発⑤ 経済活動におけるAI技術の活用(井上) 第7回 開発⑥ 実務家の講話と座談会(1)—技術開発のプロ 第8回 生産① 生産プロセスと人的資源管理・安全衛生管理(林) 第9回 生産② 実務家の講話と座談会(2)—農業生産のプロ 第10回 物流① 物流の役割と業務(林) 第11回 物流② 実務家の講話と座談会(3)—物流のプロ 第12回 販売① 商品開発と経営戦略(林) 第13回 販売② 実務家の講話と座談会(4)—販売のプロ 第14回 職業倫理を考える—働くことについてのQ&A—(小野) 第15回 まとめと試験				
準備学習	①授業中に課す小レポート・課題に取り組むこと(30時間) ②期末レポートを作成すること(30時間)				
学習到達目標	将来どのような職業を希望するにせよ、職業人として開発・生産・物流・販売の事業サイクルの仕組みを理解することがなぜ重要なのかを説明できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	期末試験(レポート)のほか、授業で取り組む小レポート・課題などから上記学習到達目標の達成度を評価する。			
	成績評価 方法	小テスト・レポート・課題50%、期末試験(レポート)50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	特に指定しない。適宜、資料を配布する。				
備考					

科目名	働くことの科学と実践II				
クラス		対象学年	2年,3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	小野 広明,林 信義,松浦 宏昭,河原 哲雄,西田 優,藤田 拓勸			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期開講の「働くことの科学と実践I」をインプットの授業とし、本授業をアウトプットの授業と位置づける。企業等の実務経験のある生命環境化学、経営学、心理学及びキャリア支援の本学専門教員が、特に物流と販売に関する専門的知識を付与する。また、企業の営業、販売担当の実務家を講師として招聘し、講話・座談会を実施する。さらに、学内想定企業を設立し、製品・産品等の販売計画の策定及び販売の実施を体験する。よって学生の就業力強化を図る。				
授業方針	演習方式及び体験学習を中心に授業を行い、物流・販売の現場で生きる実践的な知識の獲得を目指す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業全体の展望(小野、林) 第2回 社会に出るための心構え(西田) 第3回 企業の製品開発と販売戦略の実際(松浦) 第4回 物販とITサービス(林) 第5回 商品販売と消費者行動の心理(河原) 第6回 実務家の講話と座談会(1)—IT企業の実務から学んだこと(藤田) 第7回 実務家の講話と座談会(2)—企業マンとして働くための心得 第8回 実務家の講話と座談会(3)—イベント会社の営業戦略 第9回 就労支援に関するセミナー参画 第10回 学内想定企業の設立と販売実践①～販売計画(林、小野、藤田) 第11回 学内想定企業の設立と販売実践②～販売計画(林、小野、藤田) 第12回 学内想定企業の設立と販売実践③～販売計画(林、小野、藤田) 第13回 学内想定企業の設立と販売実践④～販売実践(林、小野、藤田) 第14回 学内想定企業の設立と販売実践⑤～販売実践の検証(林、小野、藤田) 第15回 まとめと試験(小野)				
準備学習	①授業中に課す小レポート・課題についての予習と復習を行うこと(30時間) ②期末レポートを作成すること(30時間)				
学習到達目標	販売の現場で働くための心構え及び現場で生きる実践的な知識への理解を深める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	期末試験(レポート)のほか授業で取り組む小レポート・課題などから上記学習到達目標の達成度を評価する。			
	成績評価 方法	小テスト・レポート・課題50%、期末試験(レポート)50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	特に指定しない。適宜、資料を配布する。				
備考					

科目名	日本国憲法				
クラス	[04クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	平田 陽一			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	憲法は、国民主権・基本的人権の尊重を基本理念とする。憲法の勉強の中心は、これらの基本的理念の理解に関するものである。そのためには、これを生み出した法思想を理解する必要があるが、わが国においては、この法思想がわが国ではなく西欧で生まれたものという障害が存在する。したがって、講義はこの間隙を埋めることを意図しつつ憲法の基本的理念の理解に近づくものとする。				
授業方針	憲法は国家(政府)と国民の関係についての基本的な法規範であるが、個人の幸福や社会の一員としてのあり方と密接な関係にある。したがって、一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、より意欲的な、自己の人生(幸福の追求)や社会のあり方を考えるという心構えで勉強することが望まれる。この目的に沿った方針で授業を行いたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 憲法概説 第 2回 自然法思想と近代立憲主義 第 3回 近代国家と憲法 第 4回 憲法の基本原理(1)＝平和主義 第 5回 憲法の基本原理(2)＝国民主権主義 第 6回 憲法の基本原理(3)＝人権尊重主義 第 7回 憲法の基本原理(4)＝権力分立主義 第 8回 国民の権利(1)＝人権 第 9回 国民の権利(2)＝自由権 第10回 国民の権利(3)＝社会権 第11回 国民の権利(4)＝参政権等 第12回 統治機構(1)＝立法機関 第13回 統治機構(2)＝行政機関 第14回 統治機構(3)＝司法機関 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①前回の講義内容の要点を簡潔にまとめておくこと。(30時間) ②授業中に示した課題のレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	人権や近代国家の本質とこれらの概念を生み出した法思想を説明することができること。そして日本における現状を把握できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	憲法の理解にとって重要な法思想、それを実現するための立憲主義、そして制定された憲法という論理的関係をどの程度理解しているかということにより評価をする。			
	成績評価 方法	レポートにより基本的な評価をし(80%)、その他に出席状況や授業態度などを考慮して(20%)判断をする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	参考書として、「法とは何か」(長谷部恭男著)・河出ブックス、を挙げておく。その他、初回の授業のときに説明をする。				
備考					

科目名	日本史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	田中 信司			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>「日本のあゆみと東アジア」          当授業では、日本列島にどのような歴史が展開し、現在に至ったのかを概観します。          ただし、日本の歴史は、日本列島の内部だけで完結するものでなく、中国大陸・朝鮮半島との関連性を無視することは決してできません。そこで、通史的解説をおこなう以外にも、「東アジア世界の中の日本」を考えるためのいくつかのトピックを提示したいと思います。</p>				
授業方針	講義中心の授業になりますが、授業内容に沿ったノート作成はもちろん、コメントシートへの記入なども適宜実施します。出席を重視します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 日本史の歴史区分について 第2回 通史：原始・古代(縄文・弥生・古墳・飛鳥時代) 第3回 トピック①：ヤマト政権の東アジア外交 第4回 通史：古代・中世(奈良・平安時代) 第5回 トピック②：律令制に見る日本のオリジナリティ 第6回 通史：中世・近世(鎌倉・室町・安土桃山時代) 第7回 トピック③：足利義満と東アジア 第8回 トピック④：豊臣秀吉が遺したもの 第9回 通史：近世(江戸時代) 第10回 トピック⑤：江戸幕府版「華夷秩序」 第11回 通史：近代(明治時代) 第12回 トピック⑥：「日本の近代化」とは？ 第13回 通史：近代(大正・昭和の戦前) 第14回 トピック⑦：大日本帝国と国際社会、東アジアの中の日本 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	高校日本史の教科書・資料集等を復習しておくことと授業にスムーズに取り組めると思います。				
学習到達目標	日本史の大まかな流れを理解するとともに、それを東アジア世界の諸要素と関連付けて考察することで国際的視野・感覚・見識を得るための下地とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①日本史の大まかな流れを把握することができたか ②歴史的な事象を多面的に考察することができたか ③興味・関心をもって積極的に授業へ参加できたか			
	成績評価 方法	授業内容に基づいたレポートの作成 100% ※ただし、出席要件を満たさない者にはレポート提出資格を与えません。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書等は特に指定せず、必要に応じて資料プリント等を配布します。				
備考					

科目名	脳と行動				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人の行う様々な行動は脳の働きによって生み出されている。この講義では、記憶や睡眠、自己意識などの身近な問題を取り上げて、脳科学の最新の知見を紹介する。また、記憶や睡眠を改善し、自己意識を高める方策について、脳科学に基づいて具体的に考察する。さらに、ニューロマーケティングや人工知能における脳科学の応用分野についても解説する。				
授業方針	脳の構造や働きは非常に複雑であるので、視聴覚教材を使用して、興味をもって受講できるようにしたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 脳科学の基礎知識1:脳の構造 第 2回 脳科学の基礎知識2:ニューロンの働き 第 3回 記憶の脳科学1:記憶の脳内機構 第 4回 記憶の脳科学2:忘却の脳内機構 第 5回 記憶の脳科学3:記憶力を高める 第 6回 睡眠とサーカディアンリズムの脳科学1:サーカディアンリズム 第 7回 睡眠とサーカディアンリズムの脳科学2:睡眠の脳内機構 第 8回 自己意識の脳科学1:自己意識の脳内機構 第 9回 自己意識の脳科学2:フローとゾーンの脳科学 第10回 自己意識の脳科学3:瞑想の脳科学 第11回 精神疾患の脳科学1:統合失調症 第12回 精神疾患の脳科学2:PTSD 第13回 脳科学の応用1:ニューロマーケティング 第14回 脳科学の応用2:人工知能と脳				
準備学習	①初回の授業で参考書を紹介する。授業に臨む際には予めこれらの教材を読んで、基本的な用語の意味などについて理解しておくこと。 ②授業中に脳に関する多くの専門用語がでてくるので、授業終了後に必ず復習しておくこと。				
学習到達目標	①脳科学の基本的な用語について理解している。 ②記憶、睡眠の神経機構について理解している。 ③自己意識に関わる神経機構について理解している。 ④精神疾患の神経機構について理解している。 ⑤脳科学の応用分野について理解している。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①脳の構造・生理的機能に関する基礎知識を習得しているか。 ②脳が様々な行動を生み出すメカニズムを正しく理解しているか。 ③脳科学に基づいた記憶や睡眠の改善策を提案できるか。			
	成績評価 方法	授業参加度20%、期末試験の成績80%の割合で総合的に評価する。 別紙(成績評価と単位認定について)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	1. 教科書は特に指定しないが、講義中に参考書を紹介する。 2. その他、適宜視聴覚教材を用いる。				
備考					

科目名	福祉ビジネス論			
クラス		対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 水3
担当教員	小林 充明, 照木 篤子			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	<p>本授業は、第1部と第2部に分かれる。</p> <p>第1部では、さまざまな社会的福祉事業を、ビジネスの側面、そして法的かつ制度的な問題から検討する予定である。</p> <p>第2部では、外からは見えにくい聴覚障害者の実像にせまり「情報保障」の必要性について理解した上で、社会参加のための一手段であるノートテイク(要約筆記)の基礎技術習得を目指す。</p>			
授業方針	<p>第1部で、「福祉とビジネスは両立するのか」を常に問いかける姿勢を身につけるよう、経営理論と事例研究から多種の福祉ビジネスを検討する。</p> <p>第2部では「障害」について考え、特に聴覚器官と構造、聴覚障害者の心理や国内法、国際条約、差別事例など広く捉えた上で、「要約筆記」基礎技術の習得を目指す。</p> <p>授業前半はプレゼン形式の講義、後半は実習を行う。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 福祉とビジネス【keywords】各理論の定義とよりよいビジネス・モデルの構築に向けて</p> <p>第2回 顧客志向経営【keywords】CS、ニーズとウォンツ、シース</p> <p>第3回 福祉用具産業に関する経営学【keywords】製品開発のための経営戦略。法制度、並びにバリアフリーとUD</p> <p>第4回 施設経営に関する経営学【keywords】複合体としての福祉ビジネス、企業の社会的責任論</p> <p>第5回 さまざまな福祉サービス【keywords】介護事業の形態(特養・老健・サ高住・訪問介護・短期入所・通所介護)、障害者福祉、保育サービス</p> <p>第6回 介護の世界—介護業務とは何か—【keywords】職務内容、福祉に関する様々な法的問題や資格制度等</p> <p>第7回 CSRとIT技術に基づく福祉ビジネス【keywords】BOPビジネス、ソーシャル・ビジネス、エコシステム、IoT・AI</p> <p>第8回(前半) 福祉ビジネス再考とまとめ【keywords】福祉とビジネスは、共存できますか？ (中間試験)</p> <p>第8回(後半) 聴覚障害の基礎知識(医学、心理、法)、コミュニケーションの多様性、情報保障と必要な配慮</p> <p>第9回 日本語の特徴と構造、効率的なノートテイクの基礎、実習1</p> <p>第10回 要約テクニックⅠ—短縮表現、漢語表現、縮約化、再構築、削除技術、実習2</p> <p>第11回 通訳としてのノートテイク、要約筆記の三原則、実習3</p> <p>第12回 要約のテクニックⅡ—視覚情報・共有情報の活用、障害当事者の講演、実習4</p> <p>第13回 通訳倫理とマナー、障害関係法・社会的施策(障害者雇用率等)、実習5</p> <p>第14回 期末試験Ⅰ 総合演習 情報保障のノートテイク(授業内課題提出)</p> <p>第15回 期末試験Ⅱ 総合演習 情報保障のノートテイク(授業内課題提出)</p>			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布プリントとパワーポイントによる授業なので、聞き流すだけでなく、きちんと自分の言葉でまとめられるようになってもらいたい。</li> <li>特に前半は、各授業ごとのまとめを翌週にチェックするので復習は欠かせない。</li> <li>参考文献などに目を通すこと。</li> <li>新聞・経済誌・テレビ番組等に常に目を通し、時事や一般常識への知識レベルを上げていくこと。</li> </ul>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの手法によっていかにヒューマニティを実現することができるかについての戦略的な思考ができるようになる。</li> <li>要約筆記の初歩的な技術を習得し、学内ノートテイク(支援)ができるようになることを目指す。</li> <li>聴覚障害(impairment)により生じる社会的不利(handicap)を理解し、社会福祉の発展に寄与する。</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉ビジネスにおける問題点とその改善のために必要な知識と経営手法の基本的な理解ができているか。</li> <li>聴覚障害の基礎知識と情報保障手段について理解し、説明できるか。</li> <li>技術のみならず、支援者の役割や責任範囲について、説明できるか。</li> <li>学習した技術を駆使した、ノートテイクができるか。</li> </ul>		
	成績評価 方法	<p>第1部と第2部の合計点(100点満点)で評価します。</p> <p>第1部では、毎回のコメントシート20%と中間試験80%(50点)。</p> <p>第2部では、毎回のリアクション・ペーパー30%と期末試験(授業内課題提出)70%(50点)。</p>		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	<p>(1)教科書 特に指定しない</p> <p>(2)参考書 適宜紹介する</p> <p>(3)その他 必要に応じてプリントを配付する</p> <p>(4)第2部で福祉ビジネス論所定の専用ペン(200円程度の自己負担)購買部で購入、後半の初回授業に持参。</p>			
備考	当授業を通じて、本学の理念である「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」の一端を感じてもらいたい。			

科目名	仏教の歴史と思想				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インドにおいてどのように仏教が生まれ、発展したのか。そして西域や中国などを経て日本に伝来し受容される中でどのように変化したのか。本講義では、「[本当の]私は存在するか？」という問い(テーマ)に焦点を当てて、インドから日本の仏教思想史を概観する。				
授業方針	仏教の思想がインドから日本へとどのように変化・発展したかを論じることによって、思想史的なものの視方を伝えたい。講義形式が中心となるが、随時間問いを発して、各々が考える機会となるよう願う。 小レポート(3回程度予定)およびほぼ毎回のコメント・シートの提出を求める。共有すべき質問事項には、次の回の冒頭に回答する。出席回数ではなく、提出物の内容を重視して評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 仏教史概観 第 2回 ヴェーダ文化 第 3回 ウパニシャドの「梵我一如」論 第 4回 原始仏教の「縁起」 第 5回 原始仏教の「無我」論 第 6回 部派仏教(1)——存在論 第 7回 部派仏教(2)——『ミリンダ王の問い』 第 8回 大乘仏教の「空」論 第 9回 大乘仏教の「如来蔵」論 第 10回 大乘仏教の「唯識」論 第 11回 中国仏教の「三世因果報応」論 第 12回 中国仏教の「仏性」論 第 13回 日本仏教の「仏性」論—本覚思想 第 14回 日本の仏教の特徴 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	①講義の前に、指定の参考書の該当箇所を読んでおくこと。 ②講義の後に、指定の参考書の該当箇所を読み、わからないことを質問できるよう準備すること。 ③不明な点や関心のある事項などについて、紹介する参考文献を読んで発展的な学習をすること。				
学習到達目標	①ヴェーダ・ウパニシャド、②原始仏教、③部派仏教、④大乘仏教、⑤中国仏教、⑥日本仏教 それぞれの特徴を理解すること。⑦仏教思想史の流れを理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①ヴェーダ・ウパニシャド、②原始仏教、③部派仏教、④大乘仏教、⑤中国仏教、⑥日本仏教 それぞれの特徴を理解できたか。⑦仏教思想史の流れを理解できたか。			
	成績評価 方法	コメント・シート20% 小レポート20% 期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 プリント(レジュメ)を配布する。 (2)参考書 立川武蔵『はじめてのインド哲学』『日本仏教の思想』(ともに講談社現代新書)。 (3)参考文献 授業中に随時紹介する。				
備考					

科目名	<b>仏教精神I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	松川 聖業			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>★目的 本学の建学の精神を学ぶことにより、学生生活をどのように送るべきか、そして、卒業後の人生をいかに歩むべきかを、自ら深く考え、決断し、実行できるようにする。</p> <p>★内容 仏陀および法然上人の教えをはじめとした、古今東西の偉人の言行を学び、共感や疑問を通して、物事を深く考えるトレーニングを行う。また、考えたことを外に向かって発信し、かつ行動できるようになるところまでつなげたい。</p>				
授業方針	講義、演習、レポート、発表等を交え、受講者自身が成長・変化を実感できるように展開する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>《導入》</p> <p>第1回 本講義の目的について 《人生の目的を見つける》深く考える</p> <p>第2回 建学の精神(1)使命感について</p> <p>第3回 建学の精神(2)正しい人生観について</p> <p>第4回 建学の精神(3)連帯感について</p> <p>第5回 目的を持つことに重要さを知る</p> <p>《仏教の智慧を学ぶ》決断を促す</p> <p>第6回 縁起の理法について</p> <p>第7回 凡夫の自覚について</p> <p>第8回 身口意(行動・発言・心)を一致させる</p> <p>《自分を磨く》行動する</p> <p>第9回 チャンスの捉え方</p> <p>第10回 時間の重要さを知る</p> <p>第11回 思い続けることの意義</p> <p>第12回 成功と失敗の関係を知</p> <p>第13回 働くことの意義</p> <p>《まとめ》</p> <p>第14回 本講義を通して身につけてもらいたかったもの</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①授業で学んだことを復習し、理解すること。(15時間)</p> <p>②授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(15時間)</p> <p>③新聞を毎日読み、気になったニュース1つについて調べること。(当該事象が発生した経緯、当事者、今後どうなるか、社会に与える影響などについて)(30時間)</p>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を理解する。</li> <li>・人生の目的を見つける。</li> <li>・卒業後の進路を考える。</li> <li>・物事を深く考える姿勢を身につける。</li> <li>・決断し、行動する力を身につける。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を理解したか。</li> <li>・自分の人生について深く考え、目的を見つけたか。</li> <li>・卒業後の進路について考えたか。</li> <li>・深く考える習慣が身についたか。</li> <li>・行動する力が身についたか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	出席時レポート100%、定期試験は課さない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「凡夫力」松川聖業著 MOKU出版				
備考					



科目名	仏教精神II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木1
担当教員	松川 聖業			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>★目的 「自分が変わる物語が始まる」平成26年、新たに掲げた本学のスローガンに基づき、受講者一人ひとりが、自分の人生に変化を与え、自分の物語を上げることができるようになる。</p> <p>★内容 仏陀や法然上人は、なぜ既存の宗教を捨て、新しい救いを求めたのか。先人の改革者の考え方・生き方を学び、新しい価値を生み出す源泉を探る。また、埼玉大宣言の5つの行動指針を身につけ、受講者自身が社会に貢献する人財になることを目指す。</p>				
授業方針	講義、演習、レポート、発表等を交え、受講者自身の対外的に発信する力を高める。社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招くことあり。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>《導入》</p> <p>第1回 本講義の目的について</p> <p>《自分を変える》</p> <p>第2回 現在の自分を知る</p> <p>第3回 考え方を変える</p> <p>第4回 行動を変える</p> <p>《新しい価値を見つける》</p> <p>第5回 仏陀の改革、法然の改革について</p> <p>第6回 渋沢栄一の生き方</p> <p>第7回 埼玉大宣言について</p> <p>第8回 誰もやらないことをやる</p> <p>第9回 ボランティアについて</p> <p>《自分の物語を作る》</p> <p>第10回 表現力を高める</p> <p>第11回 聞く力を高める</p> <p>第12回 行動力を高める</p> <p>第13回 伝える力を高める</p> <p>《まとめ》</p> <p>第14回 本講義を通して身につけてもらいたかったもの</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①授業で学んだことを復習し、理解すること。(15時間)</p> <p>②授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(15時間)</p> <p>③新聞を毎日読み、気になったニュース1つについて調べること。(当該事象が発生した経緯、当事者、今後どうなるか、社会に与える影響などについて)(30時間)</p>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の現状を知り、なりたい自分を思い描けるようになる。</li> <li>先人に考え方・生き方を理解する。</li> <li>考え方・行動を変え、自分の物語を語れるようになる。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の現状を知り、なりたい自分を思い描けたか。</li> <li>先人に考え方・生き方を理解したか。</li> <li>考え方・行動を変え、自分の物語を語れるようになったか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	出席時レポート100%、定期試験は課さない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	文化人類学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	田中 大介			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	我々は誰しも自分のことは自分が最もよく知っていると思いがちだが、自分という存在がどのような文化のなかで生きてきたかを省みる機会は少ない。だからこそ我々は「自己・自文化」と「他者・異文化」の間をつなぐ思考をどこかの時点で築き上げておく必要がある。そのために、この授業では文化をめぐる諸問題に関して蓄積を重ねてきた文化人類学の学術的知見を通じて、自分の想像できる世界の幅を広げることを目指す。				
授業方針	この授業の目標は、人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することにある。学説の歴史的展開なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を実際の生活に応用していくためのケーススタディも盛り込む予定であり、全15回を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 人間・社会・文化 第2回 文化人類学とは何か① 第3回 文化人類学とは何か② 第4回 フィールドワークの神様と呼ばれた男① 第5回 フィールドワークの神様と呼ばれた男② 第6回 機能主義の広がり① 第7回 機能主義の広がり② 第8回 文化人類学の黎明期① 第9回 文化人類学の黎明期② 第10回 新進化主義① 第11回 新進化主義② 第12回 構造主義① 第13回 構造主義② 第14回 自文化／異文化の理解に向けて 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。				
学習到達目標	文化人類学の全体像についての的確に把握すると同時に、自文化の尺度だけでモノゴトを判断しない国際的な視点を養うことが、この授業の到達目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の講義内容の理解度に加えて、各自の問題意識をどこまで深く探究しているかを重視する。			
	成績評価 方法	試験(50%)、課題(30%)、授業への参加態度(20%)に基づき総合的に評価する。尚、全授業回数の3分の2以上の出席を確認できない者は、定期試験の受験資格を認めないので注意すること。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	この授業では特定のテキストを用いないが、必要な教材や資料がある場合には授業中に配布する。また、参考文献がある場合は別途指示する。				
備考	講義の進捗度に応じて各回の内容や順番を変更する場合がある。				

科目名	簿記演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	簿記とは、商品・サービスの販売や購買などの経営活動を金額で計算、集計、記録する手段である。そしてこの記録によって「いくらもうかったのか」、「いくらお金が残っているのか」について把握することができる。 経営コンサルタントとして様々なビジネスに携わった実務経験に基づき、経営活動における取引やお金の流れを取り扱う実践的な講義を行う。 この講義を基礎として、日商簿記検定3級の合格を目指したい。【実務】				
授業方針	簿記はテキストを読んだだけでは身につかないので、内容理解とともに問題演習を通じて知識の定着を図る。「習うより慣れよ」を基本に進める。 日商簿記検定3級(2月実施)を受験することが本講義の受講要件である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 簿記の基礎 第2回 商品売買(1) 第3回 商品売買(2) 第4回 現金預金 第5回 債権債務(1) 第6回 債権債務(2) 第7回 貸倒れと貸倒引当金 第8回 固定資産と減価償却 第9回 費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳 第10回 帳簿への記入 第11回 試算表 第12回 伝票制度 第13回 精算表と財務諸表 第14回 帳簿の締め切り 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義内容の定着を図るため、必ず復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	経営活動におけるお金の流れが理解できるようになる。 社会人として必要な計数感覚が身につく。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経営活動を仕訳という形で記録できるか。 仕訳を整理し、最終的なもうけや財産を計算できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(問題演習)50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書『すっきりわかる日商簿記3級』滝沢ななみ TAC出版。このテキストに沿って学習するので各自必ず用意し、毎回持参すること。 (2)電卓を持参すること(携帯電話の電卓機能は不可)。 (3)適宜、講義に関する資料を紹介する。				
備考	簿記は積み重ねが大切である。前週の内容が次週以降の内容に直結するので全回出席すること。 皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	法学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的: 法学という学問世界の全体像に対して見通しを立て、出発点をなす基礎的な事項についてしっかりと学ぶことを目的とします。 内容: 社会規範としての様々な法制度の概要について学び、たくさんの事例の中で法規制の有り方をみなさんと一緒に考えて行きます。				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの判例・事例を取り上げて、みなさんによる積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 法学の基礎(1) 第3回 法学の基礎(2) 第4回 公法(1)公法の諸分野 第5回 公法(2)人権とは何か 第6回 公法(3)権利の実現とは何か 第7回 公法(4)その他 第8回 私法(1)私法の位置付け 第9回 私法(2)人と法人 第10回 私法(3)所有権 第11回 私法(4)契約 第12回 私法(5)商事法 第13回 その他の法分野 第14回 まとめ&試験				
準備学習	① 予告した授業内容について事前に関連する資料を調査し、自分なりに予習すること(20時間)。 ② 毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。 ③ 最終回の授業内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	法学分野における基礎知識を身につけることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法制度の概要について理解する上で、具体的な事例問題について法規制がいかに適用されるべきかについてどの程度理解し説明できるのかをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(40%)、期末試験(60%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど適宜配布				
備考	3年次に「法学応用演習」を受ける予定の方(公務員試験の準備など)は、本講義の履修を薦めます。				

科目名	情報学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報化社会における人と人のコミュニケーションでは、「情報」を受取り、理解し、更に加工・編集して発信することが要求される。前述した情報を活用する能力を「情報リテラシー」という。情報化社会で要求される情報活用能力を身につけるために、「情報」自体の特性について理解し、社会に氾濫している情報から自分に必要な情報を取捨選択できる能力の習得を目指す。				
授業方針	社会の様々な場面で発信されている「情報」の背景、状況、伝えたい主意について自ら検討し、意見を持つ力を養う				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会と情報(情報とは何か) 第 2回 社会と情報(情報の性質、情報とデータ) 第 3回 情報を測るⅠ(情報理論、情報の単位) 第 4回 情報を測るⅡ(情報の量) 第 5回 情報の力、情報の質、情報の価値と意味 第 6回 情報通信と情報処理Ⅰ 第 7回 情報通信と情報処理Ⅱ 第 8回 情報の表現方法(情報と情報表現者) 第 9回 情報コミュニケーション(報道における情報、情報の読み方) 第10回 情報操作(情報の扱い方) 第11回 情報システムと情報化社会(企業活動と情報システム) 第12回 組織における情報の種類と管理 第13回 主体的な情報消費者 第14回 情報産業、情報社会に向けて、情報と環境 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・指定された教科書を事前に読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(20時間) ・小レポートを通じ、自分なりの意見や疑問点を持つこと。(20時間) ・授業の内容について、復習すること。(20時間)				
学習到達目標	情報についての基本を理解し、情報の正しい活用ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	小レポート及び期末試験において、各自意見を明確化し、客観的な事案を用いて論証する点を重視する。尚、剽窃に関しては厳格に対応する。			
	成績評価 方法	小レポート(30%)、期末試験(70%)により総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 春木良且「情報って何だろう」(岩波ジュニア新書)				
備考					

科目名	<b>基礎演習I</b>			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 木2
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。			
授業方針	授業では、コンピュータを利用して情報リテラシーや学習方法について説明します。漢字テスト(読み100問、書き取り100問)を分割して行い、70%以上の得点を必須とする。また、テーマに沿って課題を設定し、チーム単位で問題解決やディベートを行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 大学とは何か 第 2回 ノートテイキング基礎 第 3回 情報リテラシー基礎 コミュニケーションマナー 第 4回 文章作成基礎(1) 論文作成、各種文章作成基礎 第 5回 文章作成基礎(2) 学術論文検索 第 6回 文章作成基礎(3) 資料検証 第 7回 図書館利用法、Webサイト活用術 第 8回 プレゼンテーション基礎(1) 各種ソフト基礎知識 第 9回 プレゼンテーション基礎(2) 資料作成 第10回 メディア活用法、情報発信とコミュニケーション力 第11回 ワークショップ(1) グループワーク 第12回 ワークショップ(2) テーマ別ディベート 第13回 最終プレゼンテーション(1) 第14回 最終プレゼンテーション(2) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	日常的に新聞などを読み社会的な事象に関心を持つ。授業で実施した課題や漢字テストの予習について1時間以上の学習準備をする。			
学習到達目標	大学における学習方法、情報機器の利用法、文章作成の基礎知識といった知の基本技法を身につける。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文章表現について理解をし、自分の考えや他者の意見を情報機器を利用してまとめ伝えることができる。 全10回の漢字テスト平均得点70%以上		
	成績評価 方法	最終発表課題40% 小レポート+ 漢字テスト30% 期末レポート30%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:開講時指定 指定したWebサイトを資料として利用する。 参考書:適宜指定する。			
備考	すべての授業でコンピュータを利用します。ノートパソコンを用意して授業に参加してください。			

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	この授業は、教員が学生に対して、何かしらの話題を一方向的に講義するという授業ではない。個々の学生が、自分の知的能力を高めるために、主体的に学習を進めることが求められる授業である。教員と学生、および、学生同士の間での活発なやり取りを行うことを重視して授業を進める。なお、漢字の読み・書き、各100問のテストを実施し、その正解率が70%以上となることが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学における学習 第2回 ノートの取り方 第3回 テキストの読み方(1)基礎 第4回 テキストの読み方(2)要約、感想、意見 第5回 図書館を使った情報収集(図書館実習、日程変更の可能性あり) 第6回 インターネットの利用 第7回 情報の整理 第8回 レポートの書き方(1)レポートとは 第9回 レポートの書き方(2)分かりやすい文と表現方法 第10回 レポートの書き方(3)引用と参考文献、実践練習 第11回 プレゼンテーション(1)プレゼンテーションとは 第12回 プレゼンテーション(2)ツールの活用 第13回 プレゼンテーション(3)実践練習 第14回 情報モラル 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)次回の課題と小テストの準備。(30時間) (2)ノートの整理と返却された授業課題や小テストに関する復習。(30時間)				
学習到達目標	(1)大学で必要となる知の基本技法を習得する。 (2)自発的に学習する習慣を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)大学で必要となる知の基本技法が習得できたか。 (2)自発的な学習ができたか。			
	成績評価 方法	平常点60%+期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する (3)その他 必要に応じて資料を配布する				
備考	ノートPCを使用する回がある。				

科目名	基礎演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>目的: 大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とします。</p> <p>内容: 基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行います。</p>				
授業方針	<p>(1) 大学での学習法を学ぶとともに、学習の基礎となる文章リテラシーの養成を目的とします。プリントによる課題を毎回進めることによって、徐々に論理的な文章が書けるように訓練を行います。</p> <p>(2) 受講生には、各回1度以上の発言、毎回の課題の提出(要約小レポート等を含む)、1度のプレゼンテーション、期末レポートの作成を課します。</p> <p>(3) 漢字テスト(読み100問、書き100問)を実施し、70%以上の得点を必須とします。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 オリエンテーション&amp;大学とは何か  第 2回 大学での勉強の仕方&amp;ノートの取り方  第 3回 アカデミック・ライティング(1)  第 4回 アカデミック・ライティング(2)  第 5回 アカデミック・ライティング(3)  第 6回 アカデミック・ライティング(4)  第 7回 図書館実習  第 8回 文章を読む(1)  第 9回 文章を読む(2)  第10回 プレゼンテーション(1)  第11回 プレゼンテーション(2)  第12回 プレゼンテーション(3)  第13回 プレゼンテーション(4)  第14回 最終発表&amp;レポート提出</p>				
準備学習	<p>①各回行う漢字テストは、範囲を予告するので、事前に覚えてくること。  ②各回の課題プリントをやってくること。</p>				
学習到達目標	<p>①課題文を正確に理解し、②内容を的確に口頭でまとめ、③課題文に対する自分の見解を加えて、④文章で書くことができることを目標とします。  なお、漢字読み・書きのテストを100問ずつを実施し、70%以上正解しなければなりません。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>①文章を正確に理解できたか  ②自分の考えを的確に発言できたか  ③自分の考えを文章化できたか  ④辞書や図書館の使い方などを習得できたか、をもって評価します。</p>			
	成績評価 方法	<p>授業への積極的な参加(出席率+態度)30%、漢字テストの結果・小レポート30%、期末レポート40%。</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。</p>			
教材	<p>(1)教科書: 指定なし  (2)参考資料: 毎回適宜に配布</p>				
備考					



科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	文献の探し方、文章の読み方と書き方、発表や意見交換の演習を多くおこない、大学での勉強の仕方を身につけられるようにサポートしていく。漢字の読み書きテストを10問ずつ(合計100問)実施し、70%の正解で合格とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学で何を学ぶか、どう学ぶか 第2回 正確に書く 漢字テストの準備 第3回 図書館の利用 文献の探し方 第4回 メモをとる ノートをとる 第5回 文章を読む① 新聞記事 第6回 文章を書く① 記事の要約・自分の考え 第7回 文章を読む② 論説文 第8回 文章を書く② 論説文の要約・批評 第9回 テーマをもとに話し合う① 第10回 テーマをもとに話し合う② 第11回 話す・聞く① 発表原稿の作成 話し方と聞き方 第12回 話す・聞く② 発表演習 第13回 話す・聞く③ 発表演習 第14回 レポートの作成方法、メールの作法 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①日常的に新聞などを読み、社会的な事象に関心を持っておくこと。(10時間) ②授業で取り上げた課題について必ず遣り遂げること。(30時間) ③漢字テストの勉強。(20時間)				
学習到達目標	知の技法の基礎(図書館の利用法、文章の読み方、書き方の基礎的な技法、話し方・聞き方の技法)を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①図書館の利用法(文献検索)を習得できたか ②文章の読み方、書き方の基礎的な技法を習得できたか ③話し方・聞き方の演習に真剣に取り組めたか			
	成績評価 方法	授業内の課題(授業態度など平常点を含む)50%、期末レポート 50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。 (2)参考書 授業のなかで随時紹介する。				
備考	演習なので毎回、必ず出席すること。				

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	宮崎 洋			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	1. 授業の活用法の習得 2. 主体的な学習能力の習得 3. 読解能力とレポート作成能力の習得 4. 問題発見能力の育成 5. 問題をとらえる視点の多様性と多様な価値観への理解 授業は輪読、講義、演習などの双方向的学習形態をとる。また、各回1年生前期必修の漢字テストを行い(読み100問、書き取り100問を分割して行う)、70%以上得点正解しなければならない。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学とは何か 第2回 大学生活におけるマナー 第3回 ノートの取り方、メモの取り方 第4回 テキストの読み方(1)基礎 第5回 テキストの読み方(2)要約、感想、意見 第6回 図書館の利用・図書館実習 第7回 インターネットの利用・メールの書き方 第8回 情報の整理・要約 第9回 レポートの書き方(1)基礎 第10回 レポートの書き方(2)ツールの利用 第11回 レポートの書き方(3)実践練習 第12回 プレゼンテーション(1)基礎 第13回 プレゼンテーション(2)ツールの利用 第14回 プレゼンテーション(3)実践練習 第15回 今後の大学生活について:まとめ及び試験				
準備学習	大学生活に必要な学習法を身につける姿勢をもつこと。				
学習到達目標	自発的な学習できる能力、大学生活に必要な学習基本技法が習得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自発的な学習できる能力、大学での学習に必要な基本技法が習得できたか。			
	成績評価 方法	課題・授業態度30%、漢字テスト 20%、レポート・発表50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)特定の教科書は使用しない。 (2)参考書は演習において随時指示する (3)必要資料については配付する。				
備考	他人の意見をよく聴き、理解しようとする姿勢、論理的に思考し、自らの意見を他者に伝える姿勢をもつこと				

科目名	基礎演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	田中 克明			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習 I の内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。			
授業方針	感想や意見などの自分を記録するための文章の書き方を発展させ、文章の内容を読み手に伝え、読み手を動かす文章を書くことを目的として、演習を行う。テーマに沿った文書の素材の整理や文書そのものの作成を各自のノートPCを用いて行う。必要に応じて、参加者相互で作成した文書の相互確認を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 基礎演習IIの進め方 第 2回 説明文書の作成(1) 第 3回 説明文書の作成(2) 第 4回 文書の書式 第 5回 文章の読解と要約レポート作成(1) 第 6回 文章の読解と要約レポート作成(2) 第 7回 講演の要約レポート作成(1) 第 8回 講演の要約レポート作成(2) 第 9回 文書の読解と要約レポートの作成(3) 第10回 課題解決提案文章の作成(1) 第11回 課題解決提案文章の作成(2) 第12回 課題解決提案プレゼンテーションの作成(1) 第13回 課題解決提案プレゼンテーションの作成(2) 第14回 課題解決提案プレゼンテーションの実施 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	文章を記すために必要な調査、文章の作成、作成した文章の提出を必要に応じて行うこと。			
学習到達目標	自発的な学習できる能力、大学生活に必要な学習基本技法が習得すること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自発的な学習できる能力、大学での学習に必要な基本技法が習得できたか。		
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	必要に応じて資料を配布する。			
備考	毎回各自のノートPCを用いる。			

科目名	基礎演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習Ⅰの内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。			
授業方針	大学における学習に不可欠な基礎的素養を実践的に体得させることが、この演習の基本方針である。そのため、大学での学習が実社会との関連でどのように位置づけられるのかについての解説に続き、大学における自発的な学習の前提となる社会事象に関する問題意識の形成の仕方について実習する。その問題意識のなかから適切な演習課題を見つけ出し、それに関する情報収集、収集した情報の分析、問題の構造化を行なった後、演習課題の分析結果についての発表資料を作成、発表することにより、大学での学習のための基礎的素養を体得させる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 グループ演習①／グループ分け・課題設定 第3回 グループ演習①／グループ発表 第4回 グループ演習①／グループ発表 第5回 個人演習①／課題の設定 第6回 個人演習①／個人発表・ディスカッション 第7回 個人演習①／個人発表・ディスカッション 第8回 個人演習②／課題の設定 第9回 個人演習②／個人発表・ディスカッション 第10回 個人演習②／個人発表・ディスカッション 第11回 グループ演習②／課題の設定 第12回 グループ演習②／グループ発表 第13回 グループ演習②／グループ発表 第14回 最終課題の設定 第15回 最終課題の発表:まとめ及び試験			
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)			
学習到達目標	①問題意識の形成方法について学び、問題意識を持てるようにすることを目的とする。 ②情報収集方法について学び、効果的な情報収集ができるようにすることを目的とする。 ③収集した情報の加工・分析方法について学び、加工・分析ができるようにすることを目的とする。 ④問題の把握・構造化の方法について学び、把握・構造化ができるようにすることを目的とする。 ⑤発表資料の作成方法について学び、作成できるようにすることを目的とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①問題意識の形成方法について理解し、問題意識をもてるか。 ②情報収集方法について理解し、効果的な情報収集ができるか。 ③収集した情報の加工・分析方法について理解し、加工・分析ができるか。 ④問題の把握・構造化の方法について理解し、把握・構造化ができるか。 ⑤発表資料の作成方法を理解し、作成できるか。		
	成績評価 方法	期末課題(60%)、個人課題(20%)、グループ課題(20%)。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1) 教科書 なし (2) 参考書 なし (3) その他 必要に応じて補助教材を配布			
備考				

科目名	基礎演習II			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習を通じ、文献の読み方、文章やレポートの書き方、他人とのディスカッションの仕方、プレゼンテーションの仕方に関する基礎的な能力を習得していく。			
授業方針	テキスト:「【決定版カーネギー】道は開ける」を輪読する。演習参加者はテキストの分担箇所の内容を要約し、プレゼンテーションする。その後、参加者の間で相互に議論していく。但し、発表担当者以外の者もテキストの該当箇所を事前に読んでくることを前提とする。また、随時指定の参考書を用いるので教科書と参考書は忘れずに持参すること。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、指定の教材を学ぶ目的・意義について説明 第2回 第1章-1「昨日のことは忘れよう。明日のことに思い悩むな」の輪読 第3回 第1章-2「最悪の状態を受け入れたとき奇跡が始まる」の輪読 第4回 第1章-3「健康でいることが本当の成功である」の輪読 第5回 第2章-4「事実を集めるだけで問題解決に近づく」の輪読 第6回 第2章-5「悩みは4つの質問で50%減る」の輪読 第7回 第3章-6「行動は不安を消去する」の輪読 第8回 第3章-7「小さなことにくよくよするな」の輪読 第9回 第3章-8「心配や不安は的中しないことのほうが多い」の輪読 第10回 第3章-9「あるなら探そう。ないならあきらめよう」の輪読 第11回 第3章-10「価値に見合った投資を行う」の輪読 第12回 第3章-11「愚かな人は過去を変える。賢い人は未来を変える」の輪読 第13回 第4章-12「思考が変われば行動が変わる。行動が変われば人生が変わる」の輪読 第14回 最終課題に関する説明 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	・予め指定された箇所を要約し、要約した文章をワード文書にまとめておくこと。(30時間) ・指定されたテキストや資料を事前に読み、疑問点及び質問項目を予め整理しておくこと。(30時間)			
学習到達目標	1) 演習を通じて自分の意見を持つこと 2) プレゼンテーションやレポート作成によって、自分の意見を人に解り易く伝える手法を身につけること			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プレゼンテーション内容およびテキスト内容への理解 (2)課題(宿題)の提出 (3)ディスカッションへの参加 (4)レポートの提出 を達成度評価の基準とする		
	成績評価 方法	レポート80%、授業参加度(課題作成、ディスカッションへの取り組み方)20%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書 「【決定版カーネギー】道は開ける」 D・カーネギー著、東条 健一訳 参考書 改訂版 知のツールボックス Tool Box 新入生 援助集			
備考	教科書及び参考書を常に持参すること(厳守)			

科目名	基礎演習II			
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習Ⅰの内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。			
授業方針	この授業では特に、読む・書く、聞く・話す力の養成をめざす。課題文献を読んで、理解したことをことばにまとめ(話す/書く)、考えたことを発表することを中心とする。 毎回要約文の作成などの課題とそれに対する添削・コメントを重ねて、単元毎に小レポートを作成する。 毎回、文章力を高めるための基本的な事項に関する小テストを実施し、4回毎にまとめ復習テストを実施する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学における勉学の意味 第2回 課題文献(1)－勉学の意味に関する文章 第3回 (1)読解の続き 第4回 レポートの書き方(1)－要約文 第5回 プレゼンテーション(1)に関連して 第6回 課題文献(2)－思想的な文章 第7回 (2)読解の続き 第8回 ディスカッション(2)について 第9回 レポートの書き方(2)－自らの考えの文章化 第10回 課題文献(3)－現代社会の分析に関する文章 第11回 (3)読解の続き 第12回 資料の探し方とまとめ方(図書館実習) 第13回 プレゼンテーション(3)に関連して 第14回 レポートの書き方(3)－事実と意見 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①課題文献をあらかじめ読んで、理解しておくこと。(10時間) ②毎回の課題(要約文などの作成)に取り組むこと。(20時間) ③添削・コメント付で返却された課題の訂正稿を作成すること。(20時間) ④毎回の小テストの復習をし、まとめ復習テストに備えること。(10時間)			
学習到達目標	①課題文献を正確に理解すること、②理解したこと、考えたことを適切に言語化すること、③コメントされたことに適切に対応することを目指す。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①課題文献を正確に理解できたか、②理解したこと、考えたことを適切に言語化できたか、③議論に積極的に参加できたか、④小レポートの訂正稿が書けたか。		
	成績評価 方法	毎回の課題30% 小レポート30% 期末レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文献のコピーを配布する。 (2)参考書 適宜紹介する。			
備考				

科目名	基礎演習II				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習Ⅰの内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。				
授業方針	前半は、働くことの意義に関する課題文を読解し、要旨及び自分の考えをまとめ、発表の上、ディスカッションを行う。 後半は、問題解決の流れを演習を通して理解し、自ら抱える問題の解決に取り組む。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 課題文の読解(1) 第 2回 課題文の読解(2) 第 3回 課題文の要旨まとめ 第 4回 レポート作成(1) 第 5回 レポート作成(2) 第 6回 発表・ディスカッション 第 7回 なぜ問題解決力が必要か 第 8回 問題解決の流れ 第 9回 問題を認識する 第10回 問題の本質を見極める 第11回 打ち手を考える 第12回 目標を設定し、達成する方法を決める 第13回 自分の問題を解決してみよう(1) 第14回 自分の問題を解決してみよう(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	課題文については事前に読んでおくこと。 講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	文章の内容を理解し、自分の考えを伝えられるようになる。 自らの問題に対して主体的に取り組めるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文章の要旨、自分の考えを伝えられるか。 問題解決のプロセスを理解し、活用できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、読んで、考えて、伝える)50%、発表・レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、参考資料を紹介する。				
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	プロジェクト演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	林 信義,小寺 昇二,田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自ら設定した課題、あるいは教員が提示する課題について、個人またはグループで、インターネット等を活用して情報を収集し、得た情報を元に課題の解決方法を組み立て、さらに調査や評価、発表などを繰り返すことにより、課題の解決方法を学ぶ。				
授業方針	本演習では、経営に関連する課題、情報に関連する課題の演習を、3名の担当教員が5回ずつ、計15回実施する。受講者を3つのグループに分け、各担当教員による演習をグループごとに順に実施する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 プロジェクト演習Iの進め方について 第2回 テーマ「ITを使った情報の整理」を理解する。ケース・スタディの課題選択 第3回 各人での調査・分析、グループ分け 第4回 グループ・ワーク 第5回 グループ・ワークのまとめ、プレゼンテーション、講評 第6回 テーマ「問題解決」の流れを理解する 第7回 問題を抽出する 第8回 解決案を策定する 第9回 自分の問題を解決する 第10回 テーマ「ITを使った問題解決」を理解する／利用する技術の確認と解決する問題の検討 第11回 グループでの問題解決方法検討と実装 第12回 グループでの問題解決方法テストとプレゼンテーション準備 第13回 グループ・ワークのまとめとプレゼンテーション 第14回 全体プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に扱った課題について、調査・検討を加え、必要に応じてグループでの議論も深めること。				
学習到達目標	課題の設定あるいは詳細化を自ら行うことができる。 課題解決手順を自ら組み立て、実行し、評価が行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	必要な情報についての収集・調査を自ら行える。			
	成績評価 方法	授業中の議論への参加34%、各担当教員ごとのレポート66%(22%×3)の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じて資料を配布する。				
備考					



科目名	プロジェクト演習I			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 木1
担当教員	森沢 幸博,宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習は,学生自身が主体的に創造力を発揮して取り組むアクティブラーニング型の授業です。グループワークを中心とした情報集約,デジタル・コンテンツの企画,ディスカッション,制作実習を行い,次年度以降のプロジェクト活動に求められる情報活用法や異文化理解,課題解決力,コミュニケーション能力の修得を目指します。			
授業方針	授業では,グループにわかれて情報技術を活用したコンテンツの企画書や広報戦略,イメージを制作するための練習を行います。2人の教員が交代で授業を担当し,それぞれの課題に取り組み,最終回にグループごとにプレゼンテーションを行います。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 "映画の宣伝文(キャッチコピー)をつくる"ワークショップ 概要説明、聖書世界と「モーゼ五書」について(A:宮井)</p> <p>第2回 原典(「出エジプト記」)を読む(A:宮井)</p> <p>第3回 原典(「出エジプト記」)をよむ(続)、映画鑑賞(第1回)[あらすじ、長所・短所等を各人でまとめる](A:宮井)</p> <p>第4回 前回のふりかえり、映画鑑賞(第2回)[あらすじ、長所・短所等を各人でまとめる・グループで話し合う](A:宮井)</p> <p>第5回 前回のふりかえり、映画鑑賞(第3回)[あらすじ、長所・短所等をグループで話し合う](A:宮井)</p> <p>第6回 宣伝文/キャッチコピー作成(グループワーク)(A:宮井)</p> <p>第7回 宣伝文/キャッチコピー発表(グループ)と講評(A:宮井)</p> <p>第8回 "伝わる情報とデザイン"ワークショップ 概要説明 (B:森沢)</p> <p>第9回 デジタルデザイン応用1(ストーリーボード制作)(B:森沢)</p> <p>第10回 デジタルデザイン応用2(ポスター制作)(B:森沢)</p> <p>第11回 グループワーク(1)ユーザースタディ グループで話し合う(B:森沢)</p> <p>第12回 グループワーク(2)コンテンツ企画書制作(B:森沢)</p> <p>第13回 グループワーク(3)デザインシナリオ作成(B:森沢)</p> <p>第14回 コンテンツ企画案報告会(B:森沢)</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p> <p>※(1)クラスはA→B、(2)クラスはB→Aの順で履修</p>			
準備学習	授業時に指示するコンテンツ制作に必要な物語や世界観について理解をする(20時間) 授業で検討するコンテンツ企画に必要な図書の通読,各種イメージ制作の準備をする(20時間) 最終企画案の制作,プレゼン資料,レポート作成(20時間)			
学習到達目標	情報技術を活用したコンテンツ企画力,情報集約力について学び,わかりやすく説明できるようになる。 グループワークに必要なコミュニケーション力について学び,自分の意見やアイデアをもとに資料を作成できるようになる。 世界の文化や物語について学び,作品の発想に取り入れることができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	最新の情報技術について理解を深め,自分の考えや他者の意見をまとめて伝えることができる。 デジタル技術を用いた新しいサービスやコンテンツについて学び,理解した内容をもとに説明することができる。		
	成績評価 方法	授業参加度30% 中間課題30% 発表課題40% 担当者別の評価をもとに総合的に判断する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:なし。 参考書:適宜指定する。指定した参考書を資料として積極的に利用する。			
備考	コンピュータの基本的な操作を身につけておくこと。			

科目名	プロジェクト演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木1
担当教員	宮崎 洋,高橋 広治,李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本授業は、与えられた課題に対する解決策の検討、資料やコンテンツ作成、プレゼンテーション等を学生主体で取り組むことを行うアクティブラーニング型授業である。学生自ら社会に存在する様々な課題に主体的に取り組み、提言、制作、発信等を行う。				
授業方針	学生を3班に分けて実施する。班分けは履修ガイダンスまたは第1回目の授業で発表する。プロジェクトは全部で3つあり、プロジェクトごとに担当教員が異なる。学生はプロジェクト1～3を順に実施していくが、その順序は班により異なる。また、プロジェクトごとに教室が異なるので注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の概要(全員3033に集合) 第2回 プロジェクト1(1)情報社会の捉え方 第3回 プロジェクト1(2)成功要因の分析 第4回 プロジェクト1(3)意思決定問題 第5回 プロジェクト1(4)プレゼンテーション 第6回 プロジェクト2(1)グループ作業のためのICT環境の整備【プロジェクト2では毎回ノートPCを使用】 第7回 プロジェクト2(2)課題の設定と分析 第8回 プロジェクト2(3)解決策の立案 第9回 プロジェクト2(4)情報発信 第10回 プロジェクト3(1)社会にある法的な問題を見つける 第11回 プロジェクト3(2)グループで一つの問題に絞り込む 第12回 プロジェクト3(3)グループで問題解決方法を検討a 第13回 プロジェクト3(4)グループで問題解決方法を検討b (プロジェクト1～3の実施順は班により異なる) 第14回 成果発表 第15回 レポート作成				
準備学習	課題に対する準備をする(60時間)				
学習到達目標	課題に対する所定の成果を上げられるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	所定の到達目標が達成できたか			
	成績評価 方法	平常点(授業、プロジェクトへの取り組み)50%、レポート・課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜指定する				
備考					

科目名	プロジェクト演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 木1
担当教員	檀上 誠, 中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習は、学生自身が主体的に創造力を発揮して取り組むアクティブラーニング型の授業です。デジタル・コンテンツ(音楽、映像)の実制作を通じて、前期で身につけた情報活用能力・課題解決力・コミュニケーション能力を向上させつつ、創造力を高めることを目的としています。			
授業方針	専門的なソフトウェアや機材を活用して、デジタルコンテンツ(音楽、映像)の制作を行います。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 授業概要の説明、質疑・応答、グループ分けの確認  第2回 【全体1】グループ毎に企画案(草案)の作成  第3回 【全体2】グループ毎に企画案(草案)の修正、調整  第4回 【全体3】グループ毎に企画案の最終決定  第5回 【全体4】中間発表:班内で音楽制作担当者または映像制作担当者を決定する</p> <p>(以下、音楽担当=音、担当:中川、映像担当=映、担当:檀上)  第6回 【音1】音響作品の制作手法の違いについて【映1】映像制作のワークフロー、編集手法の違いについて、  第7回 【音2】オーディオ編集Ⅰ (アプリケーションの操作方法を学ぶ)【映2】映像編集Ⅰ (アプリケーションの操作方法を学ぶ)  第8回 【音3】オーディオ編集Ⅱ (音響素材の取り込み、編集・加工、データ出力の方法を学ぶ)  【映3】映像編集Ⅱ (映像素材の取り込み、編集・加工、データ出力の方法を学ぶ)  第9回 【音4】ワークショップⅠ (企画案を基にした音楽素材の制作)  【映4】ワークショップⅠ (企画案を基にした映像素材の制作)  第10回 【音5】ワークショップⅡ (音響素材の編集・加工)【映5】ワークショップⅡ (映像素材の編集)  第11回 【音6】ワークショップⅢ (音響作品の空間表現)【映6】ワークショップⅢ (映像素材の加工)  第12回 【全体5】音楽と映像のデータを合わせて編集・加工する、素材の確認・修正作業  第13回 【全体6】音楽と映像のデータを合わせて編集・加工する、最終調整  第14回 最終発表、講評  第15回 まとめ及び試験  ※第6回から第11回まで  音楽担当者は3043室で制作する 映像担当者は3038室で制作する</p>			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>音響・映像機器の取り扱い方に関する知識、関連事項は予め学習しておくこと(30時間)</li> <li>興味の対象を増やし、アイデアの創出につながるよう意識づけしておくこと(30時間)</li> </ul>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術を活用したコンテンツ企画力、情報集約力について学び、わかりやすく説明できるようになる</li> <li>グループワークに必要なコミュニケーション力について学び、自分の意見やアイデアを反映させたデジタルコンテンツを制作できるようになる</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の情報技術について理解を深め、他者の意見を理解し、自分の意見を伝えることができる</li> <li>デジタルコンテンツに関する知識・技能の習得に努め、コンテンツを制作できる</li> </ul>		
	成績評価 方法	授業参加度30%、レポート30%、最終発表課題40% 担当者別の評価をもとに総合的に判断する		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書 なし 参考書は適宜指定する。指定した参考書を資料として積極的に利用する。			
備考	コンピュータの基本的な操作を身につけておくこと			

科目名	情報社会一般演習I			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 水2
担当教員	宮崎 洋			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	2年次の情報社会基礎演習で学んだ幅広いトピックの中から、各学生が興味を感じるテーマを絞り込み、グループおよび個人のレポートと発表を行う。これに対する質疑応答を行うことにより、発表者本人の問題意識を深めるとともに、他人の発表に耳を傾けることにより、授業参加者全員が自らの関心の領域を広げていくことを目指す。			
授業方針	ゼミ参加者は数名のグループに分かれ、各グループで取り組むべき課題を設定する。課題と研究計画の説明、中間報告、研究成果発表をグループ単位で順次行う。また、グループ内及びゼミ参加者全員とのディスカッションのすすめかたを、事例を通して修得する。一連の作業で得られた結果を各自レポートにまとめて提出する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究の進め方について 第2回 課題設定状況の報告とディスカッションI(テーマの洗い出し) 第3回 課題設定状況の報告とディスカッションII(テーマの決定) 第4回 課題設定状況の報告とディスカッションIII(役割分担) 第5回 研究計画の発表及びディスカッションI(テーマ1について) 第6回 研究計画の発表及びディスカッションII(テーマ2について) 第7回 研究計画の発表及びディスカッションIII(テーマ3について) 第8回 問題意識と問題設定 第9回 中間報告とディスカッションI(テーマ1について) 第10回 中間報告とディスカッションII(テーマ2について) 第11回 中間報告とディスカッションIII(テーマ3について) 第12回 研究成果報告とディスカッションI(テーマ1について) 第13回 研究成果報告とディスカッションII(テーマ2について) 第14回 研究成果報告とディスカッションIII(テーマ3について) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各自の興味あるテーマについて、その学問的背景の概要を理解していること			
学習到達目標	各自の興味あるテーマの学問的背景の概要を知り、説明できるようになる事を目的とする			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適宜、演習課題の提出などを通して、結果を達成度評価に加味する		
	成績評価 方法	課題・授業参加30%、自主的学習30%、レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。		
教材	(1)教科書 特に、指定しない (2)参考書 適宜、紹介する			
備考				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いてさまざまなサービスを連携させることにより、人間が1つずつ行うよりも効率の良い処理や、1件ずつ目で確認したのでは、処理しきれない量の情報を扱うことができる。この演習では、デジタルアシスタントとWebサービスとの連携や、情報を収集・分類する仕組みの構築を各自で行うこと通して、コンピュータを用いたシステムの可能性を学ぶことを目的とする。				
授業方針	各自がPCを用いてプログラムを作成し実行することにより、デジタルアシスタントとWebサービスを連携させた仕組みの構築や、情報を自動的に収集・分類・提示する仕組みの構築を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 デジタルアシスタントとWebサービスの簡易な連携 第3回 デジタルアシスタントとWebサービスの複雑な連携(1) 第4回 デジタルアシスタントとWebサービスの複雑な連携(2) 第5回 デジタルアシスタントを用いたサービスの作成 第6回 サービス作成成果の発表 第7回 マイクロブログからのデータの収集 第8回 データの収集システムの設定 第9回 収集したデータの分析 第10回 データの自動的な分類 第11回 分類結果の可視化 第12回 データクレンジング 第13回 データ収集と分類・可視化の実行 第14回 情報収集成果の発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回、PC上での必要なプログラムの記述と、実行結果の取得を終えること。次の回の授業で得られた実行結果を用いる。				
学習到達目標	コンピュータを用いた情報処理の可能性を理解すること。また、データの収集、分類、可視化を各自で実施すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コンピュータを用いた情報処理の可能性を理解できたか。また、データの収集、分類、可視化を各自で実施することができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題90%、期末課題10%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	演習では各自のPCおよびスマートフォンを用いる。				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的: 卒業研究論文のテーマ・素材の選び方、資料収集の方法などについて指導していきます。 内容: 指定の教材を輪読しながら、教材の中で各自関心のあるテーマを選び、レポートの作成と発表を行います。				
授業方針	学生たちによる発表やディスカッションが中心となります。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&卒業研究とは何か 第2回 輪読(1)&テーマ・素材選定の発表 第3回 輪読(2)&テーマ・素材選定の発表 第4回 輪読(3)&テーマ・素材選定の発表 第5回 輪読(4)&テーマ・素材選定の発表  第6回 卒業研究論文の基本 第7回 参考文献の探し方・引用のルール 第8回 論文の書き方指導(1)  第9回 輪読(5)&問題意識のディスカッション 第10回 輪読(6)&問題意識のディスカッション 第11回 輪読(7)&問題意識のディスカッション 第12回 輪読(8)&問題意識のディスカッション 第13回 輪読(9)&問題意識のディスカッション 第14回 論文の書き方指導(2)				
準備学習	①輪読のために、指定された資料の該当ページを毎回精読する(20時間)。 ②輪読の発表者に指名された回は、レジュメを作成し、発表をする(20時間)。 ③卒業研究論文のテーマについて資料を集め、発表する(20時間)。				
学習到達目標	研究論文の作成に向けてのテーマ設定、問題の抽出の仕方、そして参考文献収集の方法や引用のルールなどしっかり理解することを目標とします。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	卒業研究論文の作成に向けて、テーマ設定や素材選びと問題意識の形成などについてどの程度学習できたかをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(30%)、輪読発表(30%)、卒業論文の準備(40%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。			
教材	授業内において別途指示				
備考	法学概論、知的財産法、民法または法学応用演習などの法学関連科目の履修済あるいは履修中であることが望ましいです。				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代において求められる読解力・自己表現能力およびコミュニケーション能力を養うための演習を行う。 「古典」を皆で意見を出し合って読み進めることによって、正確に、深く読む力、自己の考えをことばにする力を養成する。				
授業方針	テキストを読んで、わかったこと、気がついたこと、考えたことなどを議論する。時に(各単元に一度を予定)、発表者を決めて、発表者は分担箇所のテキスト内容を要約し、関連事項を検討し、批評をおこなう(レジュメを作成)。その発表内容について、他の演習参加者は批評し、討論する。またこれらの作業の仕上げとして、レポートを作成する。 夏休み課題として、独自の問題意識にしたがったテーマの文献に取り組む。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 『聖書』創世記講読(1) 第2回 『聖書』創世記講読(2)－(1)のつづき 第3回 『聖書』創世記講読(3)－(2)のつづき 第4回 『聖書』創世記講読(4)－(3)のつづき 第5回 『聖書』創世記講読(5)－(4)のつづき 第6回 『聖書』創世記についてレポートと発表 第7回 『聖書』創世記について講評 第8回 『古事記』講読(1) 第9回 『古事記』講読(2)－(1)のつづき 第10回 『古事記』講読(3)－(2)のつづき 第11回 『古事記』講読(4)－(3)のつづき 第12回 『古事記』と『日本書紀』との比較 第13回 日本神話について発表 第14回 日本神話について講評 ※受講生の関心等によっては、『古事記』を新約聖書や北欧神話、仏典などに変更することもある。 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①指定した文献をあらかじめ精読して、わからない用語などを調べておくこと。(10時間) ②講読や議論を踏まえて、文献の内容の要約文を作成すること。(20時間) ③添削・コメントを付された課題レポートの訂正版を作成すること。(10時間) ④独自の問題意識にしたがって発展学習を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	(1)文章を正確に読解すること、(2)自分の考えを的確にことばにして話し、また文章化すること、(3)他者の考えを理解し、適切に議論を行うこと。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)文章を正確に読解できたか、(2)自分の考えを的確にことばにして話し、また文章化できたか、(3)他者の考えを理解し、適切に議論を行えたか。			
	成績評価 方法	授業時の発表・コメント30% 小レポート30% 期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:開講後に指示する。 (2)参考書:随時指示する。 (3)その他:必要に応じて資料を配付する。				
備考	「現代社会と宗教」を履修すること。「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」を履修しておくことが望ましい。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	主にシーケンサーソフト(Cubase、Logic)を用いた音楽制作実習を行う。				
授業方針	適宜、課題を与えて作品を制作してゆくことになるが、作品の内容、音楽的な完成度にもこだわっていきたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 音楽情報の基礎 第2回 和音進行法の基礎(スケール、コード) 第3回 スリーコードと調 第4回 メジャーキーとマイナーキー 第5回 代理コード(副三和音) 第6回 コードパターン 第7回 課題実習(スリーコードによる) 第8回 セカンダリードミナントとシークエンス 第9回 ノンコードトーンとパッシングコード 第10回 代理コード(セカンダリードミナント、ドミナントセブン) 第11回 課題実習(代理和音を含む) 第12回 制作実習(既成曲を利用したアレンジ) 第13回 制作実習(オリジナル) 第14回 制作実習(オリジナル) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行った内容を理解する事				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	期末提出作品70%、レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					



科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングの基礎を学び、自分で思い通りのプログラムを作ることができるようになることを目標とする。				
授業方針	この演習は3・4年次を通じて行う卒業研究の第一歩である。前期はまずプログラミングの基本的な考え方や技能を習得することを目標とする。最後は、それまで学習したことを生かして、独自性のあるプログラムを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の概要 第2回 プログラミング環境の構築 第3回 プログラミング演習(1) Pythonの基本 第4回 プログラミング演習(2) 変数と演算子 第5回 プログラミング演習(3) 演算子の優先順位 第6回 プログラミング演習(4) if文と論理演算子 第7回 プログラミング演習(5) for文とwhile文 第8回 プログラミング演習(6) リストの基本 第9回 プログラミング演習(7) リストの操作 第10回 プログラミング演習(8) タプルとディクショナリ 第11回 プログラミング演習(9) ディクショナリの操作 第12回 プログラミング演習(10) 関数の基本 第13回 プログラミング演習(11) 関数の活用 第14回 プログラミング演習(12) 変数とスコープ 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(30時間) (2)復習として練習問題に取り組む。(30時間)				
学習到達目標	(1)簡単なプログラムを自分で作ることができるようになる。 (2)自主的に学習を進めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プログラミングの基礎を習得できたか。 (2)自主的に学習を進めることができたか。			
	成績評価 方法	平常点50%+期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 「やさしいPython」(高橋 麻奈、SBクリエイティブ、2018年) (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	2DCG、3DCGを用いたクリエイティブコンテンツ制作				
授業方針	2DCG用ソフトウェア(Illustrator, Photoshop)や3DCG用ソフトウェア(Mayaなど)を用いて静止画制作、映像制作の基本を学ぶ。前期はCG制作の基本的知識と制作技術を身につける。また制作活動を通じ社会人としての素養を身に付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、CG業界の現状、映像制作とCG制作のワークフロー、アイデアやイメージの作り方 第2回 演習(1)モデリング(ポリゴンモデル) 第3回 演習(2)モデリング(Nurbsモデル) 第4回 演習(3)マテリアル、テクスチャマッピング 第5回 演習(4)ライティング 第6回 演習(5)キーフレーム法、カメラワーク 第7回 演習(6)スケルトン、インバースキネマティクス 第8回 演習(7)スキニング 第9回 演習(8)レンダリング 第10回 修得状況に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、制作課題のチェック 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 最終審査兼講評会(プレゼンテーション形式) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(40時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	学習内容は3DCGを学習したい人向けの内容である。但し、3DCG以外の分野を学習したい人は第1回演習時に教員と共に学習内容を決定することが出来る。				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	就職活動のために会社を選択するときばかりではなく、企業経営についてその企業の本質を知り深く分析できることは、今後の企業社会でサバイバルして上の大きな武器になりうる。本授業では企業分析や業界分析において多面的な分析を行っていくことによって、企業とは何か、企業戦略とは何かを学んで行く。前期が企業分析、後期が業界分析の予定。共に、まずモデル企業(業界)による分析手法を学んだ後、グループに分かれてグループワークとなる。				
授業方針	各自、グループでの作業(演習)による学生自身の主体的な取組を重視する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究の進め方 第2回 基礎的学習 第3回 モデル企業分析(1) 財務数字 第4回 モデル企業分析(2) 企業理念、概要、沿革 第5回 モデル企業分析(3) 商品・サービス、強み・弱み、業界環境 第6回 モデル企業分析(4) 経営戦略・ビジネスモデル 第7回 企業分析グループワーク(1) グループワーク作業計画、財務数字の確認(業績) 第8回 企業分析グループワーク(2) 企業理念、概要、沿革 第9回 企業分析グループワーク(3) 商品・サービス、業界環境、強み・弱み 第10回 企業分析グループワーク(4) ビジネスモデル、経営戦略 第11回 企業分析グループワーク(5) まとめ、プレゼンテーション準備 第12回 プレゼンテーション 第13回 レポート作成 第14回 レポート提出				
準備学習	予習は特に必須ではないが、モデル企業やグループワークで対象とする企業について、店舗やHPなどで適宜内容をチェックすると理解が深まる。				
学習到達目標	・企業分析についての概要が理解できること ・企業や企業戦略とはどういうものか、イメージできること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・分析対象企業について、プロセスだった分析を行い、その結果を人に説明できること			
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加50%、プレゼンテーション及びそのレポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	情報社会一般演習I			
クラス	[09クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 月4
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	企業の最大の目的は顧客を満足させることによって利益を得ることである。そのためには「もうけの仕組み(ビジネスモデル)」の構築が必要である。描いたビジネスモデルを実行するためにはどのような財務構造であるべきか、その活動の結果、どのような収益構造になったのかについて会計的視点から事例を用いて学習する。			
授業方針	前半はビジネスモデルと会計に関する講義によってインプットを中心に進め、後半は各自興味のあるビジネスモデルを選択し、会計的な視点を踏まえて分析、発表の上、全体で議論していく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ビジネスモデルと数値との関係(1) 第2回 ビジネスモデルと数値との関係(2) 第3回 会計と決算 第4回 売上と売上構造 第5回 利益と利益率 第6回 経費と経費率 第7回 在庫と在庫率 第8回 ビジネスモデル (1) 第9回 ビジネスモデル (2) 第10回 ビジネスモデル (3) 第11回 ビジネスモデル (4) 第12回 ケース分析発表・討議 第13回 ケース分析発表・討議 第14回 ケース分析発表・討議 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。			
学習到達目標	ビジネスモデルと会計との関係が理解できるようになる。 会計的分析技術が身につく。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ビジネスモデルと会計の関係を理解し、説明できるか。 会計的技法を用いて、ビジネスモデルを分析できるか。		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、発表・レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[10クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	森沢 幸博			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デジタル・デザインの基礎知識について学び、2DCG(Photoshop、Illustrator)などの専用ソフトを利用したコンテンツ制作技術の修得を目指す。また、最新技術を用いた映像やコンテンツ制作実習を通じて、デザイナーに求められる応用力の修得を目指す。				
授業方針	2DCGグラフィックソフトウェア(Illustrator、Photoshop)を用いたデジタルイメージ制作技術の基礎について学ぶ。CG制作の基本的知識と制作技術を身につけ、制作活動を通じクリエイターとしての素養を身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 CGとグラフィックデザイン 第2回 2DCG制作(1) パス編集による形状編集 第3回 2DCG制作(2) ポスターイメージ制作 第4回 色彩設定と配色パターン 第5回 フォントデザイン応用 第6回 写真編集と撮影基礎知識 第7回 平面レイアウト構成と印刷 第8回 中間研究テーマ報告会 第9回 情報デザインの応用事例研究 第10回 作品資料調査(1) 研究論文輪講 第11回 作品資料調査(2) 研究テーマ討論 第12回 課題作品制作(1) 研究テーマに応じたコンテンツ制作 第13回 課題作品制作(2) 研究テーマに応じたディスカッション 第14回 最終プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ、ゼミ研究に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	2DCGソフトウェアの基本操作と機能を理解して、デザイン制作の目的に応じた専門知識について説明ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	CG制作に関する専門知識とコンテンツ事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新CG技術について理解し、専門知識について説明することができる。			
	成績評価 方法	出席・平常点30% 中間課題30% 最終課題作品 最終プレゼンテーション40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「いちばん面白いデザインの教科書」カイトモヤ エムディエヌコーポレーション 参考書:「伝わるデザインの基礎」高橋祐摩・片山なつ 技術評論社				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	宮崎 洋			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報社会一般演習Iの継続であるが、3年次後期であるこのクラスでは、資料一般、文献理解、記述や発表の形式等をより学問的なものに高めることを目指す。			
授業方針	情報社会一般演習Iのグループ分けを踏襲する。各グループで取り組むべき課題を設定する。このとき、4年次で取り組む情報社会総合演習を想定した方向を考慮する。課題と研究計画の説明、中間報告、研究成果発表をグループ単位、個人単位で順次行う。また、グループ内及びゼミ参加者全員とのディスカッションのすすめかたを、事例を通して修得する。一連の作業で得られた結果を各自レポートにまとめて提出する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究レポートについて 第2回 資料一般の取り扱い方Ⅰ(資料の収集と選別) 第3回 資料一般の取り扱い方Ⅱ(資料の分析上の要件の理解) 第4回 文献理解Ⅰ(概要の作成) 第5回 文献理解Ⅱ(文献の取りまとめ) 第6回 記述や発表の形式Ⅰ:収集した情報の一次分析 第7回 課題設定・研究計画の発表とディスカッションⅠ(テーマ1について) 第8回 課題設定・研究計画の発表とディスカッションⅡ(テーマ2について) 第9回 課題設定・研究計画の発表とディスカッションⅢ(テーマ3について) 第10回 知の技法(応用Ⅰ):分析手法の検討 第11回 知の技法(応用Ⅱ):分析結果の解釈 第12回 記述や発表の形式Ⅱ:分析結果の取りまとめ方法 第13回 研究成果発表とディスカッションⅠ(テーマ1について) 第14回 研究成果発表とディスカッションⅡ(テーマ2・3について) 第15回 レポート作成			
準備学習	前期の同授業の到達目標を達成させる			
学習到達目標	資料一般、文献理解、記述や発表の形式について学び、選定したテーマに対して考察できるようになる事を目的とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適宜、演習課題の提出などを通して、結果を達成度評価に加味する。		
	成績評価 方法	評価方法 課題・授業参加30%, 自主的学習30%, レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)教科書 特に、指定しない (2)参考書 適宜、紹介する			
備考	大学より供与されたパーソナルコンピュータの有効活用を図ること			

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月4
担当教員	田中 克明			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いたシステムを構築することにより、人では扱いきれない情報の処理を、システムにある程度任せることができる。この演習では、文献の講読と各自のシステム構想を作成することを通じて、コンピュータを用いたシステムの可能性について学ぶこと、および学び続けることを学ぶことを目的とする。			
授業方針	さまざまな情報システムについて、各自が文献を読み、演習においてその内容を相互に発表、意見の交換を行う。また、各自で興味のある情報システムの構築を検討し、その実現について議論を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献の講読と発表(1) 第 3回 文献の講読と発表(2) 第 4回 文献の講読と発表(3) 第 5回 文献の講読と発表(4) 第 6回 構築したいシステムの検討(1) 方針 第 7回 構築したいシステムの検討(2) 調査 第 8回 構築したいシステムの検討(3) 概要設計 第 9回 構築したいシステムの発表・議論(1) 第10回 構築したいシステムの発表・議論(2) 第11回 構築したいシステムの再検討(1) 第12回 構築したいシステムの再検討(2) 第13回 構築したいシステムの再発表・議論(1) 第14回 構築したいシステムの再発表・議論(2) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業では、各自の発表に基づいて、参加者全員による議論を行うため、担当する回に発表の準備を行えるよう準備を行うこと。			
学習到達目標	コンピュータを用いた情報システムの可能性を理解すること。構築したいシステムの構想を作ること。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	コンピュータを用いた情報システムの可能性を理解できたか。構築したいシステムの構想を持つことができたか。		
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	資料を適宜配布する。			
備考	演習では適宜、各自のPCを用いる。			

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	李 艶紅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	卒業研究論文の計画を立て、各自テーマに沿って資料を読み込み、問題意識を確かめながら論文の構成を考えていきます。			
授業方針	一方的な講義ではなく、学生自身による発表、ディスカッションが中心となります。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 輪読(1)&論文計画の発表 第3回 輪読(2)&論文計画の発表 第4回 輪読(3)&論文計画の発表 第5回 輪読(4)&問題意識の確かめ 第6回 輪読(5)&問題意識の確かめ 第7回 参考文献の探し方・引用のルール 第8回 論文の書き方指導(1)  第9回 資料の追加・読み込みの経過発表 第10回 輪読(6)&資料の追加・読み込みの経過発表 第11回 輪読(7)&資料の追加・読み込みの経過発表 第12回 輪読(8)&資料の追加・読み込みの経過発表 第13回 輪読(9)&資料の追加・読み込みの経過発表 第14回 論文の書き方指導(2) 第15回 まとめ&レポート			
準備学習	①輪読のために、指定された資料の該当ページを精読する(20時間)。 ②輪読の発表者に指名された回は、レジメを作成し、発表をする(20時間)。 ③卒業研究論文の計画を発表し、資料の収集や選定の状況について経過発表する(20時間)。			
学習到達目標	卒業研究論文の作成の準備段階として、計画を作成し、資料を収集して、参考資料を選定するために熟読した上で、その経過を授業内で発表することを目標とします。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究論文の作成の準備段階として、計画を作成し、資料の収集・選定などの学習がどの程度できたかをもって評価します。		
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(30%)、輪読発表(30%)、卒業研究論文関連発表(40%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。		
教材	授業内において別途指示			
備考	法学概論、知的財産法、民法または法学応用演習など法学関連科目の履修済あるいは履修中であることが望ましいです。			



科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、現代に求められる読解力・自己表現能力およびコミュニケーション能力を養成することを目的とする。			
授業方針	学生は各自の関心の赴くところにしたがって対象を選定し、夏休みにプレ卒論レポートを作成し、発表を行う。その発表に対して他の学生は批評を行い、議論する。それらを踏まえ、発表者はレポートの改訂版を作成する。 後半には、発表の中からいくつかのテーマを取り上げてテキストを講読し、理解を深める。また研究者あるいは先輩の論文を論評することによって、研究の方法や論文の書き方を学ぶ。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 夏休み課題発表(1)ー学生A,B 第2回 夏休み課題発表(2)ー学生C,D 第3回 夏休み課題発表(3)ー学生E,F 第4回 夏休み課題発表(4)ー学生G,H 第5回 文献講読と特講①現代社会論(1)ー学生Aの研究対象 第6回 文献講読と特講①現代社会論(2) 第7回 文献講読と特講②古代中国論(1)ー学生Dの研究対象 第8回 文献講読と特講②古代中国論(2) 第9回 文献講読と特講③映像と思想論(1)ー学生Hの研究対象 第10回 文献講読と特講③映像と思想論(2) ※どの学生の研究内容に即した文献を選ぶかは発表後に決定する。 第11回 論文講読①マンガ評論 第12回 論文講読①(2)上記についての論評と討論 第13回 論文講読②先輩の卒論 第14回 論文講読②(2)上記についての論評と討論 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①発表するに際して、文献を読んで内容をまとめ、レジюме、レポートを作成すること。(20時間) ②発表後には、コメントや討論を踏まえてレポートの改訂版を作成すること。(20時間) ③他の発表者のレポートをあらかじめ読んで、関連事項を調べるなど、批評、討論の準備すること。(20時間)			
学習到達目標	(1)文献を正確に読解すること、(2)自己の見解を的確にことばにして話し、また文章化すること、(3)他者の考えを理解し、適切にコメントすること、(4)自らの卒業研究テーマを絞っていくことを目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)文献を正確に読解できたか、(2)自己の見解を的確に言語化できたか、(3)他者の発表を理解し、的確にコメントできたか、(4)自らの研究テーマを設定できたか。		
	成績評価 方法	授業中の発表20%、授業中のコメント20%、小レポート20%、期末レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書:プリント(文献コピー)を配布する。 (2)参考書:授業中に適宜紹介する。 (3)その他:必要に応じて資料を配付する。			
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。			

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期までに行った基礎学習をふまえ、後期は具体的なテーマを与えて制作を行う。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 デジタルと音楽 第2回 音源録音の基礎 第3回 音源録音実習 第4回 音源素材の編集と完成 第5回 サウンドファイルを用いた作品制作実習 第6回 課題制作 第7回 作品発表とディスカッション 第8回 野外での録音基礎 第9回 フィールドレコーディング実習(室内録音) 第10回 素材の確認と編集(室内録音分) 第11回 フィールドレコーディング実習(野外録音) 第12回 素材の確認と編集(野外録音分) 第13回 課題制作 第14回 課題制作 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行った内容を理解する事				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	提出作品70%、レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考	大学より供与されたパーソナルコンピュータの有効活用を図ること				

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期の一般演習 I に引き続いて、プログラミングの学習を進める。後期は、まずプログラミングの基礎的事項のうち前期で扱わなかったことについて学ぶ。その後は、プログラミングに関する研究テーマについて、計画の策定、実行、発表などを行う。				
授業方針	学期の後半は、それまでに学習したことを応用して、卒業研究の前段階となる研究を行う。大きなテーマはプログラミングであるが、より具体的なテーマは各自が自らの興味に従って自発的に選択することが望ましい。テーマを選択した後は、そのテーマに関する準備的な調査・研究を行う。必要ならばテーマや計画の再検討を行う。最後に、各自の研究経過の発表を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 前期の復習と後期の計画 第2回 プログラミング演習(1) クラスの基本 第3回 プログラミング演習(2) クラス変数・クラスメソッド 第4回 プログラミング演習(3) クラスの継承 第5回 プログラミング演習(4) モジュール 第6回 プログラミング演習(5) 文字列の操作 第7回 プログラミング演習(6) 正規表現 第8回 プログラミング演習(7) ファイル 第9回 プログラミング演習(8) 例外処理 第10回 研究テーマと計画の策定 第11回 準備調査 第12回 研究計画の実行 第13回 研究計画の実行と再検討 第14回 研究経過の発表 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(30時間) (2)復習として練習問題に取り組む。(30時間)				
学習到達目標	(1)実用的なプログラムを自分で作ることができるようになる。 (2)自主的に学習を進めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プログラミングの技能を高めることができたか。 (2)自主的に学習を進めることができたか。			
	成績評価 方法	平常点50%+期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 「やさしいPython」(高橋 麻奈、SBクリエイティブ、2018年) (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	2DCG、3DCGを用いたクリエイティブコンテンツ制作				
授業方針	2DCG用ソフトウェア(Illustrator, Photoshop)や3DCG用ソフトウェア(Mayaなど)を用いて静止画制作や映像制作における、より高度なスキルと知識を学ぶ。また後期はCG制作の高度な知識と制作スキルを身につけると共に社会人としての実力を身に付けていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 演習(1)モデリング応用編 ポリゴンモデル 第3回 演習(2)モデリング応用編 Nurbsモデル 第4回 演習(3)モデリング応用編 デフォメーション 第5回 演習(4)アニメーション応用編 モーションパスとドリブンキー 第6回 演習(5)アニメーション応用編 モーフイング 第7回 演習(6)マテリアル応用編(反射、屈折)、高度なレンダリング設定 第8回 演習(7)レンダリング応用編(MentalRay) 第9回 演習(8)レンダリング応用編(グローバルイルミネーション) 第10回 演習に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、進捗確認とアドバイス(グループ1) 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス(グループ2) 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 作品発表(プレゼンテーション形式)及び講評会 第15回 次年度卒業制作に向けた説明、まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(40時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	学習内容は3DCGを学習したい人向けの内容である。但し、3DCG以外の分野を学習したい人は第1回演習時に教員と共に学習内容を決定することが出来る。				

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	小寺 昇二			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	就職活動のために会社を選択するときばかりではなく、企業経営についてその企業の本質を知り深く分析できることは、今後の企業社会でサバイバルして上の大きな武器になりうる。本授業では企業分析や業界分析において多面的な分析を行っていくことによって、企業とは何か、企業戦略とは何かを学んで行く。前期が企業分析、後期が業界分析の予定。共に、まずモデル企業(業界)による分析手法を学んだ後、グループに分かれてグループワークとなる。			
授業方針	各自、グループでの作業(演習)による学生自身の主体的な取組を重視する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期授業の全体像、業界とは何か 第2回 就活支援、ES作成 第3回 市場規模、将来性の数値把握 第4回 業界の歴史、商品・サービス特性 第5回 業界構造、競合状況、メジャープレイヤー 第6回 ビジネスモデル、KSF 第7回 各自作業 第8回 各自作業 第9回 各自作業 第10回 プレゼンテーション+プレゼンテーション講評 第11回 プレゼンテーション残り 第12回 特別講座(就職、就活) 第13回 卒論テーマ検討+ゼロ秒思考 第14回 卒論テーマ(仮説)披露 第15回 まとめとレポート提出			
準備学習	予習は特に必須ではないが、モデル企業やグループワークで対象とする業界について、店舗やHPなどで適宜内容をチェックすると理解が深まる。			
学習到達目標	・業界分析についての概要が理解できること ・業界の傾向としての戦略ポイントとはどういうものか、イメージできること			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	・分析対象業界について、プロセスだった分析を行い、その結果を人に説明できること		
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加50%、プレゼンテーション及びレポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	適宜配布、紹介する。			
備考	毎回PCを持参すること			

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[09クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	ビジネスモデルのフレームワークを学び、企業ごとの活動の「違い」について開発・生産・物流・販売などのプロセスに着目し比較検討する。さらに、問題解決技法の基礎的な知識を学んだ上で企業が抱える問題に対して取り組む。			
授業方針	前半はビジネスモデルのフレームワークに関する授業によりインプットを中心に進め、後半は各自興味のあるビジネスモデルを選択し、フレームワークに従って分析、発表の上、全体で議論していく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ビジネスのプロセスを知る 第 2回 ビジネスモデルをつくるフレームワーク 第 3回 顧客価値を提案する(1) 第 4回 顧客価値を提案する(2) 第 5回 利益を設定する (1) 第 6回 利益を設定する (2) 第 7回 プロセスを構築する(1) 第 8回 プロセスを構築する(2) 第 9回 問題解決技法(1) 第10回 問題解決技法(2) 第11回 ケース分析発表・討議 第12回 ケース分析発表・討議 第13回 ケース分析発表・討議 第14回 ケース分析発表・討議 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。			
学習到達目標	ビジネスモデルのフレームワークを理解し、活用できるようになる。 企業が抱えている問題を考察できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ビジネスモデルのフレームワークを理解し、活用できるか。 問題解決技法を用い、企業が抱えている問題に取り組めるか。		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、発表・レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (3)適宜、講義に関する資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[10クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	2DCGソフトウェア(Illustrator, Photoshop)を利用したデザインに必要なスキルと高度な応用知識について学び、各自の研究テーマに即した課題制作を通じてコンテンツ提案能力を身につけることを目標とする。			
授業方針	授業では、指定した研究課題について各自が調べてきた内容を報告する。オリジナルのアイデアによるコンテンツ制作能力の修得を目標とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究概要説明 グループディスカッション 第2回 研究テーマ検討 研究事例紹介 論文輪講 第3回 研究テーマ検討 メディア関連 論文輪講 第4回 エモーショナル・デザイン 第5回 情報技術とパフォーマンス表現 第6回 デジタル映像と空間演出 第7回 研究活動の中間報告 第8回 生態学的知覚システムとデザイン表現 第9回 マルチモーダルメディア 第10回 コミュニケーション・デザイン 第11回 研究課題制作(1) 個別制作指導 第12回 研究課題制作(2) 研究活動報告 第13回 研究課題制作(3) グループディスカッション 第14回 最終発表 講評会 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ、ゼミ研究に関する予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	CG制作に関する専門知識とコンテンツ事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新CG技術について理解し、専門知識について説明することができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し、専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題30% 最終課題作品 最終プレゼンテーション40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:「いちばん面白いデザインの教科書」カイトモヤ エムディエヌコーポレーション 参考書:「伝わるデザインの基礎」高橋祐摩・片山なつ 技術評論社			
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。			

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果を総括し、それを受けて各自がテーマを設定、1年かけて研究レポートをまとめるが、研究計画の立案、実行、見直しやゼミ内での共有ディスカッションなどによって研究内容を深めて行くプロセス自体も学んでいく。それなりのボリュームのあるレポート完成後プレゼンテーションにより4年間の大学生活の集大成とする。				
授業方針	卒論作成に資する情報を適宜提供しつつ、各自が調査研究を進めていく。面談による個別指導、メンバーでの共有により、レベルアップを行っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ(仮)発表 第2回 計画、調査、資料のありか 第3回 研究計画の発表 第4回 調査 第5回 調査 第6回 調査 第7回 研究テーマの絞り込み、発表 第8回 調査 第9回 調査 第10回 結論(仮説)の作成 第11回 結論(仮説)の発表 第12回 骨子の作成 第13回 骨子の発表 第14回 中間報告/面談 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	前回の内容について確認した上で授業に臨むこと				
学習到達目標	・卒業研究骨子(詳細)の完成				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・卒業研究骨子(詳細)について、論点が見えているか、課題が設定されており解決の糸口が見えているか			
	成績評価 方法	授業参加状況25%、ディスカッションへの参加25%、レポート25%、プレゼンテーション25%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				



科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3,水4
担当教員	宮崎 洋			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果の総括として、業界あるいは企業を取り上げたグループワークを行う。それを受けて各自が卒業研究テーマを設定し、年度の最後に研究レポートしてまとめる。経過については随時グループ討議による検討を重ねることによって、修正を加える。研究レポートはコースの発表会でプレゼンテーションを行う。				
授業方針	設定したテーマについて、種々の角度から情報を収集、分析し結果をレポートしてまとめるまでのプロセスを学習する。併せて協働グループとしてのゼミの中で、情報共有や相互学習の進め方を習得する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の目標 第2回 3年次の総括:個人別 第3回 3年次の総括:個人別 第4回 3年次の総括:個人別 第5回 グループワーク:グループ分けとテーマ設定 第6回 グループワーク:経過報告と討議 第7回 グループワーク:中間報告 第8回 グループワーク:中間報告 第9回 グループワーク:グループ発表 第10回 グループワーク:グループ発表 第11回 個人ワーク:テーマ設定と概要検討 第12回 個人ワーク:中間報告 第13回 個人ワーク:中間報告 第14回 個人ワーク:個別発表 第15回 レポート作成				
準備学習	必要情報の収集活動				
学習到達目標	研究テーマの設定から、必要情報の収集・分析、取りまとめとしてのレポートインからプレゼンテーションまでを一貫して行えるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	設定したテーマについて、外部環境、内部環境分析を行い、現状を的確に理解して分析レポートして取りまとめられているか。			
	成績評価 方法	課題・授業参加状況25%、ディスカッションへの参加25%、レポート25%、プレゼンテーション25%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 特に、指定しない (2)参考書 適宜、紹介する				
備考	大学より供与されたパーソナルコンピュータの有効活用を図ること				

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報社会総合演習I, IIを通して、各自が有用と考える情報システムの提案や設計、プロトタイプの実装を行い、卒業研究としてまとめる。情報社会総合演習Iでは、各自が興味のある分野において、情報システムを用いて解決できそうな問題とその解決手段の検討を行う。				
授業方針	各自で文献の調査とまとめ、および発表を通して卒業研究の研究テーマの決定を行う。並行して随時、研究内容に関する議論を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報社会総合演習Iの進め方 第2回 研究テーマの設定 第3回 先行事例の調査とまとめ(1) 第4回 先行事例の調査とまとめ(2) 第5回 先行事例の調査とまとめ(3) 第6回 研究テーマの再設定(1) 第7回 先行事例の調査とまとめ(4) 第8回 先行事例の調査とまとめ(5) 第9回 先行事例の調査とまとめ(6) 第10回 研究テーマの再設定(2) 第11回 先行事例の調査とまとめ(7) 第12回 先行事例の調査とまとめ(8) 第13回 卒業研究テーマの設定(1) 第14回 卒業研究テーマの設定(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	参考とする文献の調査を随時行うこと。また、検討中の研究テーマについて議論を行えるよう、常に整理しておくこと。				
学習到達目標	卒業研究のテーマ設定に向けて、自主的に調査・研究をすすめることができる。同時に、研究状況のまとめと発表、議論を適切に行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に研究を進め、卒業研究のテーマを探索し、設定することができたか。研究内容に関する議論を適切にすすめることができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題90%、期末課題10%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2,木1
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究論文の構成を段階的に発表し、執筆を開始するための指導を中心に進めていきます。				
授業方針	受講生一人一人の論文作成の進行状況に合わせた発表とそれに対する他の受講者によるディスカッションを中心に指導していきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 輪読&論文構成の発表(1) 第3回 輪読&論文構成の発表(2) 第4回 輪読&論文構成の発表(3) 第5回 輪読&論文構成の発表(4)  第6回 論文の執筆開始にあたり 第7回 輪読&論文作成の経過発表1回目(1) 第8回 輪読&論文作成の経過発表1回目(2) 第9回 輪読&論文作成の経過発表1回目(3) 第10回 輪読&論文作成の経過発表1回目(4)  第11回 論文の書き方指導(1) 第12回 輪読&論文作成の経過発表2回目(1) 第13回 輪読&論文作成の経過発表2回目(2) 第14回 輪読&論文作成の経過発表2回目(3) 第15回 まとめ&論文の書き方指導(2)				
準備学習	①輪読のために、指定された資料の該当ページを精読する(20時間)。 ②論文作成に必要な文献を精読し、論文を作成する。				
学習到達目標	各自の卒業研究テーマに関して、文献調査、資料の精読を行い、卒業研究論文の執筆を開始できることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各自の卒業研究論文の進捗状況が計画通りに進んでいるかについて評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(30%)、授業内発表(30%)、卒業論文の執筆状況(40%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。			
教材					
備考	法学概論、知的財産法、民法または法学応用演習など法学関連の科目について履修済か履修中であることが望ましいです。				

科目名	情報社会総合演習I			
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期 前期
				曜日・時限 金3,金4
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	4年生の演習は、主として「研究および作品制作」をスケジュールに従って順次行う。各自、決定した研究テーマについて、適宜、研究の進捗状況を担当教員に報告する。			
授業方針	各自、自己の関心に照らして、卒業研究のテーマを設定する。単に作品制作を行うのではなく、テーマの意義を深く考える必要がある。テーマの意義を考えるにあたり、必要な文献の読破や作品集などを分析するなど、各自の研究テーマに沿って効率的に卒業研究が行えるよう指導する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の立案 第2回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の修正 第3回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の提出 第4回 卒業研究計画書の発表会(プレゼンテーション形式) 第5回 Photoshopを用いた高度な2DCG制作 第6回 Illusutradorを用いた高度な2DCG制作 第7回 PhotoshopとIllusutradorを用いた高度な2DCG制作 第8回 中間発表(プレゼンテーション形式) 第9回 ポートフォリオ制作(静止画) 第10回 AfterEffectを用いた映像制作技術(基礎)の修得、絵コンテの書き方 第11回 AfterEffectを用いた特殊効果技術の修得 第12回 AfterEffectを用いたノンリニア編集技術の修得 第13回 AfterEffectを用いた高度なノンリニア編集技術の修得 第14回 作品発表(プレゼンテーション形式)及び講評会、卒業制作及び卒業レポートに関する説明 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(60時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(60時間)			
学習到達目標	自己の卒業研究の準備状況や改善点を明確にしながら研究および制作を行う			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究への取り組み、テーマについての研究の達成度を評価		
	成績評価 方法	作品制作(技能面)40%、制作に関する研究内容(知識面)40%、プレゼンテーション内容(20%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	演習時、適宜紹介してゆく			
備考	学習内容は個人の目標によって内容が変化するため、担当教員に必ず早期に相談すること			

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	3年次で学習したビジネスモデルのフレームワークを活用し、興味・関心のある企業や業界に関する問題意識から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。				
授業方針	前半は論文作成の方法論や技法について学習する。後半は論文作成状況の報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 論文作成の全体像 第2回 論文作成の流れ 第3回 論文作成の実践 第4回 問題意識の明確化(1) 第5回 問題意識の明確化(2) 第6回 問題意識の明確化(3) 第7回 先行調査の研究(1) 第8回 先行調査の研究(2) 第9回 先行調査の研究(3) 第10回 先行調査の研究(4) 第11回 仮説の構築(1) 第12回 仮説の構築(2) 第13回 仮説の構築(3) 第14回 中間報告 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。				
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、実践できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲50%、発表・中間報告50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4,水3
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報社会一般演習 I・II に引き続いて、情報社会において求められる高いコミュニケーション能力と問題発見・解決能力のさらなる養成につとめる。卒業研究(論文)のテーマを決定する作業を通して、各人の問題意識を明確にする。情報・資料の収集の仕方、自らの問題を発見し、立論する方法を身につけ、発表・討論を通じてプレゼンテーション力、ディスカッション能力を磨く。				
授業方針	卒業研究(論文)を作成するための文献講読と発表を中心に進める。自ら文献を読み進め、調査・考察したことを発表し、また他人の発表に対して質疑・批評を加え、あるいは助言を行う中で、卒業研究に必要な知識・方法を身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 卒業研究(論文)作成のスケジュール 第 2回 春休み課題の発表と批評(1)- 学生A・B 第 3回 春休み課題の発表と批評(2)- 学生C・D 第 4回 春休み課題の発表と批評(3)- 学生E・F 第 5回 春休み課題の発表と批評(4)- 学生G・H 第 6回 発表の仕方(1)- レジユメの作り方 第 7回 卒業研究テーマの選定(1)- 学生A・B・C・D 第 8回 卒業研究テーマの選定(2)- 学生E・F・G・H 第 9回 文献講読: 学生Aと類似テーマの論文 第10回 文献講読: 学生Bと類似テーマの論文 第11回 文献講読: 学生Aと類似テーマの過去年度の卒論 第12回 文献講読: 学生Bと類似テーマの過去年度の卒論 第13回 論文の書き方(1): 情報収集の方法 第14回 文献講読: 学生Cの関連文献(1) 第15回 文献講読: 学生Cの関連文献(2) 第16回 文献講読: 学生Cの関連文献(3) 第17回 文献講読: 学生Cの関連文献(4) 第18回 テーマ選定の仕方: 討論(学生Cの立場になって) 第19回 テーマ選定の仕方: アウトライン(学生Cの立場になって) 第20回 論文の書き方(2)- アウトラインの作成 第21回 文献講読: 学生Dの関連文献(1)				
準備学習	①発表レポートを作成するために、情報収集、文献の精読、考察を進めること。(40時間) ②発表に当たって、発表内容をよく整理し、レジユメを作成しておくこと。(20時間) ③研究計画を立て、それに沿って調査・研究を進める際には、随時指導を求めること。(15時間) ④発表後には、コメントや討論を踏まえて、論文を改訂すること。(25時間) ⑤他の発表者の論文をあらかじめ読んで 批評 討論の準備をすること(20時間)				
学習到達目標	①課題文献に対して、正確に、かつ深く読解し、それに対する自己の見解を適切に文章で表現すること、ならびに、それぞれの研究テーマに対して、②調べたこと、考えたことを口頭で適切に発表し、③他人の発表に対して適切にコメントできることを目標とする。同時に、④卒業研究テーマを選定し、研究計画を立て、それに沿って研究を進める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①課題文献を正確、かつ深く読解し、それに対する自己の見解を的確に文章化できたか。②口頭発表できたか。③他人の発表に対し、適切にコメントし、議論を深められたか。④個別の研究テーマを選定し、研究計画を立てられたか。			
	成績評価 方法	課題提出 25% 発表 25% 授業中のコメント、議論 25% 期末レポート(卒論アウトライン)25%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 プリント(文献・論文コピー等)を配布する。 (2)参考書 授業中随時指導する。 (3)その他				
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。				

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	初回に具体的なテーマを検討し、それに基づき制作を行ってゆく。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマの決定とディスカッション 第2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第3回 タイムテーブル作成 第4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第6回 文献資料・音源資料のまとめ 第7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジュメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	学期末の提出作品 70%,レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[09クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4,水3
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングに関連するテーマについて卒業研究を行う。				
授業方針	この演習は1年間を通して行う卒業研究の第1段階である。まず、3年次の一般演習で学習したことをふまえて、各自が具体的な研究テーマを決める。テーマが決まったら、予備調査を行った後、実際の研究を開始する。前期の最後には、それまでに研究した内容について中間発表を行う。なお、コンピュータ実習には各自のノートPCを用いる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1週 卒業研究の進め方 第2週 研究テーマ策定 第3週 予備調査 第4週 研究計画の決定 第5週 研究報告と議論(1) 第6週 研究報告と議論(2) 第7週 研究報告と議論(3) 第8週 研究報告と議論(4) 第9週 研究報告と議論(5) 第10週 研究報告と議論(6) 第11週 研究報告と議論(7) 第12週 研究報告と議論(8) 第13週 中間発表準備 第14週 中間発表 第15週 レポート作成 注:研究テーマは教員と相談の上、各自が決める				
準備学習	研究にかかわる作業を進める。(120時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進める。 (2)研究内容の発表を適切に行う。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができたか。 (2)研究内容の発表が適切にできたか。			
	成績評価 方法	平常点50%+研究レポートおよび口頭発表50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜指示する				
備考					



科目名	情報社会総合演習I			
クラス	[10クラス]	対象学年	4年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3,月4
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	情報メディア、コンテンツについて学び、デジタル技術表現に関する知識の習得を目指す。 デザイン専用ソフトウェアの操作知識を身につける。卒業研究の準備を進め、各自で卒業研究のテーマをまとめる。			
授業方針	デジタル技術を駆使したデザイン制作に必要な制作技術について指導する。作品制作を通じて自身の興味対象や技術への理解を深めるため、参考となる文献や資料を紹介する。指定した研究課題について各自が調べてきた内容を報告する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究制作のテーマ設定 第2回 卒業研究計画(1) ディスカッション 第3回 卒業研究計画(2) フィールド調査 第4回 卒業研究準備(1) コミュニケーション・デザイン(デザイン史) 第5回 卒業研究準備(2) コミュニケーション・デザイン(学校 教育) 第6回 卒業研究準備(3) コミュニケーション・デザイン(地図 交通) 第7回 卒業研究準備(4) コミュニケーション・デザイン(本 メディア) 第8回 卒業研究課題 中間報告 第9回 卒業研究の制作指導(1) 論文輪講(ゲームデザイン) 第10回 卒業研究の制作指導(2) 論文輪講(モビリティ) 第11回 卒業研究指導(1) 論文輪講(メディアアート) 第12回 卒業研究指導(2) 論文輪講(インターネット) 第13回 卒業研究指導(3) プレゼンテーション指導 第14回 卒業研究発表 全体講評 質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題,最終レポート課題作成(20時間) 指定した教科書の要点をまとめ,卒業研究に関する予習と復習をしておく(30時間)			
学習到達目標	高度な専用ソフトウェアの操作について学び,各種コンテンツ制作やUI/UX提案ができるようになる。 最新のデジタル技術について学び,情報メディアの課題や特徴について説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	高度な専用ソフトウェア操作について学び,デジタル・コンテンツ制作に必要な応用技術を身につけて利用することができる。 最新のデジタル・コンテンツについて学び,情報メディアの課題や特徴について説明できる。		
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題20% 最終課題(プレゼンテーション・作品提出)50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:開講時指定。 参考書:授業内で適宜指示する。			
備考	欠席する場合は必ず連絡すること。学習に関する相談は適時対応します。			

科目名	情報社会総合演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3,月4
担当教員	小寺 昇二			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果を総括し、それを受けて各自がテーマを設定、1年かけて研究レポートをまとめるが、研究計画の立案、実行、見直しやゼミ内での共有ディスカッションなどによって研究内容を深めて行くプロセス自体も学んでいく。それなりのボリュームのあるレポート完成後プレゼンテーションにより4年間の大学生活の集大成とする。			
授業方針	卒論作成に資する情報を適宜提供しつつ、各自が調査研究を進めていく。面談による個別指導、メンバー全体での共有により、レベルアップを行っていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 骨子、論文概略、課題 第2回 ディスカッション、執筆、面談 第3回 ディスカッション、執筆、面談 第4回 ディスカッション、執筆、面談 第5回 ディスカッション、執筆、面談 第6回 ディスカッション、執筆、面談 第7回 中間発表 第8回 ディスカッション、執筆、面談 第9回 レポート確認 第10回 レポート提出 第11回 推敲 第12回 推敲 第13回 論文最終提出 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	前回の内容について確認した上で授業に臨むこと			
学習到達目標	・卒業研究論文の完成			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・卒業研究論文について、論旨が明確か、妥当な内容か、卒論に相応しい水準か ・プレゼンテーションについて、わかり易い発表であったか、アピールすることが出来たか		
	成績評価 方法	授業への積極的参加25%、卒業研究論文50%、プレゼンテーション25%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	適宜配布、紹介する。課題図書:「戦略プロフェッショナル」—シェア逆転の企業変革ドラマ(日経ビジネス人文庫、三枝 匡(著))			
備考	毎回PCを持参すること			

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3,水4
担当教員	宮崎 洋			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果の総括として、業界あるいは企業を取り上げたグループワークを行う。それを受けて各自が卒業研究テーマを設定し、年度の最後に研究レポートしてまとめる。経過については随時グループ討議による検討を重ねることによって、修正を加える。研究レポートはコースの発表会でプレゼンテーションを行う。				
授業方針	設定したテーマについて、種々の角度から情報を収集、分析し結果をレポートしてまとめるまでのプロセスを学習する。併せて協働グループとしてのゼミの中で、情報共有や相互学習の進め方を習得する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の目標 第2回 テーマの設定 第3回 中間報告:スケルトンの確認 第4回 中間報告:スケルトンの確認 第5回 中間報告:スケルトンの確認 第6回 中間報告:経過報告とディスカッション 第7回 中間報告:経過報告とディスカッション 第8回 中間報告:経過報告とディスカッション 第9回 レポートイング 第10回 レポートイング 第11回 レポートイング 第12回 レポートイング 第13回 プレゼンテーション 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ及びレポート作成				
準備学習	必要情報の収集活動				
学習到達目標	研究テーマの設定から、必要情報の収集・分析、取りまとめとしてのレポートからプレゼンテーションまでを一貫して行えるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	設定したテーマについて、外部環境、内部環境分析を行い、現状を的確に理解して分析レポートして取りまとめられているか。			
	成績評価 方法	課題・授業参加状況25%、ディスカッションへの参加10%、卒業論文50%、プレゼンテーション15%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 特に、指定しない (2)参考書 適宜、紹介する				
備考	大学より供与されたパーソナルコンピュータの有効活用を図ること				

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報社会総合演習I, IIを通して、各自が有用と考える情報システムの提案や設計、プロトタイプの実装を行い、卒業研究としてまとめる。情報社会総合演習IIでは、各自が興味のある分野において、問題の解決を行うシステムを構築し、その内容と評価を論文としてまとめ、発表する。				
授業方針	各自で文献の調査とまとめ、および発表を通して卒業研究の研究テーマの決定を行う。並行して随時、研究内容に関する議論を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究テーマの発表 第 2回 卒業論文執筆の概要 第 3回 対象とする問題の検討 第 4回 対象とするシステムの検討 第 5回 プロトタイプシステムの作成と評価(1) 第 6回 プロトタイプシステムの作成と評価(2) 第 7回 プロトタイプシステムの作成と評価(3) 第 8回 プロトタイプシステムの作成と評価(4) 第 9回 論文の執筆と議論(1) 第10回 論文の執筆と議論(2) 第11回 論文の執筆と議論(3) 第12回 論文の執筆と議論(4) 第13回 卒業研究論文の発表演習(1) 第14回 卒業研究論文の発表演習(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回進捗状況の報告が行えるように、研究をすすめ、状況をまとめておくこと。				
学習到達目標	自主的に調査・研究をすすめ、論文としてまとめることができる。研究内容の発表と議論を適切に行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に調査・研究をすすめ、論文をまとめることができたか。研究内容の発表と議論を適切に行えたか。			
	成績評価 方法	卒業論文作成に向けた調査・研究、および卒業論文の完成と発表100%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2,木2
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究論文の作成指導を中心に演習形式で行います。				
授業方針	受講生一人一人の論文作成の進行状況に合わせた発表とそれに対する他の受講者によるディスカッションを中心に指導して行きます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究論文の進捗状況報告(1) 第2回 卒業研究論文の進捗状況報告(2) 第3回 卒業研究論文の進捗状況報告(3)  第4回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(1) 第5回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(2) 第6回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(3) 第7回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(4) 第8回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(5) 第9回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(6) 第10回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(7) 第11回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(8) 第12回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(9)  第13回 卒業研究論文の発表練習指導(1) 第14回 卒業研究論文の発表練習指導(2) 第15回 まとめ&補足				
準備学習	毎回、卒業研究論文の進捗状況の報告のために、執筆を進める必要があります。				
学習到達目標	卒業研究論文を完成させ(20ページ以上)、自己の問題意識とその解決方法について口頭発表をします。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	卒業研究論文を完成させ、口頭発表をして自己の研究について説明をすることができたかをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加・論文執筆進捗状況報告(30%)、卒業論文(35%)、卒業研究口頭発表(35%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2,金3
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、「研究および作品制作」をスケジュールに従って順次行う。各自、自ら決定した研究テーマについて、適宜、研究の進捗状況を担当教員に報告する。				
授業方針	各自、自己の関心に照らして、卒業研究のテーマを設定する。単に作品制作を行うのではなく、テーマの意義を深く考える必要がある。テーマの意義を考えるにあたり、必要な文献の読破や作品集などを分析するなど、各自の研究テーマに沿って効率的に卒業研究が行えるよう指導する。また最終発表会に向け、プレゼンテーション能力に磨きをかけていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 後期演習時における注意点などの説明、作品制作および論文作成の進捗状況の報告 第 2回 3DCGと実写合成について 第 3回 AfterEffectを用いた映像制作技術について(前期の復習込み) 第 4回 AfterEffectを用いた実写合成(基礎)技術の修得 第 5回 AfterEffectを用いた実写合成(応用)技術の修得 第 6回 3DCG素材を用いた実写合成について 第 7回 3DCG素材を用いた高度な実写合成技術の修得 第 8回 中間発表(プレゼンテーション形式) 第 9回 Premireを用いた映像制作技術(基礎)の修得 第10回 Premireを用いたリニア編集技術の修得 第11回 Premireを用いた高度なリニア編集技術の修得 第12回 卒業研究作品、レポート提出について最終確認 第13回 最終プレゼンテーションのデモおよび反省会(第1グループ) 第14回 最終プレゼンテーションのデモおよび反省会(第2グループ)、公聴会に向けた準備説明 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(20時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(40時間) ・制作レポートまたは論文の書き方について理解しておくこと。(60時間)				
学習到達目標	卒業制作と制作レポート、もしくは論文の完成				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究の内容の達成度を評価			
	成績評価 方法	作品制作(技能面)40%、制作に関する研究内容(知識面)40%、プレゼンテーション内容(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	演習時、適宜紹介してゆく				
備考	学習内容は個人の目標によって内容が異なるため、担当教員に必ず早期に相談すること				

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	前期に導出したテーマに沿って、調査の実施、調査結果の分析・検討を行い、論文の作成を行う。調査研究能力、プレゼンテーション能力の養成に取り組んでいく。				
授業方針	前半は調査研究に基づいて仮説の検証と仮説の再構築を行う。後半は論文作成とプレゼンテーションを繰り返し、論文のブラッシュアップを図る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 調査研究方法の検討(1) 第 2回 調査研究方法の検討(2) 第 3回 調査の実施(1) 第 4回 調査の実施(2) 第 5回 調査の実施(3) 第 6回 調査結果の分析・検討(1) 第 7回 調査結果の分析・検討(2) 第 8回 調査結果の分析・検討(3) 第 9回 論文発表・討議(1) 第10回 論文発表・討議(2) 第11回 論文発表・討議(3) 第12回 論文発表・討議(4) 第13回 論文最終確認(1) 第14回 論文最終確認(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。				
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、実践できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。			
	成績評価 方法	論文の完成度で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情報社会総合演習II																																	
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期																														
				曜日・時限 火4,水4																														
担当教員	宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)																														
				単位数 4																														
概要 (目的・内容)	前期に引き続いて、情報社会に必要なコミュニケーション能力と問題発見・解決能力とのさらなる養成につとめる。卒業研究(論文)を作成し、研究発表を行うことによって、専門的な知識を獲得し、高度な読解力と自己表現力を獲得する。自己の考えを形にする苦しみを喜び、達成感を味わってもらいたい。																																	
授業方針	卒業研究(論文)の完成に向けて、文献の読解を深め、論文を作成し、それに対する批評を中心に行う。個人指導、グループ指導の時間が中心となる。卒業研究題目の提出、卒業論文の提出、メディア文化専攻合同での卒業研究(論文)発表会を課す。																																	
学習内容 (授業 スケジュール)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方</td> <td>第16回 卒論(草稿)批評- 学生A・C</td> </tr> <tr> <td>第2回 卒業研究題目の決定についての相談</td> <td>第17回 卒論(草稿)批評- 学生E・G</td> </tr> <tr> <td>第3回 夏休み課題の発表と批評(1)- 学生A・B</td> <td>第18回 卒論(草稿)批評- 学生F・H</td> </tr> <tr> <td>第4回 夏休み課題の発表と批評(2)- 学生C・D</td> <td>第19回 卒論(草稿)批評- 学生C・E</td> </tr> <tr> <td>第5回 夏休み課題の発表と批評(3)- 学生E・F</td> <td>第20回 卒論(草稿)批評- 学生D・F</td> </tr> <tr> <td>第6回 夏休み課題の発表と批評(4)- 学生G・H</td> <td>第21回 卒論(草稿)批評- 学生A・G</td> </tr> <tr> <td>第7回 卒業論文作成の進め方</td> <td>第22回 卒論(草稿)批評- 学生B・H</td> </tr> <tr> <td>第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読</td> <td>第23回 卒論中間発表- 学生A・B・C・D</td> </tr> <tr> <td>第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)</td> <td>第24回 卒論中間発表(2)- 学生E・F・G・H</td> </tr> <tr> <td>第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評</td> <td>第25回 発表の仕方- 卒論発表会の準備について</td> </tr> <tr> <td>第11回 卒論(草稿)批評- 学生A・B</td> <td>第26回 発表の仕方(2)- レジюмеと内容</td> </tr> <tr> <td>第12回 卒論(草稿)批評- 学生C・D</td> <td>第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評</td> </tr> <tr> <td>第13回 卒論(草稿)批評- 学生E・F</td> <td>第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目</td> </tr> <tr> <td>第14回 卒論(草稿)批評- 学生G・H</td> <td>第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会</td> </tr> <tr> <td>第15回 卒論(草稿)批評- 学生B・D</td> <td></td> </tr> </table>				第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方	第16回 卒論(草稿)批評- 学生A・C	第2回 卒業研究題目の決定についての相談	第17回 卒論(草稿)批評- 学生E・G	第3回 夏休み課題の発表と批評(1)- 学生A・B	第18回 卒論(草稿)批評- 学生F・H	第4回 夏休み課題の発表と批評(2)- 学生C・D	第19回 卒論(草稿)批評- 学生C・E	第5回 夏休み課題の発表と批評(3)- 学生E・F	第20回 卒論(草稿)批評- 学生D・F	第6回 夏休み課題の発表と批評(4)- 学生G・H	第21回 卒論(草稿)批評- 学生A・G	第7回 卒業論文作成の進め方	第22回 卒論(草稿)批評- 学生B・H	第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読	第23回 卒論中間発表- 学生A・B・C・D	第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)	第24回 卒論中間発表(2)- 学生E・F・G・H	第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評	第25回 発表の仕方- 卒論発表会の準備について	第11回 卒論(草稿)批評- 学生A・B	第26回 発表の仕方(2)- レジюмеと内容	第12回 卒論(草稿)批評- 学生C・D	第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評	第13回 卒論(草稿)批評- 学生E・F	第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目	第14回 卒論(草稿)批評- 学生G・H	第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会	第15回 卒論(草稿)批評- 学生B・D	
第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方	第16回 卒論(草稿)批評- 学生A・C																																	
第2回 卒業研究題目の決定についての相談	第17回 卒論(草稿)批評- 学生E・G																																	
第3回 夏休み課題の発表と批評(1)- 学生A・B	第18回 卒論(草稿)批評- 学生F・H																																	
第4回 夏休み課題の発表と批評(2)- 学生C・D	第19回 卒論(草稿)批評- 学生C・E																																	
第5回 夏休み課題の発表と批評(3)- 学生E・F	第20回 卒論(草稿)批評- 学生D・F																																	
第6回 夏休み課題の発表と批評(4)- 学生G・H	第21回 卒論(草稿)批評- 学生A・G																																	
第7回 卒業論文作成の進め方	第22回 卒論(草稿)批評- 学生B・H																																	
第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読	第23回 卒論中間発表- 学生A・B・C・D																																	
第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)	第24回 卒論中間発表(2)- 学生E・F・G・H																																	
第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評	第25回 発表の仕方- 卒論発表会の準備について																																	
第11回 卒論(草稿)批評- 学生A・B	第26回 発表の仕方(2)- レジюмеと内容																																	
第12回 卒論(草稿)批評- 学生C・D	第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評																																	
第13回 卒論(草稿)批評- 学生E・F	第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目																																	
第14回 卒論(草稿)批評- 学生G・H	第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会																																	
第15回 卒論(草稿)批評- 学生B・D																																		
準備学習	①研究計画の修正や進行、卒業論文の作成に当たっては随時指導を求めること。(15時間) ②研究計画と指導にしたがって卒業論文の作成に従事すること。 ③コメントや添削、批判を踏まえて、卒業論文を修正すること。 ④研究発表に当たっては、レジюме、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、予行演習を繰り返して準備すること。																																	
学習到達目標	①個別の研究テーマを深く掘り下げ、自己の見解を的確に文章化し、卒業論文を完成させ、②卒業研究(論文)発表会において研究成果をしっかりと発表することを目標とする。同時に、③他人の発表に対し、適切にコメントし、有意義な議論が形成できるようになることを目標とする。																																	
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①より良い卒業論文の完成に向けて努力し、達成できたか。②卒業研究(論文)発表会において研究成果を立派に発表できたか。																																
	成績評価 方法	毎回の課題達成度 30% 卒業研究(論文)40% 卒業研究(論文)発表 30%																																
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。																																
教材	(1)教科書 プリント(文献コピー)を配布する。 (2)参考書 授業中随時指導する。 (3)その他																																	
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。																																	



科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	初回に具体的なテーマを検討し、それに基づき制作を行ってゆく。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 テーマの決定とディスカッション 第 2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第 3回 タイムテーブル作成 第 4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第 5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第 6回 文献資料・音源資料のまとめ 第 7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第 8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第 9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジューメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	提出作品70%、レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[09クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4,金4
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングに関連するテーマについて卒業研究を行う。				
授業方針	この演習は1年間を通して行う卒業研究の最終段階である。まず、前期に行った研究を総括し、必要ならば研究テーマや方針を変更する。その後、研究レポートの執筆にむけて研究の仕上げを行う。最後に、研究内容をレポートにまとめるとともに、口頭発表を行う。 なお、コンピュータ実習には各自のノートPCを用いる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1週 前期の総括と後期の計画 第2週 研究報告と議論(1) 第3週 研究報告と議論(2) 第4週 研究報告と議論(3) 第5週 研究報告と議論(4) 第6週 研究報告と議論(5) 第7週 研究報告と議論(6) 第8週 研究報告と議論(7) 第9週 レポート作成の要領 第10週 レポート作成(1) 第11週 レポート作成(2) 第12週 レポート作成(3) 第13週 レポート作成(4) 第14週 研究発表準備 第15週 レポート作成 注:研究テーマは教員と相談の上、各自が決める				
準備学習	研究にかかわる作業を進める。(120時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進める。 (2)研究成果を適切にレポートにまとめる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができたか。 (2)研究成果を適切にレポートにまとめることができたか。			
	成績評価 方法	平常点30%+研究レポートおよび口頭発表70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜指示する				
備考	本演習のレポートは卒業論文に相当するものである。				

科目名	情報社会総合演習II			
クラス	[10クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3,月4
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、デジタル技術を利用した作品制作とプレゼン指導を行う。デザイン専用ソフトウェアの操作知識、応用について作品制作の実践を通じて学び、コンテンツ制作手法について理解を深める。			
授業方針	デジタル技術を駆使したコンテンツ制作に必要な制作手法について指導する。作品制作を通じて自身の興味対象や文化への理解を深めるため、参考となる文献や資料を紹介する。研究発表に求められるプレゼン能力、対話力についても指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究課題検討 ディスカッション 第2回 卒業論文準備(1) 論文輪講 第3回 卒業論文準備(2) 事例研究(メディア・デザイン) 第4回 卒業研究作品制作(1) デザインコンセプト 第5回 卒業研究作品制作(2) アプリケーションサービス 第6回 卒業研究作品制作(3) オープンデザイン戦略 第7回 卒業研究作品制作(4) 機能の階層化 環境認知 第8回 卒業研究課題の中間報告 第9回 卒業論文指導(1) 研究課題報告 質疑応答 第10回 卒業論文指導(2) 研究状況報告 質疑応答 第11回 卒業論文指導(3) 論文まとめ 第12回 研究発表指導(1) プレゼンテーション指導 第13回 研究発表指導(2) 発表準備 質疑応答 第14回 研究発表最終報告 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題、最終レポート課題作成(20時間) 指定した教科書の要点をまとめ、卒業研究に関する予習と復習をしておく(30時間)			
学習到達目標	高度な専用ソフトウェアの操作について学び、各種コンテンツ制作やUI/UX提案ができるようになる。 最新のデジタル技術について学び、情報メディアの課題や特徴について説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	高度な専用ソフトウェア操作について学び、デジタル・コンテンツ制作に必要な応用技術を身につけて利用することができる。 最新のデジタル・コンテンツについて学び、情報メディアの課題や特徴について説明できる。		
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題20% 最終課題(プレゼンテーション・作品提出)50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:開講時指定。 参考書:授業内で適宜指示する。			
備考	欠席する場合は必ず連絡すること。学習に関する相談は適時対応します。			

科目名	3DCG演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容は3DCG制作の実務経験に基づき構成されており、3DCG制作に必要とされている専門的知識・技能を扱う実践的科目である。3DCGの活用を中心としたクリエイティブなコンテンツの制作を行う【実務】				
授業方針	本科目では、3DCG用ソフトウェア【Maya】を用いて3DCGの基礎工程を学びながら、専門知識と技能を修得する。基礎工程を学んだ後に、課題に基づいたアイデアを創出して、静止画作品の制作を行う。作品の完成後には、作品発表を通じてプレゼンテーション能力の素養を身に付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、CG制作のワークフローと授業内容の説明 第2回 演習(1)インターフェースの説明、ポリゴンモデルの説明 第3回 演習(2)モデリング(ポリゴンの追加・削除) 第4回 演習(3)モデリング(ポリゴンの形状変化) 第5回 演習(4)モデリング(スカルプトツールを用いた高度な造形手法) 第6回 演習(5)シェーダーとライティングに関する技能の修得 第7回 演習(6)レンダリング手法(ソフトウェアレンダリング) 第8回 演習(7)高度なシェーダーやレンダリング手法に関する技能の修得 第9回 演習(8)アイデアやイメージの作り方、静止画作成に関する注意事項 第10回 修得状況に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、制作課題のチェック 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 最終審査 兼 講評会(プレゼンテーション形式) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・授業開始までに該当する箇所を予め読み、専門用語を調べておくこと。(20時間) ・授業で得た専門用語や技能は必ず復習しておくこと。(20時間) ・個人作品のテーマを決め、関連する作品や事柄に関する情報収集を行っておくこと。(20時間)				
学習到達目標	1) CGIに関する基礎工程、専門知識、技能の修得 2) 見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技能の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	課題制作にはAdobe Photoshopに関する技能・知識が求められる場合がある。よって、1,2年次のメディア文化専攻の演習科目において予めAdobe Photoshopを修得しておくことを推奨する。				

科目名	e-ビジネス論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	米国の研究者が行った「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は大学卒業時に今は存在していない職業に就く」という予測にあるように、今後はよりインターネットに関連したe-ビジネスに依存した社会になるであろう。本授業では代表的なe-ビジネスのビジネスモデルを検証し、その意味、業界構造・競争状況などを分析しながら、e-ビジネス全体の今後について考えていく。ITベンチャーでの実務経験を参考にした実践的科目。【実務】				
授業方針	e-ビジネスは「今」を反映し、常に変貌しているビジネスである。過去や現在についての内容を座学として「覚える」のではなく、将来にも繋がる「本質」を各自が自分の頭で考え、掴むプロセスが重要である。今後の産業のあり方、自分自身のキャリア形成のあり方を並行して考えられるような授業運営を行う予定である。ディスカッション、ペア・ワーク/グループ・ワークなども適宜採り入れていきたい。毎回授業の最後に腹落ちした内容等を「学習シート」に各自まとめることによって理解を深める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 eビジネスの概略 第2回 e-ビジネスの歴史 第3回 e-ビジネスの本質(仮説作成) 第4回 企業研究(OS、アプリ) 第5回 企業研究(検索) 第6回 企業研究(EC) 第7回 企業研究(スマホ) 第8回 企業研究(フィンテック) 第9回 企業研究(SNS) 第10回 企業研究(シェア) 第11回 企業研究(IOT) 第12回 企業研究(AI,VR,AR) 第13回 起業シミュレーション 第14回 eビジネスの本質(仮説検証) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習は特に必要ないが、授業で採り上げる企業の商品、サービスなどについて、日頃から注意を払い、「このビジネスの勘所、本質は何なんだろう」(つまり、強み・弱み、他企業と比較した優位性など)を考えておくと、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度には大きなプラスになる。				
学習到達目標	代表的なe-ビジネスについて、そのビジネスモデル、本質などについて「腹落ち」していること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	代表的なe-ビジネスについて、それぞれのビジネスモデル、本質などについて自分の言葉で他人に説明できるか			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	Webデザイン応用演習			
クラス		対象学年		開講学期 前期
				曜日・時限
担当教員	渡邊 英弘			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	ウェブデザインに必要な知識(HTML,CSS)をより確実なものとし、現在のウェブデザイン分野で求められている技術を制作しながら学びます。 (注)「Webデザイン基礎演習」を終了した学生が対象の講義です。詳細は担当教員から説明します。			
授業方針	講義は指定教科書に沿って進めます。 但し、学生中心の授業に基本を置くので、意欲ある学生は自分のペースでスケジュールを消化することも可能です。 使用ソフトウェアはDreamweaverを中心とし、イメージ制作ツールとしてPhotoshop、Illustratorを使用します。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1、講義概要説明とウェブデザインの今 2、レイアウトの基礎と設定:レスポンシブデザインの基本と設定 3、レイアウトの基礎と設定:レスポンシブデザインの基本と設定 4、ページのベース準備・ブログ、ニュース・スタイルの基本レイアウトとコンテンツ挿入 5、ブログ、ニュース・スタイルのレスポンシブ対応とパーツ追加 6、ブログ、ニュース・スタイルのレスポンシブ対応とパーツ追加 7、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る 8、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る:パーツの追加 9、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る:調整と完成 10、ビジネス・スタイルのトップページを作る:レイアウトとコンテンツ 11、ビジネス・スタイルのトップページを作る:レスポンシブと調整 12、ビジネス・スタイルのトップページを作る:パーツの追加 13、ビジネス・スタイルのコンテンツを作る:ページの作成と調整 14、ビジネス・スタイルのコンテンツを作る:パーツの制作、調整と完成 15、まとめ及び試験			
準備学習	1、教科書使用時には授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorの実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、ウェブデザイン分野(技術を含める)の見聞を広げるために、日頃より企業などのウェブサイトを観察すること。(10時間)			
学習到達目標	この授業で学ぶ知識や技術はウェブデザイン分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 知識として学んだ事を作業で再現できるか。 b) 学んだことを応用して独自の形へ発展できるか。 c) PCでの作業を円滑に進める事ができるか。		
	成績評価 方法	期末試験50% 授業内提出作品30% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)教科書:HTML5&CSS3デザインブック ソシム社 (2)その他:配布物			
備考	授業スケジュールは開講後に変更の可能性があります。			

科目名	Webデザイン基礎演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ウェブサイト構築に必要な基礎知識(HTML,CSS)を学び、実際に制作します。				
授業方針	講義は指定教科書に沿って進めます。 但し、学生中心の授業に基本を置くので、意欲ある学生は自分のペースでスケジュールを消化することも可能です。 使用ソフトウェアはDreamweaverを中心とし、イメージ制作ツールとしてPhotoshop、Illustratorを使用します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 講義内容説明、基礎知識説明 第 2回 WEBページの土台を作る 第 3回 HTMLによる文字のデザインとマークアップ 第 4回 ボックスという概念 第 5回 デザインを考える 第 6回 画像の加工・制作と構成 第 7回 ページを増やす 第 8回 ナビゲーションの設置 第 9回 ページ体裁を整える 第10回 ページ体裁を整える 第11回 トップページの制作 第12回 トップページの制作 第13回 テーブルの制作 第14回 投稿フォームの制作、整理と調整 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1、教科書使用時には授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorの実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、ウェブデザイン分野(技術を含める)の見聞を広げるために、日頃より企業などのウェブサイトを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	ウェブサイトの構造を学ぶことで、自作ウェブサイトを構築しインターネット上に公開できるようになること。 制作を通してインターネットの可能性や危険性を知ること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a)ウェブサイトの基本構造理解。 b)応用への自発的姿勢の表れ。			
	成績評価 方法	期末試験50%、授業への参加態度30%、完成作品20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:HTML5&CSS3レッスンブック ソシム社 (2)その他:配布物				
備考	授業スケジュールは開講後に変更の可能性があります。				

科目名	アート・コミュニケーション論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	最近「コミュニケーション」という言葉が様々な場面で使われるようになったが、ここでは一つの学問として「コミュニケーション」を扱う際の見方を提示する。様々なジャンルのアートを適宜例にとりながら、言語的な面及び非言語的な面から、私達が普段何気なく行っている様々な「コミュニケーション」を見直すきっかけにもなるような内容としたい。				
授業方針	「コミュニケーション学」の立場に基づいた基本的な考え方を講義する。その後、関連する内容のグループワークを行うことを通して、講義で扱った内容をなるべく現実のものとして捉えてもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 コミュニケーションとは何か 第2回 コミュニケーションの特性 第3回 非言語コミュニケーション1: 身体とコミュニケーション 第4回 非言語コミュニケーション2: 空間、時間、視線とコミュニケーション 第5回 言語コミュニケーション1: 言語の特性 第6回 言語コミュニケーション2: ダイグロシヤ、ピジン、方言 第7回 言語とコミュニケーション3: ポライトネス・ストラテジー、コンテキストについて 第8回 音楽とコミュニケーション: ライヴ体験におけるコミュニケーション 第9回 演劇とコミュニケーション: 演技とは何か 第11回 ダンスとコミュニケーション: 自分の身体と他者の身体 第12回 異文化コミュニケーション: 文化とは何か 第13回 日本のコミュニケーションの特徴 第14回 対人コミュニケーション、集団コミュニケーション 第15回 マス・コミュニケーション				
準備学習	前の授業でその都度指示する。				
学習到達目標	「コミュニケーション」の意義と課題について、自覚的に知見を深め、自らの生活や人生との関わりを体感する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションについての様々なあり方を理解できたかどうか。それを単なる知識としてではなく、社会の中で生きる自分自身の日々の生活に照らし合わせ、フィードバックできているかどうか。			
	成績評価 方法	平常点30%、最終レポート70%の合算によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	映像資料、プリントを適宜用意する。				
備考	正当な理由や事前連絡なしに全体の3分の2以上の授業を欠席した場合には自動的に履修資格を失う。				



科目名	アート批評論 I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「アート」を「批評」とはどのようなことでしょうか。アート(芸術)作品を見て、ただ眺めたり、ああ面白いなと思ったりするだけでは「批評」になりません。この授業では、これまでの西洋や日本の芸術批評/文芸批評の流れを見ることによって「批評」とは何かを学び、これを実際に実践していきたいと思えます。				
授業方針	いくつかの批評テキストを読んでいくことで、文章読解の力を身につけ、自ら文章を書いていく訓練もしていきます。このような読み書きの実践とともに、アート(芸術)をめぐる状況について講義形式で解説していきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 イン트로ダクション: 批評とはいったいどのようなものか。 第2回 日本人によって書かれた批評文を読んでみる 第3回 前回読んだ批評文を要約してみる 第4回 20世紀の批評: ボードレルからベンヤミンへ 第5回 ベンヤミンの映画批評を読む 第6回 ベンヤミンの映画批評を読む(2) 第7回 これまでのおさらいと批評文を書く実践 第8回 学生の批評文の添削 第9回 写真に関する批評文を読む 第10回 写真に関する批評文を読む(2) 第11回 現代アートをめぐる批評の状況 第12回 具体的な現代アート批評文を読む 第13回 批評の実践② 第14回 批評文の添削 第15回 レポートあるいは批評文の作成				
準備学習	授業用のテキストを配る予定ですが、それを全部授業内で読む時間はありません。授業外で読んできてもらうことが必須となります(30時間) また批評とは日常的な出来事について考えることでもあります。自分の身の回りに生じているいろいろなことに興味を持つようにしましょう(15時間)				
学習到達目標	読む能力、書く能力という、大学でもその後の人生でも必要なこの基本的な能力を向上させ、確かなものとしていきましょう。そして、今世界で起こっている出来事についてじっくり考えていくことのできる思考力を身につけていきましょう。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内で説明したこと、そして訓練したことがレポートにどれだけ反映されているかを見ます。			
	成績評価 方法	授業への参加度40%、レポート60%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書の指定はなし。 2)参考書は、毎回の内容に応じてその都度紹介する。				
備考					

科目名	アート批評論Ⅱ			
クラス		対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	二本木 かおり			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	批評もまた一つの作品です。今この時代に、多様な要素が組み合わさって生まれたアート作品にある感性や方法論を自分なりに味わい、その楽しみを共有すること。そして、豊かな眼差しによってアートの世界をより拡大させていくこと。そんなアート批評の役割を担う視線と表現力を養います。アート作品の理解を深め、書き手の個性を生かす批評を繰り広げることが目的です。			
授業方針	あくまでも実践を通して各々の批評力を高めていきます。毎回、音楽・映画を中心としたアート作品に触れ、その作品性について様々な観点からの発見を見出し、実際に書かれた批評の観点や文章としての表現構成を分析し、最終的に、自分ならではのアプローチで批評してみます。状況によっては、ディスカッションも行います。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 感想ではなく批評であるとはどういうことか 第2回 音楽批評1 音楽としての世界観を、歌詞だけに頼らず味わう 第3回 音楽批評2 ステレオタイプなラベル貼りから距離を保つ 第4回 音楽批評3 作品テーマを自分なりに受け止める 第5回 音楽批評4 一般的に親しみにくい作品を味わう案内人となる 第6回 映画批評1 物語だけに依存せずに映画の世界観を味わう 第7回 映画批評2 視聴覚の総合として、作品を捉える 第8回 映画批評3 ゼロから視聴覚を構成するアニメーションの味わいを伝える 第9回 映画批評4 ドキュメンタリーの手法にアプローチする 第10回 映画批評5 大衆的な作品を独自目線で切り込んでみる 第11回 MV批評 広告の機能もあるミュージックビデオの実験性を発見する 第12回 現代アート批評1 いかなる解釈で受け止めるか、自分の眼差しを打ち出す 第13回 現代アート批評2 要素が複雑に入り組んだ作品を紐解く 第14回 まとめ及び試験1(音楽作品批評) 第15回 まとめ及び試験2(映像作品批評)			
準備学習	少しでも面白そうだったアート作品には、面倒がらずに足を運び実際に体験してください。それが、皆さんだけの眼差しの基盤となります。その際、ただ見たり聴いたりするだけでなく、自分の感じたことを言葉に置き換えてみる習慣をつけましょう。体験したものに自分の批評メモを残し、あくまでも言葉を使って作品を共有する姿勢を育ててください。			
学習到達目標	アート作品を体験して、単純な感想だけで終わらず、その作品価値とは何なのかを自分なりに探索し、様々な人と共有することを目的としています。広告展開やメディアの言説、ネット上の感覚的な意見に惑わされずに、自分の見方で作品価値を理解する力を身につけてもらいます。そうすれば、難解とみなされるアート作品についても、大衆的とみなされるポップカルチャーについても、柔軟にその面白さを発見し、アートの世界を拓いていけるのです。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	アート作品に対し、安直な感想で終わらせずに深く味わうことができるか。受け売りのイメージではなく、自分なりの理解をし、そのプロセスを文章化できるか。不特定多数の多様な価値観をもつ人々に向けた、伝わる文章を構成できるか。インプットにおける独自の視線の構築と、アウトプットにおける文章表現構成力を評価します。		
	成績評価 方法	各講義終了時に提出する批評 40% 試験で記述する批評 60%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『映画批評のリテラシー』フィルムアート社 ほか、毎回具体的な作品・批評を提示します。			
備考	批評は、考えるだけでなく書かなければ始まりません。書くことを億劫がらず、毎回の講義で積極的に実践することを求めます。			

科目名	コンピュータ画像処理			
クラス		対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	森沢 幸博			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いた図形と画像処理に関する専門知識について学び、エンタテインメント分野をはじめとする様々な業界で活躍できる制作スキルを身につける。3次元物体の認識や動画像の処理などの最新技術とその応用事例についても取り上げる。			
授業方針	本講義は、CG-ARTS協会「CGクリエイター検定(ベーシック)」対応科目となっている。授業終了までに、CGクリエイター検定(7月・11月 年2回実施)を受験することが単位認定条件となる。コンピュータを使った画像処理の基本と応用事例について検定教科書の内容を中心に学び、画像処理技術の知識を幅広く習得することを目指す。授業内で全10回の小テストを実施。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 CG/映像表現の歴史 第2回 デジタル画像処理システムとメディアテクノロジー 第3回 グラフィック表現とデッサン 第4回 2次元画像生成、写実的效果と絵画的効果 第5回 デジタルデザインプロセス 第6回 色彩科学、カラーモデル、視知覚の特性 第7回 画像変換、コントラスト変換、平滑化 第8回 画像の合成、クロマキー処理、マスク処理 第9回 3DCG基礎知識(1) モデリング 第10回 3DCG基礎知識(2) マテリアル 第11回 3DCG基礎知識(3) アニメーション 第12回 3DCG基礎知識(4) レンダリング合成 第13回 ハードウェアとソフトウェア 第14回 知的財産権 著作権 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	毎授業の時間内に実施する小テストについて事前に調べ、専門用語の意味などについて理解する(20時間) 中間課題、最終作品課題作成(10時間) 指定した教科書の要点をまとめ、CG検定に必要な知識について予習と復習をしておく(30時間)			
学習到達目標	画像処理技術の理論と実践を両立した講義を通じて、双方のスキルをバランス良く修得し、独自で画像加工が行えるようになる。3DCG専門ソフトウェアの基礎操作を身につけ、グラフィックイメージを制作することができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	デジタル画像/映像の基本技術を理解し、専用ソフトウェアの機能を用いてイメージ制作ができる。		
	成績評価 方法	中間課題30% 中間レポート課題30% 最終課題40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:「入門CGデザイン」CG-ARTS協会編 ベーシック対応 参考書:「デジタル映像表現」CG-ARTS協会編 エキスパート対応			
備考	コンピュータなど情報機器の基本操作について習得しておくこと。			

科目名	サウンド・プログラミング演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を発想する上で最も重要な要素である、音色、リズム、音列などをコンピュータ上の情報として扱う方法を学ぶ。実習をマルチメディア開発環境であるMaxを用いて行う。この科目は、企業でのアプリケーション開発、音源制作経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う実践的科目である。 【実務】				
授業方針	通常の授業中に課す制作課題はその都度提出してもらうことになる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 コンピュータ・ミュージックとは 第 2回 Max基礎 第 3回 MaxとMIDI 第 4回 MIDIを用いたパッチの作成 第 5回 アルゴリズムコンポジション(ランダム) 第 6回 アルゴリズムコンポジション(確率) 第 7回 アルゴリズムコンポジション(マルコフ連鎖) 第 8回 Maxを用いた2Dグラフィックス 第 9回 音響合成(基礎) 第10回 音響合成(加算合成) 第11回 音響合成(FM合成) 第12回 音響合成(フォルマント) 第13回 音響合成(細粒合成) 第14回 総合制作 第15回 制作発表:まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	アプリケーションの使用法を理解し、それを効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	学期末課題 60%,中間課題40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考	受講資格:コンピュータを用いた基本的な音楽制作が出来る者。				

科目名	システム管理				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	高畑 一夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	今日の企業では、様々な情報システムを活用して業務が行われている。本講義では、企業などに就職した際に、サーバの基本ソフトやアプリケーションなど社内システム管理者に必要な基本事項を実習を中心に学習する。また、サーバの分解や組み立てについても学習する。				
授業方針	本講義では、Linuxのインストール、基本操作やオープンソースを中心に様々なアプリケーションの使用法を紹介するが、それらの暗記が目的ではなく、実際にそれらのアプリケーションを使用してどのようなサービスが構築、運用、そして保守していくか実践学習していく。また、毎回課題があるので、そのレポートを毎回作成してもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 Linuxの概念と学習の準備 第 2回 サーバにOSをインストール 第 3回 基本操作演習 第 4回 ファイル管理1 第 5回 ファイル管理2 第 6回 ユーザとグループ管理 第 7回 Linux操作実習 第 8回 viの操作演習 第 9回 シェル1演習 第10回 シェル2演習 第11回 ファイルの操作演習 第12回 ソフトウェアパッケージ演習 第13回 サーバツール演習 第14回 サーバとプロセスの管理 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	パソコンの基本操作を習得しておくこと、またコンピュータ概論 I・II、情報ネットワーク論の単位を取得しておくこと				
学習到達目標	基本ソフトや様々なサーバアプリケーションの機能を理解し、企業等に就業した際、社内システムの管理や業者との調整ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	社内システムに必要な機能を考慮し、システム構築・運用について、各自考察できるようになること			
	成績評価 方法	出席・レポート50% 試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する				
備考	ひとり1台を使ったlinuxサーバ構築実習演習授業であり、積み上げ学習方式で進めるため、欠席すると分からなくなります				

科目名	デジタルサウンド演習I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金5
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識(シンセサイザー、音響機器、MIDI信号、オーディオ信号等)の習得を主な目的とする。シーケンスソフト、シンセサイザー、オーディオ機器等を使用して音楽制作の実習を行う。				
授業方針	コンピュータで音楽を扱う為の基礎知識習得のための講義と、実際に音楽を制作する実習とを併せて行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 デジタルサウンド基礎 第2回 音楽制作の基礎(コンピュータ) 第3回 音楽制作の基礎(ミキサー) 第4回 MIDIデータの入力(リアルタイムレコーディング) 第5回 MIDIデータの編集1(デュレーション・ベロシティ) 第6回 MIDIデータの編集2(各種コントローラ) 第7回 MIDIデータの入力(ステップ入力) 第8回 簡単なMIDIデータと簡単アレンジ1 第9回 簡単なMIDIデータと簡単アレンジ2 第10回 作品発表 第11回 オーディオを利用した音楽制作(オーディオファイル) 第12回 オーディオを利用した音楽制作(オーディオファイルの編集) 第13回 オーディオを利用した音楽制作(エフェクタの活用) 第14回 作品制作と意見交換 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	専門用語の意味などを復習しておくこと。				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業参加度20%、作品提出30%、学期末制作課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 プリント、他は講義開始時に指示する				
備考	受講希望者多数の場合は抽選で受講生を決定する場合がある。 中学校程度の音楽能力(ト音譜表、ヘ音譜表が読める)が必要。				

科目名	デジタルサウンド演習II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金5
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デジタルサウンド演習1で学んだ基礎知識を発展、応用させ、DAWソフトへの理解を深める。				
授業方針	コンピュータで音楽を扱う為の基礎知識を随時復習しながら応用させる為の講義と、実際に音楽を制作する実習とを併せて行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 デジタルサウンド応用 第 2回 音楽制作の応用(コンピュータ) 第 3回 音楽制作の応用(ミキサー) 第 4回 様々なシンセサイズについて 第 5回 加算合成と減算合成の復習 第 6回 FM音源 第 7回 物理モデリングシンセについて 第 8回 MIDIデータによるエクスプレッション 第 9回 MIDIデータによるモジュレーション音色の変化コントロール1 第10回 MIDIデータによるモジュレーション音色の変化コントロール2 第11回 オーディオファイルを利用したDAW 第12回 様々なプラグインの活用方法 1 第13回 様々なプラグインの活用方法 2 第14回 作品制作と意見交換 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	専門用語の意味などを復習しておくこと。				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業参加20%、作品提出30%、学期末制作課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 プリント、他は講義開始時に指示する				
備考	デジタルサウンド演習I履修者に限る。 受講希望者多数の場合は抽選で受講生を決定する場合がある。				

科目名	デジタルデザイン応用演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デザインをする時の感覚と知識をグラフィック・デザイン演習によって吸収します。 このクラスは「平面構成演習」で基礎知識を身につけた学生を対象としますが、教員の判断により受講することも可能です。				
授業方針	実技中心の授業です。 教科書に沿った授業構成ですが、常に「自己表現」を意識した演習を行います。 使用ソフト: Adobe Illustrator、Adobe Photoshop				
学習内容 (授業 スケジュール)	1、講義内容説明、基礎知識: デザインとは 2、基礎知識: 必要な意識と準備 3、構成の演習: 線を使用した演習 4、構成の演習: 面を使用した演習 5、構成の演習: ホワイトスペースの演習 6、文字を使った演習: 欧文を使用した演習 7、文字を使った演習: 和文を使用した演習 8、文字を使った演習: ジャンプ率とグループ化の演習 9、図形と配色の演習: バランスとリズムの演習 10、図形と配色の演習: グリッドシステムの演習 11、図形と配色の演習: 色を使用したデザイン演習 12、デザインの実践/広告をつくる 13、デザインの実践/広告をつくる 14、デザインの実践/広告をつくる				
準備学習	1、授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorのより実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、グラフィックデザイン分野の見聞を広げるために、日頃から作品集や関連書籍を意識して見ること。(10時間)				
学習到達目標	演習で学ぶ知識や技術はクリエイティブ分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 学んだ事、体感した事を意識した表現ができるか。 b) 独自性を含めた表現ができるか。 c) 自主性が見れるか。			
	成績評価 方法	期末試験40% 授業内提出作品40% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書(グラフィックデザイン基礎講座 / 玄光社)、スケッチブック、描画道具				
備考					



科目名	デジタルデザイン基礎演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	3DCG映像,Webなどのデジタルコンテンツ制作に求められる基礎技能・知識について学習する。 また,コンピュータを利用したデザイン表現について学び,CG制作に必要な基礎能力や応用力の習得を目指す。				
授業方針	本演習では,専用ソフトウェアを用いた2次元CGの制作実習を通じて,CG関連の基礎知識・技能の習得と表現力の向上を目指していく。 2DCGソフトウェア(Photoshop, Illustrator)を用いて,CGグラフィックスの制作演習を行う。 また,社会人として求められる基礎力(発信力, コミュニケーション能力等)の習得を目的としたプレゼンテーションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業方針、演習内容などの説明 Photoshop及びIllustratorの操作説明 第 2回 レイヤー合成基礎:選択操作と写真合成 第 3回 カラーマネジメント:RGB/CMYK カラーモード 第 4回 レイヤースタイル編集:パターンデザイン 第 5回 ベジェ曲線とオブジェクト:パス描画の基本操作 第 6回 デジタルイラスト作画:フィルター処理 第 7回 デジタルイラスト作画:図形編集 配色設定 第 8回 インフォグラフィックス:記号、フラットデザイン 第 9回 グラフィックデザイン(1):ロゴ編集、コラージュ手法 第10回 グラフィックデザイン(2):写真素材加工、レイアウト 第11回 個人作品制作(1):課題テーマ設定、コンテンツ制作 第12回 個人作品制作(2):デジタルコンテンツ制作(静止画) 第13回 個人作品制作(3):デジタルコンテンツ制作(静止画) 第14回 最終プレゼンテーション及び講評会、質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す制作課題の事前準備,専門用語の意味について理解する(10時間) 中間課題,最終作品課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ,Photoshop, Illustratorの基礎操作について予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	デジタルデザイン制作に関する基礎知識・技能を理解して,専門的な節目ができるようになる。 2DCG専門ソフトウェアの基礎操作を身につけ,グラフィックイメージを制作することができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	2DCG制作に関する基礎知識について説明できる。 Photoshop, Illustratorのレイヤー機能,パス編集機能等を用いてグラフィックイメージを作成することができる。			
	成績評価 方法	課題作品に対する中間レポート20% 最終課題作品30% 作品報告(中間+最終発表)50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「世界一わかりやすいIllustrator&Photoshop操作とデザインの教科書」技術評論社 参考書:授業内で適宜指定する。				
備考	指定の教科書を必ず持参すること。				

科目名	デジタル映像表現				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	CG映像制作に関する基礎知識をもとに、より専門的なCG映像制作を行う。特殊効果やシミュレーション機能等について学び、多様化するCGアニメーションの制作技法や専門技術を実習制作を通じて身につける。				
授業方針	本講義では、3DCG制作のソフトウェア(Maya)を活用したオリジナルアニメーション作品制作を中心とした実習を行う。また、物理シミュレーションや特殊効果に関する映像技術や専門知識の習得を目標とする。最終課題として、3DCGソフトを使用したオリジナル映像作品を指定する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 CGアニメーションの制作基礎 第2回 3次元コンピュータ映像の特徴と制作基礎 第3回 3次元モデリングによるキャラクター制作 第4回 質感設定、隠面処理、シェーディング設定 第5回 キーフレーム法によるアニメーション制作 第6回 シーン設定、カメラアニメーション基礎 第7回 パーティクル機能、特殊効果設定 第8回 キャラクターモデルを利用したアニメーション表現 第9回 ダイナミクス機能を利用した動きの編集 第10回 キャラクターアニメーション編集手法 第11回 課題制作実習(1) 画像合成 第12回 課題制作実習(2) 特殊効果設定 第13回 課題制作実習(3) ノンリニア編集 第14回 作品発表、質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終作品課題作成(30時間) 指定したソフトウェアの操作法をまとめ、3DCG技術に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	3DCG映像を制作するために必要な専門ソフトウェアの基礎知識を身につけ、映像制作に必要な技術や応用知識について説明ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	3DCGの制作技術や応用機能について説明ができる。専用ソフトウェアを使用して映像作品の制作ができるようになる。			
	成績評価 方法	授業参加度30% 中間レポート課題30% 最終課題作品40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:開講時に指示 参考書:「デジタル映像表現」CG-ARTS協会編 エキスパート対応				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	データベース論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	柴田 義孝			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>計算機によるデータ処理の範囲と種類の増大により、むだ(同じデータ項目の重複)、不一致(同じデータ更新のタイミングのズレなどによる不一致)、矛盾(不一致データの演算結果は矛盾)などが生ずる。これらを解決した新しいデータファイルがデータベースである。簡単な構造を理解し、基礎的応用に対する理解を深める。</p>				
授業方針	<p>本講義では、関係データベース(RDB)を基本に置き、データモデルとデータベースシステムの基本概念を学習させ、演習を通してデータ設計(特にデータの正規化)やデータ操作、データ管理の原理と方法(データベース管理システム)を理解させる。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 ガイダンスおよびデータベースシステムの基礎概念  第 2回 データファイルとデータベースモデル  第 3回 いろいろなデータベースモデル  第 4回 データベースの基本概念と構成  第 5回 関係データモデルのデータベース定義  第 6回 関係データモデルの整合性制約  第 7回 関係データモデルの正規化  第 8回 関係データベース言語SQL(Structured Query Language: 構造化問い合わせ言語)(含む実習)  第 9回 SQLによるデータ定義(含む実習)  第10回 SQLによるデータ操作(含む実習)  第11回 SQLによる問合せ処理(含む実習)  第12回 SQLのデータ操作(計算・グループ化・結合)(含む実習)  第13回 SQLのトランザクション処理(並行処理・デッドロック)  第14回 データベースの新たな展開(Web化データベース)  第15回 まとめ及び期末試験</p>				
準備学習	<p>図書館、Web情報などでデータベースに関する話題や専門用語に興味を持ち簡単な意味を理解しておくこと。</p>				
学習到達目標	<p>データベースの基本を理解し、データベースの設計と利用について、実践できるようになる。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>適宜、演習課題の提出を通して、結果を達成度評価に加味する</p>			
	成績評価 方法	<p>小レポート20%、実習30%、期末試験50%で総合的に評価する。</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める</p>			
教材	<p>必要に応じてプリント資料を配付する。  参考書:小泉修著:ファイル編成からSQLまで 図解でわかるデータベースのすべて, 日本実業出版社  参考図書・文献等は適宜紹介する。</p>				
備考	<p>大学より供与されたパーソナルコンピュータを有効に活用し、余暇や自宅学習を通じて理解を深めること。  パソコン実習を含むことから「ネットワーク管理」を履修していることが望ましい。</p>				

科目名	データ解析法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	収集したデータから有益な情報を引き出すためには、データを科学的に分析し、そこに含まれている不確定要素やばらつきを定量的に評価する必要がある。本授業では、多くの具体例をとりあげながら、一般的なデータ解析の手法および結果の解釈の仕方について学ぶ。				
授業方針	定量的なデータ解析をするためにはある程度の数理的な能力は必須である。この授業でも、主に中学校レベルまでの初等的な計算は頻繁に出てくる。ただし、抽象的な数学的議論は必要最小限にとどめる。そして、なるべく多くの具体的な事例を引きながらデータ解析の手法を学ぶ。それによって、データを科学的に分析・解釈する能力を養う。必要に応じて、ノートPCを使った実習課題を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 データと統計 第2回 データの特徴(1) 第3回 データの特徴(2) 第4回 確率分布 第5回 標準化／第1回小テスト 第6回 散布図と相関 第7回 相関係数／回帰(1) 第8回 回帰(2) 第9回 母集団と標本 第10回 推定／第2回小テスト 第11回 いろいろな推定(1) 第12回 いろいろな推定(2) 第13回 検定 第14回 いろいろな検定 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	事前に教科書を読んで、学習内容の概略を理解しておく。(30時間) 授業ノートを整理し、課題を実行する。(30時間)				
学習到達目標	(1) データ解析に関する基礎的知識を習得する。 (2) 習得した知識を実際のデータ解析に応用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) データ解析に関する基礎的知識を習得できたか。 (2) 習得した知識を実際のデータ解析に応用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点10%＋小テスト・課題30%＋期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書「親切ガイドで迷わない 統計学」(高橋麻奈, 技術評論社, 2015年) (2)参考書 適宜紹介する。				
備考	PCを使う課題がある。				

科目名	テキスト情報処理			
クラス		対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	田中 克明			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いることにより、「日本語」のように人間が用いる「自然言語」により記された文書を、どのように取り扱うことが可能かを学ぶ。また、1つの文章を対象とした場合、大量の文書を対象とした場合それぞれについて、利用されている単語の抽出や文書の分類を各自で行えるようになることを目指す。この授業では、情報検索システムなどの設計・構築に従事した実務経験を踏まえ、自然言語処理技術の情報システムでの利用例などを採り入れる。【実務】			
授業方針	自然言語を処理するために発展してきた技術について解説する。また、授業中課題を通してその内容を各自で確認する。必要に応じて、各自のPCを用いた実習も行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自然言語処理の概要 第2回 辞書とコーパス 第3回 形態素解析 第4回 形態素解析辞書の構築 第5回 構文解析 第6回 意味解析 第7回 文脈解析 第8回 情報検索 第9回 情報抽出 第10回 機械翻訳 第11回 共起度による分析 第12回 ベクトル空間モデルによる分析 第13回 分析における前処理 第14回 文書分析の実習 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各回の授業内容について、実際の処理を手で追ってみること。課題として授業中に実施した内容と同様の事項を、各自で実施してみること。			
学習到達目標	文を処理するための解析技術について内容を理解し、その動きを再現することができる。また、文書の集合を処理するための技術についてその内容を理解し、実習を通して結果を得ることができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文を処理するための解析技術について内容を理解し、その動きを再現することができるか。および、文書の集合を処理するための技術についてその内容を理解し、実習を通して結果を得ることができるか。		
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書 奥村学、「自然言語処理の基礎」、コロナ社、2010			
備考	必要に応じて各自のPCを用いる。			

科目名	テクノロジーと音楽				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	テクノロジーの進歩は音楽に様々な影響を与えてきた。では音楽家達はテクノロジーの進歩にどのような可能性を見出したのだろうか、また実際にテクノロジーは音楽にどのような変化をもたらしたのか。ここでは20世紀以降の電子音楽、具体音楽、テープ音楽、コンピュータ音楽などの歴史を学ぶと共に、実際の作品を聴きながらそれらの疑問について考察してゆく。				
授業方針	ただ単に講義内容を理解するだけでなく、音楽家が何を考えているのか、音楽の未来はどうなってゆくのかという事柄にもイメージを膨らませ考えて欲しい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テクノロジーと音楽の関係 第2回 20世紀初期の様々な電気楽器(テルハーモニウム) 第3回 20世紀初期の様々な電気楽器(テルミン) 第4回 20世紀初期の様々な電気楽器(オンドマルトノとトラウトニウム) 第5回 テープ音楽の歴史 ピエール・シェフェール 第6回 テープ音楽の歴史 GRM 第7回 テープ音楽の歴史 リュック・フェラーリの音楽 第8回 ドイツ電子音楽の成立の背景 第9回 シュトック・ハウゼンの音楽 第10回 電子音楽スタジオ 第11回 RCAシンセサイザーとモーグ・シンセサイザー 第12回 デジタル音合成 第13回 コンピュータと音楽(黎明期) 第14回 コンピュータと音楽(現在),テクノロジーによる新たな芸術の可能性 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業の内容をどの位理解したか。またそれをもとに自分なりの見方を表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験60%、レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 講義開始時に指示する				
備考					

科目名	デザイン演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私達の身近に存在する様々なデザインに焦点をあて、幅広い視野からデザインの意味、必要性や社会性を研究します。また、個々の学生独自のデザイン論確立をめざし、最終的には自己の持つアイデンティティとの共通性を発見します。				
授業方針	資料はプロジェクター投影を活用して紹介します。 コミュニケーションの機会を設け、他者との意見交換の場を作ります。 講義中心の授業ですが、スケジュールの後半ではPCによるデザイン制作を行います。使用ソフト:Illustrator				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業内容の説明、「デザイン」の説明、作文 第 2回 様々な分野におけるデザインの紹介 第 3回 平面に展開するデザイン1(広告デザインの紹介) 第 4回 平面に展開するデザイン2(表現の読み方) 第 5回 平面に展開するデザイン3(表現の読み方) 第 6回 企業とデザイン1(CIとVI) 第 7回 企業とデザイン2(VIの紹介) 第 8回 企業とデザイン3(VIの紹介) 第 9回 企業とデザイン4(ブランディングを考える) 第 10回 企業とデザイン5(ブランディングを考える) 第 11回 演習(イラストレータに慣れる) 第 12回 試験課題を基にしたワークショップ 第 13回 試験課題を基にしたワークショップ 第 14回 試験課題を基にしたワークショップ 第 15回 講評会およびまとめ				
準備学習	1、定期的に特定のデザインについてのレポートを作成するので、身の回りのデザインを意識的に観察すること。特に、企業のデザインとの取り組み方は意識して観察すること。(30時間) 2、デザイン界の見聞を広げるため、日頃より作品集や関連書籍を意識して見ること。(20時間) 3、デザインは自己表現でもあるので、日頃より自分の「個性」を意識して考えること。(10時間)				
学習到達目標	形や色のもつ意味を知ること、デザインの社会的意義を理解できるようになります。 デザインを知ること「それぞれの視点で考えることの大切さ」が理解できるようになります。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 各自がデザインの意味や意義を理解し、その必要性や重要性を理解できるか。 b) 独自の観点からデザインを論評することができるか。			
	成績評価 方法	期末試験40%、レポート提出30%、授業への参加態度30% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	講義ごとに配布				
備考	授業スケジュール内容は開講後、変更の可能性あり。				

科目名	ネットワーク管理			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	高畑 一夫			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	現在、企業などにおいては、様々な業務がネットワークを利用して行われている。そこで、本講義では、企業などに就職した際に、社内ネットワーク管理を担当したり、業者との調整を担当したりする場合に必要な基礎事項について実習をしながら学習する。			
授業方針	本講義では、様々なネットワーク機器やアプリケーションの利用法を紹介する。実際にはハブ、ルータなどを使用して、どのようにネットワークを構築、運用、保守していくかを、実務を想定して考察できるよう実習をしながら学習していく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 LinuxOSのインストール 第 2回 ネットワーク構築演習 第 3回 IPアドレス設定演習 第 4回 IPアドレスとping演習 第 5回 MACアドレス演習 第 6回 TCPとUDP演習 第 7回 ネットワーク基礎技術まとめ 第 8回 ルーティング(1) 第 9回 ルーティング(2) 第10回 FTP、telnet(1) 第11回 FTP、telnet(2) 第12回 WWW、Mail(1) 第13回 無線LANネットワーク演習 第14回 セキュリティ 第15回 まとめおよび試験			
準備学習	コンピュータ概論 I・II、情報ネットワーク論、情報セキュリティ、システム管理を受講して単位を取得しておくことが望ましい。			
学習到達目標	企業等に就業した際、社内LANの管理や業者との調整ができるようになること。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	ネットワーク構築・運用についての理解度		
	成績評価 方法	出席・レポート50% 試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する			
備考	ネットワークシステム構築実習授業であり、積み上げ学習方式で進めるため、欠席すると分からなくなります			



科目名	ネットワーク社会論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	柴田 義孝			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)などの登場で人々を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、人と人や、人と社会を互いに繋いでいる情報ネットワークについて、その基本的な仕組みとともに、社会生活やビジネス活動を通してその恩恵とリスクについて学んでいく。				
授業方針	これから大学生活を始める皆さんにとって大学生活が様々な人や社会との「つながり」が実践出来るように様々な角度から考える講義としていきたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ガイダンス 第 2回 人と人との「つながり」 第 3回 人と社会との「つながり」 第 4回 情報社会の移り変わりと社会的価値 第 5回 情報が変わっていく社会(1) 第 6回 情報が変わっていく社会(2) 第 7回 情報とコミュニケーション(1) 第 8回 情報とコミュニケーション(2) 第 9回 情報倫理(1) 第10回 情報倫理(2) 第11回 情報ネットワークを構成する情報技術 第12回 インターネット技術 第13回 企業経営と情報システム 第14回 SNS時代のビジネスモデル 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	人や社会と関わることに積極的になる。 様々な「つながり」や情報ネットワークについて学び、人や社会に対して関心が向くようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「つながり」が及ぼす影響力について理解度を評価する。 情報社会の中で受ける恩恵とリスクについて理解度を評価する。 情報ネットワークを支える仕組みについて理解度を評価する。			
	成績評価 方法	小テスト20%、中間テスト30%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 『情報とネットワーク社会』情報処理学会 編集 (2)参考図書 『友だちの数で寿命はきまる 人との「つながり」が最高の健康法』石川 善樹 著 (3)適宜、講義に関する作成資料を使用する				
備考	これから社会で生きていくために、いかに情報ネットワークを上手に使いこなすかが大切であるか理解してもらえるように努めます。				

科目名	ビジネス関連法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>ビジネスに関連する法律の中で税法を中心に講義を行う。税法はビジネス、政治、経済、国際関係などと密接に関係する法律であり、現代社会を知る格好の「入り口」である。税法を通じて日本の「今」を知ること、社会への興味、関心を高めてもらいたい。</p> <p>税理士として税務実務、経営コンサルタントとしてビジネス実務の経験に基づき、社会人として必要な知識、考え方を身につける実践的な科目である。 【実務】</p>				
授業方針	<p>実際のビジネス活動、社会生活に根ざした具体例を用いる。これによって税法はビジネスに関連するだけのものではなく、日常生活に深く関わっているものであると皆さんが身近に感じられるよう講義を進めていく。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 ビジネスに関連する法律 第 2回 ビジネスの中での税法の位置付け 第 3回 所得税法(1)－所得税法の基礎 第 4回 所得税法(2)－計算構造 第 5回 所得税法(3)－所得分類 第 6回 消費税法(1)－消費税法の基礎 第 7回 消費税法(2)－課税・非課税 第 8回 消費税法(3)－計算構造 第 9回 法人税(1)－法人税法の基礎 第10回 法人税(2)－計算構造 第11回 法人税(3)－利益と所得 第12回 法人税(4)－今後の展開 第13回 企業活動とガバナンス(1) 第14回 企業活動とガバナンス(2) 第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。</p>				
学習到達目標	<p>ビジネス関連法を通じて、広く「社会」に対して関心が向くようになる。 税法の仕組みを理解できる。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>税法がビジネス、政治、経済、国際関係などと密接に関係していることを理解し、説明できるか。 税法の理論、仕組みを理解し、税額を算出できるか。</p>			
	成績評価 方法	<p>出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、期末試験50%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。</p>			
教材	<p>(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。</p>				
備考	<p>皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。</p>				

科目名	プログラミングI			
クラス		対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	網代 孝			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本講義はソフトウェア開発で多く用いられているC言語について、基本的なプログラミング・スキルを身に付けるための講義・実習を行う。特に、各自ノートPCを用いて提示された仕様のプログラムを作成し、コンパイル・実行・デバッグまでの一連の作業手順を習得することを目標とする。C言語には多くの機能が用意されており、同じ処理でも多様な記述法があるが、本講義では最も基本的な命令文のみを使用する。			
授業方針	毎回、命令文の使い方やプログラムの作成法などを説明した後に1~2個の課題を出すので、提示された仕様に合うプログラムをノートPCで打ち込んで実行結果を解答する。コンパイルエラーが出た場合や、実行結果が間違っている場合は自力で修正する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 プログラミングの概念 第2回 C言語の基本事項、プログラムの実行 第3回 条件分岐命令を使ったプログラム作成(if) 第4回 繰り返し命令を使ったプログラム作成1(while、do-while) 第5回 繰り返し命令を使ったプログラム作成2(for) 第6回 最大値・最小値を求めるプログラム作成 第7回 1次元配列を使ったデータ入出力プログラム作成 第8回 1次元配列を使った最大値・最小値を求めるプログラム作成 第9回 Visual Studioによるプログラムの作成・実行 第10回 1次元配列を使ったデータ並べ替えプログラム作成 第11回 2次元配列を使ったデータ入出力プログラム作成 第12回 実数型を使ったプログラムの作成 第13回 関数を使ったプログラム作成 第14回 配列を引数に取る関数を使ったプログラム作成 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) 最大値・最小値を求める流れ図(フローチャート)とプログラムが書ける。 (2) 1次元配列を使ったプログラムが書ける。 (3) 2次元配列を使ったプログラムが書ける。 (4) 関数を使ったプログラムが書ける。 (5) Visual Studioでプログラムの作成・実行・デバッグができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) プログラムの動作原理、C言語の基本的な命令文を理解しているか。 (2) プログラムの作成・コンパイル・実行・デバッグの作業が自力で行えるか。 (3) C言語の基本的な機能を用いて、仕様を満たすようなプログラムが作成できるか。 (4) 仕様変更に合わせて、既存のプログラムを改良できるか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 参考書: やさしいC 第5版(高橋麻奈 著、ISBN978-4-7973-9258-6) (2) その他: 必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	プログラミング入門を受講していることが望ましいが、未受講者でも課題をこなせるよう配慮する。また、情報処理関連資格取得を希望する学生は本講義を履修することが望ましい。			

科目名	プログラミングII				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	網代 孝			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ソフトウェア開発で多く用いられているC言語について、応用的なプログラミング技法についての講義・実習を行う。特に、文法をよく理解したうえで高度な機能・記述法を習得し、実用的なプログラムを作成する能力を身につけることを目標とする。授業の流れとしては、C言語の機能についての文法的な説明を聞いた後に、課題として提示された仕様のプログラムを各自で作成・実行する。プログラミングIIに比べて、実習よりも講義の比率が高い構成となっている。				
授業方針	毎回、命令文の使い方やプログラムの作成法などを説明した後に1個の課題を出すので、提示された仕様に合うプログラムをノートPCで打ち込んで実行結果を解答する。コンパイルエラーが出た場合や、実行結果が間違っている場合は自力で修正する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 C言語の基礎1:C言語について 第2回 C言語の基礎2:演算と型 第3回 条件分岐1:if文による分岐、比較演算子、条件演算子 第4回 条件分岐2:論理演算子、switch文による分岐 第5回 繰り返し文1:while、do-while文による繰り返し 第6回 繰り返し文2:for文による繰り返し 第7回 配列:配列とその使い方、多次元配列 第8回 関数1:関数とその使い方 第9回 関数2:関数の応用、静的変数と自動変数 第10回 基本型:基本型の詳細、ビット演算子 第11回 いろいろな機能:関数形式マクロ、列挙、再帰 第12回 文字列:文字列とその使い方 第13回 ポインタ:ポインタとその使い方 第14回 構造体:構造体とその使い方 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)				
学習到達目標	(1) 算術演算子・繰り返し文・関数を用いた高度なプログラムが書ける。 (2) switch文・条件演算子を用いたプログラムが書ける。 (3) マクロ・列挙を用いたプログラムが書ける。 (4) 文字列の概念・機能について理解する。 (5) ポインタの概念・機能について理解する。 (6) 構造体の概念・機能について理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) プログラムの動作原理、C言語の厳密な文法・高度な命令文を理解しているか。 (2) プログラムの作成・コンパイル・実行・デバッグの作業が自力で行えるか。 (3) C言語の高度な機能を用いて、仕様を満たすようなプログラムが作成できるか。 (4) メモリの論理構造とアドレス、変数のメモリ上の配置、ポインタを理解しているか。			
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 教科書:新・解きながら学ぶC言語(柴田望洋 著、ISBN978-4-7973-8409-3) (2) 教科書:解きながら学ぶC言語(柴田望洋 著、ISBN978-4-7973-2790-1)※絶版 (3) 参考書:やさしいC 第5版(高橋麻奈 著、ISBN978-4-7973-9258-6) (4) その他:必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	プログラミング入門・プログラミングIを受講していることが望ましいが、未受講者でも課題をこなせるよう配慮する。また、情報処理関連資格取得を希望する学生は本講義を履修することが望ましい。				

科目名	プログラミング入門				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータに実行させたい内容を、あらかじめ記述しておく「プログラム」の作成について学習する。プログラムを作成することで、コンピュータを1つずつ操作をすることなく、自動的に動作させることができる。この授業では、JavaScriptに準じた言語を利用して学習を進める。この授業では、企業においてソフトウェア開発に従事した実務経験に基づく講義を行う。【実務】				
授業方針	プログラムを書くための言語(プログラミング言語)の説明と、ノートPCを用いた演習を交えて行う。各回とも課題を出題する。なお、以下の授業スケジュールは課題の状況により変更することがある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 プログラムとは 第 2回 動作を事前に記述するシステムの利用 第 3回 制御構造と関数 第 4回 プログラム作成・実行環境の利用 第 5回 キーボード入力と画面出力を行うプログラムの作成 第 6回 和・差・積を求めるプログラムの作成 第 7回 構文エラーへの対応 第 8回 条件判断を行うプログラムの作成 第 9回 関数を用いたプログラムの作成 第10回 プログラムの動作確認方法 第11回 繰り返しを行うプログラムの作成 第12回 論理的エラーへの対応 第13回 データを読み取り表示するプログラムの作成 第14回 プログラムと流れ図 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回の講義および演習内容を理解し、次の講義にのぞむこと。				
学習到達目標	順番に命令を実行する方式を理解できたか。 条件に応じて動作を変更するプログラムを作成できるか。 繰り返し構造を用いたプログラムを作成できるか。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	「学習内容」で記した事項を理解してプログラミングを行えるか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、テストまたは期末課題30%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	各自のノートPCを利用するので、Windows Updateを適用した後、忘れずに持参すること。				

科目名	マーケティング論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	宮崎 洋			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	その形態や手法は事業によって異なるが経営にとって欠くことのできない機能の一つがマーケティングである。ここでは事業形態によって必要となるマーケティング機能について整理し、マーケティングの基礎としての調査・分析手法について学ぶ。本科目は様々な事業分野の企業における国内外のマーケティング戦略策定に携わってきた実務経験を有する教員による実務科目である【実務】				
授業方針	製造業、サービス業、情報通信、公共事業など業態別に必要となるマーケティングの基本機能について学習する。またマーケティングの個別機能別の調査分析手法を習得してマーケティング戦略立案からレポートに至る実践的能力を身に付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 マーケティングとは 第2回 事業形態とマーケティング 第3回 マーケティングの基礎:マーケティング調査(一次情報を集める) 第4回 事業戦略のための分析:外部環境分析 第5回 事業戦略のための分析:内部環境分析 第6回 事業の分析:商品・顧客分析、損益分析、SWOT分析 など 第7回 基本戦略:PRODUCT 第8回 基本戦略:PRICE 第9回 基本戦略:PROMOTION 第10回 基本戦略:PLACE 第11回 商品・サービスの分析:グループインタビュー、エスノグラフィー、ペルソナ手法 など) 第12回 データマイニング、テキストマイニング 第13回 構造化、類型化 第14回 マーケティングのナンバー法則,ケーススタディ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	資料を通読する。				
学習到達目標	○マーケティング機能の役割を業態の特性に合わせて理解する ○マーケティング業務に必要なスキルを理解し、課題を通して計画作りを体験する				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	○マーケティング業務の基本的課題が理解できる ○課題解決のための方策を自ら考え、計画として取りまとめることができる			
	成績評価 方法	授業への積極的参加、課題、期末テストを概ね20%:20%:60%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○資料は適宜紹介、配布する。 ○必要な教材は事前に案内する。				
備考					

科目名	マルチメディア論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	湖山 均			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現在MM関連技術やMMコンテンツ制作に従事できる専門家の育成が急務である。本授業はCG、画像処理、音声、通信、コンピュータのハード/ソフト、コンテンツ制作、人工知能/認知科学、知的所有権などの様々なMM関連分野について学び、コンピュータや通信環境に配慮した実践活動に役立てようとする。【実務】これらについてフランスの「美学・芸術科学研究所」(CNRS内の研究所)及び「ポンピドゥーセンター」において、研究し、論文を発表した。				
授業方針	「情報」及び「造形・デザイン」関連科目において習得した知識/技術を総合的に活用し、更に各人の個性(イメージ又は音楽中心といった)を生かしたMM作品の制作活動を通して、企画力や表現力を高める。コンピュータを媒介としたメディアを効果的に活用できる基盤を築くことを目的とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 マルチメディアによる情報の表現とは、感覚と知覚情報 第2回 情報の統合的表現について(文字+視覚+聴覚) 第3回 マルチメディアの中核をなすPC(CPU、周辺機器など) 第4回 ファイルフォーマット、文字コードなど 第5回 コンテンツデザイン制作の実際 第6回 パッケージ系メディアのコンテンツ制作 第7回 ウェブページデザインの方法 第8回 CG、メディアアート、 第9回 映像や音声の編集 第10回 インターネットのしくみと役割 第11回 インターネットで提供されるサービス 第12回 インターネットビジネス、携帯電話 第13回 ユビキタス社会の動向、高速無線LAN 第14回 デジタルデータ伝送、bitを使ったデータ量計算法、伝達速度、静止、動画像/音声と圧縮、ネットセキュリティと著作権 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	自分の周囲にあるマルチメディア環境やインターネット提供サービスに一段と注意を払い、関連雑誌や新しい記事情報を注意深く読むこと。(30時間) 授業で扱った内容について復習しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	自分の周囲におけるマルチメディア環境に自信を持って注釈が加えられるか。インターネットをスペシャリストとして使いこなし関連語彙の意味が分かるか				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	マルチメディアによる表現活動を通して何が出来るか、インターネットの将来の可能性を予見できるか。マルチメディア検定にチャレンジし、少なくとも「ベーシック」を取得できる知識を有しているか			
	成績評価 方法	期末試験100% 別紙(成績評価と単位認定について)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 開講時に指示 (2)参考書 開講時に指示				
備考	当該資格の取得をめざす。資格取得は大いに成績評価に反映される。				

科目名	映像・音楽の総合表現と人間			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	木4,木5
担当教員	曾我 重司,中川 善裕,宮井 里佳,檀上 誠		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	「映画」は総合芸術であるとしばしば言われる。映画には視覚的情報以外に聴覚的情報も含まれ、その表現形態としては実写はもちろん、アニメーション(セル、クレイ、パペットなど)でも様々な表現がなされている。もちろん、その内容もまたヒトの営みの様々な有り様を表現している。そこで、本講義では「映画・映像」を軸とし様々な専門分野を持つ教員が、それぞれの視点から解説し、それにまつわるトピックを講義・解説を行う。			
授業方針	本講義では、「映画」を中心とし、原則として毎回一作品を鑑賞し、それにまつわる様々な視点からの専門的な観方を体験する。講義は二コマ続きとする。また映像の制作の現場に携わっている外部講師の方を読んで話を伺う回数も数回予定している。			
学習内容 (授業スケジュール)	本講義は、4限5限のふたコマ続きであるため、前期講義期間の15週のうち8回行う。補講期間に行う場合もある。講義日程は講師の都合によって異なるため、初回の講義時に開講日と内容を発表するので必ず出席すること。また下に示した講義内容は参考として先年度の講義内容が示してある。  第1回 講義スケジュールの説明及び映像や音楽の多様な視点からの理解のあり方についての解説。 第2,3回 「アニメーションにおける動きの表現」 第4,5回 「映画におけるCG制作の現場から」 第6,7回 「音楽と映像」 第8,9回 「マンガにおける情感の表現」 第10,11回 「映画における編集, VFXについて」 第12,13回 「なぜ知覚心理学でアニメーションを研究するのか？」 第14,15回 総合的解説:まとめ及び試験			
準備学習	①できるだけ映像作品に親しんでおくこと(30時間) ②授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(30時間)			
学習到達目標	映像に関して単に娯楽として鑑賞するだけではなく、その背景にある意味を読み取り、それぞれの作品に潜在する技術などを理解し、多角的な視点から観ることができるようになること。			
成績評価基準	達成度評価基準	映像にまつわる各講師の話題について、理解ができたかどうか。映像を多角的な視点から観ることができるようになったか。		
	成績評価方法	講義時に出される各課題への取り組み50%、最終レポート50%とする。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書類は、講義中に随時紹介する。			
備考	討論や発表など積極的な参加を要求する。			



科目名	映像と音楽				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	映画を中心に、音響や音楽が作品の中でどのような機能を果たし、どのような効果をもたらすかを考察する。				
授業方針	豊富な実例を挙げながら実際の授業を展開する。時代、国籍、商業映画、芸術映画などのジャンルに囚われずあらゆる映画を対象とする。第1回～第9回までは音響／音楽の特徴を一つずつ挙げ、様々な実例を用いて解説する。第10回以降は、1本の映画の中でどのような工夫が為されているかを総合的に見る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 映画音楽とは何か(音楽ジャンルとしての映画音楽) 第2回 映像と音の恣意性について(唯一の正解はない) 第3回 映画における音の役割—感情移入的音楽 第4回 映画における音の役割—非感情移入的音楽 第5回 映画における音の役割—分節と接合 第6回 音による空間の演出 第7回 記号としての音(意味としての音) 第8回 映像と音との3つの関係性 第9回 関係性の越境による演出 第10回 一つの作品の中で音の演出(1)(1本の映画の、全体を通しての分析) 第11回 一つの作品の中で音の演出(2) 第12回 一つの作品の中で音の演出(3) 第13回 一つの作品の中で音の演出—自作を例として(1) 第14回 一つの作品の中で音の演出—サイレント映画につける音楽 第15回 自分で音楽を手がけた映画を詳細に見ながら、音楽の作業の実際を解説				
準備学習	日頃から映画への関心を持続して持つこと。				
学習到達目標	漫然と映画を見るのではなく、分析的な視点もあり得るということを実感してもらうことで、これからの映画の見方がより広がることを目指す。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容をふまえた上で、どれだけ細かく正確に分析ができているか、その中にオリジナルな視点があるかどうかを重視する。			
	成績評価 方法	小レポート40%、最終レポート60%の合計によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	参考書:『映画にとって音とは何か』(ミシェル・シオン著.勁草書房) 『映画音楽』(ミシェル・シオン著.みすず書房)				
備考					

科目名	映像環境論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容は映像制作の実務経験に基づき構成され、映像を扱う際に必要とされる環境について専門的知識を扱う実践的科目である。デジタル映像は、様々なデジタル機器が使用され、映像を扱う関連機器や環境は変化している。デジタル映像の制作から上映までに関連するデジタル機器・技術・ソフトについて最新の状況を熟知しておく事が不可欠である。変化し続ける映像環境について、追従できるような素養を修得することを目指す。【実務】				
授業方針	デジタル映像制作を行うには、制作環境や映像を表示する環境を考慮して制作する必要がある。特に環境要素の特徴について詳述し、映像を環境に合わせ効果的に扱えるよう判断できることを目指す。基礎的知識や最新の環境設備や技術について、実例を挙げながら講義する。プレゼンと討論をとりおこなう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 画が動いて見えるしくみ 第2回 映像制作の世界 第3回 アナログとデジタル 第4回 映像関連機器と解像度 第5回 ビデオ信号と伝送のしくみ 第6回 色表現とカラーモデル 第7回 走査線、画面アスペクト比 第8回 ストリーミング、オンデマンド配信 第9回 映像関連機器とファイルフォーマット 第10回 デジタルコンテンツと国内外の事例 第11回 デジタルサイネージ、企画発表に関する説明 第12回 企画発表(第1グループ) 第13回 企画発表(第2グループ) 第14回 試験に関する説明 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・毎回の講義内容の復習を行うこと。(20時間) ・次回の講義内容との関連について理解できるように予習しておくこと。(20時間) ・講義内容に関連する専門用語は調べておくこと。(20時間)				
学習到達目標	映像制作・活用時に必要な機器について、メディアごとにその特徴を理解し、選択・利用できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適宜課題により、達成度評価を行う。			
	成績評価 方法	提出物への評価(80%)、講義に取り組む姿勢(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書・参考書は適宜指示する				
備考	関連資格を取得した場合は評価の対象とする				

科目名	映像制作演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容はCG映像制作の実務経験に基づき構成されており、CG映像制作に必要とされている専門的知識・技能を扱う実践的科目である。デジタル映像制作に必要とされる基礎的知識・技能の習得及び創意工夫による映像作品の制作を行う演習系科目である。【実務】				
授業方針	本科目ではノンリニア編集を中心としたデジタル映像制作に関する基礎的知識及び技能の習得を目指す。ノンリニア編集専用のソフトウェアを実際に操作しながら映像制作に必要な基礎的知識及び技能を身につけると共に、課題に基づいた実践的な制作活動を行う。また、制作活動を通じ自ら考え創意工夫する力を養っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回:演習内容の概要及び演習スケジュールの説明 第2回:基本操作 第3回:キーフレームアニメーション、フライング・ロゴ 第4回:エフェクトの活用(基礎編) 第5回:モーションパスの活用 第5回:エフェクトの活用(ブラー、レンズフレア) 第6回:エフェクトの活用(グロー、フラクタルノイズ) 第7回:マスクパス 第8回:レンダリング 第9回:中間および最終課題についての説明 第10回:映像制作活動(1)テーマの決定、制作方法の設計 第11回:映像制作活動(2)実制作(素材準備) 第12回:映像制作活動(3)実制作(素材加工) 第13回:映像制作活動(4)実制作(動画編集、提出用ファイルフォーマットの確認) 第14回:映像制作活動(5)プレゼンテーション形式による作品発表及び講評会 第15回:まとめ及び試験				
準備学習	・指定教科書に記載されている専門用語及び知識は、予習・復習しておくこと。(40時間) ・個人作品制作に必要なアイデア作りを行っておくこと。(20時間)				
学習到達目標	・必要とされる技能や知識の修得 ・見る人に感動を与えられる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	制作に対する理解度と提出作品のクオリティ			
	成績評価 方法	1)意欲的な制作活動への取り組み(20%)、2)課題制作の提出及びクオリティ(80%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	「はじめよう！作りながら楽しく覚えるAfterEffects」 木村菱治 著、株式会社ラトルズ				
備考					

科目名	映像文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	授業では、映像文化の歴史を「写真」や「映画」を中心に概観することによって、映像(イメージ)の力がどのようなものであり、文化の形成にいかに関わっているのかを見ていきます。テレビやインターネットといった分野も扱いたいと思います。基本的には毎回の授業でいくつかの具体的な映像作品を取り上げ、その作品に関する情報や背景を解説し、続いてその作品の特徴をいろいろな側面から探っていきます。				
授業方針	毎回いくつかの映像作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。みなさんの発言をできるだけ求めていきたいと思っています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 インTRODクシヨN: イメーJの誘惑 第2回 写真の歴史 第3回 写真論を読む 第4回 写真論を読む(2) 第5回 映画の誕生: 写真から映画へ 第6回 映画と政治 第7回 ハリウッド映画(1) 第8回 ハリウッド映画(2) 第9回 映画論を読む 第10回 ヨーロッパの映画(1) 第11回 ヨーロッパの映画(2) 第12回 日本映画 第13回 その他の地域の映画 第14回 テレビ・インターネット 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業で紹介する映画は時間の制約もありどうしても抜粋になってしまうと思いますので、映画館に行ったり、DVDを借りたりして、作品全編を見てみてください(25時間) プリントが配られた場合は、予習・復習を欠かさないようにしましょう(20時間)				
学習到達目標	写真や映画の歴史に関する基本的知識を身につけます。また写真や映画を見るとはどういうことか論理的に考えられる思考能力を養っていきます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容をしっかりと把握し、身につけられたのかをチェックします。期末試験で映像作品を対象にして自分の意見を論述してもらいます。			
	成績評価 方法	授業への参加度30%、定期試験70%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書の指定は特になし。 2)参考書については、授業中の内容に応じてその都度紹介する。				
備考					

科目名	音楽とメディアの歴史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽はメディアを媒介として表現される芸術であると共に、音楽自体も一つのメディアとなりうる。ここでは音楽とメディアの関係を、実例としての作品にも触れながら紐解いて行きたい。				
授業方針	普段、我々を取り巻いていて何気なく聴いてしまっている音楽が、歴史的、社会的にどのような役割を担ってきたか、或いはどのような意味を持ちうるのか、新しいメディアは音楽にどのような変化をもたらしたのか…など、音楽の意味、役割などを考える契機になって欲しい。適宜、授業の内容、授業中に聴いた曲等のレポートの提出を求める事がある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 音楽とメディアの関係 第 2回 楽譜というメディア 第 3回 楽譜と印刷技術 第 4回 楽譜出版の背景 第 5回 録音技術の歴史(第2次世界大戦前) 第 6回 録音技術の歴史(第2次世界大戦後) 第 7回 録音レパートリー 第 8回 録音技術と音楽 第 9回 無線通信の歴史 第10回 ラジオの歴史 第11回 ラジオと音楽 第12回 テレビと音楽の関係 第13回 社会の音楽化 第14回 デジタル化と音楽,社会における音楽の役割 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業の内容をどの位理解したか。またそれを基に自分なりの見方を表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 講義開始時に指示する				
備考					

科目名	音楽情報演習I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	楽譜の読み、楽譜の書き方、イヤートレーニング、コード理論などを初歩から順に学んでゆく。また、コンピュータソフトウェアを用いた実習を行い、修得した知識を用いた作品制作実習も行う。				
授業方針	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識(ここでは主に楽譜の読み、簡単な音楽理論、情報と音楽の関連性等)の修得を主眼とする。コンピュータを用いた実習を併用して学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 楽譜の読み方 第2回 音楽と情報(コンピュータ、MIDI) 第3回 音部記号、音名、変化記号 第4回 音符、休符、拍子、拍 第5回 音程 第6回 長音階 第7回 短音階(和声短音階) 第8回 調と調号の関係1 第9回 調と調号の関係2 第10回 和音と機能 第11回 コードネーム1 第12回 コードネーム2 第13回 和音の連結法 第14回 反復記号、曲想 第15回 基礎的な楽典:まとめ及び試験				
準備学習	配布プリントをよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した内容をきちんと理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業の参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)特になし (2)参考書 オリエンテーション時に指示する				
備考	音楽制作に関心がある学生で、コンピュータ等による音楽制作の経験が全く無い学生、あるいは楽譜の読みに自信が無い学生は受講することが望ましい。				

科目名	音楽情報演習II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽情報演習1で修得した知識を応用発展させ、メロディー作りや編曲を行う。また、コンピュータソフトウェアを用いて作品制作実習も行う。				
授業方針	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識を応用し、理論を発展させ、コンピュータを用いながら作品制作を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 音楽情報演習1の復習 第2回 基本的なコード進行について1 第3回 基本的なコード進行について2 第4回 様々なコード進行について(セカンダリードミナント等) 第5回 様々なコード進行にメロディーを乗せてみる1 第6回 様々なコード進行にメロディーを乗せてみる2 第7回 リズムアレンジ(8ビート、16ビート) 第8回 リズムアレンジ(その他のリズムパターン) 第9回 スtringスアレンジ 第11回 楽曲校正の原理(反復と変奏) 第12回 楽曲校正の原理(変化と統一) 第13回 作品制作1 第14回 作品制作2 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	音楽情報演習Iで学んだ事を復習しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した内容をきちんと理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業の参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	プリントを配布。必要に応じて各自で準備(授業中に指示)。				
備考	履修に際して: 音楽情報演習1を履修しているか、基本的な楽典の知識があること。五線ノートを準備すること。				

科目名	音楽文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	世界に存在する様々な音楽に触れることで、現代の音楽文化の全体像を把握する。				
授業方針	豊富な実例を挙げながら世界の様々な音楽に触れてゆく。普段耳にしないと想像される様々な音楽にじかに触れてもらうことで、音楽についての視野を広げてもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業方針、アンケート、学生の要望を聞く 第2回 世界の民族音楽 その1(アジア、アフリカ地域) 第3回 世界の民族音楽 その2(ヨーロッパ、アメリカ地域) 第4回 クラシック その1(グレゴリオ聖歌からバロックまで) 第5回 クラシック その2(古典派から近代まで) 第6回 クラシック その3(20世紀の音楽と現在) 第7回 ジャズ その1(ジャズの発祥からクール・ジャズまで) 第8回 ジャズ その2(ハード・バップから現在まで) 第9回 ロック その1(ロックの発祥から70年代まで) 第10回 ロック その2(70年代から現在まで) 第11回 ワールド・ミュージック 第12回 実験的ポピュラー音楽(現代音楽、ジャズ、ロックの遺産を受けて) 第13回 ダンス・ミュージック全般(テクノ、ヒップホップ) 第14回 日本のポピュラー・ミュージック その1(戦後から60年代まで) 第15回 日本のポピュラー・ミュージック その2(70年代以降)				
準備学習	普段からさまざまな音楽に関心を持ち、アンテナを磨いていることが望ましい。				
学習到達目標	世界にはさまざまな音楽が存在し、それぞれが独自の価値観を持っていることを身をもって実感してもらう				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容をふまえた上で、どれだけ踏み込んだ分析ができているか、どれだけ柔軟な視点からの観察が実現されているかを見る。			
	成績評価 方法	小レポート40%、最終レポート60%の合計によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じてプリントを配布する。				
備考					



科目名	<b>音響環境論I</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	鈴木 和秀			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義は、録音・再生における音楽情報伝達を中心に、音楽録音の基礎である芸術音楽(クラシック音楽)の録音制作を取り上げ、音の伝え方と音楽の伝わり方の関係を学ぶ。そして、外部ホールにおける録音制作の体験を通じて、生演奏と録音との違い、そして、録音技術による音楽表現の可能性及びそのあり方を検討する。				
授業方針	前半では、録音・再生の歴史より、録音・再生機器及び録音技術の発達、そして、音楽との関わりを概観しつつ、様々な時代の優れた録音作品に触れ、その可能性を知る。後半では、生演奏の再現がテーマである芸術音楽の録音制作全工程をホールにおいて実際に行う。そして、情報手段としての録音の役割、意味、その功罪について考察する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 録音・再生の歴史 I (録音・再生方式の変遷) 第 2回 録音・再生の歴史 II (記録媒体の変遷) 第 3回 録音・再生の歴史 III (録音技術の発達) 第 4回 録音制作の企画及び制作工程を概観する。 第 5回 録音・再生機器の役割と録音技術との関係。 第 6回 情報伝達における録音技術の影響について、音質評価手法を用いて検討する。 第 7回 芸術音楽の録音制作工程について、映像による事例を示す。 第 8回 録音制作の実際 I (収録場所の音響条件及び演奏、録音環境の整備、調整) 第 9回 録音制作の実際 II (収録機器の選択、設定、調整) 第 10回 録音制作の実際 III (收音技法、ミキシングバランス、録音レベル管理) 第 11回 録音制作の実際 IV (演奏家とのコミュニケーション及び制作の進行) 第 12回 編集・マスタリングの実際 I (コンピュータを用いた編集システムの構築) 第 13回 編集・マスタリングの実際 II (曲間、曲中の波形編集とダイナミックレンジの調整) 第 14回 編集・マスタリングの実際 III (マスタリング、マスター制作) 第 15回 まとめ及びレポート作成				
準備学習	第1回目に配布する講義全体の資料をよく読み、専門用語に慣れ、分からないところは、遠慮なく質問すること。				
学習到達目標	録音・再生の歴史を踏まえ、録音技術の役割及び媒体における音楽表現の可能性について、実際にホールを用いた録音制作の体験を通じて考察し、今後の音楽制作に生かすことを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	録音・再生の歴史の学習を通じて、技術の発達と音楽情報の伝達との関連が理解できたか。ホールにおける録音制作を通じて、生演奏と録音との違い、録音技術の役割、あり方について、独自の見方、とらえ方ができたか。			
	成績評価 方法	第15回目に課すレポート100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 (2)参考書 「ピアノ・ノート 演奏家と聴き手のために」 チャールズ・ローゼン 著 朝倉和子 訳 みすず書房 (3)その他 第1回目に講義全体の資料を配布し、それに基づいて講義を行う。				
備考	集中講義のため、出席には特に留意すること。				

科目名	音響環境論II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を自分で作ったり、好きな音を加工したりできたら楽しいと思いませんか？この授業では、protoolsという世界的に広く使われているソフトを実際に操作しながら、粘土で好きな形を作ったり、彫刻を掘ったりするのと同じように、音を切り、くっつけ、編集、加工してゆくやり方を学びます。楽譜にはよらず、音そのものをいじるので、譜面は読めなくて構いませんし、楽器の腕前もいりません。あなたも一緒に音で遊んでみませんか？				
授業方針	毎回protoolsを実際に操作しながら、最終的には簡単な作品の制作に至ることを目標とする。ただし機材の台数には限りがあるため、応募者が多数の場合は何らかの方法で受講者を選抜し、少人数制にする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 この授業の目的、protoolsとは、アンケート 第 2回 protoolsの基本概念(MIDIについての基礎知識をふまえて) 第 3回 MIDIデータの入力作業(画面の見方) 第 4回 MIDIデータの編集作業(コピー、ペースト、ストレッチetc) 第 5回 MIDIデータの編集作業(4つのモード、強弱、パンetc) 第 6回 MIDIデータのリアルタイム入力 第 7回 オーディオデータの入力作業 第 8回 オーディオデータの編集作業(MIDIデータと対比しながら) 第 9回 オーディオデータの編集作業(audiosuiteによる加工) 第10回 オーディオデータの編集作業(オートメーションの操作) 第11回 オーディオ&MIDIデータの編集作業(仕上げとバウンス) 第12回 作品制作(これまでに学んだノウハウを活かしながら、提出作品を制作) 第13回 作品制作 第14回 作品制作 第15回 作品制作と提出				
準備学習	パソコンの基本的操作が身に付いていること。				
学習到達目標	protoolsを用いて基本的な音楽制作ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	パソコンによる音楽制作をどのくらい理解し、その技術がどのくらい身に付いたかを見る。			
	成績評価 方法	平常点30%、最終提出作品70%の合算によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	特になし				
備考					

科目名	企業と業界の分析 I (製造・技術・IT)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	宮崎 洋			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	製造業、IT分野などにおける技術課題や直近の社会構造の変化に着目し、特に科学技術の進展との関連の下で未来へのトレンドを探る。本科目は民間シンクタンクにおいて製造業、通信業、IT業界の個別企業の技術戦略策定に携わった実務経験を有する教員による実務科目である。【実務】				
授業方針	講義を主体として進める。業界動向に関する課題を設定してレポートを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会構造変化 第 2回 少子高齢化 第 3回 グローバル化 第 4回 農業・バイオ 第 5回 我が国の技術課題 第 6回 技術優位性社会 第 7回 イノベーション 第 8回 製造業 第 9回 農業・バイオ 第10回 モビリティ 第11回 住宅・都市 第12回 情報・通信・IT 第13回 コミュニケーション 第14回 情報技術 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	資料を通読する。				
学習到達目標	直近の社会情勢と企業の動向を把握し、個人や組織としての対応の方向性について考察し、対応について取りまとめる力を付ける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	社会情勢の把握について、その情報収集力を高め、情報を分析して対応方策をまとめたレポートの内容、情報の理解度を評価する。			
	成績評価 方法	授業への積極的参加(20%)、社会情勢の理解度・中間レポートの内容(20%)、期末試験(60%)などを総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○資料は適宜紹介、配布する ○材料とする新聞記事、雑誌記事、ネット情報などを提供する				
備考					

科目名	企業と業界の分析Ⅱ（流通・物流）				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	林 信義			単位区分	__（選択）
				単位数	2
概要 （目的・内容）	<p>メーカーがつくった商品が消費者である我々の手元に届くまでに様々な企業が介在している。本講義では商品の販売を行う小売業、その小売業とメーカーの橋渡しをする卸売業、実際の商品を届ける物流業に着目する。          経営コンサルタントとして様々な企業と業界の発展に貢献した経験に基づき、その機能と役割、現在抱えている問題と展望について考察する実践的科目である。【実務】</p>				
授業方針	講義で取り扱った企業の実例を参考に自ら興味のある企業や業界を見つけて関心を持つことにより、皆さんの職業意識・就業意欲の向上を図りたい。				
学習内容 （授業 スケジュール）	第 1回 流通、物流の機能・役割 第 2回 日本の流通構造 第 3回 流通業が扱う商品 第 4回 流通業の戦略 第 5回 物流業の戦略 第 6回 小売業とメーカーの戦略の違い 第 7回 イノベーター理論 第 8回 流通経路・流通システム（食品） 第 9回 流通経路・流通システム（衣料品） 第10回 流通経路・流通システム（医薬品） 第11回 取引制度・店舗形態 第12回 マーチャンダイジング 第13回 物流センターの役割 第14回 コンビニ物流の特徴 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の要点について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	流通業のビジネスモデルのパターンを理解し他業界へも応用できるようになる。 様々な企業や業界、職種に興味を持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	流通・物流業のビジネスモデルのパターンを理解し説明できるか。 流通・物流業のビジネスの流れを理解し説明できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲（聴いて、考えて、伝える）50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 講義内容に合わせて資料を配布する。 (2) 適宜、講義に関する資料を紹介する。				
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	空間構成演習I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブ分野での「表現」に必要な形の見方や捉え方を、デッサンを通して学び、より高度な観察力や表現力を身につけます。 尚、この授業は2コマ続きの授業です。				
授業方針	実技中心の授業です。 「表現」とは画一的なものではありません。よって、学生一人一人が、それぞれのアドバイスを受けられるように努めます。 使用道具(各自用意):鉛筆、消しゴム、スケッチブック				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業内容説明のための実技 第 2回 実技(模写・ドローイング) 第 3回 実技(構図の決め方と形を正確に描く) 第 4回 実技(光と影を意識して描く:完成) 第 5回 実技(質感を意識して描く) 第 6回 実技(質感を意識して描く:続き) 第 7回 実技(質感を意識して描く:完成・講評) 第 8回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く) 第 9回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く:完成・講評) 第10回 実技(人物を描く) 第11回 実技(物の関係:空間を意識して描く) 第12回 実技(物と周囲の関係:空間を意識して描く:完成・講評) 第13回 実技(期末試験用作品制作:より複雑な質感を描く) 第14回 実技(期末試験用作品制作:継続作業),実技(期末試験用作品制作:完成・提出) 第15回 講評会及びまとめ				
準備学習	1、授業の補強として、ドローイング課題を定期的に行います。(30時間) 2、デッサンには様々な描画方法があるので、参考書や作品集などを見て表現の広がり意識すること。(20時間) 3、デッサンは「モノを見る力」が大切なので、日常的に身の回りのものを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	「表現」に必要な基礎観察力・基礎デッサン力を高めるので、他の専門分野(CG、映像など)での表現の幅を広げることができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 描くこと、表現することへの熱意が見られるか。 b) 観察したものを画面上で表現できるか。 c) 表現したものを見る側へ明確に伝えられるか。			
	成績評価 方法	期末試験50%、提出作品30%、授業への参加態度20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	鉛筆などの描画用道具(各自用意)、画用紙、パネル、ドローイング帳(各自用意)				
備考					

科目名	空間構成演習II			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	渡邊 英弘			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	クリエイティブ分野での「表現」に必要な形の見方や捉え方を、デッサンを通して学び、より高度な観察力や表現力を身につけます。 尚、この授業は2コマ続きの授業です。			
授業方針	実技中心の授業です。 「表現」とは画一的なものではありません。よって、学生一人一人が、それぞれのアドバイスを受けられるように努めます。 使用道具(各自用意):鉛筆、消しゴム、スケッチブック			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業内容説明のための実技 第2回 実技(模写・ドローイング) 第3回 実技(構図の決め方と形を正確に描く) 第4回 実技(光と影を意識して描く:完成) 第5回 実技(質感を意識して描く) 第6回 実技(質感を意識して描く:続き) 第7回 実技(質感を意識して描く:完成・講評) 第8回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く) 第9回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く:完成・講評) 第10回 実技(人物を描く) 第11回 実技(物の関係:空間を意識して描く) 第12回 実技(物と周囲の関係:空間を意識して描く:完成・講評) 第13回 実技(期末試験用作品制作:より複雑な質感を描く) 第14回 実技(期末試験用作品制作:継続作業),実技(期末試験用作品制作:完成・提出) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	1、授業の補強として、ドローイング課題を定期的に行います。(30時間) 2、デッサンには様々な描画方法があるので、参考書や作品集などを見て表現の広がりを意識すること。(20時間) 3、デッサンは「モノを見る力」が大切なので、日常的に身の回りのものを観察すること。(10時間)			
学習到達目標	「表現」に必要な基礎観察力・基礎デッサン力を高めるので、他の専門分野(CG、映像など)での表現の幅を広げることができます。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 描くこと、表現することへの熱意が見られるか。 b) 観察したものを画面上で表現できるか。 c) 表現したものを見る側へ明確に伝えられるか。		
	成績評価 方法	期末試験50%、提出作品30%、授業への参加態度20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	鉛筆などの描画用道具(各自用意)、画用紙、ドローイング帳(各自用意)			
備考				

科目名	経営情報システム				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	磯田 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータやインターネットを活用した「情報システム」は現代の企業活動を支える極めて重要なインフラとなっています。講師は、大手シンクタンク・コンサルティング機関である(株)三菱総合研究所において、大手企業を中心とした経営コンサルティング業務に従事しており、本科目は、これらの知見に基づいて、実学的な視点から、経営の現場における経営情報システムの実際の活用状況や課題、今後の動向等を学修できる実践的科目です。 【実務】				
授業方針	経営情報システムは、企業活動を通じて我々の日々の生活にも大きく関係している一方、裏方的な位置にあるため、中々理解しにくいところがあります。従って、本講では、学生の理解を促すため、極力、具体的な企業や組織における経営情報システムの活用事例を切り口に授業を進めていく予定です。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 経営情報システムとは？(イントロダクション) 第2回 情報技術の基礎(1)コンピュータの歴史と仕組み 第3回 情報技術の基礎(2)情報通信の歴史と仕組み 第4回 企業活動を支える情報システム(1)全体像 第5回 企業活動を支える情報システム(2)流通小売業 第6回 企業活動を支える情報システム(3)製造業ほか 第7回 企業活動を支える情報システム(4)インフラ・金融 第8回 企業活動を支える情報システム(5)管理部門ほか 第9回 演習(1)ビジネスプロセスの理解(その1) 第10回 演習(2)ビジネスプロセスの理解(その2) 第11回 情報システムを利用した新たなビジネス 第12回 経営情報システムの新たな動向(その1) 第13回 経営情報システムの新たな動向(その2) 第14回 経営情報システムにおけるリスク 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)本シラバスで指定した参考書および前回授業時に提示する参考書籍等を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)授業の最初に小テストを実施するので、復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	経営情報システムの役割や仕組み、今後の動向について知り、説明ができるようになることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経営情報システムの役割や仕組み、今後の動向について理解し、説明できるか。			
	成績評価 方法	授業内での貢献30%、小テスト25%、期末試験45%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書は特に指定せず、毎回授業プリントを配布します。 (2)参考書 武藤 明則「経営の基礎から学ぶ経営情報システム教科書」同文館出版				
備考	授業への主体的な参加を希望します。授業の詳しい内容については、初回の講義で説明します。				

科目名	現代経済史				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	第2次世界大戦以降、現在に至る経済の変遷について、経済的なイベントを精査することによって、現在の経済状況を深く理解し、将来の経済について考えられるようになることを目的とする。金融機関で20年以上、エコノミストなどの仕事をしてきた経験に基づく実践的科目である。【実務】				
授業方針	社会に出たときに必要となる経済の常識の1つが現在の経済状況であり、それを深く理解するためには、第2次世界大戦以降の経済の変遷ということになる。本授業では具体的な過去の経済イベントを学んでいくことによって上記を可能にしようというものである。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回:世界の戦後から現在までの「経済成長」 第2回:経済と政治の「歴史概観」(1) 第3回:経済と政治の「歴史概観」(2) 第4回:「国民国家」の幻想、「覇権国家」の変遷 第5回:「株式市場」、「企業」のダイナミズム 第6回:「マネー」と「資本主義」、金利・物価 第7回:「国際協調」と「国家間競争」、自由貿易vs.ブロック経済圏 第8回:「テクノロジー」、イノベーションとIT産業 第9回:「エネルギー」と「環境問題」 第10回:「メディア」と「スポーツ」「文化」(音楽・映画・絵画・ファッション)の歴史 第11回:「グローバル経済」の功罪 第12回:「バブル」の生成と崩壊、資本主義の本質 第13回:「(再び)日本経済」⇨君たちはどう生きるか？ 第14回:「現代経済史」とは何か？ 第15回:まとめと試験				
準備学習	受講期間中に、ネットや新聞、テレビで報じられる経済に関するニュースについて興味を持って接すると授業内容が自分のもの、意味のあるものとして感じられ、理解の助けとなるであろう。				
学習到達目標	戦後の経済の変遷について、自分の言葉で説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	戦後の経済イベントの具体的な内容と、各々の経済イベントの関連性が理解できている。			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料は適宜配布、紹介する。参考図書:「20世紀を知る」(広瀬一郎著、東海大学出版会)				
備考	毎回、PCまたはスマホを持参すること。				



科目名	現代経済論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	経済的な考え方、物の見方について、実社会の身近な例を題材にして学びながら身につけていく。金融機関で20年以上、エコノミストなどの仕事をしてきた経験に基づく実践的科目である。【実務】				
授業方針	そもそもなぜ「経済」というものが出来てきたのか？から解きほぐし、身の回りにある経済現象全般について、本質的な仕組みを学んでいくことにより、経済(学)的な物の見方を学んでいく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回:「原始時代に経済はあったか？」(貨幣、市場) 第2回:「ピラミッドは何のために造られたのか？」(経済とは何か、公共事業、経済成長) 第3回:「銀行はなぜ潰せないのか？」(信用、レバレッジ、金融危機) 第4回:「景気はなぜ良くなったり、悪くなったりするのか？」(マルクス、ケインズ、規制) 第5回:「経済格差はなぜ発生するのか？」(ピケティ、資本主義経済と計画経済) 第6回:「株式会社は資本主義経済の大発明」(資本、投資、有価証券) 第7回:「国際競争力はどう決まるのか？」(貿易、国際分業) 第8回:「為替レートはなぜ変動するのか？」(国際収支、経済覇権) 第9回:「『脱デフレ』と言うがデフレはなぜ悪いのか？」(インフレ・デフレ、金利) 第10回:「君たちは将来年金をもらえるか？」(国家財政、社会福祉、年金) 第11回:「消費税は善か、悪か？企業減税は善か、悪か？」(経済政策、税金) 第12回:「原発の発電コストは安いのか、高いのか？」(コスト/パフォーマンス、リスク/リターン、サンクコスト) 第13回:「コーヒーを2杯飲むか、ケーキを追加するか？」(選択、トレードオフ、機会費用) 第14回:「なぜ談合はなくなるらないのか？」(独占、ゲーム理論、行動経済学)+まとめ 第15回:まとめ&定期試験				
準備学習	受講期間中に、ネットや新聞、テレビで報じられる経済に関するニュースについて興味を持って接すると授業内容が自分のもの、意味のあるものとして感じられ、理解の助けとなるであろう。				
学習到達目標	経済的な物の考え方が身についている。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経済的な物の考え方が身についている。			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料は適宜配布、紹介する。				
備考	毎回、PCまたはスマホを持参すること。				

科目名	現代社会と宗教				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	宗教は、政治や文化などあらゆる人間・社会の営みの基盤となるものであった。しかし現代は、伝統宗教が弱体化し、グローバル化が進み、大きな変革期にある。「戦争が起こるから宗教なんて必要ない」、「宗教は心のよりどころとなる」といった言説を検討しなおし、現代における「宗教」の意味や機能について考えたい。				
授業方針	日本の習俗・儀礼などにおける宗教の影響、新宗教やカルトおよび宗教的なものを求める現象(スピリチュアリティ)、宗教とナショナリズムおよび宗教と戦争の問題、宗教と公共など、現代社会における「宗教」に関するトピックについて事例を挙げながら解説、考察する。宗教の概念という基本的なことをおさえる他、とりあげるトピックは、受講生の関心やコメント、質問および時事問題などによって随時変更を加えたい。ほぼ毎回コメント・シートの提出、3回程度の小レポートの提出を求め、出席率ではなくそれらの内容を重視する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 私たちの生活における宗教の影響(1)(アンケート調査) 第2回 私たちの生活における宗教の影響(2)(前回結果と日本の大学生の意識調査結果とから) 第3回 習俗と宗教(1)―「墓参り」は「宗教」か？ 第4回 習俗と宗教(2)― 葬送・追善儀礼の意味と歴史 第5回 「宗教」の概念(1)― 歴史的経緯 第6回 「宗教」の概念(2)― 新しい「宗教」概念 第7回 「カルト」について(1)― 「カルト」とは 第8回 「カルト」について(2)― 「カルト」にはまらないために 第9回 宗教と原理主義運動 第10回 宗教とナショナリズム(1) 第11回 宗教とナショナリズム(2) 第12回 「スピリチュアリティ」について 第13回 新宗教と「スピリチュアリティ」 第14回 マンガ・アニメと「宗教」 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①毎回の講義で課題となったテーマについて情報収集し、参考文献を読んで考察を深めること。(40時間) ②調査、考察した内容を元に小レポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	①「宗教」の概念・②現代日本における「宗教」事情・③世界における「宗教」の情勢 に対する知識・理解を深め、④「宗教」を語る立場について理解した上で、自分の見解を持つこと を目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①「宗教」の概念について理解できたか。 ②現代日本の「宗教」事情・③世界の「宗教」情勢 について正しい知識を得たか。 ④「宗教」に対して自己見解を適切に述べることができたか。			
	成績評価 方法	コメント・シート20% 小レポート20% 期末レポート(または試験)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定しない。レジュメを配布する。 (2)参考書 授業中随時紹介する。 (3)その他 必要に応じて資料を配付する。				
備考	特定の宗教・宗派を推奨あるいは非難することはしないので、どんな信仰を持っている人でも安心して受講してほしい。				

科目名	現代社会と倫理				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	木澤 景			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>概要:比較を通して考える倫理思想 ~ 西洋・中国・日本          目的:哲学・倫理学における主要な概念のいくつかを取り上げ、その概念について西洋哲学や中国思想と日本の思想とを比較しながら、諸概念についての理解を深めていくことを目指す。          内容:まずは扱う概念について、今日の自分たちの考えを精査し、続いて西洋、中国、日本の諸思想の中から主だったテキストの断片を読み、再び自分たちがどのようなものかについて検討する。</p>				
授業方針	<p>講義ごとに配布する資料を精読して、内容の正確な理解、そこから生じてくる問題の分析、ひるがえって現代社会とはどのような異同が認められるかの考察、等について、履修者ひとりひとりが考察した文章を書き、それを講義全体で共有、検討しながら進めていく予定です(履修人数によっては変更する)。主体的・積極的な参加を高く評価いたします。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>※聴講者の興味によって講義の内容は適宜変更する。以下は目安。</p> <p>第一回 ガイダンス 事務的事項説明・倫理とは何か・科学の時代の倫理          第二回 西洋哲学における「自然」① アリストテレス・『旧約聖書』・ベーコン          第三回 西洋哲学における「自然」② デカルト・ハイデガー          第四回 中国思想における「自然」 『老子』          第五回 日本思想における「自然」 『古事記』・『古事記伝』          第六回 今日の私たちにとっての「自然」 まとめ          第七回 西洋思想における「愛」 『新約聖書』・パスカル・カント          第八回 中国思想における「愛」 『孝経』          第九回 日本思想における「愛」 『古事記』・『紫文要領』・『童子問』          第十回 今日の私たちにとっての「愛」 まとめ          第十一回 西洋思想における「死」 エピクロス・ハイデガー          第十二回 中国思想における「死」 『論語』・『礼記』          第十三回 日本思想における「死」 『葉隠』・『靈之真柱』          第十四回 今日の私たちにとっての「死」 まとめ          第十五回 テスト・質問事項への回答、など</p>				
準備学習	<p>それぞれのトピックが前後の講義と関連していますので、前回までの内容を自分なりにかみ砕いて納得した上で聴講していただければ、理解もより深まるでしょう。講義中、適宜紹介する参考文献等もひとりでいただくと、なおよいです。詳しくは開講時に説明いたします。本講座の予習時間の目安は30分、復習時間の目安は60分です。</p>				
学習到達目標	<p>原典資料を正しく読み取る。そこで問題になっていることを見抜き、文章として再構成する。自分の問題に引き付けて、より深く考察する。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>毎回提出してもらう考察文の精度を元に到達度を評価いたします(つまり、そもそも2/3以上の提出がない場合は最低基準に到達いたしません)。履修人数によっては評価方法を変動させます。</p>			
	成績評価 方法	<p>毎回の考察シート40%、期末試験60%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。</p>			
教材	<p>原典資料は講義ごとにプリントで配布いたします。参考文献は適宜ご紹介いたします。</p>				
備考	<p>原則として、就職活動や親類の病気見舞などの理由による欠席は、通常の欠席として扱う。大学で定められた公欠・忌引き等については考慮するので、すみやかに届を提出すること。</p>				

科目名	行政学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	門松 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業では、日本における行政活動の展開と特色を理解し、また分析を行うに当たって必要となる理論等に関して、基礎的な知識を中心に説明を行い、行政に対する理解・関心を深めることを目的とします。 授業では、行政学における基本的な理論等を説明した上で、日本の行政組織や公務員制度、行政改革、官僚制の特色などを主なテーマとして採り上げていきます。				
授業方針	基本的には、板書・配布レジュメを中心として講義形式で授業を進めますが、必要と思われる場合は受講者の見解等を尋ねた上で授業を進めていきます。なお、各自が必要と思う箇所については、特に板書等がなくても自分で判断してノートを取るようして下さい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ガイダンス/ドイツ行政学と近代官僚制(1)—ドイツ行政学の成立と展開 第 2回 ドイツ行政学と近代官僚制(2)—官僚制論 第 3回 英米の行政史とアメリカ行政学(1)—英米の行政史 第 4回 英米の行政史とアメリカ行政学(2)—アメリカ行政学の発展 第 5回 行政機関の組織 第 6回 日本の行政組織 第 7回 公務員制度(1)—公務員制度の歴史と概要 第 8回 公務員制度(2)—現代日本の公務員制度 第 9回 行政管理と行政改革(1)—行政管理論の展開 第10回 行政管理と行政改革(2)—日米における行政管理 第11回 行政管理と行政改革(3)—日本の行財政改革 第12回 行政管理と行政改革(4)—NPM理論と行政改革 第13回 中央地方関係(1)—日本の地方自治 第14回 中央地方関係(2)—地方分権改革 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業内容に関する予備知識等を身に付けるため、各回の授業のテーマに関連する情報等を各種報道やインターネット等を通じて事前に調べたことを求めます(15時間)。 授業の予習として、専門用語などを知っておくために、指定した文献等を事前に読んでおくことを求めます(15時間)。 授業内容を確実に理解し定着させるために、各自で配布プリントやノートの見直しを通じて授業内容の確認・復習をすることを求めます(30時間)				
学習到達目標	1. 行政学における用語や概念を理解し、その内容について説明できるようになることを目指します。 2. 日本の行政の仕組みを理解し、その内容について説明できるようになることを目指します。 3. 「行財政改革」や、「政官関係」、「天下り」など、報道で取り上げられる行政に関する様々な問題の内容を理解し、それに対する自分の意見を持つことができるようになることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	以下の項目を達成度の評価基準とします。 1. 授業中に説明した行政学における用語や概念について説明できるか。 2. 授業中に身に付けた知識を基に、行政における問題について考察し、自分の考えを述べることができるか。			
	成績評価 方法	授業時間内に実施する小テスト等の平常点(30%)と、期末試験(70%)を総合して成績を評価します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 授業時にレジュメを配布するため、特に指定しません。 (2)参考書 必要に応じて授業中に適宜指示します。 (3)その他 特になし				
備考	授業中の私語は、他の受講者の迷惑となるので厳禁とします。 また、授業内容について分からないことなどがある場合は、授業中・授業後を問わず、いつでも遠慮せずに質問して下さい。				

科目名	行政法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	森田 智博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代社会において、行政活動は私達の日常生活に深く関連している。行政法は、行政活動に関わる法のことである。本講義においては、行政法の基本的な概念や考え方について、基礎的な知識・理解を得ることを目的とする。また、公務員試験などを志望する者に役立つような内容にもする。				
授業方針	基本的に講義形式をとるが、受講者が行政法や行政活動についてできる限り具体的なイメージを持ちながら学ぶことができるよう、対話的な要素も取り入れながら進行する予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 行政法とは(1) 法とは、行政とは 第2回 行政法とは(2) 行政組織(法) 第2回 行政法の一般原則(1) 法律による行政の原理、法律の留保 第3回 行政法の一般原則(2) 行政法の一般法原理 第4回 行政作用法(1) 行政立法(1) 第5回 行政作用法(2) 行政立法(2) 第6回 行政作用法(3) 行政行為(1) 第7回 行政作用法(4) 行政行為(2) 第8回 行政作用法(5) 行政契約、行政計画 第9回 行政作用法(6) 行政指導 第10回 行政手続法(1) 第11回 行政手続法(2) 第12回 行政訴訟法(1) 第13回 行政訴訟法(2) 第14回 国家賠償法(1) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	配布する資料、各自の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	行政法の基本的な知識を習得し、説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義で習得した行政法の知識に基づいて、行政活動について、自分で説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への参加態度(20%)、小テスト(コメントシート、場合によっては自習課題)(20%)、期末テスト(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜示す。				
備考					

科目名	国際関係論			
クラス	[1クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 水4
担当教員	山田 朋美			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	最近、差別や格差、紛争、難民、テロ、グローバル化に関する報道を耳にしない日はない。しかし、こうした地球規模の問題と私たちの関係について考えたことがある人は多くはないのではなかろうか。この授業の目的は、現代世界が直面する諸問題が形成された歴史的経緯を学び、それを分析する視点を養うことで、学生が国際関係と自らの関わり合いについて理解を深め、どのようにこの世界と主体的に関わっていくのか自分なりの「解答」を模索することにある。			
授業方針	授業は原則的に講義方式で行うが、可能な限りディスカッションの時間を設け、学生が自分の頭で考え、自分の言葉で議論する力を養えるよう務める。また、毎回リアクションペーパーを配布し、受講生とのコミュニケーションを図る。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>* 以下の予定は、受講者の関心や理解度に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 国際関係論とは何か、日本および私たちは、国際関係にどのように位置づけられるのかを考察する。</li> <li>2. 国際関係の成立と展開 国際関係の成立を主権国家、西欧国際体制の成立を通じて学ぶ。</li> <li>3. ナショナリズム① 西洋のナショナリズムの発生と展開について、地域ごとに比較・検討する。</li> <li>4. ナショナリズム② 非西洋のナショナリズムの発生と展開について地域ごとに比較・検討する。</li> <li>5. ナショナリズム③ ナショナリズムに関する映画を鑑賞する。</li> <li>6. 帝国主義の時代 帝国主義の時代とはどのような時代であり、世界をいかに結びつけ、分断したのか。そしてこの時代が現代に及ぼしている影響を考察する。</li> <li>7. 第一次世界大戦の勃発とその影響① 第一次世界大戦を経て国際関係はどのように変化したのかを概観する。</li> <li>8. 第一次世界大戦の勃発とその影響② 第一次世界大戦の進展と科学技術の関係について考察する。</li> <li>9. 第二次世界大戦の勃発とその影響 第二次世界大戦を経て国際関係はどのように変化したのかを概観する。</li> <li>10. 「冷戦」① 第二次世界大戦後の世界の特徴を「冷戦」を通じて概観する。</li> <li>11. 「冷戦」② 「冷戦」が第三世界に与えた影響および第三世界からの異議申し立てを概観する。</li> <li>12. 「冷戦」の終焉とグローバル化 冷戦後、世界の「グローバル化」は激的に進行したと言われている。この「グローバル化」の名の下で、世界ではどのような現象が生じているのかを考察する。</li> <li>13. 「テロとの戦争」と国際関係 9.11後、頻発するテロの背景を考察する。</li> <li>14. まとめ これまでの授業のまとめを行うと同時に、現代世界の諸問題と日本、そして私たちがどのような関係にあるのかを考察する。</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>			
準備学習	国内外のニュースを、新聞やインターネット、テレビで日々確認すること。 また、授業内で紹介する参考文献を積極的に読み、授業の復習を各自行うこと。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 様々な事例を通じて、国際関係の基礎知識や分析の視点を身につけ、現代世界の諸問題を分析し、自分の言葉で説明することができるようになる。</li> <li>② 一見、自分とは遠い世界の事のように思われる出来事が、どのように私達と関わっているのかを論理的に述べるようになる。</li> <li>③ ディスカッションやリアクションペーパーへの取り組みを通じて、コミュニケーション能力(読む・書く・話す・聞く)を向上させる。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容を理解し、現代世界における諸問題を国際関係の視点から分析・説明できるか。また、自らと国際関係の関わりについて自分の言葉で論理的に述べることができるか。		
	成績評価 方法	毎回のコメントシート(40%)、期末試験(60%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教場で指示する。			
備考				

科目名	国際法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金1
担当教員	一戸 信哉			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	グローバル化が進む現在の国際社会は、個々の主権国家を基本単位としつつも、武力紛争の防止・解決、テロとの戦い、環境、人権などの諸問題の解決のための新しい国際秩序の確立と国際協力が求められている。この講義では、これらの問題を考えるために不可欠な国際法の基礎を学ぶ。				
授業方針	基本的に講義形式となるが、常に学生との対話を行い、また学生の授業に積極的に参加をする姿勢を特に評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 国際法とは？ その成立と発展 第2回 国際法の法源 第3回 国際法と国内法 第4回 国家承認・政府承認 第5回 領域(領土など):陸の国際法 第6回 海の国際法 第7回 空と宇宙の国際法 第8回 個人と国際法1:国籍と外国人の法的地位 第9回 個人と国際法2:人権の国際的保障 第10回 環境問題と国際法(環境国際法) 第11回 国際経済法 第12回 国際紛争の平和的解決 第13回 集団的安全保障(国際連盟, 国際連合, 自衛権) 第14回 武力紛争に関する国際法 第15回 まとめ				
準備学習	指定した教科書にあらかじめ目を通し、関連するニュースをチェックしておく(45時間)。 毎回の配布する資料、自己の取ったノートの復習をする(45時間)。				
学習到達目標	国際法と国際私法の基礎知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	国際法と国内法の違い、国際法とは何かについて説明できるようにする。			
	成績評価 方法	授業への参加(40%)、期末テスト(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指定する。				
備考					

科目名	財務管理論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	財務管理(コーポレートファイナンス)とは、企業の経営戦略実行にあたって重要な「資金の調達と運用」のことであり、近年日本の企業でも注目されている。本授業では、基礎的事項を一つずつ学んで行き、その全体像、それが表わす資金の側面から見える企業の経営活動全体について学んでいく。金融機関での20年以上での勤務経験、データスタジアム株式会社でのCFOの経験などによって培ったナレッジによって構成された実践的科目である。【実務】				
授業方針	財務と言うと、数字や数式などを使ったハードルが高いもののように考えられがちだが、本授業においては出来る限り、算数、基礎的な会計知識程度の利用に留めたわかり易い内容を心がけ、実務的に企業活動を資金の流れによって具体的にイメージしていく。金融市場について体感するためのゲームも実施する。毎回授業の最後に腹落ちした内容等を「学習シート」に各自まとめることによって理解を深める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 会計(accounting)と財務(finance)の違い 第2回 企業経営の目標(会社は誰のものか?、企業価値向上) 第3回 金利とは何か? 第4回 企業価値とキャッシュフロー、DCF 第5回 企業の経営指標 第6回 資金調達と運用(ALM) 第7回 資産運用ゲーム(1) 第8回 資産運用ゲーム(2) 第9回 運転資金 第10回 事業投資(設備投資、プロジェクトファイナンス、M&A) 第11回 資金調達の種類、金融機関借入、財務格付 第12回 資産運用ゲーム(3) 第13回 資産運用ゲーム(4) 第14回 企業の財務分析、全体の復習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・前回の授業で学んだ事項について、日々の生活において商店街の様子や企業サービスとの関連で具体的にイメージし復習することを推奨する。				
学習到達目標	・企業財務の概略を理解すること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・キャッシュフロー・DCF、企業価値について概略説明できるか ・資金の調達方法の概略を説明できるか ・為替、金利、株式について実感としてどのようなものか理解しているか			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料は適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCまたはスマートフォンを持参すること				



科目名	自然地理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	松尾 忠直			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自然地理学の見方・考え方ー地球のシステムー 自然地理学を構成する基礎的概念の理解とともに、地表で起こるさまざまな自然事象を地球のシステムと関連させて、その見方や考え方の習得を目指す。				
授業方針	授業はパワーポイントを用い、図版、写真、映像資料などを多く提示する。必要に応じて資料も配付する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業オリエンテーション 講義計画と受講上の諸注意 地理学思想 第2回 自然災害と自然地理学ー水害と土砂災害ー 第3回 人類と地球の環境 第4回 大気の大循環 第5回 水循環 第6回 海洋大循環 第7回 プレートテクトニクスと日本列島の形成 第8回 自然災害と自然地理学ー東日本大震災と新潟県中越地震を例にー 第9回 河川の地形 第10回 山地の地形 第11回 気候と土壌 第12回 地球温暖化のメカニズム 第13回 沙漠化と人間活動、気候変動と自然環境の変遷 第14回 総括 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業内容の予習・復習(提示された参考文献を読み進めることや関係資料の精査を含む)と毎回授業時に提示される課題(リアクションペーパーやドリルワークなど)への主体的な取り組み(総計60時間以上)。				
学習到達目標	自然地理学を構成する基礎的な概念の理解はもちろん、地理学に必須の地図の読解力や、地球のシステムを説明する力を得る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自然地理学を構成する基礎的な概念を理解できているか、地理学に必須の地図の読解力、地球のシステムをを説明する力が得られているか。			
	成績評価 方法	試験 60% 主として論述 形式により授業の理解度および課題への総合的考察力を判定する。平常点 40% 授業への取り組み姿勢およびリアクションペーパーなどで評価する。 これらの合計得点により評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に教科書を指定しないが、授業には必ず地図帳を持参し、地名や地形などを各自で確認すること。 (参考書)環境のサイエンスを学ぼう 丸善プラネット刊				
備考	実習授業などやむを得ない事由により欠席する場合は、必ず申し出ること。学習内容(授業スケジュール)は、進行状況により変更もあるので注意すること。				

科目名	情報システム論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「情報」を収集・保持・活用するために、多様な情報技術が用いられているだけでなく、「情報」はさまざまな側面を持つ。その概要を実習を交えつつ学ぶ。この授業では、さまざまな情報処理システムの設計・構築・運用経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う。【実務】				
授業方針	なぜシステムを構築するのか、また、「目的を満たす」ことをどのように定義するのかを中心に、講義を行う。また、講義にて取り扱った手法を、各自で実行してみる演習を、適宜行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 システム工学の概要(1) 第 2回 システム工学の概要(2) 第 3回 システムの目的設定 第 4回 グラフによる構造の表現 第 5回 問題構造のモデル化 第 6回 問題解決の過程の分析 第 7回 要求の定義(1) 第 8回 要求の定義(2) 第 9回 要求に対する目標の設定 第10回 問題解決過程における検証 第11回 機能の設計(1) 第12回 機能の設計(2) 第13回 システムの評価 第14回 システムの評価方法 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回、それまでに学習した内容を踏まえて授業を進めるため、授業後は、演習課題を実施できるよう、内容を整理しておくこと。				
学習到達目標	要求と問題を定義することができるようになること。また、問題を解決するために、システムの機能を設計する手法を理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	要求と問題を定義することができたか。また、問題を解決するために、システムの機能を設計する手法を理解できたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題80%、期末課題20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書：井上雅裕、陳新開、長谷川浩志、「システム工学 問題発見・解決の方法」、オーム社、2011 その他、必要に応じて資料を配布する				
備考					

科目名	情報セキュリティ				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	高畑 一夫			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代においては世界中のあらゆるコンピュータがひとつのネットワークに接続されており、そこには無知、悪意によってばら撒かれた危険が満ち溢れている。従ってネットワークの利用、運営にはこれらの危険を回避するための知識が必須となる。本講義ではこのような知識の基礎について解説する。				
授業方針	情報セキュリティ対策法を中心に懇切丁寧に解説する。教科書を使用しないので、休まず出席し、ノートをとることが望ましい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 セキュリティ 第2回 危険の種類と動原理、セキュリティ対策の必要性 第3回 クラッカ、詐欺、ストーカ、スパイ 第4回 コンピュータウイルス 第5回 ソーシャルエンジニアリング 第6回 ネットワークセキュリティ概観 第7回 サイトセキュリティ概観 第8回 セキュリティポリシー 第9回 ネットワーク通信技術 第10回 共通鍵暗号化技術 第11回 公開鍵暗号化技術 第12回 認証技術 第13回 情報セキュリティ機器 第14回 情報セキュリティソフトウェア,法と倫理 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・インターネット犯罪について学習しておくことが望ましい。 ・コンピュータ概論および情報ネットワーク論を履修し単位をて取得していることが望ましい。				
学習到達目標	・情報セキュリティの基本的な概念を理解できたか。 ・情報セキュリティ対策の重要性について理解できたか。 ・情報セキュリティ対策法について理解できたか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	情報セキュリティの基本的な概念を理解しているか 情報セキュリティに配慮した情報機器の使用ができるか			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 受講生と相談し決定する。 (2)参考書 随時、指定する。 (3)その他				
備考	履修条件:コンピュータ概論Ⅰ、Ⅱ、情報ネットワーク論の単位を取得していること				

科目名	情報と職業			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	小野 修一			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	<p>本講義は、高校の教科「情報」の教職課程の必須科目の1つとして設けられている。</p> <p>高度情報化社会におけるビジネス活動の中で、ITおよび情報をどのように利活用し、ビジネス活動で効果を発揮するかについての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【実務】講師はITベンダにおいて情報システムの開発、客先導入、コンサルティングなどに従事し豊富な実務経験を有する。本科目は、これに基づいて、情報システムの効果的活用について学習できる実践的科目である。</p>			
授業方針	<p>①毎回、最新情報や事例を盛り込んだオリジナル教材で授業を行う。</p> <p>②高度情報化社会(IoT社会)におけるビジネス活動に関する基本的な概念・用語について解説する。</p> <p>③企業経営やビジネス活動のさまざまな場面で、ITおよび情報の利活用がどのような効果をもたらしているかについて解説する。</p> <p>④ビジネス活動でITおよび情報を有効に利活用する上での留意点について解説する。</p> <p>⑤毎回、復習課題レポートの作成・発表を行い、高度情報化社会において、皆さんが自己の将来像を考察する機会とする。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 企業組織とビジネス活動</p> <p>第2回 企業活動における財務管理</p> <p>第3回 企業活動を発展させるための経営戦略の策定</p> <p>第4回 企業活動を発展させるための業務改革</p> <p>第5回 企業活動を発展させるための業務分析(1)</p> <p>第6回 企業活動を発展させるための業務分析(2)</p> <p>第7回 企業における情報システム利活用の実際:基幹系システム</p> <p>第8回 企業における情報システム利活用の実際:情報系システム</p> <p>第9回 企業における情報システム利活用の実際:情報基盤系システム</p> <p>第10回 業種ごとの情報システム利活用の実際:製造業</p> <p>第11回 業種ごとの情報システム利活用の実際:流通業</p> <p>第12回 業種ごとの情報システム利活用の実際:サービス業、金融機関</p> <p>第13回 個人情報保護と情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報システムに関する法律</p> <p>第15回 まとめ、最終レポート作成</p>			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、事前にLive Campusにupする教材に目を通し、キーワードについて調べておくこと。</li> <li>・高校で学んだ「情報」を復習すること。</li> <li>・ITおよび情報活用に係わる最新動向に関心をもち、それらに関する新聞、雑誌、ネット等を読むこと。</li> </ul>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や企業等の組織におけるITおよび情報活用の実際を理解する。</li> <li>・自らが社会に出て仕事に就いたときのIT、情報との係わりについての方向性を定めるための知識を習得する。</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や企業等の組織において、ITおよび情報がどのように活用され、効果を生み出しているか、具体的に説明できる。</li> <li>・自らが社会に出て仕事をする中でのITおよび情報との係わり方、方向性をイメージできる。</li> </ul>		
	成績評価 方法	最終レポート50%、毎回の復習課題レポート25%、受講姿勢25%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	毎回、授業テーマに合わせて教材をLive Campusにupする。各自、授業の時に印刷して持参すること。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中は講義内容をよく聞き、重要と思った事項はノートを取ること。</li> <li>・また、質疑応答や発表に積極的に参加すること。</li> </ul>			

科目名	情報ネットワーク論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	高畑 一夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、今日の情報社会を支えている基盤技術である情報通信ネットワークテクノロジーについて解説する。				
授業方針	毎回、懇切丁寧に解説するが、教科書を使用しないので休まず出席しノートをとることが望ましい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 今日の社会とネットワークテクノロジー 第 2回 ネットワークテクノロジーを学ぶための電気の基礎知識 第 3回 ネットワークテクノロジーを学ぶための電子の基礎知識 第 4回 ネットワークテクノロジーを学ぶための情報の基礎知識 第 5回 コンピュータネットワークシステム 第 6回 ローカルエリアネットワーク 第 7回 インターネット 第 8回 物理層 第 9回 データリンク層 第10回 ネットワーク層 第11回 トランスポート層 第12回 アプリケーション層 第13回 ワイヤレスネットワークシステム 第14回 無線LANシステム,ユビキタス情報ネットワークシステム 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	中学校程度の電気に関する知識が必要である。				
学習到達目標	・ネットワークテクノロジーについて理解できたか				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	ネットワークテクノロジーに関する基礎的な概念および利用法について理解できたか。			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1) 教科書 受講生と相談し決定する。 (2) 参考書 随時、指定する。 (3) その他				
備考	将来、情報処理技術者(プログラマやシステムエンジニア)になりたい学生は本講義を履修することが望ましい。履修条件:コンピュータ概論Ⅰ、Ⅱ、の単位を取得していること				

科目名	情報の分析と活用				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「情報」を収集・保持・活用するために、多様な情報技術が用いられているだけでなく、「情報」はさまざまな側面を持つ。その概要を実習を交えつつ学ぶ。この授業では、さまざまな情報処理システムの設計・構築・運用経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う。【実務】				
授業方針	インターネット上などで触れる、さまざまなサービスの構成要素と、そこに存在する情報の位置づけと取り扱いを中心に、講義を行う。また、各自のPCを用いた実習を原則として毎回行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 Webの仕組み 第 2回 検索エンジン 第 3回 Webサーバ内の処理で実現されるサービス 第 4回 Webフォームの作成とコンピュータ上の画像 第 5回 情報の多義性 第 6回 情報推薦 第 7回 コンピュータ上のデータとシンボル 第 8回 情報と暗号化 第 9回 コンピュータ間の情報伝達 第10回 Internet of Things 第11回 Webからのデータ取得と可視化 第12回 マイクロブログからのデータ取得と可視化 第13回 WebAPIの利用 第14回 データ分析 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回の授業内容について、各自で授業中に実施した内容と同じ事項を実施してみる。				
学習到達目標	「情報」は現実の表現の一つであり、解釈により意味付けが変わることを理解する。また、「情報」の収集・分析・活用を行う基礎的な手法について、実習を通して理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「情報」は現実の表現の一つであり、解釈により意味付けが変わることを理解できたか。また、「情報」の収集・分析・活用を行う基礎的な手法について、実習を通して理解できたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題80%、期末課題20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	実習に各自のPCを用いる。				

科目名	情報メディア演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水1
担当教員	森沢 幸博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では,主にProcessingによるプログラミング,アニメーション制作に必要な基礎知識の修得を目指す。Processingや2次元グラフィックソフトを利用したコンテンツ制作実践を通じて,デジタル・クリエイターに求められる発想力を身につけることを目標とする。				
授業方針	Processingの機能や応用操作,プログラミングによるデジタル・コンテンツ制作に必要な知識について具体的な手法を紹介する。 課題作品は2名～3名の少人数グループを中心に,実際に作品を制作し発表する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Processing 概要説明 第2回 Processingによるプログラム基礎 第3回 レイアウト設定、図形描画 第4回 かたちと面の作画 変数 第5回 Processingによるテキスト 画像データ編集 第6回 Processingによるカラーマネジメント 第7回 関数 条件文 画像の分析・再構成 第8回 関数 条件文によるゲームプログラミング 第9回 アルゴリズムによるアニメーション編集 第10回 Processingによるサウンドファイル編集 第11回 Processingによるイメージ 映像ファイル編集 第12回 デジタル作品制作(1) インタラクション設計 第13回 デジタル作品制作(2) 3DCGプログラミング 第14回 最終プレゼンテーション 質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示すプログラミング課題について事前に調べ,専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題,最終コンテンツ課題作成(30時間) 授業内で指示するプログラミング課題に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	メディア芸術に関する基礎知識について学び,デジタル技術とアート表現の有用性について説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	メディア芸術に関する基礎知識や最新技術について理解し,プログラミングによるメディア芸術作品について専門知識を用いて説明することができる。			
	成績評価 方法	中間課題30% 授業内レポート30% 最終課題評価40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書:「情報表現入門」美馬義亮 公立はこだて未来大学出版 2014年 参考書:「Processing クリエイティブ・コーディング入門」田所淳 技術評論社 2017年				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	情報関連法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	一戸 信哉			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	急速な情報技術の発展に伴い、人間の生活の基本といえる「情報」とそれを取り巻く環境において変化が起こっている。その「情報」に係る法律も、単なる法の個別条項の技術的な修正のレベルにとどまらず、伝統的な理論や枠組みそのものにまで及んでおり、それらの自明性を根底から問い直している場面が多々生じている。本講義では、このような「情報」とそれを取り巻く環境における変化を理解し、それらにかかわる法律の現状と問題点などを議論する。				
授業方針	基本的に講義形式となるが、常に学生との対話を行い、また学生の授業に積極的に参加をする姿勢を特に評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報と法律 第2回 電気通信と法 第3回 放送と法 第4回 通信と放送の融合 第5回 個人の情報発信 第6回 情報公開 第7回 電子商取引(1) 第8回 電子商取引(2) 第9回 インターネットと犯罪 第10回 個人情報とプライバシー、ビックデータ(1) 第11回 個人情報とプライバシー、ビックデータ(2) 第12回 知的財産(1) 第13回 知的財産(2) 第14回 情報社会と法 第15回 まとめ				
準備学習	毎回の配布する資料、自己の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	情報社会における法的課題の現状を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	情報社会における法的課題を理解し、それについて自分なりの意見を持ち、説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への出席と毎回のコメントシート(40%)、試験(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					



科目名	情報社会特講II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、主にコンピュータや外部機器を用いて音楽制作、音響表現をする上で必要とされる知識の理解と応用技術の修得を目的とする。この科目は、企業でのアプリケーション開発、音源制作経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う実践的科目である。【実務】				
授業方針	コンピュータとその関連機器を用いた音楽制作手順、制作方法、音響表現技術を、アナログシンセサイザー、デジタルシンセサイザー、音響機器(録音機、PA、ミキサー、エフェクタ)等を用いて学習する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 アナログシンセサイザーとデジタルシンセサイザー 第2回 アナログシンセサイザーの機能と使用法 第3回 オシレータ(VCO)と低周波発信機(LFO)、フィルタ(VCF)の機能と役割 第4回 アンプ(VCA)の機能とエンヴェロープ(ADSR)の役割 第5回 加算合成、リング変調、FM合成 第6回 パッチングによる音色作成(1)単音、複合音 第7回 パッチングによる音色作成(2)各種変調音 第8回 現実音を用いた音響作品制作(1)録音 第9回 現実音を用いた音響作品制作(2)編集 第10回 マルチスピーカーを用いた多チャンネル音響表現(1)音響表現 第11回 マルチスピーカーを用いた多チャンネル音響表現(2)空間表現 第12回 作品制作(1)音響表現 第13回 作品制作(2)空間表現 第14回 作品制作(3)総合課題 第15回 作品発表及び講評:まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回の授業内容に関する設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業内課題(40%)、期末課題評価(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 使用しない (2)参考書「サウンドシンセシス」小泉宣夫、岩崎真/講談社				
備考	コンピュータなど情報機器の基本操作について習得しておくこと。音楽作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。機材の関係上、受講者数の上限を20名とする。受講希望者が20人以上になる場合は抽選により受講者を定める場合がある。				

科目名	情報社会特講VI				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本授業は、東京オリ/パラ開催を控え、日本の成長産業であり、学生にもなじみ易いスポーツ産業に関連した『スポーツ経営』をテーマに、実際に経営学について学ぶことを目的としている(将来スポーツ関連の職業に就きたいという者にとって全く役に立たない訳ではないが、それを目的としない)。また欧米比べて遅れている日本のスポーツ産業を通して「経営」についても学ぶ。千葉ロッテマリーンズの経営企画室長としての経験などによる実践的科目。【実務】				
授業方針	講師は、35年に渡る実業界での経験の中で、いくつかのスポーツ関連企業・組織で仕事をしてきた。講師の経験、体験談、スポーツに関する時事問題に関する解説を交え、具体的で興味を持てる内容を心がける。毎回授業の最後に腹落ちした内容等を「学習シート」に各自まとめることによって理解を深める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 日本のスポーツ産業概観 第3回 スポーツマーケティングの発展(1) 第4回 スポーツマーケティングの発展(2) 第5回 スポーツマーケティングの発展(3) 第6回 スポーツの持つ力(1) 第7回 スポーツの持つ力(2) 第8回 スポーツの持つ力(3) 第9回 プロスポーツチームの経営(1) 第10回 プロスポーツチームの経営(2) 第11回 リーグ/協会の経営(1) 第12回 リーグ/協会の経営(2) 第13回 地方創生/スポーツツーリズム/eスポーツ 第14回 スポーツ経営に関するディスカッション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	受講期間中、スポーツのビジネス面についてのニュース・記事(ネット、テレビ、新聞、書籍など媒体は何でも結構)について興味を持ってフォローすれば理解が深まる。				
学習到達目標	日本のスポーツ産業の現状についての自分なりの考えの整理が出来ていること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・プロ野球、サッカー、バスケ、ラグビーなどのスポーツの歴史と現状について自分なりの言葉で他人に説明できるか ・日本のプロスポーツ界の課題や将来像について自分なりの言葉で他人に説明できるか			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 「実践スポーツビジネスマネジメント—劇的に収益力を高めるターンアラウンドモデル」(小寺 日本経済出版社) (3)その他 資料は適宜配布、紹介する。				
備考	PCを持参すること				

科目名	人文地理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	松尾 忠直			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人文地理学の見方・考え方ー地域の風土と景観の形成ー 人文地理学を構成する基礎的な概念の理解とともに、地域の風土と景観の形成に関する事例的検討を通じて、教員免許の取得を志望する学生にとって必要な人文地理学的な見方や考え方の習得を目指す。 主として地域に固有の景観を生み育てた地域文化に注目し、歴史的展開と地理的環境との係わり合いについて概説する。				
授業方針	授業は主にパワーポイントを用い、多くの写真、図表、映像資料を提示する。必要に応じて資料をLiveCampusで配付する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業オリエンテーション 講義計画と受講上の諸注意 第2回 1. 人文地理学の成り立ち 1) 地理学思想、地理学の歩みと近代地理学の成立 第3回 2) 人文地理学と地図 第4回 3) 人文地理学の領域と分化① 第5回 3) 人文地理学の領域と分化② 第6回 4) 人文地理学の基礎的かつ主要な概念 ① 地理的事象の測定ー分布とスケールー 第7回 4) 人文地理学の基礎的かつ主要な概念 ② 地域の分類ー等質地域と機能地域ー 第8回 4) 人文地理学の基礎的かつ主要な概念 ③ 地域の変容ー伝播と継承ー 第9回 2. 地域文化と領域・伝播・交錯 1) 地域文化と地理学 第10回 2) 東西日本の地域差 第11回 3) 食文化の継承と変容 第12回 3. 地域の景観とその変化 1) 景観と生活文化 2) ムラ・マチの生活と文化 第13回 3) 生活様式の近代化と景観変化 4) 高度経済成長期の都市ー村落関係 5) 心象景観・追慕される景観 第14回 総括 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業内容の予習・復習(提示された参考文献を読み進めることや関係資料の精査を含む)と毎回授業時に提示される課題(リアクションペーパーやドリルワークなど)への主体的な取り組み(総計60時間以上)。				
学習到達目標	人文地理学を構成する基礎的な概念の理解はもちろん、地理学に必須の地図の読解力や、景観とその背景にある地域特性を説明する力を得る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	人文地理学を構成する基礎的な概念を理解できているか、地理学に必須の地図の読解力や、景観とその背景にある地域特性を説明する力が得られているか。			
	成績評価 方法	試験 60% 主として論述形式により授業の理解度および課題への総合的考察力を判定する。 平常点 40% 授業への取り組み姿勢およびリアクションペーパーなどで評価する。これらの合計得点により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に教科書を指定しないが、授業には必ず地図帳を持参し、地名や地形などを各自で確認すること。				
備考	実習授業などやむを得ない事由により欠席する場合は、必ず申し出ること。学習内容(授業スケジュール)は、進行状況により変更もあるので注意すること。				

科目名	西洋史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	高橋 裕子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	古代ギリシアの文化はさまざまな領域において、ヨーロッパのみならず、人類共通の財産とも言うべきものを後世に残した。この講義においては、古代ギリシア文化の多様な側面を概説すると同時に、それをもとに異文化への理解を深めることを目的とする。				
授業方針	古代ギリシアの歴史・文化について概観する。映像資料も用いて古代ギリシアの文化全般について幅広く知識を得ることを目標とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 インTRODクシヨ 2 ミノア文化 3 ミケーネ文化 4 初期鉄器時代 5 ホメロスの世界 6 前古典期 7 古典期 8 ヘレニズム時代 9 思想と哲学 10 建築様式 11 オリンピック 12 神話と宗教 13 神殿と聖域(1)デルフォイ 14 神殿と聖域(2)エピダウロス 15 まとめ				
準備学習	1) 授業中に指示する参考文献などを事前に読み、大まかな内容を理解しておくこと(30時間)。 2) 授業後は復習を行い、学期末のレポート作成に備えること(30時間)。				
学習到達目標	古代ギリシアの歴史や社会、文化について基本的な知識を身につけること。豊かな教養を身につけ異文化理解を深めること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	古代ギリシアの歴史や文化について基礎的な知識を身につけ、それをもとに広い世界観や深い教養を身につけることを目標とする。			
	成績評価 方法	学期末レポート80%、積極的な授業への参加の姿勢20%とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定はしない。 (2)参考書 関連する書物を教室でその都度紹介する。				
備考					

科目名	知識管理論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	高橋 寿夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>様々な主体が保有している知を融合することにより、素早く／高度に目的を達成することができるとともに、様々なイノベーションを産み出すことが可能である。 本講座は、講師の調査研究やコンサルティングを通じて培った実務経験に基づき展開されるもので、知の有効活用／創出方法を具体的な事例を踏まえて身につけられる実践的科目である。【実務】</p>				
授業方針	知識管理に必要な方法論を学ぶとともに、実習やグループディスカッションを通じて”自ら考える”ことにより実践力を身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 総論 -なぜ知識管理が必要か-</p> <p>第2回 暗黙知と形式知</p> <p>第3回 知識創造プロセス</p> <p>第4回 グループディスカッション(知の創造)</p> <p>第5回 知の探索と深化</p> <p>第6回 オープンイノベーション</p> <p>第7回 共創マーケティング</p> <p>第8回 デザインシンキング</p> <p>第9回 デザインシンキングの実践</p> <p>第10回 オープンデータの活用</p> <p>第11回 データを活用方法(1)</p> <p>第12回 データを活用方法(2)</p> <p>第13回 データ活用ワークショップ</p> <p>第14回 まとめと総括</p> <p>第15回 テスト</p>				
準備学習	授業内で出題する課題レポート作成 紹介資料の通読				
学習到達目標	知識管理に関する方法論を理解し、実践に結びつける基礎を養う				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	知識管理に関する方法論を理解しているか グループメンバーと「知」の共有／共創ができるか 自ら考察し、考察結果を的確に表現、レポートできるか			
	成績評価 方法	授業への積極的な参画30%、課題レポート30%、テスト40%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	参考図書は適宜紹介する 統計分析ツール「R」、テキストマイニングツール「KH Coder」				
備考	PCを持参すること				

科目名	知的財産権法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的:知的財産にまつわる様々な法制度の趣旨、概要及びその運用について理解することを目的とします。 内容:知的財産法全般について多くの判例・事例を交えて分かりやすく解説して行きます。				
授業方針	講義形式で授業を進めて行きますが、とりわけ判例・事例の考え方などにおいてはみなさんの積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&知的財産とは何か 第2回 特許法(1)特許法の目的と全体像 第3回 特許法(2)特許法の保護対象 第4回 特許法(3)特許権の発生と帰属 第5回 特許法(4)特許権の侵害と法的救済 第6回 著作権法(1)著作権法の目的と全体像 第7回 著作権法(2)著作物の要件 第8回 著作権法(3)著作権の効力と制限 第9回 著作権法(4)著作権の侵害と法的救済 第10回 商標法(1)商標法の目的と全体像 第11回 商標法(2)商標権の効力と制限 第12回 不正競争防止法(1)不正競争防止法の全体像 第13回 不正競争防止法(2)営業秘密の不正利用 第14回 まとめ&試験				
準備学習	①予告した授業内容に関連する資料などを事前に読み、自分なりに予習すること(20時間)。 ②毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。 ③最終回の授業内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	知的財産を保護するための主要な法制度について理解し、具体的な事例の中で、知的財産権に対する侵害や救済法などの制度の在り方について考える力を培って行きます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	知的財産法の制度趣旨と制度の概要について理解し、事例の中で法律がいかに適用されるのか理解・説明できることをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(40%)、期末の試験(60%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど適宜配布				
備考					

科目名	地誌学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	原 啓介			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	地誌学の目的は、単に地域の知識を得ることではなく、地域を時空間的にみる(見る、観る、診る)ことにより自らの知見を深め(地誌感の獲得)、より豊かな見方・考え方を得ることである。本講義を進めていく上で中心となる項目は、①世界の地域格差の背景、②世界観と国境問題、③現代都市の功罪、④宗教と地域、⑤食料・食糧と地域である。これらを通して「地域をみる(見る、観る、診る)」ことの有意性、有用性が理解できる。				
授業方針	毎回の講義の流れは以下のようなものである。第一に対象地域の諸事象に関する各自の事前学習内容について確認する。第二に地誌的に有意・有用な映像資料をみる。第三に担当教員が提示するキーワード(対象地域や項目や内容)を基に、受講者それぞれが対照地域を地誌的にどのように「みる」のかを議論する。最後に受講者がそれぞれが、他者の「みる」内容を比較・対照させながら、新たな地誌的視点、視角、視座を会得したことを確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 地誌学序説―地域を「みる」こと(地誌観)の意義― 第2回 世界格差を地誌的にみる①自然環境と人文環境の比較・対照 第3回 世界格差を地誌的にみる②西洋の見方・考え方の根底 第4回 世界格差を地誌的にみる③第三世界の近現代の明暗 第5回 日本の近代化における世界観①田中正造の地誌感 第6回 日本の近代化における世界観②南方熊楠の地誌感 第7回 国境問題を地誌的にみる①ロシアからみる北方「四島」の地誌観 第8回 国境問題を地誌的にみる②日本からみる北方「領土」の地誌観 第9回 現代都市の功罪を地誌的にみる①地球白書は何を示す 第10回 現代都市の功罪を地誌的にみる②先進国・途上国・独立国の比較・対照 第11回 宗教を地誌的にみる①三大宗教とイェルサレムの複雑性 第12回 宗教を地誌的にみる②バチカン市国の表裏 第13回 食料・食糧問題を地誌的にみる①ランドラッシュ(農地争奪)の明暗 第14回 食料・食糧問題を地誌的にみる②工業的・企業的生産の功罪 第15回 まとめ(地誌学の有意性と有用性)及び試験				
準備学習	事前学習では、当該内容を鑑みてそれぞれの地域事象について学習する(各回1時間)。高校地理または世界史の教科書・地図帳、または図書館の図書資料等を活用する。事後学習では、講義内容を適宜整理した上で講義レポートの作成に取り組む(各回3時間)。整理、理解不足のまま講義レポートに取り組まないようにする。その状態で講義レポートに取り組んでも、単位取得に至る評価は得られない。なお、上記に示した講義以外の学習は60時間以上を目安に行うこと。				
学習到達目標	地域を幅広くみる(見る、観る、診る)ことは、単に知識を得るだけでなく、多様で複雑な現代社会を理解する上での骨格となりうる。「日本の常識、世界の非常識」「日本の非常識、世界の常識」とは何を意味するのか？受講者自身で考える機会として、本講義を最大限に活用して欲しい。また毎回の講義レポート作成作業を通して、人文社会科学的な論文を作成する基本的技量を身につけることができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 受講者自身による世界の見方、考え方が会得できているか。 2. 受講者自身の問題意識に基づく指標を活用して、地域に対する科学的・客観的な分析、考察が実践できているか。 3. その上で受講者なりの地誌的な見方・考え方(地誌感)の有意性・有用性について会得できているか。			
	成績評価 方法	1. 第2回から第14回まで、毎回の講義レポート(配点0-7点)を課す(評価全体の約90%)。 2. 期末試験では講義総括論文(配点0-9点)を課す(評価全体の約10%)。 3. 講義に積極的に参加している受講生に対しては、別途努力点を加味する用意がある。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。地図帳があれば持参することが望ましい。参考図書等については適宜紹介する。				
備考	1. 第1回の講義に必ず出席すること。質疑応答は、この時にのみ行う。 2. 大学認定公休届の対象外の欠席の場合は、受講者各自の努力でカバーすることを求める。 3. 私語、雑談、不必要な携帯使用等は厳に慎むこと。悪質行為に対しては大きなペナルティを課す。				

科目名	哲学の源流				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	真田 乃輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、古代ラテン教父のアウグスティヌスの思索に哲学の源流の一つが見いだされる。その根本問題は神と「わたし」であった。われわれはこのひとりより出発し、中世および近世・近代哲学におけるいくつかの、とくに神をめぐる重要な学説をとり上げる。その過程で、古代ギリシャの哲学にもしばしば立ち返られる。現代を生きるわれわれにとってあまり近しくない神の問題をめぐる古典的な哲学的思考の意義と射程についての理解の深化、これが本講義の目標である。				
授業方針	(1) そのつど配布される関連する資料にもとづき講義形式で授業はおこなわれる。(2) 資料の内容の大半は、関連する著述家からの引用により占められる。文章を精確に読解する能力を身につけること、これもまた本講義の目的の一つである。そもそも、哲学することと文章を読むことは切り離されえない。(3) 授業終了前に、毎度、小テストを課す。そこでは、授業内容についての正確な理解にもとづいて、その内容についてみずから疑問や意見を提起することが求められる。				
学習内容 (授業スケジュール)	<p>第一回 イン트로ダクション——哲学とはどのような学か、そして、キリスト教と哲学との関係、あるいは、中世における一つの根本問題である「信仰と知」の関係について</p> <p>第二回 古代ギリシャの世界観からキリスト教的世界観への転換</p> <p>第三回 アウグスティヌス(1)</p> <p>第四回 アウグスティヌス(2)</p> <p>第五回 カンタベリーのアネルムス——「知解を求める信仰」と神の存在論的証明</p> <p>第六回 トマス・アキナス(1)</p> <p>第七回 トマス・アキナス(2)</p> <p>第八回 ドゥンス・スコトゥス(1)</p> <p>第九回 ドゥンス・スコトゥス(2)</p> <p>第十回 デカルトと中世哲学(1)</p> <p>第十一回 デカルトと中世哲学(2)</p> <p>第十二回 カント『純粋理性批判』のなかの「神」(1)</p> <p>第十三回 カント『純粋理性批判』のなかの「神」(2)</p> <p>第十四回 カント『実践理性批判』のなかの「神」</p> <p>第十五回 まとめと試験</p>				
準備学習	<p>① 講義内容の整理(20時間)</p> <p>② 講義内容の補完:各回で紹介される古典や関連する参考文献にみずから目を通す(40時間)</p>				
学習到達目標	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できるようになる。② 哲学的古典に属する文章を精読することにある程度慣れる。③ 豊富な内容を含み、広い射程を有した古典を読む意義を理解する。④ 紹介される(一つないし複数の)学説について、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができるようになる。				
成績評価基準	達成度評価基準	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できたか。② 自分なりの問題関心をもって、一つないし複数の哲学的古典を選ぶことができたか。③ ②と関連して、当該古典について、その内容の正確な理解にもとづいて、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができたか。			
	成績評価方法	期末試験70%、小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1) 特定の著作を教科書として指定し、使用することはしない。そのつど資料を配布する。 (2) 参考図書については、必要に応じてそのつど明示・指示する。				
備考	上記「学習内容(授業スケジュール)」は、状況によっては変更されうる。				



科目名	東洋史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	漢字文化圏における伝統的な歴史観や思想・宗教に対する理解を深めるために、まず漢字の歴史や特徴を学び、日本を含む東アジアにおいて長く広く読まれてきた中国の古典籍を紹介し、歴史および思想の代表的な漢文文献の一節を講読する。文献を読む際には、基本的に日本伝統の訓読を用い、訓読文を理解すること、さらにできるだけ漢文(古代中国の言語)そのものについての理解を深めることを目標とする。				
授業方針	歴史・思想の代表的な漢文文献の一節を講読するが、対象とする文献は、受講生の関心と学力に応じて変更を加える可能性がある。音読(一斉、および指名)、指名発問することになる。社会人になるために必須の漢字、語彙についての知識を増やすよう工夫する。基本的事項について2,3回の小テストを予定。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 漢字文化圏について 第 2回 漢字と書籍の歴史 第 3回 歴史文献を読む(1)-故事成語について 第 4回 歴史文献を読む(2)-『史記』と『正史』 第 5回 歴史文献を読む(3)-『三国志演義』 第 6回 歴史文献を読む(4)-『三国志』(1) 第 7回 歴史文献を読む(5)-『三国志』(2) 第 8回 中国の歴史観について 第 9回 諸子百家について 第 10回 思想文献を読む(1)-『論語』 第 11回 思想文献を読む(2)-『老子』 第 12回 思想文献を読む(3)-『荘子』 第 13回 思想文献を読む(4)-仏教の中国撰述経典 第 14回 古代中国の宗教について 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	①授業後には、課題文献が正確に読めるように何度も音読し、漢文の語法を練習し、漢字(のよみ)や意味を反復練習し、復習小テストの準備をすること。(30時間) ②関心のある文献について、翻訳や紹介した参考文献を読んだり関係の映像を見るなどして発展学習につとめること。(30時間)				
学習到達目標	①故事成語など知識の獲得、②訓読の習得、③古代中国の歴史や文化について理解すること を目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①故事成語などの知識を獲得できたか、②訓読を習得できたか、③古代中国の歴史や文化について理解を深めたか。			
	成績評価 方法	授業中の回答・発言20% 小テスト・レポート20% 期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 プリント(レジュメおよび文献コピー)を配布する。 (2)参考書 辞典・事典類、中国古典の翻訳書各種など、授業中随時紹介する。 (3)その他				
備考	「東洋史概論」を履修しておくことがのぞましい。				

科目名	日本史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	田中 信司			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>「近世・近現代の日本経済」          現在の日本は、さまざまな問題を抱えています。そして、その問題を解決する方法もさまざまですが、過去の歴史を振り返ることはその中で特に大きな意味を持つと思います。          当授業では、そのような意識をもって近世以降の日本史を、経済に力点を置いて解説していきます。授業に臨む中で、過去の日本が現在と全く共通する経済的諸問題と格闘していたことに気づくはずですよ。</p>				
授業方針	資料プリントと板書を中心とした講義形式で授業を進めます。日本史の知識だけでなく、経済概念の基礎的な部分にも言及していきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 近世・近代・現代とは 第2回 鎖国以前と以後の経済 第3回 文治政治のもとでの経済政策 第4回 「江戸の三大改革」の谷間を評価する 第5回 開国と経済 第6回 明治新政府の経済政策 第7回 明治日本の産業革命と資本主義 第8回 労働問題と明治社会主義 第9回 第一次大戦と日本経済 第10回 関東大震災と恐慌の時代 第11回 井上財政と高橋財政 第12回 大陸進出と経済 第13回 戦後の経済復興 第14回 バブル景気とその崩壊 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	高校日本史水準の通史的知識は、教科書などで予習しておくとういと思います。				
学習到達目標	日本史を経済的側面から概観することで、現在の日本経済の抱える諸問題を考察するための見識・およびその下地を養成する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①経済と歴史の関係性および経済の仕組みについて整合性のある理解ができたか。 ②授業への取り組み方が真摯であったか。			
	成績評価 方法	授業内容に基づいた期末レポートの作成 100% ※ただし、出席要件を満たさない者にはレポート提出資格を与えません。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業内で適宜資料プリントなどを配布します。				
備考	履修する以上は、相応の授業態度で臨んでください。				

科目名	平面構成演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブ表現に必要な基礎構成要素(文字を含む形体や色彩)をデザイン実習を通して学びます。				
授業方針	実技中心の授業です。 教科書に沿った授業構成ですが、自由制作課題を設けることで発展的な作業も行います。 使用ソフト: Adobe Illustrator (基本的な使用方法のみ学びます)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1、デザインすることの根拠:なぜデザインが必要か？ 2、デザインをするとは？ 3、要素を整えるという意識 4、フォーマットと要素の関係 5、余白を考える 6、線を使ったデザイン 7、四角を使ったデザイン 8、斜めの配置を使ったデザイン 9、円を使ったデザイン 10、文字を使ったデザイン/サン・セリフ体 11、文字を使ったデザイン/セリフ体 12、色を使ったデザイン:モノクロ+1色によるデザイン 13、色を使ったデザイン:モノクロ+自分の好きな色 14、自由課題(期末試験用課題)テーマに合ったデザイン制作 15、まとめ及び試験				
準備学習	1、使用ソフトは基本的な使用方法のみ学ぶので、より実践的な使用については各自で検索すること。(20時間) 2、定期的に復習を兼ねた宿題を出すので指定日に提出すること(30時間) 3、デザイン作品に対する見聞を広げるため、日頃より事例などを検索すること。(10時間)				
学習到達目標	この授業で学ぶ知識や技術はクリエイティブ分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 知識として学んだ事作業で再現できるか。 b) 基礎を応用して独自の形へ発展できるか。 c) PCでの作業を円滑に進める事ができるか。			
	成績評価 方法	期末試験50% 授業内提出作品30% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書(デザインの教室:佐藤好彦 著)、描画道具(鉛筆など)、スケッチブック				
備考	授業スケジュール内容は開講後、変更の可能性あり。				

科目名	法学応用演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的:憲法、民法と行政法をはじめとする法の主要分野について学び、多くの応用問題を解く練習を経て、法的な思考能力を培うことを目的とします。 内容:社会規範としての様々な法制度の概要について学び、たくさんの事例の中で法規制の有り方をみなさんと一緒に考えて行きます。				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの判例・事例を取り上げて、みなさんによる積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&法学基礎 第2回 法の正当性 第3回 憲法(1)憲法の全体像 第4回 憲法(2)憲法各論&判例を読む 第5回 憲法(3)憲法各論&判例を読む 第6回 民法(1)民法の全体像 第7回 民法(2)民法各論&判例を読む 第8回 民法(3)民法各論&判例を読む 第9回 行政法(1)行政法の全体像 第10回 行政法(2)行政法各論&判例を読む 第11回 行政法(3)行政法各論&判例を読む 第12回 刑事法 第13回 商事法 第14回 まとめ&補足				
準備学習	① 指定の参考資料を事前に読み、ある程度内容を把握すること(20時間)。 ② 毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。 ③ 最終回の授業内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	法学分野における基礎知識を身につけた上で、法制度の趣旨を理解し、法適用など法学応用能力を習得することを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法制度の概要について理解する上で、具体的な事例問題について法規制がいかに適用されるべきかについてどの程度理解し説明できるのかをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(40%)、レポート(60%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど適宜配布します。				
備考					

科目名	民法A(総則・物権)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1
担当教員	森田 智博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	民法全体の総合的共通規則である、民法の総則と物権法に関する基礎知識に関する講義を行う。また、公務員試験などを受験する者に役立つことも目的とする。				
授業方針	基本的に講義形式となるが、常に学生との対話を行い、また学生の授業に積極的に参加をする姿勢を特に評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 私権の主体 -権利能力、意思能力、行為能力 第2回 法律行為 -意思表示 第3回 契約の有効要件(1)-当事者に関わるもの 第4回 契約の有効要件(2)-「真意」に関わるもの 第5回 契約の有効要件(3)-契約内容に関わるもの、無効と取消し 第6回 代理(1)代理とは 第7回 代理(2)無権代理、表見代理 第8回 法人 第9回 時効(1)時効とはなにか、即時取得、取得時効 第10回 私権の客体、物権 第11回 所有権 第12回 占有権 第13回 物権変動(1)所有権の移動時期 第14回 物権変動(2)所有権の第三者への対抗,担保物権 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	配布する資料、自己の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	民法総則、物権について基礎知識を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法律用語は理解し、民法総則、物権に関する具体的な事例について法的な説明をすることができるようになる。			
	成績評価 方法	授業への参加態度(20%)、小テスト(コメントシート、場合によっては自習課題)(20%)、期末テスト(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	民法B(債権)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的:民法の中の債権法部分の法規制を理解し、具体的な事例の中で法律がいかに適用されるのかについて理解することを目的とします。 内容:債権関係の法制度について、その制度趣旨、概要および具体的な法解釈などを中心に分かりやすく解説します。				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの判例・事例を取り上げて、みなさんによる積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&民事法概説 第2回 民法の構造と基本原理 第3回 権利の濫用とは何か 第4回 法律行為とは何か 第5回 契約の成立とその効果 第6回 契約の履行 第7回 判例研究(1)―契約― 第8回 不法行為の意義と要件 第9回 不法行為の種類と損害賠償 第10回 判例研究(2)―不法行為― 第11回 事務管理とは何か 第12回 不当利得とは何か 第13回 債務の弁済 第14回 判例研究(3)―その他― 第15回 まとめ&試験				
準備学習	①予告した授業内容に関連する資料を事前に読み、ある程度内容を把握すること(20時間)。 ②毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。 ③最終回の授業内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	民法の基本原則を把握した上で、債権関係の法制度の趣旨や概要について理解・説明できることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	債権法の法規制について理解した上で、具体的な事例問題についていかに法律が適用されるかについて理解・説明できることをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(40%)、期末の試験(60%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど適宜配布				
備考					

科目名	心理学概論I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学概論Iでは、心理学を学習・研究する上で不可欠な基礎知識を身につけてもらう。心理学とは何か、知覚、学習、記憶、動機づけ、感情、認知、言語、思考、社会的行動など主に実験に基づいた基礎的な心理学の分野について説明をする。心理学の研究方法の多様性と人間の心理について理解を深めることを目的としている。				
授業方針	スライド(パワーポイントやインターネット)などの視聴覚教材を使用して、授業内容が具体的、視覚的に出来るだけ容易に理解できるように努める。また、重要な要点を記したプリント資料を配付するので、受講生は関心を持ったテーマについては、自主的に図書館などを利用して、さらに詳しい内容を学んでほしい。2年次以降の各領域の授業が理解できるよう、心理学の基本的術語や科学的な研究に必要な方法論の基本などを習得してもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学とはどういう学問か 第2回 心理学の研究方法 第3回 動物から人間へ 第4回 感覚 第5回 知覚:視覚のメカニズム 第6回 知覚:色の知覚,形の知覚 第7回 認知:記憶のメカニズム 第8回 学習:レスポナント条件づけ 第9回 学習:オペラント条件づけ 第10回 発達:発達段階の特徴 第11回 動機づけと情動:欲求と充足 第12回 パーソナリティ:特徴とテスト 第13回 社会の中の人間:対人認知 第14回 社会の中の人間:集団心理 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 それぞれの項目について必ず復習しておくこと。(30時間) 2 それぞれの項目の知識を単体ではなく有機的に結びつけられるよう考察しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	基礎心理学の基本的な分野の理解とキーワードの習得。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学的な発想法について基本的な理解が得られたか。 心理学の各分野についておおまかな展望を得ることができたか。 心理学の基本的な術語についての知識が得られたか。			
	成績評価 方法	授業への参加度20%、期末試験の成績80%の比率で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)プリント資料配布、視聴覚教材 (2)教科書 特に指定しない (3)参考書 心理学 第4版 鹿取・杉本・鳥居(編)東京大学出版会 ヒルガードの心理学 第14版 内田一成(監訳)プレーン出版				
備考	心理学について、自分が関心をもった専門分野や理論、仮説などは図書館などを利用して、自分でさらに詳しい知識を得るようにしてほしい。				

科目名	心理学概論II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学概論IIでは、前期で言及されなかった、臨床心理学とそれに関連する領域を取り上げて概説する。取り上げる領域は、歴史、感覚、感情、発達、記憶、臨床心理及び家族臨床心理学である。前期でとりあげている領域でも心理臨床との関連から再考する。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた講義を行う科目である。【実務】				
授業方針	心理離床的視点から心理学を再考したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 歴史 第2回 感覚—触覚を中心に— 第3回 感情—コンプレックスを中心に— 第4回 発達1—乳幼児から青年期— 第5回 発達2—青年期以後 ライフサイクル論— 第6回 臨床—臨床心理学とは(歴史・事例研究法)— 第7回 記憶と臨床—PTSDと記憶— 第8回 臨床—心理テスト(質問紙法)— 第9回 臨床—心理テスト(投影法)— 第10回 臨床—心理療法—箱庭療法— 第11回 家族臨床心理学1—家族とは— 第12回 家族臨床心理学2—母親とは— 第13回 家族臨床心理学3—きょうだいとは— 第14回 家族臨床心理学4—家族ライフサイクル— 第15回 まとめ				
準備学習	事前に配布された資料の精読				
学習到達目標	臨床心理学とその周辺領域を学ぶ準備ができたか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理学とその関連領域の専門用語を正しく理解し、説明できるか			
	成績評価 方法	成績評価方法: 期末レポート70%, 授業への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考					



科目名	基礎演習I(学習法基礎)				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,三浦 和夫,友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は、大学での学習に必要な学習法を身につけること、及び、心理学という学問に親しむことを目的としている。前者についてはおもに、図書館での文献の探し方と、大学のレポートの書き方を重点的に学ぶ。後者については、初歩的な心理学のトピックスに触れることで、心理学という学問についてのイメージを広げることを目指す。				
授業方針	全体、班別での授業と、個別指導の形態をおこなう。全体授業では、学内を訪問する、図書館に行って文献を探す、レポートの作成・提出手順を実体験するなど、大学とそこでの学習を知るための実習を行う。班別授業では、受講生を4班に分け、担当教員がそれぞれの専門分野から基礎的なトピックスを選び、講義・実習形式で紹介するとともに、学生同士の意見交換(ディスカッション)を行う。これらの内容や課題に関する個別指導を通して、今後の学生生活に必要な基本的な学習姿勢や具体的な心理学の知識を身につけることを目的とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 図書館の利用法 研究の出発点となる文献を検索する方法の実習 第2回 レポートの書き方-1 レポートの形式と体裁を学び実際に作成する 第3回 レポートの書き方-2 課題の提出の仕方・LiveCampusの使い方 第4回 学内オリエンテーリング 大学構内をよく知るため少人数に分かれて学内各所を訪問する 第5回 グループ授業1 心理尺度構成 (グループ授業1～8の順番は班によって異なる) 第6回 グループ授業2 実験レポートの作成体験 第7回 個別指導1(課題達成度の確認) 第8回 グループ授業3 レポート体験 第9回 グループ授業4 ディスカッション体験 第10回 グループ授業5 風景構成法体験 第11回 グループ授業6 スクイグル・コラージュ体験 第12回 グループ授業7 「自己紹介」を作る 第13回 グループ授業8 「自己紹介」をする 第14回 個別指導2(課題達成度の確認) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)授業中随時レポートなどの課題を課すのでそれに関する文献などを読んでおくこと。(30時間) (2)講義時に指示された課題についてレポートを作成すると。(30時間)				
学習到達目標	1 図書館を利用して資料を探しだしレポートが作成できるようになる。 2 グループ内のメンバー同士や担当教員とコミュニケーションがとれるようになる。 3 幅広い心理学の話題に親しむ。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	図書館での文献の探し方、大学のレポートの書き方等について理解できたか。			
	成績評価 方法	平常点(各課題への取り組みおよびそれぞれの実習の達成度)50%、最終レポート50%とする			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業時に適宜紹介する (3)その他 必要な資料等は授業時に指示する				
備考	グループ授業は、4班にわかれ班ごとに異なった教室で行われる。班分けは初回に知らせるので必ず出席すること。				

科目名	基礎演習II(課題演習)				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	巖 秀章,小野 広明,河原 哲雄,藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学の学習では、単に教員の説明を聞いて内容を理解するだけでなく、自分自身で考え、それを他者に伝えるという作業が重要になる。この演習は、文献講読ゼミと自由討論を通して、自分の考えをまとめて発言するというコミュニケーション能力を高めることと、大学のゼミ形式の授業に慣れることを目的としている。				
授業方針	学生をいくつかのグループに分けて実施する。文献講読の授業では、心理学に関する基礎的な文献を講読する。学生は1つの文献についてレポーターとなり、文献の内容をまとめたレジュメを作成し、授業時にはそれをもとに発表する。レポーター以外の学生にも、事前に文献に目を通し、授業時には発表を聞いて考えたこと、疑問を抱いたところなどについて発言することを求める。自由討論では、事前に指定されるテーマについて各自が自分の考えを準備し、他の学生の意見も聞きつつ積極的に発言し話し合いを進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマ学習 書く力 第2回 テーマ学習 読む力 第3回 テーマ学習 聞く力 第4回 テーマ学習 話す力 第5回 文献講読ゼミ 第1回 第6回 文献講読ゼミ 第2回 第7回 文献講読ゼミ 第3回 第8回 文献講読ゼミ 第4回 第9回 自分の意見を言うことの意義 第10回 文献講読ゼミ 第5回 第11回 文献講読ゼミ 第6回 第12回 文献講読ゼミ 第7回 第13回 文献講読ゼミ 第8回 第14回 文献を読むことの意義:まとめ  * 討論やテーマ学習の順はグループによって異なる。また変更されることがある。 * 初回に文献資料を配布し詳しい進め方を説明する。				
準備学習	事前に指定された文献を読んだり、話し合いのテーマについて考えてくること				
学習到達目標	1. 担当した文献を要約できるようになる。(レジュメ作成を含む) 2. 指定された文献について質問できるようになる。 3. 討論に参加できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文献を読み、内容をまとめたものを適切に発表する、自分の考えや疑問を積極的に発言する、という大学での基本的な演習スタイルを身につけることができたか。			
	成績評価 方法	平常点(出席+毎回の発言)50点、レポート50点(レポーターとなって発表することが必須、その上でレポートを提出する)平常点とレポートの得点を足したものを、別紙(成績評価と単位認定について)の基準に当てはめて評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 発表のための文献は授業時に配布する。 (2)参考書 授業時に適宜紹介する。 (3)その他 必要な資料等は授業時に指示する。				
備考	備考 受講者は事前に基礎演習 I を履修しておくこと				

科目名	<b>心理学統計法I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学的な研究を行うためには、実験や観察を通してデータを集め、それを分析して適切な情報を読み取る必要がある。この授業では、質的・量的なデータの分析に必要な統計学の考え方と方法の基礎を学ぶ。授業の目的は、統計学に親しみ、データを適切に処理する方法を身につけるとともに、統計的に処理されたデータを客観的に評価する目を養うことである。				
授業方針	講義と実習の形式をとることで、理論と実践の両面から統計学の理解を進める。統計学に関する予備知識は必要ない。講義では、平均値のように日常によく用いられる統計量から始め、具体的なデータの例を多く用いて、それらを処理する方法をわかりやすく説明する。実習では、講義で学習した内容を復習しながら、PCの表計算ソフトMS Excel(エクセル)等によるデータ処理操作を学習する。学習の到達度を確認するために、授業の中で数回の小テストを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理統計入門・データと尺度水準 第2回 データの図表化 第3回 代表値 第4回 散布度 第5回 標準化 第6回 散布図と相関係数 第7回 クロス集計表 第8回 母集団と標本・確率分布 第9回 標本分布と推定量 第10回 不偏性 第11回 実習：相関係数・推定量 第12回 PC実習1：1つの変数の特徴 第13回 PC実習2：2つの変数の関係 第14回 心理学統計法の実習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定した教科書や資料を事前に読み、専門用語の意味などを理解しておくこと。(10時間) 授業の内容は前回授業内容に基づくので、復習しておくこと。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(25時間)				
学習到達目標	統計学の基本的な概念を理解する。 記述統計の基礎を理解し基本的なデータ集計ができるようになる。 エクセルの関数機能等を用いて基本的な統計値を求めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	統計学の基本的な概念を理解したか。 記述統計の基礎を理解し、基本的なデータ集計ができるようになったか。 エクセルの関数機能等を用いて、基本的な統計値を求めることができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業への参加度および小テストの提出状況30%、学期末試験の成績70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 山田剛史・村井潤一郎(著)「やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 参考書 必要に応じてそのつど指示・紹介する。 その他 必要な資料等は講義時に配布する。				
備考	PC実習ではノートパソコンを用いる。				

科目名	心理学統計法II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期の心理統計学IIにひきつづき、心理学の研究に必須の統計の基礎的知識を身につけることを目的とする。本講義では、心理学研究において頻繁に用いられる種々の検定(無相関検定、カイ二乗検定、t検定、分散分析など)の考え方、および具体的なデータへの適用について、実際に練習問題を解きながら学ぶ。				
授業方針	心理学研究において頻繁に用いられる種々の検定法について順次解説する。各種の統計的手法を理解し、自ら適切なデータ処理を行い得るようにするためには、実際のデータについて実習してみることが不可欠である。このため本講義では、統計手法の解説と実習を並行して行う。実習にはExcel(エクセル)とRを使用する予定である。受講者は、毎回必ずノートパソコンを持参すること。授業内で、理解確認のための小テストを行うことがある。授業はゆっくり進めるが、分からないことがあれば、授業中でも積極的に質問して欲しい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 統計的検定の考え方 第 2回 一変数の検定(1)二項検定と無相関検定 第 3回 一変数の検定(2)カイ二乗検定 第 4回 一変数の検定の実習 第 5回 t検定(1) 独立な二群のt検定 第 6回 t検定(2) 独立な二群のt検定の実習 第 7回 t検定(3) 対応のあるt検定 第 8回 t検定(4) 対応のあるt検定の実習 第 9回 分散分析(1) 分散分析と実験計画 第10回 分散分析(2) 一要因分散分析 第11回 分散分析(3) 二要因被験者間計画分散分析 第12回 分散分析(4) 二要因被験者内計画分散分析 第13回 分散分析(5) 二要因混合計画分散分析 第14回 分散分析(6) 分散分析の実習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(10時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)				
学習到達目標	①無相関検定を行うことができる。 ②カイ二乗検定を行うことができる。 ③2つの平均値の差について、適切なt検定を用いて検定できる。 ④3つ以上の平均値の差について、適切な分散分析を用いて検定できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①各検定法の基本的な考え方を理解しているか。 ②実際のデータに対し適切な検定法を選択できるか。 ③統計ソフトなどを用いて適切な検定を行い、結果を正しく解釈することができるか。			
	成績評価 方法	期末試験の得点70%、提出物および授業への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房(心理統計学Iと同じ教科書) 参考書 はじめてのR ごく初歩の操作から統計解析の導入まで 北大路書房 参考書 ツールとしての統計分析 岸学・吉田裕明著 オーム社				
備考	ノートパソコンを毎回必ず持参すること。				

科目名	心理学実験				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4,月5
担当教員	大塚 聡子,曾我 重司,河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学実験は、いくつかのグループに分かれて実際に簡単な心理学の実験や調査を実施し、自分が得たデータを分析し、必要な統計処理や検定を施して結果をまとめ、論理的な考察を加えレポートにまとめる練習を繰り返す授業である。				
授業方針	全員をいくつかのグループに分け、それぞれ別の部屋で、違う種目を2週間かけて経験する。実習では、種目が変わる毎に学生が違う部屋に動くシステムとする。種目をこなす順番もグループ毎に異なるが、授業全体を通して全員同じ種目を経験することになる。また実験レポートの書き方についての指導も行う。この指導では、客観的に分析する技術や論理的な考察について、および心理学実験の倫理についても解説する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 実験に臨む態度について 第2回 一対比較法・実施(種目の順番はグループにより異なる) 第3回 一対比較法・解説 第4回 レポート作成指導(科学的表記法・心理学実験の倫理) 第5回 質問紙調査・実施 第6回 質問紙調査・解説 第7回 記憶の再生・実施 第8回 記憶の再生・解説 第9回 精神物理学的測定法・実施 第10回 精神物理学的測定法・解説 第11回 プライミング・実施 第12回 プライミング・解説 第13回 ストループ効果・実施 第14回 ストループ効果・解説 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	資料を事前に熟読して理解しておくこと(5時間)。 解説授業はその直前の授業の内容に基づいて行われるので、実習内容の復習をしておくこと(10時間)。 各種目についての実験レポートを作成すること(45時間)。				
学習到達目標	経験した実験や調査に関して意味を理解し技法に習熟すること。 科学論文のスタイルでの確かなレポートが書けるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経験した実験やテストに関して意味を理解し技法に習熟したかどうか。 科学論文のスタイルでの確かなレポートが書けたかどうか。			
	成績評価 方法	全種目の実施とレポート提出を必須とする。 レポートの評価点を平均化して最終評価点とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書は使用しない。 諸注意やレポートの書き方、各種目の方法に関する資料を事前または授業時に配布する。				
備考	配布した資料を注意深く読むこと。実習手続きを間違えると正しいデータが得られなくなってしまう。またこの授業では実験に参加することが大切なので絶対に遅刻や欠席しないこと。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、その回の担当教員にかならず連絡・相談すること。				

科目名	心理学研究法基礎(心理学研究法I)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学は科学であり、科学には厳密な方法論が必要とされる。この講義においては、科学としての心理学の方法論についての知識を学び、実習もあわせて体験することによって、みずから問題意識を持ち、それを科学的な心理学の方法をもって明らかにすることのできる知識を習得することを目的とする。				
授業方針	本授業では、まず科学としての心理学における研究方法の基礎を学び、研究に対する問題意識をどのように持つか、その問題を解決する方法、注意すべき点、心理学固有の研究手法などについて紹介する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学研究法の概観 第2回 心理学研究法の歴史 第3回 心理学の研究対象 第4回 科学としての心理学 第5回 心理学の科学的な研究方法とは 第6回 心理学における実験法とは 閾値の測定 第7回 心理学における実験法とは 心理尺度の構成 第8回 心理学における調査法とは 第9回 心理学における質問紙法とは 第10回 心理学における面接法とは 第11回 研究テーマと研究方法を設定するには 第12回 研究計画の立て方 第13回 データの分析とは 第14回 研究発表の方法 第15回 履修者による研究テーマおよびその研究方法の発表:まとめ及び試験				
準備学習	1 「研究法」とは単独で存在するものではなく心理学の多様な領域の研究の中で用いられるものである。したがって、さまざまな心理学の授業の中で学んだ内容を復習しておくこと。(30時間) 2 講義中に適宜発表を求める。そのための文献を検索し要約しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	心理学研究の基礎的な知識を習得し、それらを実際の研究に応用できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究法の基礎的な知識が習得できたか。それらを実際の研究に応用することができるか。			
	成績評価 方法	講義中に課す課題の内容を50%、期末のレポートを50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 使用しない。 (2)参考書 必要に応じてそのつど指示・紹介する。 (3)その他 必要な資料等は講義時に配布する。				
備考	特になし				

科目名	臨床心理学(臨床心理学概論)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	臨床心理学は、「心理的障害を持った人々の健康の改善」と「一般の人々の心理的健康の増進」を目指して、心理学の研究成果の応用と臨床実践から生まれた心理学的援助の方法を統合して、人間性を理解し、その問題を解決するための理論と方法を開発しようとする学問分野である。心理学的な問題の理解を「臨床心理学的査定」と呼び、問題の解決に関することを「臨床心理学的介入」と呼ぶ。この授業では臨床心理学の基礎として歴史と主要理論を主に学ぶ。				
授業方針	この授業は、将来心理臨床の実践家を目指す学生に、臨床心理学についての基礎的な枠組みをとらえ、その主要な考え方を理解して知識を身につけ、さらに専門的な学習を進める手だてを提供することを主な目的とする。そのために、臨床心理学の歴史を紹介し、心理臨床の基礎となる主要理論および発達について述べる。病理や障害については詳しく取り扱わない。この授業は基本的には講義を中心とするが、不定期に知識定着のための小レポートを授業中に実施する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 臨床心理学とカウンセリング 第 2回 臨床心理学の歴史 1臨床心理学の兆し 第 3回 2実験と臨床のはざま 第 4回 3人間のために 第 5回 4日常に貢献する臨床心理学 第 6回 臨床心理学の主要理論 1認知行動心理学 第 7回 2精神分析 第 8回 3人間性心理学 第 9回 4そのほかの主要理論1 第10回 5 2 第11回 臨床心理学的発達論 1乳幼児期・児童期 第12回 2思春期・青年期 第13回 3成人期・老年期 第14回 人格と発達の障害とのかかわり 第15回 まとめ及び試験  学生の理解により進み具合やテーマが変わることがある。				
準備学習	講義の前後に、テキストの当該箇所や関連する章を読んで、予習・復習に努めること。				
学習到達目標	心を理解することの困難さがどこにあるか、心理学はそれにどう取り組み、臨床心理学はその知見をどう生かしてきたかを順に理解していくことが目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理学の基礎的知識が身についたか			
	成績評価 方法	授業への参加度50%、授業中実施する小レポート50%。 別紙(成績の評価と単位認定について)参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	プリントを配布する。 参考文献:カウンセリングの基礎 北樹出版				
備考	臨床心理士を志望する学生は受講しておいてください。				

科目名	心理演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	藤巻 るり,三浦 和夫,巖 秀章,小野 広明,友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	専攻別の小グループに分かれ、コミュニケーションワークや心理検査・心理面接等の体験をする実践的な授業である。臨床心理専攻の学生にとっては、教育・福祉・医療・司法などの領域で心理臨床に従事してきた教員による実践的な演習授業となる。ビジネス心理専攻の学生にとっては、実社会で役立つ心理学的な体験をする授業となる。【実務】				
授業方針	専攻別の小グループに分かれ、毎週違う部屋(教員)の種目を体験する。専攻別でまとめて受講する種目や全員でまとめて受講する種目もある。初回到授業全体の流れを説明するため、必ず出席すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	(種目の順番はグループにより異なる) 第1回 (臨・ビ)箱庭療法 第2回 (臨・ビ)コミュニケーションワーク① 第3回 (臨・ビ)コミュニケーションワーク② 第4回 (臨・ビ)TAT実施 第5回 (臨・ビ)TAT解説 第6回 (臨)ロールプレイ(カウンセリング①)／(ビ)ロールプレイ(ビジネスシーン①) 第7回 (臨)ロールプレイ(カウンセリング②)／(ビ)ロールプレイ(ビジネスシーン②) 第8回 (臨)ロールプレイ(チームアプローチ)／(ビ)コミュニケーションワーク③ 第9回 (臨)ロールプレイ(多職種連携)／(ビ)コミュニケーションワーク④ 第10回 (臨)模擬事例の見立てと支援計画作成／(ビ)コミュニケーションワーク⑤ 第11回 (臨)倫理的ジレンマ事例の検討／(ビ)プレゼンテーション① 第12回 (臨)ブラインドウォーク／(ビ)プレゼンテーション② 第13回 (臨・ビ)心理学実験(パーソナルスペース) 第14回 (臨・ビ)メンタルヘルス防止プログラム 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	参考資料の該当種目の部分を事前に読み理解しておくこと。(10時間) 各種目内容について振り返りを行うこと。(20時間) 授業にて示す課題についてレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	心理査定やコミュニケーションの技法に習熟し、自己理解・他者理解を深める。 臨床心理専攻の学生は、心理職としての専門的な他者理解・支援方法についても習熟する。 ビジネス心理専攻の学生は、現実的な場面における他者理解やコミュニケーション方法について習熟する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経験した心理査定やコミュニケーション技法等に関して意味を理解し技法に習熟したかどうか。 臨床心理専攻の学生は、心理専門職に必要な査定・援助技法を理解できたか。 ビジネス心理専攻の学生は、実社会で役立つ人間理解の方法を理解できたか。			
	成績評価 方法	割り当てられた全種目の実施とレポート提出が必要である。 各種目の評価点を平均化して最終評価点とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	演習の方法や諸注意について第1回授業で資料を配布する。				
備考					



科目名	ビジネス心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	川久保 惇			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ビジネス心理学は、人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題を心理学の立場から実証的に考え、その解決策を探る学問である。具体的には、社会心理学、産業・組織心理学や健康心理学の領域から各テーマをとりあげ、その理論と事例を紹介する。本講義を通じて、職場の人間関係や行動の理解に心理学がどのように応用されているかを学んで欲しい。				
授業方針	講義は、パワーポイントや映像教材を使用して進める。授業では各回のテーマに関する理論を説明し、そのビジネスへの応用を紹介する。内容を理解するためには、自らの経験に結びつけることや考えを深めることが重要である。なお、毎回の授業の終わりにミニレポートを提出してもらう。各学生の授業への積極的な参加を期待する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス:ビジネス心理学について 第2回 リーダーシップ 第3回 フォロワーシップ 第4回 ワークモチベーション:仕事への動機付け 第5回 組織コミットメント 第6回 対人関係のスキル 第7回 健康の心理:ストレスとメンタルヘルス 第8回 組織の意思決定 第9回 人間関係とコミュニケーション 第10回 人材育成・人事マネジメント 第11回 安全の心理:ヒューマンエラー 第12回 消費者行動の心理 第13回 広告の心理学 第14回 ファッションの心理学:被服・化粧行動 第15回 まとめと最終試験				
準備学習	1. 日常生活(大学、サークル、アルバイトなど)での経験や問題を意識することが準備学習の起点となる。 2. 講義内で配布された資料および作成したノートを読み返し、毎回の内容の理解を深めること(15時間)				
学習到達目標	1. 日常のコミュニケーションや行動を心理学の視点で解釈し、説明できるようになる。 2. 心理学の基礎知識を日常生活に応用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. テーマとしてとりあげたビジネス心理学の基本を理解できたかどうか。 2. 心理学がビジネスにどのように応用され、機能しているかを理解できたかどうか。			
	成績評価 方法	期末試験 70% 授業への参加度 30%(授業毎のミニレポート)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキストは、特に指定しない。 授業内で資料を配布する。 参考書は必要に応じて授業内で紹介する。				
備考					

科目名	一般実験演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	卒業研究を行うための基礎として、各自の興味や問題意識に従って文献を選び、履修者全員で輪読し、発表と討論を行う。これにより、自身の興味や問題意識の対象が、心理学においてどのような領域に位置付けられているのかを知ることが目的とする。また、履修者の興味関心に合わせた心理臨床的体験学習(各種心理検査や箱庭療法等の体験)も随時行う。				
授業方針	文献の発表と討論、および体験学習を中心に進めていく。なお、文献については共通するテーマのものを教員が指定する場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表① 第2回 履修者による研究テーマ発表② 第3回 研究テーマに関わる発表文献の決定 第4回 文献の輪読&討論① 第5回 文献の輪読&討論② 第6回 文献の輪読&討論③ 第7回 文献の輪読&討論④ 第8回 文献の輪読&討論⑤ 第9回 研究法についての文献輪読① 第10回 研究法についての文献輪読② 第11回 研究法についての文献輪読③ 第12回 心理臨床的体験学習① 第13回 心理臨床的体験学習② 第14回 研究計画発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	実際に研究テーマと関連した文献を検索することで文献検索の方法を知り、またその文献を精読しておくこと。				
学習到達目標	自身の興味や問題意識の対象が、心理学においてどのように位置付けられていることを説明できる。 またその領域における研究の流れについて説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自身の問題意識に従って適切な文献を選定し、内容を十分に理解できたか。 自身の問題意識の対象が心理学においてどのような領域に位置付けられるのかを理解し、またその領域においてどのような研究の流れがあるのかを把握できたか。			
	成績評価 方法	発表の内容と討論での発言を評価の対象とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	一般実験演習I			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 水3
担当教員	曾我 重司			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	学生は、担当教員によって示された研究テーマにもとづき、自ら実験、観察、調査などの方法を用いて研究が行えるような基礎的知識を習得する。一般実験演習Iでは、その為の文献などの講読・発表を行う。			
授業方針	2年次の基礎実験演習では、教員が簡単な実験や心理テストを用意し、2週を単位として実施したが、一般実験演習では研究計画の立案、従ってそのために必要となる文献の検索、輪読からはじめ、研究方法、被験者の選択からデータ処理や検定方法の決定及び実施に至るまで、学生がそれぞれ主体的に行っていくことになる。自ら心理学の研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 発表文献の決定 第4回 文献の輪読 第5回 発表された文献内容に関する討論 第6回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的分析方法の立案 第9回 実験、観察、調査等の実施 第10回 データの分析 第11回 分析されたデータの解釈 第12回 レポートの序文となる文献のまとめ 第13回 レポートの作成 第14回 レポートの中間報告 第15回 レポートのプレゼンテーションの実施および内容についての履修者全員での質疑:まとめ及び試験			
準備学習	1 選択した文献の内容の理解およびレジュメの作成。(20時間) 2 調査・実験に必要な機材・資料の作成。(20時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書作成。(20時間)			
学習到達目標	1 心理学の専門知識を習得すること。 2 心理学の研究に必要な手法の知識を習得すること。 3 実際に心理学的データを収集し、分析ができるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか 2 適切なデータを収集し、的確な分析を行うことができたか		
	成績評価 方法	授業時の文献発表内容を25%、討論への参加内容を25%、最終的なレポートの内容を50%として、評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	必要な文献・資料については講義時に適宜指示する。			
備考	実際の実験・調査実施は実験協力者の都合などにあわせ各自空き時間を使って行うことになる。またデータ処理もここで指定されている時間だけでは終了しないと思われる。したがって本演習では決められた授業時間以外に多くの時間が必要となる。			

科目名	一般実験演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教員が提示した研究テーマにもとづき、学生自ら実験の研究計画を立て、実際に実験研究を行う。さらにデータの分析、統計的処理等を施した上で論理的な考察を加えてレポートを作成する。自ら心理学の実験研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。				
授業方針	研究計画の立案、文献の検索、輪読から始め、研究方法、被験者の選択からデータ処理や解析にいたるまで、学生のグループが主体的に行う実習形式の授業である。実験の内容によっては、正規の授業時間以外の時間における実習が必要になる場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ解説 第2回 研究テーマ議論 第3回 文献資料の検索 第4回 文献の輪読(内容報告) 第5回 文献の輪読(批判的検討) 第6回 研究計画の立案(検証仮説) 第7回 研究計画の立案(実験計画) 第8回 実験の実施(実施準備) 第9回 実験の実施(データ採取) 第10回 実験の実施(データ整理) 第11回 データ処理(基礎統計) 第12回 データ処理(分散分析) 第13回 データ処理(多変量解析) 第14回 研究報告 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(10時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できるようになる (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができるようになる				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができたか			
	成績評価 方法	実習および議論への寄与60%、期末レポート40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考					

科目名	一般実験演習I			
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	三浦 和夫			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	来年度の卒業研究および卒業レポート作成に向けて、各ゼミ生がテーマを絞り込んでいく。自分の興味あるテーマについてどのような研究がなされてきたか(先行研究)を調べ、またどのような方法論が可能かなどをできるだけ個別に考えていく。尚、箱庭体験等の自己体験を希望する学生は当初より体験をはじめることとなる。			
授業方針	発表者は先行研究を調べ、必ずレジュメを提出すること			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 箱庭体験などの自己体験を希望する学生は月1回、臨床センターにて行う。 それ以外の学生は、レジュメに基づき発表してもらう。まず班分けをし、センターの場所など日程等を確認する。 その他の学生は研究室にて行う。そのための発表日程を決める。</p> <p>第 2回 発表及び自己体験 第 3回 発表 第 4回 発表 第 5回 発表及び自己体験 第 6回 発表 第 7回 発表 第 8回 発表及び自己体験 第 9回 発表 第 10回 発表 第 11回 発表及び自己体験 第 12回 発表 第 13回 発表 第 14回 発表 第 15回 後期までに学習課題の整理:まとめ及び試験</p>			
準備学習	発表者は自らのテーマに関する先行研究をできるだけ調べレジュメを作ること			
学習到達目標	<p>1自らのテーマについての先行研究を調べること 2卒研にむけての方法論をみいだすこと 3自己体験を続ける学生はその記録を続けること</p>			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	自らの選択したテーマに関し、これまでどのような研究がなされてきたかについて理解できたかどうか。		
	成績評価 方法	発表50%、授業への参加状況50%。箱庭制作は箱庭そのものを評価するのではなく、授業への参加状況を重視する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	一般実験演習I			
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 火4
担当教員	大塚 聡子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	受講生自身が実験研究を行う授業である。受講生は与えられたテーマの中で具体的な実験計画をたて、実験準備をして実際に実施をする。また、収集したデータを集計して統計的に処理し、論理的な考察を加えてレポートを作成し発表する。以上の内容を通して、一連の心理学実験作業を体験する。			
授業方針	受講生は小グループに分かれ、発展的な心理学実験を実施する。研究計画の立案や準備のほか、教示の設定、被験者の依頼と招集、データ処理法や検定方法の選択・決定に至るまで、受講生が主体的に行っていくことが求められる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 実験テーマの説明 第2回 資料検索 第3回 文献の講読 第4回 文献と実験テーマに関する議論 第5回 実験内容の立案 第6回 実験計画の設計 第7回 実験環境の設営 第8回 実験プログラムの作成 第9回 手続きの確認と予備実験 第10回 実験実施 第11回 データ処理 第12回 統計的検定 第13回 結果に関する議論 第14回 研究発表 第15回 レポート作成			
準備学習	各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(10時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前の作業を終了させておくこと。(25時間) 実施した実験に関するレポートを作成すること。(25時間)			
学習到達目標	心理学実験の計画立案からレポート作成・発表まで、一連の作業を体験し、その内容を知る。 実験心理学で用いられる主要な手法を知り、それを使えるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究として妥当な実験計画を立案できたか。 適切に実験を実施し、データを的確に分析することができたか。 論理的な実験レポートを作成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(実習作業への参加・寄与の状況)50%, レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書は使用しない。 参考資料等は必要に応じて適宜配布・紹介する。			
備考				

科目名	一般実験演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	各自の研究計画を確立させるために、自分の研究と類似のテーマの先行研究を講読する。また並行して、研究計画を発表し、検討を重ねていく。				
授業方針	先行研究の検索および講読、研究の立案、データ処理の方法などの決定および実施に至るまで、各自で進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方・分担決定 第2回 文献検索の方法 第3回 文献検索の実施 第4回 文献検索の実施と文献配布 第5回 論文講読・研究計画発表(担当者A・担当者D) 第6回 論文講読・研究計画発表(担当者B・担当者E) 第7回 論文講読・研究計画発表(担当者C・担当者F) 第8回 論文講読・研究計画発表(担当者D・担当者A) 第9回 論文講読・研究計画発表(担当者E・担当者B) 第10回 論文講読・研究計画発表(担当者F・担当者C) 第11回 論文講読・研究計画のまとめ 第12回 量的分析法実習(度数分布・記述統計ほか) 第13回 量的分析法実習(t検定・分散分析・相関係数ほか) 第14回 質的分析法実習(KJ法, M-GTAほか) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①論文については全員分目を通す(20時間) ②自分の担当分の論文のレジュメを作る(20時間) ③研究計画を作成する(20時間)				
学習到達目標	先行研究をきちんと読み、実施可能な研究計画の立案ができること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	先行研究をきちんと読み、実施可能な研究計画の立案ができたかどうか。			
	成績評価 方法	レジュメの内容と発表(50%) 授業への参加態度(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	一般実験演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1
担当教員	巖 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	卒業研究を目指して各自の関心のあるテーマの概念化をはかり、同時に実際の研究方法を模索する。				
授業方針	自分の研究テーマについて先行研究を調べ発表する。それゆえ発表以外にも個別指導の時間を取る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 研究計画概要発表と討論 第4回 研究計画概要発表と討論 第5回 研究計画概要発表と討論 第6回 研究計画概要発表と討論 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的研究計画の立案 第9回 具体的研究計画の発表と討論 第10回 具体的研究計画の発表と討論 第11回 具体的研究計画の発表と討論 第12回 具体的研究計画の発表と討論 第13回 調査計画の立案 第14回 調査計画の討論:まとめ				
準備学習	先行研究をよく探し、よく読みこむこと				
学習到達目標	自分の研究テーマをわかりやすく説明できるようになる				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	目的と方法を研究に即して書けるようになる			
	成績評価 方法	発表(50%), 授業への参加度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考	4年生の研究についての発表を聞いたり相互にコメントをして討論するために、4年生と合同でゼミを実施する。詳細はおって連絡する。				



科目名	一般実験演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	小野 広明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	文献講読と研究討議により、犯罪・非行又は逸脱行動に関する幅広い専門知識と研究方法を習得するとともに、卒業研究のテーマ及び内容を具体化する。				
授業方針	担当教員の指導とゼミ学生の相互啓発により、卒業研究に向けて主体的に研究を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究の意義及び前期の演習の進め方についての講義 第 2回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 3回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 4回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 5回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 6回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 7回 犯罪・非行研究領域の文献講読と討議 第 8回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第 9回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第10回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第11回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第12回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第13回 研究計画の発表と討議／話題提供と討議 第14回 キャリア支援講座 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	研究に関する自己の関心領域、内容等を整理しておくこと。				
学習到達目標	主体的に研究計画を策定し、研究に着手すること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	心理学研究としての課題、計画、実施手順等の的確性、実現可能性			
	成績評価 方法	研究計画の発表内容50%、討議など授業への参加状況50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	藤巻 るり			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、卒業研究の準備を進める。各自が研究テーマに合った研究方法を見つけるために履修者全員でいくつかの研究方法についての文献輪読も行い、質的研究の方法論を学ぶ。			
授業方針	発表と討論を中心に進めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習Iをふまえての発展的研究テーマ発表 第2回 発表文献の決定 第3回 研究テーマに関する文献の輪読① 第4回 研究テーマに関する文献の輪読② 第5回 研究テーマに関する文献の輪読③ 第6回 研究テーマに関する文献の輪読④ 第7回 研究テーマに関する文献の輪読⑤ 第8回 研究方法に関する文献の輪読① 第9回 研究方法に関する文献の輪読② 第10回 研究方法に関する文献の輪読③ 第11回 具体的研究計画の立案&発表① 第12回 具体的研究計画の立案&発表② 第13回 具体的研究計画の立案&発表③ 第14回 具体的研究計画の立案&発表④ 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	自分の興味のあるテーマが、心理学研究においてどのように位置づけられているのかを理解しておくこと。			
学習到達目標	自分の興味のあるテーマに関して、これまでどのような研究がされてきたか調べる。また、自分がそのテーマにどのような方法論で関われるか具体的に考える。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自分の興味のあるテーマが、心理学研究においてどのように扱われているか理解できたか。 自分の問題意識を具体的な研究方法と結び付けて考えることができるか。		
	成績評価 方法	発表の内容50%、討論での発言50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	曾我 重司			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	学生は、一般実験演習IIにおいて選んだ研究テーマおよび結果にもとづき、テーマに関連する知識を深め、実際に実験・調査を行い、最終的には一つの報告書にまとめ報告する。			
授業方針	一般実験演習Iで行った研究をさらに深め、研究計画の立案、従ってそのために必要となる文献の検索、輪読からはじめ、研究方法、被験者の選択からデータ処理や検定方法の決定及び実施に至るまで、学生がそれぞれ主体的に行っていくことになる。自ら心理学の研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習Iのレポートに基づく発展的研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 発表文献の決定 第4回 文献の輪読 第5回 発表された文献内容に関する討論 第6回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的分析方法の立案 第9回 実験、観察、調査等の実施 第10回 データの分析 第11回 分析されたデータの解釈 第12回 レポートの序文となる文献のまとめ 第13回 レポートの作成 第14回 レポートの中間報告 第15回 レポートのプレゼンテーションおよび結果についての履修者全員による質疑:まとめ及び試験			
準備学習	1 選択した文献の内容の理解およびレジュメの作成。(20時間) 2 調査・実験に必要な機材・資料の作成。(20時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書作成。(20時間)			
学習到達目標	1 心理学の専門知識を習得すること。 2 心理学の研究に必要な手法の知識を習得すること。 3 実際に心理学的データを収集し、分析ができるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか 2 適切なデータを収集し、的確な分析を行うことができたか		
	成績評価 方法	授業時の文献発表内容を25%、討論への参加内容を25%、最終的なレポートの内容を50%として、評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	必要な文献・資料については講義時に適宜指示する。			
備考	実際の実験・調査実施は実験協力者の都合などにあわせ各自空き時間を使って行うことになる。またデータ処理もここで指定されている時間だけでは終了しないと思われる。したがって本演習では決められた授業時間以外に多くの時間が必要となる。			

科目名	一般実験演習II			
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	河原 哲雄			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	教員が提示した研究テーマにもとづき、学生自ら実験の研究計画を立て、実際に実験研究を行う。さらにデータの分析、統計的処理等を施した上で論理的な考察を加えてレポートを作成する。自ら心理学の実験研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。			
授業方針	研究計画の立案、文献の検索、輪読から始め、研究方法、被験者の選択からデータ処理や解析にいたるまで、学生のグループが主体的に行う実習形式の授業である。実験の内容によっては、正規の授業時間以外の時間における実習が必要になる場合もある。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ解説 第2回 研究テーマ議論 第3回 文献資料の検索 第4回 文献の輪読(内容報告) 第5回 文献の輪読(批判的検討) 第6回 研究計画の立案(検証仮説) 第7回 研究計画の立案(実験計画) 第8回 実験の実施(実施準備) 第9回 実験の実施(データ採取) 第10回 実験の実施(データ整理) 第11回 データ処理(基礎統計) 第12回 データ処理(分散分析) 第13回 データ処理(多変量解析) 第14回 研究報告 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(10時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(30時間)			
学習到達目標	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できるようになる (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができるようになる			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができたか		
	成績評価 方法	実習および議論への寄与60%、期末レポート40%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する			
備考				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	三浦 和夫			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、来年度の卒業研究作成に向けて、各ゼミ生がテーマを絞り込み、決定する。前期からの先行研究の吟味を続けながら方法論を決めたい。 尚、箱庭体験等の自己体験学生は引き続き記録をしながら体験を積み重ねていく。			
授業方針	発表者は先行研究を調べ、必ずレジュメを提出すること			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 箱庭体験などの自己体験を希望する学生は月1回、臨床センターにて行う。 それ以外の学生は一人ずつ発表してもらい、まず班分けをし、センターの場所など日程等を確認する。 そのほかの学生は研究室にて行う。そのための発表日程を決める。 後期よりできるだけ個別に対応する。 第2回 自己体験 第3回 発表 第4回 発表 第5回 自己体験 第6回 発表 第7回 発表 第8回 自己体験 第9回 発表 第10回 発表 第11回 自己体験 第12回 発表 第13回 発表 第14回 自己体験 第15回 総合研究演習までの課題の確認:まとめ			
準備学習	発表者は自らのテーマに関する先行研究をできるだけ調べレジュメを作ること			
学習到達目標	1 自らのテーマについての先行研究を調べながらどのような方法で卒研をすすめるかについて決定する。 2 自己体験を続ける学生はその記録を続けること			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らの選択したテーマに関する先行研究の吟味と卒業研究の方法論を確定すること		
	成績評価 方法	発表50%, 授業への参加度50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	大塚 聡子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	受講生が自身の興味に応じて文献を選択・講読し、その内容に関連した研究を実施する授業である。一般実験演習Iと同様に、受講生は自ら研究計画をたてて実施することになるが、本演習ではさらに、研究テーマとそれに関連する研究環境を自身で選択・構築する必要がある。実際の研究を通してデータを収集したら、それを分析し、最終的には研究レポートを作成して発表する。			
授業方針	各受講生が自らの興味や関心に基づいて研究論文を1つ選択し、その内容をゼミ発表する。またその研究内容に関連した実験・調査研究を実際に実施する。実施の際には、研究計画の立案からデータの収集、分析、検定、さらに考察を含むレポート作成と発表までを行うことになる。以上の作業は、次年度の卒業研究のテーマの選択・決定に関連する重要な課題でもある。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 文献の講読:目的と方法 第2回 文献の講読:結果と考察 第3回 文献と研究テーマに関する議論 第4回 研究計画の立案と設計 第5回 研究計画に関する議論 第6回 調査・実験の準備:研究環境設営 第7回 調査・実験の準備:道具・刺激の作成 第8回 調査・実験の準備:道具・刺激の整備と手続きの確認 第9回 調査・実験の準備:予備研究の実施と手続きに関する最終討論 第10回 調査・実験の実施 第11回 データ処理 第12回 統計的検定 第13回 結果に関する議論 第14回 研究発表 第15回 レポート作成			
準備学習	選択した資料を事前に読み、発表と議論に備えること。(10時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(10時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前の作業を終了させておくこと。(20時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	学術的な研究論文を読んで理解し、その内容に関する討論を主体的に行う。 テーマ選択からレポート作成までの一連の研究作業を実施できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学術的な研究論文を選択し、適切に読解・発表できたか。 調査・実験作業を実施し、論理的な研究レポートを作成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(発表の内容, 実習作業への参加・寄与の状況)50%, レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書は使用しない。 参考資料等は必要に応じて適宜配布・紹介する。			
備考				

科目名	一般実験演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	一般実験演習 I で立案した研究計画に沿って研究を進める。原則グループ研究として行うが、テーマによってはその限りではない。				
授業方針	4年次の卒業研究につながるように計画的に研究を進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究計画発表(担当者A・担当者B・担当者C) 第 2回 研究計画発表(担当者D・担当者E・担当者F) 第 3回 グループの作成, 共同研究の打ち合わせ 第 4回 調査, 実験, 観察等の実施(調査項目収集など) 第 5回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票作成など) 第 6回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査など) 第 7回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査など) 第 8回 データ処理(調査票整理など) 第 9回 データ処理(データ入力など) 第10回 データ処理(データ入力など) 第11回 データ処理(データ入力・データクリーニング) 第12回 データ解析(記述統計量の算出など) 第13回 データ解析(t検定・分散分析・相関など) 第14回 レポート執筆 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①研究の対象者やフィールドの確保(5時間) ②調査票作成や印刷など(15時間) ③データの入力と分析(20時間) ④レポートの作成(20時間)				
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、レポート作成という流れに沿い、きちんと研究を進めること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、レポート作成という流れに沿い、きちんと研究を進めることができたかどうか。			
	成績評価 方法	研究準備50%, 研究実施後のデータ分析の取り組み50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	一般実験演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	巖 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期に続いて各自の研究テーマを実際の研究の形になるよう絞り込む。				
授業方針	全体発表だけでなく、個別面接も行って指導する。それゆえ発表以外にも個別指導の時間を取る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究スケジュール 第2回 発表 第3回 発表 第4回 発表 第5回 発表 第6回 発表 第7回 発表 第8回 発表 第9回 発表 第10回 発表 第11回 発表 第12回 発表 第13回 発表 第14回 まとめ				
準備学習	先行研究をよく調べて考えること				
学習到達目標	4年になったらすぐ調査などにかかれるようになる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	方法までが確定すること			
	成績評価 方法	発表(50%)と出席(50%) 別紙(成績評価と単位認定ついて)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考	4年生の発表を聞いたり、相互にコメントし討論する。詳細はおって連絡する。				



科目名	一般実験演習II			
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	小野 広明			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	各自の研究テーマにより即し、犯罪・非行又は逸脱行動に関する専門的知識を獲得し、卒業研究の一層の具体化を図る。			
授業方針	前期の演習で各自が策定した研究計画を更に具体化する。具体化した内容を全員の前で発表し、意見や助言を受ける。また、卒業研究の発表とは別に各自関心のあるトピックを持ち寄り話題提供を行い、集団でのディスカッションを行う。さらに、後期まで研究した内容をレポートにして提出させる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期の演習の進め方についての確認 第2回 論文作成要領の講義① 第3回 論文作成要領の講義② 第4回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議① 第5回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議② 第6回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議③ 第7回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議④ 第8回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議⑤ 第9回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議⑥ 第10回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議⑦ 第11回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議⑧ 第12回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議⑨ 第13回 研究中間報告レポートの作成① 第14回 研究中間報告レポートの作成② 第15回 研究中間報告レポートの個別指導:まとめ及び試験			
準備学習	①研究の目的・方法・論文の作成法に関する講義内容について予習と復習をすること(20時間) ②研究の中間発表の準備をすること(20時間) ③研究中間報告レポートを作成すること(20時間)			
学習到達目標	演習及び自習の成果を研究計画の具体化に確実に反映させること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自己の卒業研究についての幅広い知識を獲得し、実現可能で具体的な研究を進めること。		
	成績評価 方法	研究の進捗50%、演習への参加姿勢50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	適宜紹介する。			
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。			

科目名	総合研究演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1,火3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を実施する。自分自身の問題意識を論文という形にまとめる。				
授業方針	各自が研究テーマにしたがって、そのテーマの関連文献や先行研究を吟味しながら研究計画を立案する。また、立案した計画を、発表および討議の中で洗練させて具体的な形にしていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回目 卒業研究テーマの発表1 第2回目 卒業研究テーマの発表2 第3回目 卒業研究テーマの発表3 第4回目 具体的研究計画および研究方法についての討論1 第5回目 具体的研究計画および研究方法についての討論2 第6回目 具体的研究計画および研究方法についての討論3 第7回目 発表&討論1 第8回目 発表&討論2 第9回目 発表&討論3 第10回目 発表&討論4 第11回目 発表&討論5 第12回目 発表&討論6 第13回目 発表&討論7 第14回目 卒業研究の中間報告 第15回目 まとめ及び試験				
準備学習	文献を自発的に調べ、批判的に読む。 自分自身の問題意識を明確にする。				
学習到達目標	具体的な方法を含んだ研究計画の策定ができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	関連する文献を十分に吟味できたか。 自身の問題意識を独自の視点から研究計画にできたか。			
	成績評価 方法	発表内容60%、授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	読むべき文献は教員が指定する場合がある。				
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでのすべての学校教育で身につけたことの集大成であり、これから社会人として生きていくための出発点となる重要なものである。また、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。				
授業方針	指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。研究の主題と目的を明確にし、最適な研究方法を探索し、得られた結果を十分吟味して考察を加えることが求められる。実際の授業の進め方については、それぞれの学生の研究実施上のニーズに合わせて、担当の教員が指示するので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。総合研究演習 I では、主に各自の研究計画の検討が中心の課題となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習の研究結果に基づく卒業研究テーマの発表 第2回 一般実験演習での結果を発展させるための条件の検討 第3回 研究テーマの妥当性に関する討論 第4回 研究に関連する文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈 第14回 卒業研究の序文となる文献のまとめ 第15回 卒業研究の作成・中間報告:まとめ及び試験				
準備学習	1 研究関連論文発表に際しては事前に文献を熟読理解し、レジメを作成しておくこと。(10時間) 2 卒業研究の実験・調査の準備を行うこと。(30時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書の作成をすること。(20時間)				
学習到達目標	研究計画の立て方について十分な検討をし、実験・分析を行って中間報告ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究方法、分析によって中間報告書をまとめることができるか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを50%、中間報告の内容を50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	研究テーマに関連する文献・資料を適宜指示する。				
備考	履修登録の際には、指定された指導教員の授業に登録すること。 (教員によって授業番号が異なるので注意すること)				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1,火2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では、卒業研究の進め方について指導する。指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。				
授業方針	受講学生の研究計画の進行状況に応じて、卒業研究の実習と指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(刺激作成の準備) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(刺激作成) 第3回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画の準備) 第4回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画) 第5回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画の確認) 第6回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム作成準備) 第7回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム前半の作成) 第8回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム後半の作成) 第9回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラムの完成) 第10回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験の準備) 第11回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験) 第12回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験のデータ処理) 第13回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験のまとめ) 第14回 調査, 実験, 観察等の実施(本実験に向けて) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、先行研究や研究方法を理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(20時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	卒業研究にふさわしい学習・研究活動を進められるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究にふさわしい学習・研究活動が進められたかどうか			
	成績評価 方法	各自の研究・発表内容60%, ゼミにおける議論への貢献40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1,木1
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究にむけて具体的にテーマも決定し、実際に動き出すことになる。自己体験や事例研究的なテーマは、主に記録を欠かさず継続していくこと。インタビューを行う学生は、それぞれのテーマを事前に学習し、インタビュー項目を決め、最初のインタビューについて取り上げ検討する。				
授業方針	教員との個別的な対応が主になる。体験的なテーマについては前期まで、体験を継続し、地道に記録を続ける。その他のインタビューなどを方法とする学生は、1回のインタビューで何が聞けなかったか。どんなことを聞くべきか、または聞かないべきか。インタビューは面接に近い態度を必要であり、1回ごとに丹念に吟味する必要がある。また、先行研究にあたることも必要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 体験を扱う班は引き続き、臨床センターにて体験を継続する。そのための日程の確認を行う。その他の班は研究室にて個別指導となる。</p> <p>順調に進んでいる者で3～4回の個別指導をおこなう。随時必要な学生については時間外の指導もおこなう。</p> <p>第2回 個別指導</p> <p>第3回 個別指導と箱庭体験</p> <p>第4回 個別指導</p> <p>第5回 個別指導</p> <p>第6回 個別指導</p> <p>第7回 個別指導と箱庭体験</p> <p>第8回 個別指導</p> <p>第9回 個別指導</p> <p>第10回 個別指導</p> <p>第11回 個別指導と箱庭体験</p> <p>第12回 個別指導</p> <p>第13回 個別指導</p> <p>第14回 個別指導</p> <p>第15回 全員が集合しそれぞれの進捗状況を確認し、夏季休暇の間にすべきことを確認する。:まとめ及び試験</p>				
準備学習	先行研究をできる限り検索し読むこと。必ず個別面接時に検討すべき資料を前日までに整理し送ることが必須。また体験を主とするものは、体験自体の記録を丹念に書くことだけでなく、日常的な体験に影響するようなことがらについても記録すること				
学習到達目標	自らが選択したテーマについて、これまで言われていること(先行研究)、選択した方法によって集められたデータや記録を整理できるかが目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らが選択したテーマについて、先行研究について理解し、説明できるか。 自らが選択した方法によって集めたデータや記録を整理できるか。			
	成績評価 方法	テーマを決定し先行研究を読み、理解し、方法を決め、実践し、その結果をまとめるまで行われているか ただし体験的なテーマは、前期まで地道に記録をとり、前期終了時にその体験を終了する。その後体験の整理とともに先行研究にあたる準備ができるかどうか。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火5
担当教員	大塚 聡子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでの学校教育で身につけたことの集大成であり、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。総合研究演習 I では担当教員の指導の下に研究計画を立て、準備をし、予備または第一研究を実施する。最終的にはその報告書を作成する。				
授業方針	受講生自身が先行研究の調査を行い、卒業研究のテーマを立て、研究計画を立てて研究を実施する。実際の授業内容は、各受講生の研究実施上のニーズに合わせて指示されるので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンスと卒業研究テーマの検討 第2回 研究に関連する文献の調査 第3回 文献の講読・発表 第4回 文献に関する討論 第5回 具体的研究テーマの設定 第6回 具体的な研究計画の立案 第7回 具体的な研究方法の立案 第8回 予備または第1研究(実験、調査等)の準備① 第9回 予備または第1研究(実験、調査等)の準備② 第10回 予備または第1研究(実験、調査等)の実施① 第11回 予備または第1研究(実験、調査等)の実施② 第12回 データ分析 第13回 結果の解釈 第14回 今後の課題の検討 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(60時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(20時間) 授業中に示す課題について報告書を作成すること。(40時間)				
学習到達目標	卒業研究にふさわしいテーマを設定し、適切な実験・調査作業を行うことができるようになる。 卒業研究のテーマに関する報告書を作成する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	主体的に研究の準備作業を進めたか。 論理的な報告書を作成できたか。			
	成績評価 方法	報告書の内容50%、授業への参加度50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は使用しない。 参考資料は講義中に適宜指示・紹介する。				
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1,金5
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を実施する。				
授業方針	各自のペースで研究を行い、総合研究演習Ⅱにつなげていく。授業時間内では研究計画の発表、調査票などの作成とその内容吟味などを受講生相互で行い、各自の研究がより優れた研究となるように進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(項目収集の準備など) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(項目収集など) 第3回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度作成の準備など) 第4回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度作成など) 第5回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度構成の確認など) 第6回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票作成準備など) 第7回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票前半の作成など) 第8回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票後半の作成など) 第9回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票の完成など) 第10回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査の準備など) 第11回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査など) 第12回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査のデータ処理など) 第13回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査のまとめなど) 第14回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の準備) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①研究の対象者やフィールドの確保(10時間) ②調査票作成や印刷など(20時間) ②データの入力と分析(50時間) ③レポートの作成(40時間)				
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進めること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進めることができたかどうか。			
	成績評価 方法	発表内容50%, 授業への参加度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習は卒業研究について指導する。卒業研究はこれまでの学習の集大成である。同時にそれは社会人、また専門家としてやっていく上での基礎となるであろう。				
授業方針	学生自身が研究計画を立て、必要な用具を揃え、研究を実施する。それを実現すべく、教員が指導を重ねていく。総合研究演習 I では、主として目的と方法の検討を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習の研究結果に基づく卒業研究テーマの発表 第2回 一般実験演習での結果を発展させるための条件の検討 第3回 研究テーマの妥当性に関する討論 第4回 研究に関連する文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈 第14回 卒業研究の作成・中間報告・まとめ				
準備学習	発表の準備をよくすること。				
学習到達目標	調査方法を具体化すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	先行研究をよく調べ、発表をきちんとできていること。			
	成績評価 方法	発表内容60%, 授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	講義中必要に応じ指示する。				
備考	3年生と合同の時間を持ち、相互に発表・討論を行う。指定された指導教員の授業に登録すること				



科目名	総合研究演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1,水1
担当教員	小野 広明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を計画的に進める。				
授業方針	各自研究進捗状況を発表し、教員の指導及び他受講者からの助言を踏まえて着実に研究を進める。また、卒業研究の発表とは別に各自関心のあるトピックを持ち寄り話題提供を行い、集団でのディスカッションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 前期演習の進め方についての確認 第2回 卒研の作成要領に関する講義 第3回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第4回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第5回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第6回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第7回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第8回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第9回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第10回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第11回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第12回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第13回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第14回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第15回 前期の進捗状況と後期の取組みに関するレポート提出				
準備学習	現時点での成果、今後の課題を明確に発表できるように準備すること。				
学習到達目標	主体的に研究を進めること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究としての課題、計画、実施手順等の的確性、実現可能性			
	成績評価 方法	研究の進捗70%、演習への参加姿勢30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1,火3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を完成させる。				
授業方針	研究計画に従って卒業論文という形にしていく。必要に応じて個別指導という形をとることもある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告① 第2回 総合研究演習Iの成果報告② 第3回 総合研究演習Iの成果報告③ 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の検討 第5回 発表① 第6回 発表② 第7回 発表③ 第8回 発表④ 第9回 発表⑤ 第10回 発表⑥ 第11回 発表⑦ 第12回 発表⑧ 第13回 研究成果のプレゼンテーションと討論① 第14回 研究成果のプレゼンテーションと討論② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	進展状況に応じて研究を進めていく。				
学習到達目標	卒業研究を完成させることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	自身の問題意識を独自の視点から卒業研究という形にできたか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでのすべての学校教育で身につけたことの集大成であり、これから社会人として生きていくための出発点となる重要なものである。また、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。				
授業方針	指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。研究の主題と目的を明確にし、最適な研究方法を探索し、得られた結果を十分吟味して考察を加えることが求められる。実際の授業の進め方については、それぞれの学生の研究実施上のニーズに合わせて、担当の教員が指示するので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。総合研究演習IIでは、研究を実際に遂行して、結果を整理し、得られた結果についての考察を行い最終的に卒業研究報告書をまとめることが必要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づく研究テーマの妥当性に関する討論 第3回 総合研究演習Iの結果を発展させるための条件の検討 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈・研究全体の考察 第14回 卒業研究報告書の作成 第15回 研究成果のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験				
準備学習	1 研究関連論文発表に際しては事前に文献を熟読理解し、レジメを作成しておくこと。(10時間) 2 卒業研究の実験・調査の準備を行うこと。(30時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書の作成をすること。(20時間)				
学習到達目標	研究計画の立て方について十分な検討をし、実験・分析を行って卒業研究報告ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究方法、分析によって卒業研究報告書をまとめることができるか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する。卒研発表会での発表をもって最終試験とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	研究テーマに関連する文献・資料を適宜指示する。				
備考	履修登録の際には、指定された指導教員の授業に登録すること。 (教員によって授業番号が異なるので注意すること)				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では、卒業研究の進め方について指導する。指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。				
授業方針	受講学生の研究計画の進行状況に応じて、卒業研究の実習と指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査、実験、観察等の実施(本実験の準備) 第2回 調査、実験、観察等の実施(プログラムのチェック) 第3回 調査、実験、観察等の実施(本実験の実施) 第4回 調査、実験、観察等のまとめ(データ入力準備) 第5回 調査、実験、観察等のまとめ(データ入力) 第6回 調査、実験、観察等のまとめ(データ解析) 第7回 論文の書き方解説(方法) 第8回 論文の書き方解説(結果と考察) 第9回 論文の書き方解説(問題と目的) 第10回 論文の書き方解説(その他) 第11回 論文作成指導(方法) 第12回 論文作成指導(結果と考察) 第13回 論文作成指導(問題と目的) 第14回 論文作成指導(総括) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、先行研究や研究方法を理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(20時間) (3)研究結果を報告する卒業研究報告を作成すること。(20時間)				
学習到達目標	研究計画について十分に検討し、実験または調査と分析・論文執筆を実行し、卒業研究報告ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究計画、実験または調査、分析と考察にもとづいた卒業研究報告書をまとめることができるか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、ゼミでの発表や討論の内容を25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	総合研究演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2,水2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	前期までにテーマ、方法、先行研究の吟味が終わり、実践とその結果、考察へのすすむ。体験班は前期までにその体験を終了させ、記録の整理とそこからテーマを導き出す。そしてそのテーマについての先行研究を探し、読み、理解する。前者と後者では進み方が逆になる面がある。				
授業方針	教員との個別的な対応が主になる。体験的なテーマで研究をする学生は前期まで体験を継続し、地道に記録を続ける。その他のインタビューなどの方法とする学生は、心理面接に準ずる態度で一回のインタビューでどんなことを聞くべきか、何が聞けなかったか、または聞かないべきであるかを検討する。先行研究にあたることも必要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づき文献研究1 第3回 文献研究2 第4回 文献研究3 第5回 文献研究4 第6回 序論執筆指導1 第7回 序論執筆指導2 第8回 結果のまとめ方1 第9回 結果のまとめ方2 第10回 結果のまとめ方3 第11回 考察のまとめ方1 第12回 考察のまとめ方2 第13回 卒業研究報告書の作成1 第14回 卒業研究報告書の作成2 第15回 研究成果のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験				
準備学習	結果を整理し、発表までにメールに添付して送ること。				
学習到達目標	結果を整理し、研究論文という形式に整えることができるかどうか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究要旨、および本文を締め切り日時までに提出し卒業研究発表会で発表できたか			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習II				
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火5
担当教員	大塚 聡子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでの学校教育で身につけたことの集大成であり、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。総合研究演習IIでは担当教員の指導の下に研究を実施し、卒業研究報告書を作成する。				
授業方針	受講生自身が研究計画を立て、研究を実施し、結果の議論を行う。実際の授業内容は、各受講生の研究実施上のニーズに合わせて指示されるので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。実施した研究の結果を適切に処理し、最終的に卒業研究報告書を作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果に基づく研究テーマの検討 第2回 具体的研究テーマに関する討論 第3回 具体的研究テーマの設定 第4回 具体的な研究計画の立案 第5回 具体的な研究方法の立案 第6回 本研究または第2研究(実験、調査等)の準備① 第7回 本研究または第2研究(実験、調査等)の準備② 第8回 本研究または第2研究(実験、調査等)の実施① 第9回 本研究または第2研究(実験、調査等)の実施② 第10回 データ解析 第11回 結果の解釈 第12回 結果の総合的な検討 第13回 卒業研究報告書の作成① 第14回 卒業研究報告書の作成② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(60時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(20時間) 卒業研究報告書を作成すること。(40時間)				
学習到達目標	卒業研究にふさわしい研究を実施する。 妥当な研究手法による実験・調査を行い、収集したデータを適切に分析する。 論理的な考察を加えて、卒業研究報告書を作成・提出する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究報告書の形式に則って卒業研究報告書を作成できたか。 適切な研究を実施し、その内容について整合性のある議論ができたか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書は使用しない。 参考資料は講義中に適宜指示・紹介する。				
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を実施する。				
授業方針	各自のペースで研究を行い、卒業研究を仕上げていく。授業時間内では研究計画の発表、調査票などの作成とその内容吟味などを受講生相互で行い、各自の研究がより優れた研究となるように進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の準備など) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の実施など) 第3回 調査, 実験, 観察等のまとめ(調査票チェックなど) 第4回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力準備など) 第5回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力など) 第6回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ解析など) 第7回 論文の書き方解説(方法) 第8回 論文の書き方解説(結果と考察) 第9回 論文の書き方解説(問題と目的) 第10回 論文の書き方解説(その他) 第11回 論文作成指導(方法) 第12回 論文作成指導(結果と考察) 第13回 論文作成指導(問題と目的) 第14回 論文作成指導(資料・仕上げ) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと(20時間) ②各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること(20時間) ③卒業研究報告書を作成すること(80時間)				
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進め、卒業研究を完成させること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進め、卒業研究を完成・提出させることができたかどうか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火5
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習は卒業研究について指導する。卒業研究はこれまでの学習の集大成である。同時にそれは社会人、また専門家としてやっていく上での基礎となるであろう				
授業方針	学生自身が研究計画を立て、必要な用具を揃え、研究を実施する。それを実現すべく、教員が指導を重ねていく。総合研究演習IIでは、主として結果と考察の検討を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づく研究テーマの妥当性に関する討論 第3回 総合研究演習Iの結果を発展させるための条件の検討 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈・研究全体の考察 第14回 卒業研究報告書の作成・まとめ				
準備学習	発表の準備をよくすること				
学習到達目標	卒業研究を心理学的な研究報告として完成させること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究報告書で、目的、方法、結果、考察が一貫して書かれているか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じ講義中指示する。				
備考	指定された指導教員の授業に登録すること				



科目名	総合研究演習II				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1,火4
担当教員	小野 広明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を論文として完成させる。				
授業方針	各自が卒業研究の進捗状況を発表し、卒研題目、先行研究の文献整理、調査方法、データの整理・分析・解釈、考察の書き方、結論の書き方などの指導を行い、卒研を完成させる。また、卒業研究の発表とは別に各自関心のあるトピックを持ち寄り話題提供を行い、集団でのディスカッションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期の演習の進め方の確認 第2回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第3回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第4回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第5回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第6回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第7回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第8回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第9回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第10回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第11回 論文最終稿作成指導 第12回 論文最終稿作成指導 第13回 論文最終稿作成指導 第14回 論文完成 第15回 論文のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験				
準備学習	①各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと(60時間) ②各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること(20時間) ③卒業研究報告書を作成すること(40時間)				
学習到達目標	前期の演習における教員からの指導及び他学生からの時助言を踏まえて研究成果を論文にまとめる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究への取り組み姿勢、心理学としての完成度(目的、方法、結果、考察等の妥当性)の高いものであるか。			
	成績評価 方法	卒業研究への取組姿勢25%、卒業研究の内容50%、卒研発表の内容25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	コミュニケーション技法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	田中 道弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ますます複雑化していく現代社会において、人間関係を円滑に運ぶことが求められる一方で、それがうまくいかず人間関係に悩む人も少なくない。本講義では、このような誰もが避けて通ることのできない人間関係について、これまで得られた心理学的知見を、身近な例を用いて様々な面から考察する。				
授業方針	「はじめてふれる人間関係の心理学」をテキストに使用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 印象形成と対人認知 第2回 対人魅力 第3回 言語的、非言語的コミュニケーション 第4回 向社会行動と攻撃行動 第5回 性格と人間関係(1) 第6回 性格と人間関係(2) 第7回 自己概念と人間関係 第8回 日本的自己と人間関係 第9回 友人関係・恋愛関係(1) 第10回 家族関係 第11回 態度変容と説得的コミュニケーション 第12回 リーダーシップ 第13回 集団心理と同調行動 第14回 インターネット上のコミュニケーション 第15回 まとめと試験				
準備学習	(1)シラバスを参考に、各回の章を読んでおくことが望ましい。(※14回目を除く) (2)講義の際の重要事項、キーワードをしっかりと復習する。 (3)教科書内のコラムで紹介された書籍などを読むことで講義の理解度が深まる。				
学習到達目標	コミュニケーションを円滑にするための人間関係に関する理論を理解し、説明できるようになっているか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションを円滑にするための人間関係に関する理論を理解し、説明できる			
	成績評価 方法	全授業日数の3分の2以上出席すること。 講義時に(各回ではない)提示するリアクションペーパーの理解度、クイズへの正解率などを、授業への参加度へ反映する。比率は、 期末試験の得点70%、授業への参加度 30%である。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	榎本博明(2018). はじめてふれる人間関係の心理学 サイエンス社 参考書は、適宜紹介する				
備考	(履修上の注意等) ・学習内容は多少前後する場合があります。 ・毎回出席を取る。 ・講義中、スマートフォン等の使用は認めない。				

科目名	コミュニケーション技法演習I				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	田中 道弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コミュニケーションを円滑にするには、自己理解とともに、他者理解が重要となる。さらに自分の考えを適切に他者へ伝えること、他者の考えを理解すること、共感することも重要である。コミュニケーション技法演習Iでは、自己理解を深めつつ、対人関係の諸理論を学びながら、日々のコミュニケーションに生かせるようになって欲しい。				
授業方針	様々な心理尺度から自己理解を深めて欲しい。さらにカウンセリングの技法を応用しながら、コミュニケーションスキルを高めていって欲しい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 ガイダンス、自己理解を深める(1) ジョハリの窓</p> <p>第2回 プレゼンテーション 自己紹介(1)</p> <p>第3回 プレゼンテーション 自己紹介(2)</p> <p>第4回 対人関係 表情・しぐさ(1)</p> <p>第5回 対人関係 表情・しぐさ(2)</p> <p>第6回 対人関係基礎トレーニング(1) かかわり行動、傾聴</p> <p>第7回 対人関係基礎トレーニング(2) 開かれた質問、閉ざされた質問</p> <p>第8回 対人関係トレーニング(3) ハゲマシ、イイカエ</p> <p>第9回 言葉を選ぶ(喜ばれる言葉)、コミュニケーションの意欲を高める(ア行トーク)</p> <p>第10回 サイレントトーク、価値交流学習(多様性を受け入れる)</p> <p>第11回 うなづき・繰り返し、要約の技法</p> <p>第12回 質問と傾聴の技法(開かれた質問、閉ざされた質問、共感)</p> <p>第13回 自己理解を深める(2) 性格フィードバック</p> <p>第14回 合理的な話し合いを学ぶ(リーダー・フォロワーの強化)</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>※参加者の理解度、演習への参加状況を見て、一部内容を変更することがある。</p>				
準備学習	・授業時、講義資料を配布予定				
学習到達目標	コミュニケーションを円滑にするための技法や理論を理解し、学んだことを日常生活に生かせるようになっているか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションを円滑にするための技法や理論を理解し、学んだことを日常生活に生かせるようになっている。ロールプレイへの参加や討論での発言ができる。			
	成績評価 方法	出席と実習参加(50%)、各回提出の課題(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	・授業時、資料を配布予定				
備考	<p>(履修上の注意等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容は多少前後する場合があります。</li> <li>・演習のためリアクションペーパーの比重は高い。</li> <li>・授業中のスマートフォン等の操作は禁じる。</li> </ul>				

科目名	コミュニケーション技法演習II				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	対人関係において必要なものは、自己に対する感受性と他者に対する共感性である。コミュニケーション技法演習IIでは、コミュニケーション能力向上のための実習を行う。				
授業方針	主に、コミュニケーションに関する実習と、その振り返りを行う。最後にまとめレポートを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 コミュニケーションとは 第2回 自己の振り返り 第3回 自己の捉えなおし 第4回 他者から見た自分 第5回 自分と他人 第6回 価値観 第7回 思い込み 第8回 言語コミュニケーション 第9回 非言語コミュニケーション 第10回 トラブル 第11回 他者との協働① 第12回 自己開示とフィードバック① 第13回 他者との協働② 第14回 自己開示とフィードバック② 第15回 まとめ及び試験  受講生の実習状況により、内容を変更することがある。				
準備学習	①日頃の自分の対人コミュニケーションを観察すること(20時間) ②実習ごとの振り返りシートを作成すること(20時間) ③授業終了時にまとめレポートを作成すること(20時間)				
学習到達目標	対人コミュニケーションの実践に取り組むこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	対人コミュニケーションの実践にしっかり取り組めたかどうか			
	成績評価 方法	授業回数の3分の2以上を出席した受講生について、授業への参加状況60%、最後のまとめレポート40%の割合で評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 使用しない。 参考書 適宜紹介する。 必要な資料は授業時に配布する。				
備考					

科目名	ビジネス心理原典講読				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ビジネスに関わる心理学の文献・資料を講読する。心理学の応用分野としての産業・組織・広告・消費分野に関する知識を深めることを目的とし、幅広い話題にわたり多様な研究手法を扱う文献をとりあげる。受講生は交代で発表者となって担当する文献の内容を紹介し、それをもとに全員で討論する。				
授業方針	ビジネスに関わる心理学の文献を講読する。はじめに文献・資料を示すので、受講生は自身の興味に応じて担当項目を選択する。受講生は交代で発表者となり、担当文献の内容を紹介する。その際、あらかじめ発表資料を準備するなど、十分な予習しておく必要がある。発表者以外の受講生もあらかじめ文献を精読しておき、授業中には、発表者の解説を聞いて考えた点や疑問点をコメント・質問して討論を進める。また、授業で扱った文献全般に関する総合討論を行い、心理学の学際的・応用的な視点の獲得をめざす。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ビジネス心理学概説 第2回 講読：動機づけ 第3回 講読：リーダーシップ 第4回 講読：ストレスと精神的健康 第5回 講読：性役割 第6回 講読：広告 第7回 講読：コミュニケーション 第8回 講読：好意 第9回 講読：意思決定 第10回 講読：認知バイアス 第11回 講読：希少性 第12回 講読：感性評価 第13回 講読：知覚と学習 第14回 講読：人間工学 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	自身が担当する文献を事前に精読し、発表資料を作成しておくこと。また関連事項について調べ、発表と議論に備えること。(30時間) 各回の文献を事前に読み、専門用語の意味などを理解しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	心理学研究の基礎とそのビジネスへの応用に関する知識を得る。 専門的な文献を読んで発表資料を作成し、それをもとに発表する。 文献についての学術的な討論に参加し、意見交換をする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究の基礎とそのビジネスへの応用に関する知識を得ることができたか。 専門的な文献を読んで発表資料を作成し、それをもとに発表できたか。 文献についての学術的な討論に参加し、意見交換できたか。			
	成績評価 方法	授業日数の3分の2以上を出席した受講生について、受講態度50%、発表内容50%の割合で評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は授業時に配布する。				
備考	授業の性質上、受講者数を制限する場合がある。				

科目名	家族臨床心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>家族には、さまざまな関係がある。親と子、きょうだい、夫婦、祖父母と孫などである。今回は親子を中心に取り上げる。また、家族自体にも成長がある。結婚、出産、育児、子どもの思春期、子どもの結婚、夫婦の危機、家族の死など、これらはファミリーライフサイクル論と位置づけられている。今回は家族の死を中心にとりあげる。</p> <p>この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた講義を行う科目である。【実務】</p>				
授業方針	映画や昔話などの題材をとりあげ、また実際に映画をみながら父、母、きょうだい、祖父母、家族について考えていきたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 家族とは1  第2回 家族とは2ージェノグラムと動的家族画ー  第3回 母親とは  第4回 グレートマザー論1ー昔話の中の母親「ヘンデルとグレーテル」よりー  第5回 グレートマザー論2ー山姥とジョーズの夢ー  第6回 父親とは1  第7回 父親とは2ーエディプス論ー  第8回 きょうだいとは1  第9回 きょうだいとは2ー異性のきょうだいを中心にー  第10回 映画「きょうだい」を観る1  第11回 映画「きょうだい」を観る2  第12回 映画「きょうだい」を考える  第13回 ライフサイクル論ーアニメーション「つみきのいえ」よりー  第14回 ファミリーライフサイクル論  第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>1 指定した教科書を事前に読んでおくこと  2 自分にとって父親、母親、きょうだい、祖父母とは何か。自分なりに考えておくこと。</p>				
学習到達目標	家族についての概念的な知識だけでなく、学生自身の家族について再考する機会としたい。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)家族内のさまざまな関係について理解できたか (2)ファミリーライフサイクル論について理解できたか			
	成績評価 方法	発表50%、期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	<p>(1)教科書 「家族関係を考える」河合隼雄 講談社現代新書 「無意識の構造」 河合隼雄著 中公新書  (2)参考書 適時紹介する</p>				
備考					

科目名	学校臨床心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	巖 秀章			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「いじめ」、「不登校」、「学級崩壊」など、学校が直面する課題は多い。このような状況に対して、臨床心理学はどのような支援が可能であるかについて学ぶことを目的とする。				
授業方針	1.講義、課題、話し合いの三形式で行う。 話し合いでは大学院生がリーダーとして入る。 2.学校での現状を理解する。 3.児童・生徒の心理発達についての理解を深める。 4.教育共同体での支援の実践について知る。 5.具体的な事例に触れる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 講義 教育におけるカウンセリングの実際 第2回 話し合い 学校における居場所 第3回 課題 学校での居場所作り 第4回 講義 発達におけるカウンセリングの実際 第5回 話し合い 小学校におけるカウンセリング 第6回 課題 発達について 第7回 講義 学校における心理療法 第8回 話し合い 中高におけるカウンセリング 第9回 課題 心理療法について 第10回 講義 家族の心理療法 第11回 話し合い 大学におけるカウンセリング 第12回 課題 家族について 第13回 講義 コンサルテーション 第14回 話し合い 家族と学校での居場所 第15回 学校臨床の課題				
準備学習	話し合いや課題の前に必ず教科書の該当箇所に目を通しておくこと				
学習到達目標	教育共同体のカウンセリング支援に必要なものが何かを理解すること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	課題により授業方針の2～5についての理解を見る。			
	成績評価 方法	授業中に実施する課題(50%)と話し合いへの参加(50%) 別紙(成績評価と単位認定について)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	追って通知する。				
備考	教育領域やスクールカウンセラーに関心がある学生の受講を勧める。				

科目名	学習心理学(学習・言語心理学I)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	藤田 勉			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	アメリカの学習心理学者スキナー(Skinner, B.F.)を創始者とする行動分析学の理論と技法を学ぶ。行動分析学を学ぶことで、他者および自分の行動を客観的に観察できる目を養い、行動をより望ましい方向に変容させる具体的な手続きを考える上での一助とする。				
授業方針	原則的には講義形式で進められるが、実際の実験場面や行動変容の過程等については視聴覚教材を活用して受講生に提示する。また、教授内容の学習をより確かなものにするため、授業の最後にレビュークイズ(授業内容を問う復習テスト)を実施し(数回の実施を予定)、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 キック・オフ(授業のガイドライン) 第2回 I. 行動変容の基礎(行動とは、学習とは、学習心理学とは、行動分析学とは、行動の種類、2つの条件づけ) 第3回 レスポンデント条件づけ(無条件刺激、無条件反応、中性刺激、対提示、条件刺激、条件反応他) 第4回 レスポンデント条件づけの応用研究(動物恐怖症の実験、アルコール依存症の治療、系統的脱感作法他) 第5回・第6回 オペラント条件づけ(好子、嫌子、強化、逃避、罰、ペナルティー、消去、回避他) 第7回・第8回 オペラント条件づけの応用研究(様々な場面での応用) 第9回・第10回・第11回 II. 行動変容技法の日常への応用:じぶん実験のすすめ 第12回・第13回・第14回 III. 課題発表(行動の増加手続きを用いて、行動の減少手続きを用いて) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書、授業中に配布するプリント類、参考文献等を事前に読んでおくこと。(20時間) ② 授業の中で説明したオペラント条件づけを利用し、実際に行動を変容させる実験を行う。(20時間) ③ 授業の最後に授業内容に関する小テスト(レビュークイズ)を実施するので(学期中数回実施)、復習をしておくこと。(20時間)				
学習到達目標	○レスポンデント条件づけの手続きについて知り、説明できるようになる。 ○オペラント条件づけの手続きについて知り、説明できるようになる。 ○学習心理学(行動分析学)の視点でヒトや動物の行動を考えることができるようになる。 ○他者および自分の行動をより望ましい方向に変容させる手続きについて、合理的・具体的に思考できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	○授業内容を正確に理解できているか(レビュークイズで評価)。 ○オペラント条件づけの手続きを正確に理解し、他者あるいは自分の行動を望ましい方向に変容させることができるか(課題発表の内容で評価)。 ○学習心理学の考え方を正確に理解できているか(期末試験で評価)。			
	成績評価 方法	レビュークイズ40%、課題発表20%、期末試験40%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト:藤田勉・藤田直子(2019)「新版行動科学序説(新版5刷)」世音社 参考図書:藤田勉(2012)「ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》」ほおずき書籍				
備考					



科目名	企業組織における人間行動				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	曾我 重司,片岡 幸彦			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人は組織というシステムの中で生活している。その性質や特性を理解し、そこでおこる様々な事象を解明することで組織の中で主体的に行動することが出来る。今後グローバル化が進んでいく世界にあって、組織がどのような背景、目的で成立し、どのような機能を果たし、われわれにどのような影響を与えるのかを理解しておくことは、重要なことである。これらを踏まえ、組織の見方やとらえ方を学び、これから起こることを予測し、対処法を学ぶことを目的としている。				
授業方針	講義の最初4回では集団場面における人間行動の変化や他者との関わりについて心理学的な知見から講義する。残る10回では、組織というシステムにおける性質や特性の理解および予測、対処方法について具体的な知見から講義する。最終回は講義全体のまとめと理解度を確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 他人を見る目, 見られる目(対人認知の決定要因) 第2回 組織・集団内での行動は何で決まるか(集団場面での態度決定要因) 第3回 意思決定(個人の決定と集団の決定の違い) 第4回 説得の技法の基礎 第5回 組織とは何か: 組織の基本的な考え方 第6回 チームの重要性、効用/優れたチームの特性 第7回 チームへの貢献意欲の高め方 第8回 チーム活動におけるコミュニケーション 第9回 成果を上げたチームのケーススタディ 第10回 集団のダークサイド/集団間のコンフリクトと交渉 第11回 組織デザインの基礎/外部環境の変化と組織デザイン 第12回 組織文化と人々に与える影響 第13回 組織文化の変革 第14回 世界の中の日本組織/日本から見た世界の組織 第15回 まとめ及び試験  第1回～第4回は曾我が担当する。 第5回～第14回は片岡が担当する。				
準備学習	1身近な組織の中での自らの経験などを考えておくこと。(20時間) 2講義内容から、組織での自らの行動の指針を考察しておくこと。(20時間) 3講義時に課される課題について文献などを探して知見を広めておくこと。(20時間)				
学習到達目標	組織の中で本講義の知識に基づいた客観的な見方、行動ができるようになったか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	組織と人間についての客観的かつ多面的な見方ができるようになったか。また講義の知識を実社会で応用できるようになったか。			
	成績評価 方法	講義時に適宜課す課題の内容50%、および期末課題の内容50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書類は、講義中に随時紹介する。				
備考					

科目名	教育心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は教育心理学諸分野のうち、主に学習に関する諸理論、動機づけに関する諸理論、学級社会に関する諸理論、学習指導に関する諸理論、教育評価に関する諸理論、学習・記憶・知識と問題解決に関する諸理論などについて学ぶ。その過程で、教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できるようになることを目的としている。				
授業方針	インターネットとPC,プロジェクタを用いた講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち、主要なものをプリントに掲載して配布する。配布プリント等のファイルは、授業後にLiveCampusからダウンロード可能にする予定。動画やビデオ教材、心理学実験のデモンストレーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育心理学とは何か 第 2回 動機づけ 第 3回 感情 第 4回 学級社会 第 5回 友人関係 第 6回 学習指導 第 7回 教育評価 第 8回 教育統計 第 9回 学習理論 第 10回 記憶 第 11回 知識 第 12回 問題解決 第 13回 知能 第 14回 教育工学 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(10時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)				
学習到達目標	教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援法について説明できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援法について説明できるか。			
	成績評価 方法	期末試験の得点70%, 授業・実習への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業時に紹介する (3)その他 必要に応じて資料を配布する				
備考					

科目名	言語心理学(学習・言語心理学II)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	認知科学の主要な領域の一つである。人間の言語とそのモデル化について、基本的な研究方法と研究成果を学ぶ。言語心理学・認知心理学と、その隣接科学における実験的研究を中心に概観するが、生成文法理論を初めとする言語学理論や、工学的な言語処理モデルにも触れる。				
授業方針	PCプロジェクタを用いた講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち、主要なものをプリントに掲載して配布する。配布プリント等のファイルは、授業後にLiveCampusからダウンロード可能にする予定。動画やビデオ教材、心理学実験のデモンストラーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 言語の心理学入門 第 2回 言語獲得の言語学 第 3回 言語獲得の認知発達心理学 第 4回 乳児期の言語発達 第 5回 幼児期の言語発達 第 6回 言語理解の認知心理学 第 7回 言語理解のコンピュータモデル 第 8回 単語と意味 第 9回 概念 第 10回 文理解 第 11回 文章理解 第 12回 推論と問題解決 第 13回 言語の生物学的基礎と障害 第 14回 会話・談話の理解 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(10時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)				
学習到達目標	言語心理学の基礎的な知識と考え方を理解し、言語の習得と使用における機序について概説できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	言語心理学の基礎的な知識と考え方を理解し、言語の習得と使用における機序について概説できるか。			
	成績評価 方法	期末試験の得点70%、授業・実習への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考	前提となる知識は特に問わない				

科目名	交通心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	交通場面においては、ヒト・乗り物・環境の三要因が複合している。この中で最も重要な要因がヒトの要因である。本講義においては、主に自動車という手段での交通場面において、ヒトがどのように乗り物を操作し、環境を知覚しているかについて、主要な特徴を知り、交通事故などのエラー(アクシデント/インシデント)の原因の究明と対策について心理学がどのような貢献をしているかを学ぶことを目的とする。				
授業方針	講義の前半では、交通心理学における基礎的な知識についての講義をおこなう。後半においては、具体的な研究方法や、身の回りの交通に関連する問題などについて発表を行うなど、学生の積極的な参加を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 交通行動の研究手法 調査手法 第2回 交通行動の研究手法 実験手法 第3回 運転者の問題 一般的特性 第4回 運転者の問題 エラー特性 第5回 交通場面におけるヒトの情報処理 知覚系 第6回 交通場面におけるヒトの情報処理 認知系 第7回 交通場面におけるヒトの情報処理 知覚運動共応 第8回 事故におけるヒューマンファクター 第9回 安全への心理学的貢献 一人間要因— 第10回 安全への心理学的貢献 一車両要因— 第11回 安全への心理学的貢献 一道路要因— 第12回 日常生活のエラー 一歩行者として— 第13回 日常生活のエラー 一目撃者として— 第14回 日常生活のエラー 一身近な生活の中で— 第15回 心理学的知見に基づいて身近な交通場面の問題点を研究するには 一具体例を用いて—まとめ及び試験				
準備学習	1 心理学の研究方法を復習すること。(20時間) 2 交通を心理学的に研究する方法について考えること。(20時間) 3 講義中に示された課題について発表できるようにすること。(20時間)				
学習到達目標	交通場面に限らず日常生活の行動を心理学的視点からとらえ、記述することができるようになる事。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常生活の中に潜むエラーなどについて心理学的見方ができるようになったか。			
	成績評価 方法	講義時に適宜課す課題の内容50%、および期末レポートの内容50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書類は、講義中に随時紹介する。				
備考	発表など積極的な参加を要求する。				

科目名	公認心理師の職責				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師を目指す学生が公認心理師の基本的コンセプトを理解する。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリング経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	指定教科書を丹念に読み、できる限り具体的事例等を含ませながら解説したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 公認心理師の役割の理解 2 公認心理師の法的義務 3 公認心理師の倫理 4 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 5 情報の適切な取扱い 6 保健医療分野の業務1 7 保健医療分野の業務2 8 福祉分野の業務1 9 福祉分野の業務2 10 教育分野の業務 11 司法分野の業務 12 産業分野の業務 13 自己課題発見・解決能力 14 生涯学習と自己研鑽 15 多職種連携, 地域連携, チームとしての活動				
準備学習	指定教科書を読んでおくこと				
学習到達目標	公認心理師の職責について、基本コンセプトを理解する。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	公認心理師を目指すために、その基本コンセプトの基本及び概要を理解できる。			
	成績評価 方法	レポート70% 小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	「公認心理師の職責」遠見書房 受講学生全員に貸し出す。全授業スケジュール終了後に回収するので、手元にとっておきたい学生は事前に購入すること。				
備考					

科目名	産業心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火5
担当教員	増田 貴之			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	産業心理学は、働く人の心や行動のメカニズムについて研究する、応用心理学の一分野である。授業では、産業心理学全般について講義する。その内容には、職場における問題(キャリア形成に関する事など)に対して必要な心理に関する支援と、組織における人の行動が含まれる。なお、この科目は、心理学を応用した安全教育手法等の研究開発に従事した経験に基づいて講義を行う実践的科目であり、適宜、実際の産業場面での事例等を交えて講義を進める。【実務】				
授業方針	パワーポイントによる講義を中心に行うが、適宜演習等も取り入れる。また、適宜配布資料も使用する。理論や知見をただ暗記するのではなく、産業心理学が社会からどのような役割を期待されているのかを考えながら授業に参加することが重要である。各回の講義の最後に、講義内容の中から1つキーワードを選び、自分なりの意見や疑問点をリアクションペーパーとして提出することを求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 産業心理学とは何か 第2回 職場の安全衛生1:作業能率、労働災害 第3回 職場の安全衛生2:ヒューマンエラーと不安全行動 第4回 職場の安全衛生3:事故防止対策、安全文化 第5回 職場の安全衛生4:職場のストレスとメンタルヘルス 第6回 人的資源管理1:採用と面接 第7回 人的資源管理2:人事評価、キャリア発達 第8回 組織行動1:ワーク・モチベーション 第9回 組織行動2:組織のコミュニケーション 第10回 組織行動3:リーダーシップ 第11回 消費者行動 第12回 交通心理学 第13回 人間工学 第14回 授業の振り返りとまとめ 第15回 テスト				
準備学習	① 事前に指定した教科書の該当部分を一読しておくこと(15時間) ② レポート作成(30時間) ③ 授業後に、配布した資料等を読んで、復習すること(15時間)				
学習到達目標	産業心理学の理論と知見を理解する。 社会における産業心理学の役割を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	産業心理学の理論や知見を理解したか。 社会における産業心理学の役割を理解したか。 産業心理学の各分野(職場の安全衛生、組織行動、人的資源管理、消費者行動など)について概説できるか。			
	成績評価 方法	期末テスト 50% レポート 20% 授業への参加度 30%(リアクションペーパー等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 :山口 裕幸・芳賀 繁・高橋 潔・竹村 和久、経営とワークライフに生かそう!産業・組織心理学、有斐閣、2006、ISBN:4641122784 参考図書:太田 信夫(監修)、金井 篤子(編集)、産業・組織心理学:シリーズ心理学と仕事11、北大路書房、2017、ISBN:4762829838				
備考					

科目名	<b>社会心理学</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	田中 道弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会心理学は、日常における人間の認知や行動がどのような心理的過程を経て生じるかを明らかにしようとする学問である。この講義では、社会心理学研究の中でも特に重要とされる研究古典的研究に焦点を当て、その後の発展研究なども取り上げながら、人間の認知や行動について理解を深めることを目的とする。				
授業方針	講義では、各テーマに関する基本的な用語や概念の説明、それらに関する具体的な研究を紹介する。講義は主に教科書とパワーポイントを使用して進めるが、必要に応じて映像教材なども使用する。毎回の講義の終わりにはリアクションペーパーにより、ミニレポートを作成し、提出する。この作業は、講義で学んだ知識を整理するうえで重要であること、成績評価にも影響するため、積極的に取り組むことが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 はじめに(社会心理学とは) 第2回 社会的促進と社会的手抜き 第3回 態度と行動 第4回 認知的不協和 第5回 規範形成 第6回 同調 第7回 少数派の影響 第8回 服従 第9回 暴政 第10回 集団間関係と葛藤 第11回 差別 第12回 ステレオタイプと偏見 第13回 緊急時の援助行動 第14回 近年の社会心理学の問題、及びまとめ 第15回 試験				
準備学習	1. 毎回指定された教科書の当該箇所を読み、事前に概要を把握しておくこと(15時間) 2. 講義内で配布された資料を読み返し、毎回の内容の理解を深めること(15時間)				
学習到達目標	1. 本講義で学んだ社会心理学の知見や研究方法を理解し、説明できるようになる。 2. 日常生活におけるさまざまな事柄について本講義で学習した理論や知見から理解し、説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 社会心理学で扱われる基本的な概念や現象について理解し、説明できるか。 2. 本講義で学んだ内容を日常生活に適用し、日常の出来事を社会心理学的に解釈し、説明できるか。			
	成績評価 方法	講義時に提示するリアクションペーパーの理解度や内容、クイズへの正解率などを、授業への参加度へ反映する。比率は、期末試験の得点70%、授業への参加度30%である。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書: ジョアンヌ・R・スミス/S・アレクサンダー・ハスラム(編). 社会心理学再入門: ブレークスルーを生んだ12の研究 新曜社 参考書: 適宜紹介する				
備考	(履修上の注意等) ・学習内容は多少前後する場合があります。 ・毎回出席を取る。 ・講義中、スマートフォン等の使用は認めない。				

科目名	<b>社会臨床心理学</b>				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	友田 貴子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の精神保健研究所での研究活動経験を生かし講義を行う。社会心理学的要因が、臨床心理学で扱われる諸問題(感情や行動の問題の発生・持続)に影響を及ぼしており、その診断や治療においても大きな役割を果たしている。本講では社会心理学と臨床心理学のインターフェイスという観点から、帰属理論、ソーシャル・サポート、自己開示といった社会心理学的要因とメンタル・ヘルスの関係について概観する。【実務】				
授業方針	日常生活で体験するような社会心理学的現象と精神的健康(メンタル・ヘルス)の関係を理解してもらうため、身近な例をまじえて解説したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会心理学と臨床心理学のインターフェイス 第2回 社会心理学と臨床心理学インターフェイスの歴史 第3回 精神疾患の概念・発生頻度 第4回 精神疾患発症のメカニズム 第5回 ストレス(ライフ・イベント)とは 第6回 ストレス(ライフ・イベント)とメンタル・ヘルス 第7回 帰属過程とは 第8回 帰属過程とメンタル・ヘルス 第9回 対処行動とメンタルヘルス 第10回 自尊心とメンタル・ヘルス 第11回 ソーシャル・サポートとは 第12回 ソーシャル・サポートとメンタル・ヘルス 第13回 自己開示とは 第14回 自己開示とメンタル・ヘルス 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	身の回りで起こる心理社会的な現象に対し関心をもつ(20時間) 社会心理学と臨床心理学の概説書に目を通しておく(各20時間)				
学習到達目標	不適応を「社会」という文脈のなかで理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)社会心理学が臨床心理学のなかでどのように応用されているかを理解できたか 2)本講で扱う諸々の心理現象を理解できたか			
	成績評価 方法	最終成績評価としてのレポート課題70%、授業への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書 特に指定しない 2)参考書 臨床社会心理学の進歩(北大路書房 2001) R.M.コワルスキほか著 はじめての臨床社会心理学(有斐閣 2004) 坂本真士・佐藤健二著 3)その他 必要に応じて補助教材を配布する				
備考					



科目名	消費者理解の心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学の枠組みで消費者行動を理解するという応用的視点の獲得を目的とする。人の認知や態度、行動、あるいは社会心理学的要因という観点から、特に購買意思決定に焦点を当て、消費活動を理解・説明する要因を講義する。				
授業方針	スライドを活用した講義形式による授業を行う。授業時には受講生自身の消費者としての行動を内省しながら考察する小課題も行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 消費者と消費行動 第2回 知覚と感性 第3回 記憶と認知 第4回 学習 第5回 動機づけと情動 第6回 態度形成と変容 第7回 意思決定 第8回 価値の探索と解釈 第9回 購入と再評価 第10回 コミュニケーション 第11回 マスコミとメディア 第12回 消費者アイデンティティ 第13回 集団による消費 第14回 社会的価値 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習しておくこと。(15時間) 自分や身近な他者の購買行動を観察し、その誘因を多角的に検討すること。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(20時間)				
学習到達目標	①自分や身近な他者の購買行動を、消費者の心理という観点から多角的に理解することができる。 ②身近なマーケティング活動について、それが想定する消費者行動への影響を理解し、実際の影響を推察することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①自分や身近な他者の購買行動を、消費者の心理という観点から多角的に理解することができるようになったか。 ②身近なマーケティング活動について、それが想定する消費者行動への影響を理解し、実際の影響を推察することができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業の3分の2以上を出席した受講生について、期末試験の成績80%、出席点20%の比率で最終評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は授業時に配布する。				
備考					

科目名	情報処理心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	知覚に重点を置いて、感性的・認知的な情報処理特性を扱う。種々の知覚現象について説明し、さらにそれらに関連する情報処理機構がどのように解明(推定)されているか、その内容と考え方に触れる。知覚現象や情報処理機構を理解・解明するために用いられる心理学的研究手法についても説明する。				
授業方針	感性的・認知的な知覚現象について、評価法を知り、またその現象を生み出す情報処理機構を知る。錯覚や順応のような知覚現象については、視聴覚教材によるデモンストレーション等を通して実際に体験する。授業で必要な神経学的・生理学的概念については授業の中で説明する。知覚刺激から人間が何を体験するのかと、その経験がどのような制約によってもたらされるのかを考える授業にしたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報処理概説 第2回 認知と感性を調べる手法 第3回 パターン認知 第4回 色 第5回 空間 第6回 時間 第7回 音 第8回 多感覚統合 第9回 情報選択:注意と視線の動き 第10回 無意識的な処理 第11回 身体と認知 第12回 社会的認知 第13回 情報処理の神経基盤 第14回 ヒューマン・インターフェースとヒューマン・エラー 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定した資料を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) 毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(25時間)				
学習到達目標	感性的・認知的な情報処理に関する現象を知る。 知覚現象や情報処理機構を理解するための研究手法を知る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	感性的・認知的な情報処理に関する現象を知ることができたか。 知覚現象や情報処理機構を理解するための研究手法を知ることができたか。			
	成績評価 方法	授業への参加度25%, 学期末試験の成績75%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は講義にて配布する。				
備考					

科目名	心理データ解析法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理キャリアコースにおける卒業研究を実施するために必要な心理データ解析の基礎的な知識とスキルを身につけるための授業である。統計解析ソフトウェアとして、オープンソースのフリーソフトであるRを採用する。実習の内容は、Rを用いたデータ入力・ハンドリング、記述統計、検定、実験計画法、多変量解析に及ぶ。また、これらの統計解析技法を、実際の心理学研究の場面で用いる際の問題についても扱う。				
授業方針	PC/LL教室を用いた実習形式の授業である。心理データ解析の基本的な考え方と、Rによる統計解析の実施方法について、配付資料またはPC画面に教員が提示した内容を学習した後に、教室PCのRシステムで実際に操作を行うことで学習する。ただし、授業内容を理解するためには、各自のPCにインストールしたRシステムを用いて予習と復習を行い、さらには実習課題を欠かさず提出することが必要である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Rの紹介とインストール 第2回 Rの基礎と心理統計の基本事項 第3回 データ入力と分布・基礎統計量 第4回 相関と相関係数 第5回 カイ二乗検定 第6回 t検定 第7回 1要因の分散分析 第8回 2要因の分散分析 第9回 重回帰分析の基礎 第10回 重回帰分析の応用 第11回 クラスタ分析 第12回 因子分析の基礎 第13回 因子分析の応用 第14回 心理学論文作成 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(10時間) (3)授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	心理データ解析の基礎的な知識と手順を理解し、自らの研究を実施・分析できるようになることを目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理データ解析の基礎的な知識と手順を理解し、実施・分析できるか。			
	成績評価 方法	期末試験の得点70%, 提出物および授業への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 緒賀郷志「Rによる心理・調査データ解析」東京図書 (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考					

科目名	心理学と職業				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義においては、心理学の専門の道に進むか、一般企業に進むかを問わず、心理学という学問を大学で学ぶことにより、その知識をどのように役立てることができるかについて学ぶ。 毎回、心理学を大学で学んだ講師(本学出身者のみとは限らない)を招き、実体験に基づいた講義を行う。				
授業方針	心理学の専門家による、専門家としての体験、どのような知識が必要かなどの講義だけではなく、一般企業に働く講師からは、大学での心理学の知識がどのように役立っているかなどについて講義する。(オムニバス形式)				
学習内容 (授業 スケジュール)	講義担当者は毎回異なるため下のリストの担当者は前年度のものを参考として示している。内容・順番は講師の都合により変更することがある。 第1回 ものづくりと心理学(文具メーカー) 第2回 教育出版と心理学(教科書会社) 第3回 匂いと心理学(香料メーカー) 第4回 広告と心理学(広告代理店) 第5回 専門書籍と心理学(出版社) 第6回 販売と心理学(菓子メーカー) 第7回 犯罪と心理学(法務省) 第8回 スクールカウンセラーの実際(臨床心理士) 第9回 児童心理の現場(臨床心理士) 第10回 犯罪被害者支援と心理学(臨床心理士) 第11回 基礎心理学の販売への応用(自動車部品販売) 第12回 基礎心理学から臨床心理学へ(臨床心理士) 第13回 アパレルと心理学(アパレルメーカー) 第14回 行政と心理学(公務員) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 さまざまな方面で活躍する講師の講義を通して、受け身ではなく社会に出たときの自らの方向性を考えておくこと。(20時間) 2 積極的に発言できるようにしておくこと。(20時間) 3 全ての回について、その内容を理解しておくこと。(20時間)				
学習到達目標	自らの将来に対して、大学で学んだ心理学をどのように役立てるかについて、きちんとした立脚点をもって考えられるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理士などの専門職に進むか、一般企業に進むかにかかわらず、心理学という立脚点をもった考えができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業態度(講義時に適宜課す課題)50%、および期末レポートの内容50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書および参考書類は特に指定しない。				
備考	毎回、異なった講師が、異なった分野での発表を行う。もし自分の興味がない分野の講義の場合でも必ず出席し内容を理解しておくこと。				

科目名	心理学研究法応用				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	褒岩 秀章,藤巻 るり,友田 貴子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学研究法IIにおいては、科学としての心理学の方法を学び、主に基礎心理学領域の研究法に触れた。心理学研究法IIでは、臨床心理学における研究法を学ぶため、広い意味での実証的な方法を用いてクライアントの抱える問題や社会的現実アプローチする姿勢と心理臨床における研究のあり方について触れる				
授業方針	臨床心理学の領域は理論や臨床現場によって非常に幅広い。それに応じ研究方法も多様性である。本講では臨床心理学の様々なテーマごとに各教員がすでに発表した研究報告を取り上げて具体的な心理臨床の研究を例示し、特にその方法論に焦点を当てて考察を行う。また、臨床心理領域では特に、研究を行う際に人権に配慮する必要がある場合が多い。そこで研究倫理についても併せて解説する。さらに、これらの研究法を理解した上で、学生自身が自分の興味関心に則り、今後どのような研究をしていくことができるかをイメージし、レポートにまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 臨床心理学における方法(褒岩) 第2回 事例研究法 (藤巻) 第3回 観察研究法 (藤巻) 第4回 観察調査法 (藤巻) 第5回 面接調査法 (藤巻) 第6回 行動観察法 (藤巻) 第7回 調査法または実験法(友田) 第8回 調査法または実験法(友田) 第9回 心理臨床業務について(友田) 第10回 倫理について(友田) 第11回 質問紙法 (褒岩) 第12回 質問紙法 (褒岩) 第13回 事例法 (褒岩) 第14回 研究計画 (褒岩) 第15回 まとめ及び試験  ※講師及び扱う研究報告の内容や各回の担当教員の順番には変更がありうる。				
準備学習	「心理学研究法基礎」の授業をきちんと受け、基礎心理学の研究法を理解しておくこと。				
学習到達目標	1) 臨床心理学領域における研究法の多様性を理解すること 2) 自分の今後の研究について方法やテーマがイメージできるようになること 3) 研究倫理の大切さが理解できるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 臨床心理学領域における研究法の多様性が理解できたか 2) 自分の今後の研究について方法やテーマがイメージできたか 3) 研究倫理の大切さが理解できたか			
	成績評価 方法	授業への参加度50%、各回のレポート50%。期末試験は実施しない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は特に指定しない。講義時に適宜資料・文献を配布または指示する 参考書は、講義中に適宜指示するが、「臨床心理学研究の技法」 下山晴彦(編著) 福村出版(2000) など				
備考					

科目名	心理調査概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	飯田 成敏			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代社会では、様々なメディアで社会調査の結果と出会う機会が多く、情報リテラシーの重要性が強く認識されている。また、心理学では実験と並んで調査法は重要な研究手法の1つとなっている。本講義では、社会調査の意義と基本的な事項について概説する。また、特に量的調査における実施方法からデータの集計・解析手法まで、基本的な事項を解説し、簡単な質問紙調査を実施し集計・解析する知識と、様々な社会調査を適切に理解する力の獲得を目指す。				
授業方針	本講義は、PCルームを使用して行う。社会調査の全般的な話や、質問紙調査の作成に関する講義は、主にPower Pointで資料を提示しながら講義形式で実施する。一方、データの集計と分析は、各自がPCを使用して実際にデータ整理を通して体験的に学んでいく。また、心理統計の基礎についても随時補足していく予定である。使用する統計ソフトは、ExcelとRを予定している。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 インTRODクシヨン 講義の進め方と、社会調査の概論について解説する。 第2回 社会調査の基礎(1) 調査の実施方法について解説する。 第3回 社会調査の基礎(2) 標本調査の基本について解説する。 第4回 リサーチ・デザイン 調査計画や仮説の立て方について解説する。 第5回 質問紙調査の実施(1) 調査の実施と倫理 質問紙調査におけるフェイスシート作成について解説する。 第6回 質問紙調査の実施(2) 質問項目の作成 質問紙調査における質問項目作成について解説する。 第7回 データ集計の基礎 データのまとめ方について学ぶ。 第8回 結果の表示法 グラフの作成方法や注意点について体験的に学ぶ。 第9回 クロス表とカイニ乗検定 度数の比率の比較として体験的に学ぶ。 第10回 相関分析 相関係数の基本について体験的に学ぶ。 第11回 回帰分析入門 単回帰分析を例に、回帰分析の基礎について体験的に学ぶ。 第12回 重回帰分析 多変量解析について概説し、重回帰分析について体験的に学ぶ。 第13回 因子分析 因子分析について体験的に学ぶ。 第14回 クラスター分析 階層的クラスター分析について体験的に学ぶ。 第15回 まとめ及び試験 まとめ及び試験の実施。				
準備学習	データの集計や分析手法の習得においては、授業内での体験だけでは、時間的にも体験できる量に限界がある。そこで、授業内で出される課題(宿題)の他にも、Excelを使用しての学んだ内容を追体験するなど、自主的な復習により学習内容の習得をより確かなものにする事が望まれる。 ①授業終了時に課す課題の実施(40時間) ②毎回の授業後の自主的な復習(20時間)				
学習到達目標	①社会調査とは何かを理解する。 ②質問紙調査の作成・実施にあたって重要な点を理解する。 ③データの集計法について学び、Excelを用いてデータと集計とグラフの作成ができる。 ④データの解析法について学び、ExcelやRを用いて代表的な統計的解析が実行できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①標本抽出について理解し、説明できるか。 ②調査実施時に注意すべき倫理について理解し、適切なフェイスシート作成ができるか。 ③質問紙作成時に質問項目の設定の注意点を理解し、適切な質問項目の作成ができるか。 ④Excelの基本的な使い方を理解し、基本的な統計量の算出とグラフの作成はできるか。 ⑤Rの基本的な使い方を理解し、回帰分析などの代表的な統計解析が実施できるか。			
	成績評価 方法	学期末に課す試験(50%)の他、授業内で課す小テスト(50%)を総合して評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は特に指定しない。必要な資料は毎回配布する。 参考となる図書は、適宜授業の中で紹介する。				
備考					

科目名	深層心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	深層心理学はS.フロイトの精神分析学から始まり、ユングによってさらに深化した。現在では、深層心理学はフロイトの精神分析学というよりもユング心理学を指していることが多い。フロイト後期の精神分析は深層心理学とは言い難い。全体を3部構成とする。1部は初期フロイト、2部はユング心理学、3部はユング心理学を背景にもつ箱庭療法やその他様々なトピックを文学や民俗学などの様々な接点を模索しながら進めたい。				
授業方針	「無意識の構造」をテキストに使う。またできるだけ実際の事例や夢、箱庭等のイメージ、映画や昔話等も織り込んでゆく予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 深層心理学とは何か 深層心理学前史 第 2回 初期フロイトの心理学1 無意識の発見とヒステリー 第 3回 初期フロイトの心理学2 世紀末ウィーンとフロイト 第 4回 初期フロイトの心理学3 「オイディプス王」を観る 第 5回 初期フロイトの心理学4 エディプスコンプレックスとは 第 6回 ユングの心理学1 ユングの一生 第 7回 ユングの心理学2 ペルソナ 第 8回 ユングの心理学3 影 第 9回 ユングの心理学4 アニマ1 第 10回 ユングの心理学5 アニマ2 第 11回 ユングの心理学6 マンダラ 第 12回 箱庭療法の世界1 第 13回 箱庭療法の世界2 第 14回 トピック 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	必ず教科書を読んでおくこと				
学習到達目標	精神分析学、ユング心理学の基本的な概念を理解することができたか				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	精神分析学、ユング心理学の基本的な概念について説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への参加度50%とレポート50%の割合で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	「無意識の構造」河合隼雄著 中公新書				
備考					

科目名	神経心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	言語、視覚、聴覚、体性感覚、運動、情動・感情、学習・記憶などに関わる脳の仕組みを解説する。さらに、左脳と右脳の機分化について説明する。これらの知見を踏まえて、どのような脳部位の損傷によって健忘症、失語症、失認症、失行症などの特徴的な神経心理学的障害が起こるのかを理解できることを本講義の目的としている。				
授業方針	視聴覚教材を使用して、ヒトの脳の構造と機能、脳損傷による障害の心理的評価方法など視覚的、具体的に理解できるように努める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 神経心理学とは何か？ 第 2回 ヒトの脳の基本的仕組みとブロードマンの脳地図 第 3回 健忘症 第 4回 認知症 第 5回 失語症 第 6回 失読症 第 7回 失書症 第 8回 バイリンガル脳 第 9回 視覚失認 第10回 相貌失認 第11回 失行症 第12回 左脳と右脳の機能分化 第13回 離断症候群1 第14回 離断症候群2				
準備学習	あらかじめ、シラバス内容をよく読み、図書館などで文献検索を行い、予備知識を得ておくこと。				
学習到達目標	神経心理学の基本的な分野の理解とキーワードの習得。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	脳科学と神経心理学の関係について基本的な理解が得られたか。 神経心理学の各分野についておおまかな展望を得ることができたか。 神経心理学の基礎的な知識や考え方を習得できたか。			
	成績評価 方法	期末試験の成績により評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:特に指定しない。 (2)参考書:神経心理学入門 山鳥重 医学書院、 神経心理学 第2版 河内十郎 監訳 医学書院 (3)視聴覚教材を使用する。用いた教材は配布する。				
備考	自分が興味をもった内容については、図書館などを利用して自発的に学習して知識を深めるように努力して下さい。				



科目名	人格心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	小島 弥生			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この講義では人のパーソナリティ(人格, 性格)に関する心理学の研究史および主要な知見を説明する。日常生活の中で人間はしばしば「性格」について言及するが、そもそも性格とは何なのだろうか。この講義では心理学者がパーソナリティについてどのように研究してきたかを概説する。そして、受講学生の日常的な素朴な体験が、科学的な知見に基づくとどのように説明できるかについて、受講学生が理解することを目指す。				
授業方針	基本的には講義スタイルをとる。教科書を用いるが、パワーポイントに補足的な情報を呈示することもある。毎回の授業終了前にリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに記された疑問等に対し、翌週の授業冒頭に追加の説明や補足の講義を行うこともある。また、各トピックの「まとめプリント」を課すので、各トピックの終了時の準備学習に相当の時間を必要とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 人格心理学とは(1)用語の整理 第2回 人格心理学とは(2)構成概念と心理学的測定 第3回 人格心理学とは(3)パーソナリティに関する関心の歴史 第4回 類型論と特性論(1)類型論について 第5回 類型論と特性論(2)特性論と因子分析 第6回 類型論と特性論(3)それぞれの限界とその他の理論 第7回 一貫性論争: 人格に関する遺伝的要因と環境的要因 第8回 ビッグ・ファイブ(1)5因子の内容 第9回 ビッグ・ファイブ(2)気質との関連 第10回 パーソナリティの測定(1)構成概念を測るということ 第11回 パーソナリティの測定(2)知能検査と心理検査 第12回 パーソナリティの測定(3)質問紙法・投影法・作業検査法 第13回 パーソナリティ障害: 分類と内容 第14回 パーソナリティに関する近年の研究トピック紹介 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①前週に指定する教科書の範囲を通読する(15時間) ②授業内で紹介する文献や情報について、自分の関心のあるものを選び、調べる(15時間) ③各トピックの終了時に配付する「まとめプリント」を使い、復習する(30時間)				
学習到達目標	パーソナリティ(人格, 性格)に関する心理学の主要な知見を理解し、パーソナリティを捉える理論的枠組みや具体的な測定法について説明ができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	パーソナリティ(人格, 性格)の概念や形成過程について説明できるか。 パーソナリティ(人格, 性格)を捉える理論的枠組みについて説明できるか。 パーソナリティ(人格, 性格)の具体的な測定法に関し、理解し、説明できるか。			
	成績評価 方法	「まとめプリント」の記述内容20%+リアクションペーパーへの記述内容20%+期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	【教科書】小塩真司(2014). パーソナリティ心理学(Progress & Application 8). サイエンス社(ISBN:978-4-7819-1343-8) 【参考書】松井豊・櫻井茂男(2015). スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学(ライブラリスタンダード心理学 9). サイエンス社(ISBN:978-4-7819-1366-7)				
備考					

科目名	精神疾患とその治療				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	友田 貴子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の精神保健研究所での研究活動経験を生かし行われる講義科目である。心理学、なかでも臨床心理学を学ぶ上では精神医学の知識は欠かせないものである。また、心理師(士)として保健・医療分野で働く際、またそこでの多職種連携のためにも一定程度の医学知識が必要である。本講では心理学を学ぶ者が知っておくべき精神疾患とその治療について講義を行う。なお、この科目は公認心理師カリキュラムに含まれる科目である。【実務】				
授業方針	精神疾患の理解は精神科症状学と精神科診断学をバランスよく学ぶことが大切である。主要な精神疾患については症例を紹介することでより深い理解を促す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 精神疾患とは何か (歴史, 操作的診断基準, 医療の倫理など) 第2回 精神症状のみかた 第3回 精神疾患の診断 生物・心理・社会モデル 第4回 リエゾン精神医学・多職種連携 第5回 精神疾患の理解 統合失調症(1) 第6回 精神疾患の理解 統合失調症(2) 第7回 精神疾患の理解 統合失調症(3) 第8回 精神疾患の理解 うつ病・双極性障害(1) 第9回 精神疾患の理解 うつ病・双極性障害(2) 第10回 精神疾患の理解 強迫症・不安症群 第11回 精神疾患の理解 神経発達症群 第12回 精神疾患の理解 認知症 第13回 精神疾患の理解 その他の精神疾患 第14回 精神疾患と治療 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	教科書の各回の該当部分を読んで予習してくること(各回2時間)。また、授業終了後、教科書の該当部分を読んで復習し知識の定着を図ること(各回2時間)。				
学習到達目標	代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できること。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できること。どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できるかどうか。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できるかどうか。どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できるかどうか。			
	成績評価 方法	最終評価はレポート課題を課す(70%)。平常点として、平常の課題を加味し(30%)、総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 「精神疾患とその治療」三村将・幸田るみ子・成田迅(編) 医歯薬出版株式会社 参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	対人援助論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	対人援助職は専門的な知識や技能を生きた人間関係の中で発揮するという特徴を持っている。つまり、関係性の中で自分自身を援助資源として使いこなすことが求められる。 本講義は、教育・福祉・医療現場で心理職として関わってきた実務経験を活かし、対人援助関係特有の力動について具体的な場面を取り上げて解説する。また、対人援助職に不可欠である‘自分について知ること’および‘他者とのコミュニケーション’を体験学習を通して学ぶ。【実務】				
授業方針	対人援助関係の特徴を講義で概説し、体験学習を通して自己理解を深め、他者とさまざまな形でコミュニケーションをとる練習をする。また、体験したことを言葉にする練習としてリアクションペーパー(感想文)を書く。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 対人援助とは 第2回 実際の援助の例 ソーシャルワーク 第3回 心理的な援助の例 カウンセリング① 第4回 心理的な援助の例 カウンセリング+心理検査② 第5回 対人援助と自己覚知①:体験学習 第6回 対人援助と自己覚知②:体験学習 第7回 対人援助とコミュニケーション:体験学習 第8回 コミュニケーションと言葉①:体験学習 第9回 コミュニケーションと言葉②:体験学習 第10回 コミュニケーションと身体①:体験学習 第11回 コミュニケーションと身体②:体験学習 第12回 価値観と他者理解:体験学習 第13回 カウンセリング技法① 第14回 カウンセリング技法②,対人援助職の専門性と陥りやすい問題点 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①自分の心の動きに注目しながら人と接することを日常の中でも心がけてみる(10時間) ②毎回の授業内容の予習・復習を行うこと(20時間) ③授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(30時間)				
学習到達目標	1) 対人援助関係の特徴について学び、理解する。 2) 他者とのコミュニケーションに際しての自分の心の動きに目をむけることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 対人援助関係の特徴を理解できたか。 2) 自分自身や他者への関心を深めることができたか。			
	成績評価 方法	平常点(リアクションペーパー)50%、期末レポート50%の割合で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	1) 教科書。特になし。 2) 参考書。適宜紹介する。				
備考	この講義はグループによる実習を含むため、遅刻は厳禁である。場合によってはその日の出席は認めないこともある。				

科目名	対人関係論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	川久保 惇			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義の目的は、社会心理学の知見をもとに対人関係に起因する諸問題について理解することである。まず、対人関係の各段階(親密な関係の形成、発展、維持、ならびに崩壊)に関連する心理的過程を解説する。その上で、「良好なコミュニケーションとは何か?」、「なぜ助けてと言えないのか?」、「空気を読むとは何か?」などの日常生活で感じる身近な疑問に焦点を当てながら講義を進める。				
授業方針	各テーマの基本的な用語、概念を解説しながら、それらに関する具体的な研究を紹介することで対人関係の諸問題に対する理解を深めていく。講義は主にパワーポイントを用いて進めるが、必要に応じて映像教材なども使用する。なお、毎回の講義の終わりにはミニ・レポートを作成し、提出してもらう。ミニ・レポートの作成は、講義で学んだ知識を整理する上で重要である。そのため、各学生の積極的な取り組みが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス:対人コミュニケーションの社会心理学 第2回 対人関係における自己:自己概念、自己呈示と自己開示 第3回 対人関係における他者:社会的認知と対人魅力 第4回 対人関係の形成 第5回 対人関係の発展 第6回 対人関係の維持・崩壊 第7回 友だち:重要な他者としての友人 第8回 恋愛:出会いと別れをめぐる心理学 第9回 人生の発達段階と対人関係 第10回 援助要請の社会心理学:なぜ助けてと言えないのか 第11回 空気を読む:日本的対人コミュニケーション 第12回 メディアコミュニケーション 第13回 対人関係と健康 第14回 カウンセリングにおける対人関係 第15回 まとめと最終試験				
準備学習	1. 講義で扱うテーマについて、事前に参考書等を読み概要を把握しておくこと(15時間) 2. 講義内で配布された資料および作成したノートを読み返し、毎回の内容の理解を深めること(15時間)				
学習到達目標	1. 対人関係の発展過程や、対人関係における自己、他者への行動とその影響を理解できるようになる。 2. 対人関係の役割を理解し考察できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 講義で取り上げた内容から、対人関係に関する諸問題を理解し、説明できるか。 2. 日常生活における対人関係の構造を、本講義で取り上げた研究知見を用いて解釈できるか。			
	成績評価 方法	毎回のミニ・レポート30%、期末試験70%で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:特定の教科書は指定しない 参考書:吉田俊和・小川一美・橋本剛(編)『対人関係の社会心理学』2012年 ナカニシヤ出版 授業内で資料を配布する。また、参考書は必要に応じて授業内で紹介する。				
備考					

科目名	知覚心理学(知覚・認知心理学I)			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	月3
担当教員	曾我 重司		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	知覚心理学は、ヒトを含む有機体が、その生きている世界の認識をする有り様を記述し整理する学問である。本講義においては、さまざまな認識のあり方がどのようなものであるかを知らしめてくれる様々な知覚現象を知り、客観的な手法で、それらをどのように記述していくかを考える			
授業方針	知覚心理学における代表的な研究対象についての基礎的な知識を習得し、それらについての現象を体験し、記述する態度を学ぶことを主とする			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 知覚研究の概観 第2回 知覚研究の歴史 第3回 感覚器官 第4回 眼球の構造と機能 第5回 色の知覚 第6回 明るさの知覚 第7回 面の知覚 第8回 かたちの知覚 第9回 錯視現象 第10回 奥行き知覚 単眼手がかりによる奥行き 第11回 奥行き知覚 両眼・運動手がかりによる奥行き 第12回 動きの知覚 第13回 動きの表現としてのアニメーション 第14回 時間の知覚、生態学的視覚論について 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	1 心理学の基礎知識を復習しておくこと。(30時間) 2 講義中に課す課題について、毎回レポート他を準備すること。(30時間)			
学習到達目標	自らが視て、聴いて、感じているものについて、知覚心理学的な視点から記述できるようになること			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	知覚心理学の基礎的な知識が習得できたか。その知識を実際の研究に役立てることができるか。現象の記述ができるか。		
	成績評価 方法	授業時に課す課題への提出物の内容50%および期末レポートの内容50%で評価する		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書・参考書は特に指定しない。資料を講義中に適宜配布する			
備考	特になし			

科目名	動機づけと情動				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	田邊 資章			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	動機づけとは、個体に何らかの反応を起こさせ、方向づけ、維持させる一連のプロセスのことである。欲望(欲求)は、良い意味でも悪い意味でも使われることがあるが、いずれにしても意欲や行動の原動力になっているのは確かであろう。そして、欲求が満たされたときには満足感を味わい、満たされなかったときには苛立ちを感じるというように、欲求と情動には一定の関係があるといえる。動機づけと情動に関して、心理学でどのように表現されているか整理していく。				
授業方針	心理学における動機づけと情動の様々な扱われ方について整理する。その整理に基づいて、発展的なことがらについても触れていきたいと考えている。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 欲求と動機づけの関係 第2回 生理的欲求と社会的欲求 第3回 動機づけと学習 第4回 フラストレーションと葛藤 第5回 情動の理論 第6回 情動の生物学的基盤 第7回 情動の役割 第8回 情動と学習 第9回 情動をコントロールする 第10回 表情やしぐさのとコミュニケーション機能 第11回 情動の発達 第12回 情動を言葉にする 第13回 不安や落ち込んだ気持ちから立ち直る 第14回 サイバー空間と現実空間の間の乖離 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	心理学の研究方法や各回の内容を復習すること。				
学習到達目標	動機づけと情動には様々な側面があることを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常場面における欲求や情動について、心理学的な見方ができるようになったか。			
	成績評価 方法	期末試験80%, 毎回のコメントシート20%により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書: 講義中に適宜紹介する。 参考書: 講義中に適宜紹介する。				
備考					

科目名	認知心理学(知覚・認知心理学II)			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	水2
担当教員	河原 哲雄		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	認知心理学(認知科学)の基礎を学ぶ。記憶, 学習, 知識, 推論, イメージといった, 認知心理学の基本的な研究成果を知るのが最大の目標である。同時に, 広い意味での「情報処理システム」としての人間について考える上で必要となる, 基礎的な教養とセンスを身につけることも目指す。神経科学や人工知能, ロボット研究, 哲学, 言語学など隣接科学の関連する話題や, 日常生活やビジネスにおける応用についても触れる。			
授業方針	PCプロジェクタを用いた講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち, 主要なものをプリントに掲載して配布する。配布プリント等のファイルは, 授業後にLiveCampusからダウンロード可能にする予定。動画やビデオ教材, 心理学実験のデモンストラーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 認知心理学(認知科学)入門 第2回 認知の基本的特性 第3回 記憶のメカニズム(1)ワーキングメモリ 第4回 記憶のメカニズム(2)長期記憶 第5回 記憶のメカニズム(3)日常記憶 第6回 知覚とイメージ 第7回 知識の表象と構造 第8回 問題解決と推論 第9回 学習と知識獲得 第10回 注意のメカニズム 第11回 社会的認知 第12回 顔と表情の認知 第13回 認知・思考の障害 第14回 身体性認知科学 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み, 専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので, 復習をしておくこと。(10時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)			
学習到達目標	認知心理学の基礎的な知識と考え方を理解し, 人の認知・思考等の機序およびその障害について概説できるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知心理学の基礎的な知識と考え方を理解し, 人の認知・思考等の機序およびその障害について概説できるか。		
	成績評価 方法	期末試験の得点70%, 授業・実習への参加度30%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する			
備考	前提となる知識は特に問わない			

科目名	発達心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、乳児期から老年期までの、人の生涯にわたる心理的な成長・変化のありようを概観し、認知機能・社会性・自我について、発達的な視点から理解する。 また幼児相談室・教育相談室・クリニックなどの臨床現場に臨床心理職として関わってきた実務経験から、発達障害をはじめとする非定型発達についても解説する。【実務】				
授業方針	発達心理学の主要な概念や各年代の心理発達のな特徴について講義を行う。 授業への主体的な参加方法として毎回短いコメント(質問や感想)を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 発達という概念① 第2回 発達という概念② 第3回 胎児期から出生へ 第4回 新生児～乳児期 第5回 幼児期① 第6回 幼児期② 第7回 児童期 第8回 青年期前期(思春期) 第9回 青年期後期&成人期初期 第10回 成人期後期 第11回 他者との関わりと発達 第12回 愛着理論 第13回 発達障害① 第14回 発達障害② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	出生から死までのライフサイクルの考え方について各回ごとに学んだ内容を復習する(20時間)。 認知的発達、社会的発達、自己・自我の発達について自分なりに説明できるよう、講義の内容を復習する(20時間)。 発達障害など、非定型発達について学んだ内容を復習する(20時間)。				
学習到達目標	発達という概念を多角的な視点から見るができること。 人の生涯にわたる心理的な発達のありようを理解し、心理臨床において必要となる発達的な視点を獲得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知機能・社会性・自我の発達について理解することができる。 人のそれぞれの発達段階の特徴を理解し、自分なりに説明することができる。 発達障害をはじめとする非定型発達についての基本的な知識を身につける。			
	成績評価 方法	期末レポート50%、講義に対するリアクションペーパー50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。			
教材	参考書は適宜紹介する。				
備考					



科目名	発達臨床心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年の乳幼児研究では、他者との相互的な関係性の発達の重要性が認められるようになり、特に自閉症児の理解に影響を与えている。本講義では、関係発達論による自閉症児の理解とアプローチの仕方を紹介する。後半は、心理臨床の現場に心理職として関わってきた実務経験から具体的な場面を取り上げ、各発達段階に固有な臨床的問題を見ていく。【実務】				
授業方針	前半は関係発達の理論や概念について講義を行う。後半は発達の視点から臨床的な問題を扱っていく。随時、事例など具体的なエピソードも交えて理解を深める。授業への主体的な参加方法として毎回短いコメント(質問や感想)を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 発達臨床心理学とは 第2回 関係発達説 第3回 自我の発達－精神分析的理解－ 第4回 自己感の発達－Sternの理論－ 第5回 自己感の発達－Sternの理論②－ 第6回 間主観性の発達－Trevarthenの理論－ 第7回 自閉症理解の歴史的流れ 第8回 自閉症への臨床的アプローチ 第9回 発達の視点と臨床－幼児期 第10回 発達の視点と臨床－幼児期② 第11回 発達の視点と臨床－児童期 第12回 発達の視点と臨床－思春期 第13回 発達の視点と臨床－思春期② 第14回 発達の視点と臨床－発達障害 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	発達心理学の基礎的な事項の復習(30時間)。各回に出てきた新たな心理学的知識についての復習(30時間)。				
学習到達目標	関係発達説の基本的な概念や理論を理解することができる。 発達の視点を踏まえた心理臨床的援助のあり方について理解できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	関係発達という考え方を理解することができたか。心理臨床的な問題について、発達の視点を踏まえた説明ができるか。			
	成績評価 方法	期末レポート50%、授業への参加度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	参考文献は、随時紹介する。				
備考					

科目名	犯罪心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	犯罪の心理、原因、対策について、矯正施設における犯罪・非行臨床の実務経験等から講義する。また、犯罪被害者、加害者双方の生の声(講話)を傾聴し、被害者及び加害者(家族)支援のあり方を考える。				
授業方針	担当教員の講義のほか、被害者・加害者の講話を実施する。受講生には毎回、講義内容と講話内容について適時感想や意見(口頭又はミニレポート)を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 犯罪心理学を学ぶ意義: 犯罪心理学Q&A 第2回 日本における犯罪の動向 第3回 犯罪への社会的アプローチ 第4回 犯罪への心理学的アプローチ 第5回 犯罪への生物学的アプローチ 第6回 犯罪の原因分析Ⅰ 第7回 犯罪の原因分析Ⅱ 第8回 類型別犯罪分析Ⅰ 第9回 類型別犯罪分析Ⅱ 第10回 無差別連続殺人の心理 第11回 加害者家族の心理 第12回 加害者の生の声を聴く 第13回 犯罪被害者の心理 第14回 犯罪被害者の生の声を聴く 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①第1回目の講義時、受講者全員に対して犯罪に関して今まで考えてきたこと、今後学習したいこと等についてのアンケートを実施する(成績評価の対象外)ので、事前に考えを整理しておくこと。 ②毎回の授業の予習・復習を行うこと。 ③期末試験に備えて授業全体の復習をすること。				
学習到達目標	犯罪心理、原因、機制、対策等についての幅広い知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	犯罪心理学の基礎的な知識や考え方の習得度			
	成績評価 方法	期末試験の得点60%, 平常の授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に指定しない。参考書として「犯罪に挑む心理学—現場が語る最前線—」(北大路書房、2002)を推薦する。				
備考	後期の授業科目「非行臨床心理学」を受講する予定の学生は、できる限り受講してほしい。				

科目名	比較心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	比較心理学は、ヒトと動物の行動を比較することによって、ヒトの心や行動がどのように進化してきた過程について研究する学問である。動物の脳の進化、睡眠、情動、学習、知能、配偶行動、コミュニケーション、言語、社会行動、心の病、心の進化などのテーマについて、他の動物と比べて、ヒトという種のユニークな点や、動物と共通する行動特性を明らかにして、動物としてのヒトの特徴を説明する。				
授業方針	スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用し、授業に対する興味を高め、内容の理解をできるだけ容易にする予定である。興味を持った内容をさらに詳しく知りたい学生のための参考書や読み物については、授業の中で紹介していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 比較心理学の研究方法 第 2回 脳の進化:ヒトの脳と動物の脳 第 3回 睡眠:動物はなぜ眠るのか 第 4回 感情:ヒトの感情と動物の情動 第 5回 認知:動物の認知能力 第 6回 パーソナリティ:動物にパーソナリティはあるか 第 7回 配偶者の獲得競争:性による淘汰の仕組み 第 8回 配偶行動:夫婦システムの仕組み 第 9回 子育て行動:愛着と親子関係の仕組み 第10回 コミュニケーション:動物の情報伝達の仕組み 第11回 言語:動物は言語を使用できるのか 第12回 社会性:動物の社会的行動 第13回 心の進化:動物には"心"はあるのか 第14回 動物とヒトの関わり				
準備学習	あらかじめ、シラバスの学習内容を良く読み、図書館などで文献検索を行い、予備知識を得ておくこと。				
学習到達目標	比較心理学の基本的な分野の理解とキーワードの習得。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	比較心理学の基本的な術語についての知識が得られたか。 動物の認知や繁殖行動などの比較心理学の各分野について基本的な理解が得られたか。 動物の「心」について考えることができたか。			
	成績評価 方法	期末試験の成績により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:特に指定しない。 (2)参考書:パピーニの比較心理学、M.R. パピーニ、北大路書房 進化と人間行動、長谷川寿一・長谷川真理子、東京大学出版会 進化心理学入門、J.H.カートライト、新曜社 (3)視聴覚教材を使用する。また資料を配布する。				
備考	自分が興味を持った内容については、図書館などを利用して自発的に知識を深めるように努力して下さい。				

科目名	非行臨床心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	小野 広明			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	非行臨床の基礎となる専門的知見を学習するとともに、実際に過去に起きた少年犯罪事例の分析を行い、非行の原因と対策に関する理解を深める。				
授業方針	教員と受講生の双方向的な授業にするため、受講生は担当教員の講義内容への感想・意見や、自分で調べたり考えたりしたことを積極的に発表するように努めること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 非行臨床心理学を学ぶ意義 第2回 我が国における少年非行の動向と少年司法制度 第3回 非行臨床の現場～少年鑑別所と少年院を中心に 第4回 非行臨床の基本的視座Ⅰ 資質と非行 第5回 非行臨床の基本的視座Ⅱ 家庭と非行 第6回 非行臨床の基本的視座Ⅲ 外部社会環境と非行 第7回 非行臨床査定の原則Ⅰ 第8回 非行臨床査定の原則Ⅱ 第9回 過去の少年犯罪の事例検討Ⅰ 第10回 過去の少年犯罪の事例検討Ⅱ 第11回 過去の少年犯罪の事例検討Ⅲ 第12回 過去の少年犯罪の事例検討Ⅳ 第13回 非行少年の処遇の原則 第14回 加害者又は加害者家族のゲストスピーカーの講話 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①第1回目の講義時、受講者全員に対して少年非行に関して今まで考えてきたこと、今後学習したいこと等についてのアンケートを実施する(成績評価の対象外)ので、事前に考えを整理しておくこと。 ②毎回の授業の予習・復習を行うこと。 ③期末試験に備えて授業全体の復習をすること。				
学習到達目標	非行のある少年への適切な理解と処遇のために必要とされる基本的な知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容を十分理解した上で自分の意見や考えを整理できること(毎回の授業時での意見発表や期末試験レポートで評価する)			
	成績評価 方法	期末レポートの内容60%、授業への参加度40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書 「犯罪に挑む心理学—現場が語る最前線—Ver.2」(北大路書房、2012) (3)その他 毎回講義時に資料を配布する。				
備考	前期の授業科目「犯罪心理学」も、できる限り受講してほしい。				

科目名	福祉心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	山崎 晃史,金子 まどか,島崎 明代			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	福祉心理学は、福祉＝well-beingおよびwelfareに関わる心理学である。私たちはこれを、「人々の幸せのための心理学」という原理的側面と、「福祉領域の現場に即した心理支援」という実践的側面の両面から考えることができる。本講義ではこれらをふまえ、「生活」および「生活のしづらさ」を鍵概念としながら、福祉的視点による心理支援の実際をライフサイクルに沿って概観する。				
授業方針	3人の担当講師が、それぞれが臨床業務を行っている/いた領域に即して分担する。各回の授業は、重要事項の説明を行ったうえで、エピソード的な事例をもとにグループディスカッションを行う。最後に担当講師がまとめのレクチャーを行い、リアクションペーパーの提出を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 福祉心理学とは何か 第2回 ライフサイクルと専門職連携協働実践(IPW) 第3回 子育て支援(子育て世代包括支援) 第4回 児童家庭福祉1(児童家庭福祉と心理支援) 第5回 児童家庭福祉2(要保護児童対策) 第6回 児童家庭福祉3(少年法) 第7回 障害福祉と心理支援1(相談支援) 第8回 障害福祉と心理支援2(児童) 第9回 障害福祉と心理支援3(就労) 第10回 障害福祉と心理支援4(成人) 第11回 社会的諸問題と心理支援1(貧困、ひきこもり等) 第12回 社会的諸問題と心理支援2(司法福祉) 第13回 高齢福祉(地域包括支援)と心理支援 第14回 ポジティブ心理学と生態学的心理学の視点 第15回 まとめと試験				
準備学習	①教科書や参考書の該当箇所を読み込み理解していること。(30時間) ②各回の授業内容を復習すること。(30時間)				
学習到達目標	1)福祉(well-being)の考え方が理解できるようになる。 2)福祉制度や機関、関係職種について、その法的根拠、内容、役割について説明できるようになる。 3)福祉の現場における心理支援のポイントが理解できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)精神的健康の実現にとってのwell-beingとその周辺概念の意義について説明ができる。 2)福祉制度や機関、関係職種について、その法的根拠、内容、役割について説明ができる。 3)福祉領域における心理支援のポイントが説明できる。			
	成績評価 方法	筆記試験(40%) リアクションペーパー記入(40%)最低9回 小レポート(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	大石幸二監修・山崎晃史(編著)(2019予定)公認心理師・臨床心理士のための発達障害論(学苑社)				
備考					

科目名	臨床心理査定・検査				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本演習は、心理職の主要な業務の一つである心理検査を臨床場面で実際に用いることができるよう、知識及び技能の習得を目的とする。福祉・教育・医療現場で心理職として検査を施行してきた実務経験に基づき、実践的な講義および検査の施行演習を行う。【実務】				
授業方針	前半は講義形式、後半はロールプレイングを基本として実際に心理検査を施行し、検査者／被検査者双方の体験をすることを通して心理検査の方法に習熟する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理査定(見立て)とは 第2回 各種心理検査の特徴① 第3回 各種心理検査の特徴② 第4回 各種心理検査の特徴③ 第5回 各種心理検査の特徴④ 第6回 心理検査実習1 第7回 心理検査実習2 第8回 心理検査実習3 第9回 心理検査実習4 第10回 心理検査実習5 第11回 心理検査実習6 第12回 心理検査実習7 第13回 心理検査実習8 第14回 心理査定レポートの書き方 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	①毎回の授業内容の予習・復習を行うこと(45時間) ③授業時間内に施行した心理検査事例(ロールプレイ)についてのテストレポートを作成すること(15時間)				
学習到達目標	心理検査全般についての知識を習得する。 主要な心理検査の実施、分析および解釈の方法の基礎を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	主な心理検査についての知識を習得できたか。 心理検査を適切な方法で実施し、得られた結果を適切に解釈して報告書にまとめることができたか。			
	成績評価 方法	平常点(心理検査の実施)50点、レポート50点			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜参考図書を指定する。				
備考					

科目名	臨床心理査定・面接				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	小野 広明			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	面接を用いて対象者を理解するための実践的な理論と技法を学ぶ。				
授業方針	相手を理解するとはどういうことか、理解の主体としての自己はどうあるべきかという基本的な問題を常に考えながら、面接による心理査定の在り方について授業を進めていく。担当教員と受講生との双方向的な授業にするため、受講生には講義内容への感想や意見、自分で調べたり考えたりしたことを積極的に発言することを求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理査定面接の重要事項 第2回 行動から面接を考えるⅠ 第3回 行動から面接を考えるⅡ 第4回 行動から面接を考えるⅢ 第5回 言葉から面接を考えるⅠ 第6回 言葉から面接を考えるⅡ 第7回 言葉から面接を考えるⅢ 第8回 関係から面接を考えるⅠ 第9回 関係から面接を考えるⅡ 第10回 社会から面接を考えるⅠ 第11回 社会から面接を考えるⅡ 第12回 心理査定面接演習Ⅰ 第13回 心理査定面接演習Ⅱ 第14回 心理査定レポートの作成方法 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	人が人を査定するとはどういうことか、それはいかにして可能か。現段階における自分なりの見解をまとめて講義に臨むこと。				
学習到達目標	有効な心理査定・面接を行うために必要な基本的かつ重要な知識と技能を習得する。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	講義内容を十分理解した上で自分の考えを整理できること(毎回の授業における感想や意見の発表と、期末試験レポートで評価する)。			
	成績評価 方法	期末レポートの内容60%, 授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 適宜紹介する。 (2)参考書 適宜紹介する。 (3)その他 講義時に資料を配布する。				
備考	特になし。				

科目名	臨床心理実習 I				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	三浦 和夫, 藤巻 るり, 巖 秀章, 友田 貴子, 高木 絢子			単位区分	○(選必)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	心理に関する支援の実態に対する理解を促す観点から、主要な五分野(保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働)の中の保険医療・福祉・教育の三領域及び臨床心理センターの施設見学を中心に実習を行う。尚、保健医療機関は必須見学である。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピー経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	事前指導(各領域の概要及び見学準備、疑問・質問事項の整理など)を受けてから実際の見学を行う。見学は5名前後の班行動になる。見学施設が遠方にあることも多く、また施設側の諸事情から月曜日以外や夏季休業期間に見学が実施される場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>* オリエンテーションをオリ、レクチャーをレクを表記する。</p> <p>第1回 全体オリエンテーション  第2回 レク:福祉領域における心理支援/準備 昴  第3回 レク:臨床心理センター(幼児グループ)における心理支援/幼児G準備:臨床心理センター(幼児グループ)  第4回 レク:医療領域における心理支援 / 準備:みどりクリニック  第5回 準備:長谷川病院 クボタクリニック  第6回 レク:教育領域(教育研究所)における心理支援 / 準備:深谷市教育研究所  第7回 準備:長谷川病院 / 準備:みどりクリニック  第8回 準備:クボタクリニック  第9回 準備:深谷市教育研究所 / 準備:正智深谷高校  第10回 準備:昴  見学:昴  見学:臨床心理センター心理相談室  見学:長谷川病院  見学:クボタクリニック  見学:正智深谷高校  見学:深谷市教育研究所  見学:臨床心理センター(幼児グループ)  見学:みどりクリニック</p>				
準備学習	1)事前に配布された資料の精読 2)見学すべきポイントや質問の事前整理				
学習到達目標	医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解できたか。			
	成績評価 方法	事前準備および見学と授業への参加度を加味する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考	本講座は、外部施設の見学を中心とするため、その施設の見学ルールを守れることや、集団行動がとれることを受講の条件とします。具体的には、基礎実験演習IIなどの出欠や受講態度から受講の可否を原則として前年度末に決定します。				



科目名	臨床心理実習Ⅱ				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	三浦 和夫,藤巻 るり,巖 秀章,友田 貴子,高木 絢子			単位区分	○(選必)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	臨床心理実習Ⅱにおいて医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解し、さらにその内容を発表することによって理解を深める。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピー経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規や心理職の役割や業務内容等を整理し発表する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 発表準備: 昴(チボリ・カンパーニュ) 第2回 発表準備: 臨床心理センター(幼児グループ) 第3回 発表準備: 長谷川病院 第4回 発表準備: みどりクリニック 第5回 発表準備: クボタクリニック 第6回 発表準備: 深谷市教育研究所 第7回 発表準備: 正智深谷高校 第8回 発表準備: 臨床心理センター(心理相談室) 第9回 発表: 昴(チボリ・カンパーニュ) 幼児グループ 第10回 発表: クボタクリニック 長谷川病院 第11回 発表: みどりクリニック 深谷市教育研究所 第12回 発表: 正智深谷高校 心理相談室 第13回 まとめ 第14回 レポート作成1 第15回 レポート作成2				
準備学習	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備をする。				
学習到達目標	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備し、発表する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備し、発表できる。			
	成績評価 方法	発表準備および発表と授業への参加度、見学した施設と発表を聞いた施設1箇所のレポートを評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考	臨床心理実習Ⅰの受講を受講条件とする。				

科目名	<b>教職論</b>				
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教職を志す学生が、教職とはどのような職業なのかを学ぶ授業である。教師の仕事(授業、生徒・進路指導、校内外との連携など)、教師のキャリア形成と専門的成長、社会における教師の捉えられ方や、教師に課せられた役割や使命など、さまざまな側面から講義する。特に、学校現場における様々な事例を参考にアクティブラーニングの視点を取り入れ、主体的な学習を学ぶ。				
授業方針	主に講義形式で進行するが、適宜、統計資料や新聞・雑誌記事、教師自身によって書かれた記録、映像資料などを提示し、受講者に考えてもらうアクティブ・ラーニングによる授業展開を設ける。講義の内容や、作業、考察したことなどを書きとめるワークシートを毎回使用し、適宜提出してもらう。最終的に、講義全体を踏まえたレポートを課す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	講義は、受講者の理解を踏まえながら、以下のように進行する予定である。 1. 教職とはどのような仕事か 2. 教師の仕事(1):授業をつくる(学習指導要領と授業づくり) 3. 教師の仕事(2):子どもを育む。(学級経営・生徒指導・生活指導) 4. 教師の仕事(3):子どもを育む(進路指導・キャリア教育・安全教育) 5. 教師の仕事(4):保護者地域との連携(保護者、地域、他の学校や組織とのかかわり) 6. 教師として生きる(1):教師になる(教員養成、教員の資格、採用) 7. 教師として生きる(2):教師に求められる資質能力(研修、現職教育) 8. 教師として生きる(3):教員の職務と法律関係 9. 教師として生きる(4):教員の地位と身分保障、待遇と労働条件 10. 教師として生きる(5):学校の管理・運営 11. 時代の中の教師(1):「先生」の登場と形成(明治・大正・昭和初期) 12. 時代の中の教師(2):教育専門家としての教師(戦後) 13. 時代の中の教師(3):学校教育の諸課題と教師 14. 時代の中の教師(4):社会の変化と学校・教師 15. まとめ及び試験				
準備学習	①指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に示す課題について、適宜レポートを作成すること。(30時間) ③授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを適宜実施するので、復讐をしておくこと(10時間)				
学習到達目標	①教師の仕事の性質について理解し、記述できる。 ②教師の成長の道筋とその機会について理解し、記述できる。 ③教師像の歴史的な形成について理解し、記述できる。 ④自分のこれまで抱いてきた教師像について相対化し、見直すことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。			
	成績評価 方法	小テスト20%、課題60%、レポート20%、で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	著書名:『新しい時代の教職入門』 著者:秋田喜代美・佐藤学 編 出版社:有斐閣アルマ				
備考	講義内容は相互に関係しているので、遅刻・欠席はなるべくせず、欠席回のワークシートも事後に提出すること。				

科目名	<b>教育原理</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水5
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育原理」は最も基礎的で中心的な教職課程科目です。「教育とは何か」をいくつかの素材をもとに考え、日本における近代公教育について、歴史的な変遷を踏まえて学んでいきます。教職の「はじめの一歩」の位置づけで、教師になるにはどのようなことに興味や関心、そして知識を持つことが大事なのかを学びます。				
授業方針	授業は講義形式が中心になります。教職を履修するうえで最低限、身につけておいて欲しい知識の習得を目指します。その一方で、できるだけ学生の意見を聞く場を設けます。毎授業で課題について意見を求めて発表する取り組みもします。知識を増やすこと、その知識をもとに考えることの両方が大切だからです。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教職課程と教育原理 第 2回 教育とは何か 人間の成長と遺伝・環境 第 3回 教育とは何か 「教」と「育」 第 4回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ① 第 5回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ② 第 6回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ③ 第 7回 教育とは何か 公教育の発達 第 8回 日本における近代公教育 ①学制期 第 9回 日本における近代公教育 ②教育令期 第10回 日本における近代公教育 ③森文政期 第11回 日本における近代公教育 ④大正デモクラシーと新教育運動期 第12回 日本における近代公教育 ⑤軍国主義時代 第13回 戦後の公教育の理念① 第14回 戦後の公教育の理念② 第15回 総括 教育とは何か・近代公教育の理念:まとめ及び試験				
準備学習	1) 指定したテキストや参考文献の該当箇所を事前に読んで、専門用語の意味などを調べておくこと。(20時間) 2) 授業で配布するレジュメをもとに学習したことを整理して次時の学習に臨むこと。(30時間) 3) 現代の教育に関する新聞記事等に目を通しておくこと。(10時間)				
学習到達目標	1) 「教育とは何か」について様々な教育思想を理解し、自分の考えをもつことができる。 2) 日本における近代公教育の史的変遷や戦後の公教育の理念について理解し、現代の教育について考えるための知識の基盤を形成する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 「教育とは何か」について様々な教育思想を理解し、自分の考えをもつことができたか。 2) 日本における近代公教育の史的変遷や戦後の公教育の理念について理解し、現代の教育について考えるための知識の基盤を形成することができたか。			
	成績評価 方法	平常点30% 試験70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	蔭山雅博・國枝マリほか『はじめて学ぶ教育の原理』学文社				
備考	学習内容は多少前後する場合があります。また、教育関係の時事問題を取り上げます。				

科目名	発達・学習論			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月1
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	成長過程にある生徒を理解し効果的な指導を展開する上で、発達・学習に関する知識は不可欠である。成長に伴い子どもたちがどのような変化を遂げるのか、またその際に経験はどのような影響を与えるかを理解することは、生徒の心を理解し指導していく上で重要である。この授業では、これらの基礎的な知識を獲得し、発達を踏まえた指導について理解することを目標とする。			
授業方針	本講義では発達と学習に関する基礎的な内容について講義する。さらに、教育場面における応用や、発達・学習に関連する諸問題についても考えていくこととする。各テーマに関する講義に加え、テーマに関連した内容での小レポート課題を課す。単なる知識の羅列としてではなく、実際の教育現場にどのように結びつのかを考えてもらいたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階と発達の規程因</li> <li>2. 新生児期・乳児期・児童期</li> <li>3. 心理社会的発達、道徳的発達：エリクソン／コールバーグの理論</li> <li>4. 認知発達：ピアジェの理論</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 思春期・青年期</li> <li>7. 前半のまとめ：発達の過程を振り返る</li> <li>8. 教育評価</li> <li>9. 行動主義と条件づけ</li> <li>10. 認知主義的アプローチと記憶</li> <li>11. 学習法・教授法と個人差</li> <li>12. 主体的な学習活動を支える指導</li> <li>13. 動機づけ</li> <li>14. 後半まとめ：学習の諸相を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	事前に教科書の当該箇所を読み、不明な語について心理学事典などを利用して確認しておくこと。授業後は復習を行うこと。予習及び復習時間はそれぞれ2時間程度とする。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解する。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解する。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得る。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得られたか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	小課題(20%)と試験(80%)を合計したものを成績評価基準にあてはめて決定する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書「教職ベーシック 発達・学習の心理学[新版]」北樹出版 柏崎秀子 編著			
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。			

科目名	発達・学習論			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月1
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	成長過程にある生徒を理解し効果的な指導を展開する上で、発達・学習に関する知識は不可欠である。成長に伴い子どもたちがどのような変化を遂げるのか、またその際に経験はどのような影響を与えるかを理解することは、生徒の心を理解し指導していく上で重要である。この授業では、これらの基礎的な知識を獲得し、発達を踏まえた指導について理解することを目標とする。			
授業方針	本講義では発達と学習に関する基礎的な内容について講義する。さらに、教育場面における応用や、発達・学習に関連する諸問題についても考えていくこととする。各テーマに関する講義に加え、テーマに関連した内容での小レポート課題を課す。単なる知識の羅列としてではなく、実際の教育現場にどのように結びつくのかを考えてもらいたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階と発達の規程因</li> <li>2. 新生児期・乳児期・児童期</li> <li>3. 心理社会的発達、道徳的発達：エリクソン／コールバーグの理論</li> <li>4. 認知発達：ピアジェの理論</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 思春期・青年期</li> <li>7. 前半のまとめ：発達の過程を振り返る</li> <li>8. 教育評価</li> <li>9. 行動主義と条件づけ</li> <li>10. 認知主義的アプローチと記憶</li> <li>11. 学習法・教授法と個人差</li> <li>12. 主体的な学習活動を支える指導</li> <li>13. 動機づけ</li> <li>14. 後半まとめ：学習の諸相を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	事前に教科書の当該箇所を読み、不明な語について心理学事典などを利用して確認しておくこと。授業後は復習を行うこと。予習及び復習時間はそれぞれ2時間程度とする。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解する。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解する。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得る。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得られたか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	小課題(20%)と試験(80%)を合計したものを成績評価基準にあてはめて決定する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書「教職ベーシック 発達・学習の心理学[新版]」北樹出版 柏崎秀子 編著			
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。			

科目名	情報科教育法I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	関口 久美子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校における教科「情報」を指導するために必要とされる知識・技能を修得することを目標とする。ここでは、特に共通教科「情報」に焦点を置き、その教育目標や内容を理解するとともに、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようにする。				
授業方針	教科「情報」の全体、および共通必修科目「情報Ⅰ」、選択科目「情報Ⅱ」の各科目の教育目標や内容を明らかにする。また、指導計画の作成、教材研究、模擬授業の実施、評価等の実践的な演習をとおしてその指導方法を学んでいく。さらに情報機器及び教材などの「教育の情報化」を意識した効果的な指導方法を学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 教科「情報」と情報教育のねらい 第2講 情報教育の現状 第3講 共通教科「情報」の内容と目標(学習指導要領使用) 第4講 年間の指導計画 第5講 教育の方法及び技術(教育の情報化) 第6講 「情報Ⅰ」における指導方法 第7講 教材研究 第8講 指導案の作成 第9講 模擬授業と評価1(情報社会と問題解決) 第10講 模擬授業と評価2(デジタル情報と情報の活用) 第11講 模擬授業と評価3(ネットワークとセキュリティ) 第12講 「情報Ⅱ」における指導方法 第13講 教材研究・指導案の作成 第14講 模擬授業と評価4(情報の解析と活用) 第15講 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 指定した学習指導要領(情報)の該当部分を事前に読み、各科目の学習目標や学習内容を理解しておくこと。(15時間) (2) 模擬授業を実施するにあたって、授業計画書の作成や教材準備、リハーサルなど十分な準備を行うこと。(20時間) (3) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(25時間)				
学習到達目標	(1) 「情報教育」、教科「情報」の成立の背景から、その意義と役割を理解できる。 (2) 共通教科「情報」の教育の内容と目標を説明できる。 (3) 共通教科「情報」の授業計画書を作成し、それに沿った模擬授業を実施できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 「情報教育」、教科「情報」の意義と役割を説明できるか。 (2) 共通教科「情報」の教育の内容と目標を説明できるか。 (3) 授業計画書を作成し、それに沿って模擬授業を行えるか。 (4) 模擬授業に対し、自他の評価ができるか。			
	成績評価 方法	模擬授業50%、学習指導案の作成30%、課題20%により、総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂出版 参考書 情報科教育のための指導法と展開例 岡本敏雄・西野和典 実教出版 その他 高校で使用した情報の教科書				
備考	コンピュータリテラシーの知識や技術を習得済みであること。				

科目名	情報科教育法II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	関口 久美子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校における教科「情報」を指導するために必要とされる知識・技能を修得することを目標とする。ここでは、専門教科「情報」に焦点を置き、多岐にわたる専門科目それぞれの教育目標や内容を理解するとともに、科目に応じた指導方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようにする。また、プログラミングについても同様に教育目標を理解するとともに授業設計を行うことができるようにする。				
授業方針	多数の科目からなる専門教科「情報」について、それぞれの学習内容と教育目標を明らかにするとともに、各科目の特性に応じた指導方法を実践的な演習をとおして学んでいく。プログラミング教育については共通教科と専門教科における教育目標の違いを理解し、それぞれに適切な指導方法を学ぶ。さらに急速に変化する情報社会に対応した教育が行えるよう、新たな情報技術の調査研究を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 専門教科「情報」の内容と目標(学習指導要領使用) 第2講 専門教科「情報」の指導方法1(データの分析・活用・表現) 第3講 教材研究と指導案の作成1(データの分析・活用・表現) 第4講 模擬授業と評価1(データの分析・活用・表現) 第5講 専門教科「情報」の指導方法2(システムの設計とコンテンツの制作) 第6講 教材研究と指導案の作成2(システムの設計とコンテンツの制作) 第7講 模擬授業と評価2(システムの設計とコンテンツの制作) 第8講 プログラミングの指導方法 第9講 教材研究と指導案の作成3(アルゴリズムと問題解決) 第10講 模擬授業と評価3(アルゴリズムと問題解決) 第11講 教材研究と指導案の作成4(プログラミング) 第12講 模擬授業と評価4(プログラミング) 第13講 新たな情報技術 第14講 これからの情報化社会と情報教育 第15講 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 指定した学習指導要領(情報)の該当部分を事前に読み、各科目の学習目標や学習内容を理解しておくこと。(15時間) (2) 模擬授業を実施するにあたって、授業計画書の作成や教材準備、リハーサルなど十分な準備を行うこと。(20時間) (3) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(25時間)				
学習到達目標	(1) 「情報教育」、教科「情報」の成立の背景から、その意義と役割を理解できる。 (2) 専門教科「情報」の教育の内容と目標を説明できる。 (3) 専門教科「情報」の授業計画書を作成し、それに沿った模擬授業を実施できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 「情報教育」、教科「情報」の意義と役割を説明できるか。 (2) 専門教科「情報」の教育の内容と目標を説明できるか。 (3) 授業計画書を作成し、それに沿って模擬授業を行えるか。 (4) 模擬授業に対し、自他の評価ができるか。			
	成績評価 方法	模擬授業50%、学習指導案の作成30%、課題20%により、総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂出版 参考書 情報科教育のための指導法と展開例 岡本敏雄・西野和典 実教出版 その他 高校で使用した情報の教科書				
備考					

科目名	<b>社会科・公民科教育法I</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学習指導要領の内容、教育課程上の教科の位置づけを理解し、中学校社会科、高等学校公民科教員として必要な指導上の知識・技能を習得するとともに、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な力を身に付ける。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。				
授業方針	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解する。社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。現代社会が抱えている諸問題について意欲的に考え、授業案に盛り込めるような方法を受講生達に考えてもらう。知識の習得だけでなく、市民性の概念と倫理観を踏まえた授業案を考えられるように講義を進める				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回授業の概要及び進め方 第2回社会科教育の歴史について 第3回教育課程上の教科の位置づけ、学習指導要領の解説、内容と改訂、改訂の経緯について 第4回社会科・公民科分野の特色と内容、指導上の留意点(1)〔「現代社会」「倫理」分野〕 第5回社会科・公民科分野の特色と内容、指導上の留意点(2)〔「政治・経済」分野〕 第6回社会科・公民科と関連分野との関係 第7回公民科の理念、公民的資質、道徳との関係 第8回公民科の教科構造と関連諸科学について 第9回義務と権利、責任について、自己と他者の共存の在り方について 第10回学習指導案の研究(1) (学習指導案の作成方法) 第11回学習指導案の研究(2) (授業展開と板書計画) 第12回学習指導案の研究(3) (生徒評価の観点) 第13回作成した学習指導案に基づく模擬授業 第14回模擬授業の振り返り 第15回まとめ及び試験				
準備学習	1 現代社会が抱える諸問題についての情報収集(新聞、ニュース、インターネット等)(10時間) 2 学習指導案の作成、模擬授業の準備(30時間) 3 学期末試験のための試験勉強(講義内容の復習)(20時間)				
学習到達目標	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解する。 社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解する。 義務と権利、責任という概念を深く理解し、自己と他者の共存の在り方について自分なりの考えが持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解できたか。(試験による評価) 2 学習指導案の作成、模擬授業を意欲的に行うことができたか。(学習指導案の提出、模擬授業の振り返りからの評価) 3 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解できたか。(試験による評価) 4 義務と権利、責任という概念を深く理解し、自己と他者の共存の在り方について自分なりの考えを持てたか。(コメントシートによる評価)			
	成績評価 方法	最終授業日に行う試験(50%)、学習指導案と模擬授業(30%)、授業時のコメントシート(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	最新の『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』(文部科学省)、その他の参考文献は講義中に適宜紹介する。				
備考	中学校社会科と高等学校公民科教員免許状取得のための必修科目である。教員を目指す心構えをもって、講義に参加してもらいたい。				



科目名	<b>社会科・公民科教育法II</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	中学校社会科、高等学校公民科教員として生徒に政治や経済に対する関心をもたせ、公民的資質を養う知識・技能を習得する。また倫理分野を中心に道徳性を養う観点を踏まえた指導力を習得する。学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な力を身に付ける。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。				
授業方針	学習指導要領における社会科、公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解した上で、より発展的な授業案が考えられるように講義を進める。公民科各科目の学習指導案を作成し、作成した学習指導案に基づき模擬授業を行ってもらう。現代社会において必要な公民的資質とは何かを理解して生徒を指導する方法について考えてもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の概要及び進め方 第2回 国際社会と日本 第3回 現代社会における公民的資質について 第4回 社会科・公民科の授業を通して生徒に政治に関心を持たせる方法(発表・意見交換)(人間の倫理、現代の政治) 第5回 社会科・公民科の授業を通して生徒に経済に関心を持たせる方法(発表・意見交換)(現代の経済) 第6回 倫理分野の指導方法と留意点(発表・意見交換) 第7回 ナショナリズム 第8回 国際関係理論 第9回 憲法について考える(発表・意見交換) 第10回 学習指導案の研究(1)(教材研究) 第11回 学習指導案の研究(2)(授業展開と板書計画) 第12回 学習指導案の研究(3)(生徒評価の観点) 第13回 作成した学習指導案に基づく模擬授業 第14回 模擬授業の振り返り 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 現代社会が抱える諸問題に関する情報収集(新聞、ニュース、インターネット等)、(10時間) 2 学習指導案の作成と模擬授業の準備(30時間) 3 講義最終日に行う試験のための勉強(講義内容の復習)(20時間)				
学習到達目標	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解した上で、より発展的に現代社会に即した指導の在り方を習得する。 社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解する。 現代社会において必要な公民的資質とは何かを理解し、現代社会の課題を踏まえつつ市民性を養う指導について自分なりの考えを持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 社会科・公民科について、より発展的な現代社会に即した授業案を作成できたか。(学習指導案による評価) 2 学習指導案を意欲的に作成し、模擬授業を意欲的に行うことができたか。(学習指導案、模擬授業による評価) 3 社会科・公民科の指導内容、学習評価の考え方を理解できたか。(学習指導案による評価) 4 公民的資質とは何かを理解し、生徒達にその力を養う指導について自分なりの考えを持てたか。(試験、コメントシートによる評価)			
	成績評価 方法	学習指導案40%、授業最終日に行う試験20%、小レポート20%、コメントシート20%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	最新の『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』(文部科学省)、その他の参考文献については講義内に適宜紹介する。				
備考	中学校社会科と高等学校公民科教員免許状取得のための必修科目である。 教員を目指す心構えをもって、講義に参加すること。				

科目名	<b>社会科・地歴科教育法I</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科・地歴科教育法 I では、社会科・地歴科がどのような経緯で成立し、時代的、社会的な影響を受けながらどんな変遷を遂げてきたのか、現行の学習指導要領ではどのような目標・学習内容が掲げられているのかなど、社会科・地歴科全般に関する基礎的事項を理解するとともに、教科に関する基礎的な知識と、学習指導案や授業プリントの作成など、授業づくりに必要な基礎的技術を習得する。				
授業方針	社会科に関する専門的な知識と授業をおこなううえでの技法を身につけていくため、授業は演習形式でおこなう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会科の歩み① 社会科成立の背景・社会科が目指したもの 第 2回 社会科の歩み② 学習指導要領の変遷と社会科・地歴科の学習内容の変遷 第 3回 現行の学習指導要領中学校社会科・高等学校地歴科の解説 第 4回 社会科(地理・歴史)・地歴科の基礎知識の確認① 第 5回 社会科(地理・歴史)・地歴科の基礎知識の確認② 第 6回 中学校、高等学校で用いられる教科書、教材、教育方法及び技術 第 7回 基本的な学習指導案の作成 ①授業のねらいを考える 第 8回 基本的な学習指導案の作成 ②本時の指導計画を立てる 第 9回 基本的な学習指導案の作成 ③観点別評価に基き授業を点検する 第10回 学習プリントの作成 内容構成・見やすい紙面を考える 第11回 模擬授業と指導方法の検討① 中学校地理分野 第12回 模擬授業と指導方法の検討② 中学校地理分野(続) 第13回 模擬授業と指導方法の検討③ 中学校歴史分野 第14回 模擬授業と指導方法の検討④ 中学校歴史分野(続) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 中学校社会科、高等学校地歴科の学習指導要領を精読しておくこと。(20時間) 2) 中学校社会科地理分野、高等学校地歴科の地理の教科書や資料集の該当箇所を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3) 模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	1) 社会科の歩みや、学習指導要領に示された高等学校地歴科や中学校社会科の目標や内容、指導上の留意点について理解し、授業づくりの基本的な技法を身につける。 2) 地理の単元を用いて基本的な学習指導案の作成、及び模擬授業を行うことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 社会科の歩みや、学習指導要領に示された高等学校地歴科や中学校社会科の目標や内容、指導上の留意点について理解し、授業づくりの基本的な技法を身につけることができたか。 2) 地理の単元を用いて基本的な学習指導案の作成、及び模擬授業を行うことができたか。			
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)30%、提出物(学習指導案・教材・レポートまたは試験)70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』, 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考文献は授業のなかで紹介。必要に応じてプリントを配布。				
備考	毎回、必ず出席すること。				

科目名	<b>社会科・地歴科教育法II</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科・地歴科教育法IIでは、中学校社会科歴史分野と高等学校日本史A・Bを中心に取り上げる。歴史の授業はともすれば重要事項の解説に終始しがちで、生徒にとっては暗記科目のイメージが強い。本来の歴史教育の目的を再確認し、歴史の知識と様々な教育方法について学び、授業の技法を身につける。				
授業方針	内容精査と学習指導案の作成、模擬授業など演習形式の授業を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 高等学校地歴科(日本史・世界史)の目標と学習単元・教材について 第2回 高等学校で用いられる教育方法及び技術 -板書と発問- 第3回 単元の決定 第4回 内容精査① 第5回 内容精査② 第6回 学習指導案の作成 第7回 解説の演習①歴史用語 第8回 解説の演習②歴史の流れ 第9回 さまざまな授業と学習指導案の検討① 第10回 さまざまな授業と学習指導案の検討② 第11回 模擬授業と指導方法の検討① 社会科歴史分野 第12回 模擬授業と指導方法の検討② 世界史A 第13回 模擬授業と指導方法の検討③ 日本史A 第14回 模擬授業と指導方法の検討④ 日本史B 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 中学校社会科歴史分野、高等学校地歴科の世界史・日本史の学習指導要領の該当箇所を事前に読んでおくこと。(20時間) 2) 中学校社会科歴史分野、高等学校地歴科の世界史・日本史の教科書や資料集の該当箇所を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3) 模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	中学校社会科、高等学校地歴科の目標や内容を理解し、解説や発問、板書の演習を通して歴史の授業の方法を身につけ、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業力を身に着ける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①ひとつの単元について徹底した内容精査をすることができたか。②授業構想を学習指導案にまとめることができたか。③模擬授業を通じて、改善点を克服することができたか。			
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)30%、提出物(学習指導案・教材・レポートまたは試験)70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』, 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考文献は授業のなかで紹介。必要に応じてプリントを配布。				
備考	毎回、必ず出席すること。履修者数によって授業スケジュールを変更することもある。				

科目名	社会科教育法Ⅲ				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科教育法Ⅲは、中学校社会科の教員免許状取得を希望する学生を対象に行う科目である。特に教育法Ⅲでは、選択社会やテーマ学習を行うことも念頭に、中学校社会科公民分野の単元をつかった授業づくりを行う。既に社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱで公民に関する基礎的事項や学習指導案の作成方法については学習しているので、その応用編と位置づけている。				
授業方針	演習形式の授業となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会科公民分野の基礎的事項の復習 第2回 公民の教科書からの単元選び 第3回 授業づくり① 単元の内容精査 第4回 授業づくり② 単元の目標 第5回 授業づくり③ 単元の指導計画 第6回 授業づくり④ 本時の内容精査 第7回 授業づくり⑤ 本時の目標と指導計画 第8回 授業づくり⑥ 学習指導案の作成 第9回 授業づくり⑦ 教材の作成・準備 第10回 授業づくり⑧ 発問・板書計画 第11回 模擬授業と意見交換①人間を尊重する日本国憲法 第12回 模擬授業と意見交換②わたしたちの暮らしと民主政治 第13回 模擬授業と意見交換③わたしたちの暮らしと経済 第14回 模擬授業と意見交換④国際社会に生きるわたしたち 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 中学校社会科公民分野の学習指導要領の該当箇所を事前に読んでおくこと。(20時間) 2) 中学校社会科公民分野の教科書や資料集の該当箇所を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3) 模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの一連のプロセスに真剣に取り組み、完成することができる。 2) 他者の授業について、良い点、改善すべき点を的確に指摘し共有することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの一連のプロセスに真剣に取り組み、完成することができたか。 2) 他者の授業について、良い点、改善すべき点を的確に指摘し共有することができたか。			
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)40%、提出物(学習指導案・教材・レポート)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考書 参考文献は授業のなかで紹介。 (3)その他 必要に応じてプリントを配布。				
備考	社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、または社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を取得してから履修することを原則とする。毎回必ず出席すること。				

科目名	<b>社会科学教育法Ⅳ</b>				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科学教育法Ⅳは、中学校社会科の教員免許状の取得を希望する学生を対象に行う科目である。中学校社会科3分野のなかから好きな単元を自分で選び、内容精査、授業計画(学習指導案の作成)、教材の選定・準備、模擬授業を行う。				
授業方針	教育法Ⅰ～Ⅲで学んだこと(学習指導案や教材の作成、授業方法)を総括する意味で個人演習のかたちで行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 さまざまな社会科の授業(地理) 第2回 さまざまな社会科の授業(歴史) 第3回 さまざまな社会科の授業(公民) 第4回 授業づくり① 授業目的は何か 第5回 授業づくり② 単元の内容精査 第6回 授業づくり③ 学習指導案の作成・授業概要 第7回 授業づくり④ 学習指導案の作成・本時の指導計画 第8回 授業づくり⑤ 教材の作成・準備 第9回 授業づくり⑥ 発問・板書計画 第10回 模擬授業と意見交換①地理分野 第11回 模擬授業と意見交換②歴史分野(近世以前) 第12回 模擬授業と意見交換③歴史分野(近現代) 第13回 模擬授業と意見交換④公民分野 第14回 社会科の授業で大切にしたいこと 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1)これまでに作成した学習指導案や教材、模擬授業などを振り返り、改善すべき点を確認しておくこと。(10時間) 2)中学校社会科3分野から選択した単元について、学習指導要領の該当箇所を事前に読んでおくこと。(15時間) 3)中学校社会科3分野から選択した単元について、教科書や資料集の該当箇所を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(25時間) 4)模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること(10時間)				
学習到達目標	1)中学校社会科3分野のなかから単元を選び、単元全体の内容精査、学習指導案および教材の作成、模擬授業を個人でやり遂げる。 2)他者の模擬授業や意見交換に積極的に参加し改善点を共有することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)単元全体の内容精査、学習指導案および教材の作成、模擬授業を個人でやり遂げることができたか。 2)他者の模擬授業や意見交換に積極的に参加し改善点を共有することができたか。			
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)40%、提出物(学習指導案・教材・レポート)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考書 参考文献は授業のなかで紹介。 (3)その他 必要に応じてプリントを配布。				
備考	社会科学・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、または社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科学教育法Ⅲの単位を取得してから履修することを原則とする。毎回必ず出席すること。				

科目名	教育方法・技術論			
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 月2
担当教員	高橋 優,佐藤 由美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	授業では、もっとも古典的な教育の「方法・技術」から「近代学校」における「方法・技術」、そして今日の創造的授業の展開において要求される典型的な指導の「方法・技術」を具体的に比べて、現代の学校とその授業に驚異的変化をもたらしている情報機器活用のための知識と技能(スキル)を学ぶ。			
授業方針	第1回～第7回は教育方法論や指導の技術について佐藤が授業を実施する。第8回～第15回は情報機器の利活用について高橋が授業を行う。いずれも講義だけではなく演習を取り入れ、より実践的な知識と技術の習得を目指す。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の原理(1)コメニウス</li> <li>2. 教育方法の原理(2)ヘルバルト</li> <li>3. 教育方法の原理(3)デューイ</li> <li>4. 授業における多様な指導形態(一斉・個別・グループ)</li> <li>5. 授業における指導の技術(1)学習指導案の作成と板書計画</li> <li>6. 授業における指導の技術(2)発問と机間指導</li> <li>7. さまざまな教育方法(アクティブ・ラーニング等)</li> <li>8. メールによるコミュニケーションの特性と実際</li> <li>9. 校務文書・授業プリントを作る(ワードプロセッサの機能の活用)</li> <li>10. 学習評価の効率化(スプレッド・シートの利用)</li> <li>11. 視覚教材の作成(画像の符号化形式と加工)</li> <li>12. 調べもの学習と検索(サーチエンジンの活用と注意点)</li> <li>13. 授業における著作物の利用</li> <li>14. 情報をセキュアに管理する</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>			
準備学習	1年次に履修した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。 後半ではコンピュータの操作が必須となるので、1年次のコンピュータの入門科目の内容を完全に修得しておくこと。 毎回、予習・復習でそれぞれ2時間程度必要である。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の「方法・技術」の歴史の基礎を理解する</li> <li>2. 近現代の新しい教育方法を学び、基本的な指導の技術を習得する</li> <li>3. 教育場面における情報機器の効果的活用のための知識・技術を獲得する</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記学習到達目標3点を達成できたか		
	成績評価 方法	課題60%、小テスト40%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『はじめて学ぶ教育の原理』(学文社)を第1回～第7回で使用する。また、必要に応じてプリントを配布する。参考文献も随時紹介する。			
備考				

科目名	教育方法・技術論			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	高橋 優,佐藤 由美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	授業では、もっとも古典的な教育の「方法・技術」から「近代学校」における「方法・技術」、そして今日の創造的授業の展開において要求される典型的な指導の「方法・技術」を具体的に比べて、現代の学校とその授業に驚異的变化をもたらしている情報機器活用のための知識と技能(スキル)を学ぶ。			
授業方針	第1回～第7回は教育方法論や指導の技術について佐藤が授業を実施する。第8回～第15回は情報機器の利活用について高橋が授業を行う。いずれも講義だけではなく演習を取り入れ、より実践的な知識と技術の習得を目指す。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の原理(1)コメニウス</li> <li>2. 教育方法の原理(2)ヘルバルト</li> <li>3. 教育方法の原理(3)デューイ</li> <li>4. 授業における多様な指導形態(一斉・個別・グループ)</li> <li>5. 授業における指導の技術(1)学習指導案の作成と板書計画</li> <li>6. 授業における指導の技術(2)発問と机間指導</li> <li>7. さまざまな教育方法(アクティブ・ラーニング等)</li> <li>8. メールによるコミュニケーションの特性と実際</li> <li>9. 校務文書・授業プリントを作る(ワードプロセッサの機能の活用)</li> <li>10. 学習評価の効率化(スプレッド・シートの利用)</li> <li>11. 視覚教材の作成(画像の符号化形式と加工)</li> <li>12. 調べもの学習と検索(サーチエンジンの活用と注意点)</li> <li>13. 授業における著作物の利用</li> <li>14. 情報をセキュアに管理する</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>			
準備学習	1年次に履修した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。 後半ではコンピュータの操作が必須となるので、1年次のコンピュータの入門科目の内容を完全に修得しておくこと。 毎回、予習・復習でそれぞれ2時間程度必要である。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の「方法・技術」の歴史の基礎を理解する</li> <li>2. 近現代の新しい教育方法を学び、基本的な指導の技術を習得する</li> <li>3. 教育場面における情報機器の効果的活用のための知識・技術を獲得する</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記学習到達目標3点を達成できたか		
	成績評価 方法	課題60%、小テスト40%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『はじめて学ぶ教育の原理』(学文社)を第1回～第7回で使用する。また、必要に応じてプリントを配布する。参考文献も随時紹介する。			
備考				

科目名	特別活動の理論と方法			
クラス	対象学年	1年	開講学期	前期
			曜日・時限	時間外
担当教員	小池 幸		単位区分	◎(必修)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	特別活動は「為すことによって学ぶ」ことを指導原理に置き、集団活動・自主的活動・実践的活動を特質としている。本授業では、新学習指導要領をもとに、総合的な学習の時間、学級活動・ホームルーム活動、児童会生徒会活動、クラブ活動並びに学校行事における指導の実際をよりリアルに意識化・可視化することにより、教師としての「児童生徒一人一人を生かす集団活動の構築・展開能力」を身に付ける。			
授業方針	授業展開のベースとして、これまでの小・中・高等学校における受講生一人一人の特別活動に係る体験とその時の教師の係わり方におき、学校現場での各校種の実際の映像視聴や学習指導案の作成、授業の振り返り小レポートの作成、自身の児童生徒の係わり方や指導方法に関する小論文の作成、さらに、グループや全体でのディスカッション、模擬授業等を通して進めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>本授業では、アクティブラーニングの視点から、グループワークやグループディスカッション等を積極的に取り入れる。また、主体的な授業実践を図るため、受講者一人一人の考え、意見、思い等を持つことを強く求める。</p> <p>第1回:オリエンテーション(特別活動・総合的な学習の時間の意義と各種教育法規との関連)  第2回:特別活動・総合的な学習の時間と学習指導要領、特別活動とキャリア教育・主権者教育、小論文作成  第3回:特別活動・総合的な学習の時間における年間指導計画の作成、グループ討議  第4回:特別活動・総合的な学習の時間と各教科等の関連と育成すべき資質・能力、小論文作成  第5回:特別活動・総合的な学習の時間における3つの学びと指導の在り方、グループ・全体討議  第6回:特別活動・総合的な学習の時間の評価と改善、小論文作成  第7回:学級活動・ホームルーム活動の特質と指導の実際、グループ・全体討議  第8回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案の作成(内容(1)(2)(3))  第9回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(1))、全体討議  第10回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(2))、全体討議  第11回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(3))、全体討議  第12回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と指導の実際、グループ・全体討議  第13回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の活動実施計画の作成  第14回:特別活動が目指す社会参画の在り方と実際、グループ・全体討議  第15回:まとめ及び試験</p>			
準備学習	<p>【授業開始前】においては、①授業内容に係る教科書を熟読しておくこと。②要点をまとめたノート、配布資料を再確認しておくこと。(15時間)</p> <p>【授業開始後】においては、①毎回の授業毎にA4一枚程度に授業内容を要約し記録に残すこと。②模擬指導案や課題レポートを作成し、授業に課題意識を持って参加すること。(45時間)</p>			
学習到達目標	<p>(1)特別活動の意義、各活動・学校行事及び特別活動と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができる。</p> <p>(2)一人一人を生かす集団作りができる。</p> <p>(3)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになる。</p> <p>(4)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができる。</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>(1)特別活動の意義、各活動・学校行事及び特別活動と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができるか。</p> <p>(2)一人一人を生かす集団作りができるか。</p> <p>(3)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになっているか。</p> <p>(4)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができているか。</p>		
	成績評価 方法	平常点20%、授業後の振り返りカード20%、小テスト・小論文等成果物等30%、試験30%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条・埼玉工業大学工学部規程第14条に定める。		
教材	<p>◆教科書:文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」(東山書房)・文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」(東山書房)</p> <p>◆参考書:文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)」(東山書房)・文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」(東山書房)・「中学校教育課程実践講座 特別活動」(ぎょうせい)</p> <p>◆その他:必要に応じて随時プリントを配布する。</p>			
備考	授業の進行の中で変更がある場合はその都度お知らせします。			



科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 火5
担当教員	小池 幸			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	特別活動は「為すことによって学ぶ」ことを指導原理に置き、集団活動・自主的活動・実践的活動を特質としている。本授業では、新学習指導要領をもとに、学級活動・ホームルーム活動、児童会生徒会活動、クラブ活動並びに学校行事、総合的な学習の時間における指導の実際をよりリアルに意識化・可視化することにより、教師としての「児童生徒一人一人を生かす集団活動の構築・展開能力」を身に付ける。			
授業方針	授業展開のベースとして、これまでの小・中・高等学校における受講生一人一人の特別活動及び総合的な学習の時間に係る体験とその時の教師の係わり方におき、学校現場での各校種の実際の映像視聴や学習指導案の作成、授業の振り返り小レポートの作成、自身の児童生徒の係わり方や指導方法に関する小論文の作成、さらに、グループや全体でのディスカッション、模擬授業等を通して進めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	本授業では、アクティブラーニングの視点から、グループワークやグループディスカッション等を積極的に取り入れる。また、主体的な授業実践を図るため、受講者一人一人の考え、意見、思い等を持つことを強く求める。 第1回:オリエンテーション(特別活動・総合的な学習の時間の意義と各種教育法規との関連) 第2回:特別活動・総合的な学習の時間と学習指導要領、特別活動とキャリア教育・主権者教育、小論文作成 第3回:特別活動・総合的な学習の時間における年間指導計画の作成、グループ討議 第4回:特別活動・総合的な学習の時間と各教科等の関連と育成すべき資質・能力、小論文作成 第5回:特別活動・総合的な学習の時間における3つの学びと指導の在り方、グループ・全体討議 第6回:特別活動・総合的な学習の時間の評価と改善、小論文作成 第7回:学級活動・ホームルーム活動の特質と指導の実際、グループ・全体討議 第8回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案の作成(内容(1)(2)(3)) 第9回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(1))、全体討議 第10回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(2))、全体討議 第11回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(3))、全体討議 第12回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と指導の実際、グループ・全体討議 第13回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の活動実施計画の作成 第14回:特別活動が目指す社会参画の在り方と実際、グループ・全体討議 第15回:まとめ及び試験			
準備学習	【授業開始前】においては、①授業内容に係る教科書を熟読しておくこと。②要点をまとめたノート、配布資料を再確認しておくこと。(15時間) 【授業開始後】においては、①毎回の授業毎にA4一枚程度に授業内容を要約し記録に残すこと。②模擬指導案や課題レポートを作成し、授業に課題意識を持って参加すること。(45時間)			
学習到達目標	(1)特別活動・総合的な学習(探究)の時間の意義、特別活動の各活動・学校行事と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができる。 (2)一人一人を生かす集団作りができる。 (3)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになる。 (4)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)特別活動・総合的な学習(探究)の時間の意義、特別活動の各活動・学校行事と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができるか。 (2)一人一人を生かす集団作りができるか。 (3)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになってきているか。 (4)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができているか。		
	成績評価 方法	平常点20%、授業後の振り返りカード20%、小テスト・小論文等成果物等30%、試験30%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条・埼玉工業大学工学部規程第14条に定める。		
教材	◆教科書:文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」(東山書房)・文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」(東山書房) ◆参考書:文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)」(東山書房)・文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」(東山書房)・「中学校教育課程実践講座 特別活動」(ぎょうせい) ◆その他:必要に応じて随時プリントを配布する。			
備考	授業の進行の中で変更がある場合はその都度お知らせします。			

科目名	生徒・進路指導の理論と方法			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	小川 隆二			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本授業は学校教育における生徒指導・進路指導の理論と指導方法を理解し、子どもたちにかかわる生徒指導上の現状と背景を理解する。そして、いじめ・不登校・規範意識の低下など子ども・学校・家庭をめぐる問題に対し、学校として教師としていかなる対応が的確であるかを探求する。生徒指導や進路指導(キャリア教育)について理解が深められるよう、時事的な話題・データを紹介しながら今日的な課題と実践的指導方法を考察していく。			
授業方針	①講義形式を基本としつつ、グループ討議等を取り入れ受講者が主体的に授業に参加し双方向対話型による授業を行う。 ②講義の内容や考察したことをワークシートにまとめ提出する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1 生徒指導・進路指導における基本的概念 オリエンテーション 2 生徒指導・進路指導の理論と変遷 3 生徒指導の基礎理論、教育相談の歴史と理念 4 直面する課題(1)いじめ問題の予防と対応 5 直面する課題(2)不登校問題の予防と対応 6 直面する課題(3)規範意識の低下 非行問題行動 7 問題の背景(1)子どもの貧困、家庭や地域の教育力低下 8 問題の背景(2)人権教育・特別支援教育と生徒指導 9 問題の背景(3)思春期・青年期のこころの問題 10 進路指導(キャリア教育)の理論・方法・課題(1)進路指導の実態と課題 11 進路指導(キャリア教育)の理論・方法・課題(2)進路指導の組織と運営 12 生徒指導と教育課程 教科指導―道徳・特別活動 13 取り組みの実際(1)学校の指導体制と子どもの居場所としての学級づくり・授業づくり 14 取り組みの実際(2)学校・保護者・地域をつなぐ学校づくり 15 まとめ及び試験			
準備学習	①日頃から子ども・教師・学校についてのメディア報道に関心を持ち、生徒指導・進路指導における課題を認識して授業にのぞむ。 ②授業で配布する資料等を事前に確認し、自分の考えをもち用語等を理解しておく。 ③生徒指導や進路指導に係る自己の経験や体験を踏まえ考察する姿勢を常にもつ。			
学習到達目標	①子どもを取り巻く問題とその背景を知り、予防と対応について理解する。 ②生徒指導・進路指導において学校や教師が果たすべき役割について理解する。 ③生徒指導・進路指導の基本的な知識を身につけ、学校現場の様々な場面で教員に求められる能力と態度を養う。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(学習への取組・ワークシートの提出を含む:50%)と最終レポート(50%)により評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に準ずる。		
教材	生徒指導提要(文部科学省・教育図書) 学習指導要領解説「特別活動編」(文部科学省・ぎょうせい)			
備考				

科目名	道徳教育の理論と方法			
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 木2
担当教員	平田 文子			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	中学校・高等学校の教員免許状取得を目指す学生を対象として道徳教育の理論と実践方法について学ぶ教科である。道徳理論の思想的背景や、社会的・経済的背景との関係などを講義に盛り込む。学習指導要領の道徳教育の内容を理解し、道徳の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。受講者各々には、「道徳」に関する自分なりの考えを持たせ、生徒達が自身の道徳観を理解できる授業案を考えられることが本講義の目的である。			
授業方針	道徳教育に関する基本的な知識を身に付け、実践方法を学ぶ。日本の道徳教育の歴史を踏まえ、現在求められている道徳教育の実践方法を学ぶ。学習指導案の作成、教材や指導方法の工夫など、学校現場での実践を想定した授業案を作成してもらい、受講生が「道徳」に関する自分なりの観念を持ち、主体的に道徳教育について考えることが出来るよう、模擬授業や学習指導案の提出を交えて講義を進める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本講義の目的、概要。</li> <li>② 関連法規、学習指導要領における道徳教育の位置づけ</li> <li>③ 日本の道徳教育の歴史的経緯</li> <li>④ 道徳性の発達理論(ピアジェ、エリクソン、コールバーグ)</li> <li>⑤ 経済的背景と倫理観(ネオ・リベラリズムにおける質的倫理と量的倫理)</li> <li>⑥ エミール・デュルケームの道徳理論</li> <li>⑦ 宗教と道徳</li> <li>⑧ 価値観と態度(価値観と倫理的態度)</li> <li>⑨ 学校現場が抱える諸問題と道徳教育(いじめ、不登校、学級崩壊など)</li> <li>⑩ 道徳の授業の実践方法(1) 学習指導案の研究</li> <li>⑪ 道徳の授業の実践方法(2) 学習指導案の作成と教材開発</li> <li>⑫ 道徳の授業の実践方法(3) 模擬授業、振り返り、学習指導案の提出</li> <li>⑬ 各教科と道徳教育(教科横断的道徳教育、道徳の評価方法)</li> <li>⑭ これからの道徳教育</li> <li>⑮ まとめ及び試験</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業で提示された参考文献や資料を使って学習指導案を作成すること。(30時間)</li> <li>② 現代社会における諸問題について、メディアを通じて意識的に情報収集すること。(10時間)</li> <li>③ 試験を実施するので授業内容を復習しておくこと。(20時間)</li> </ol>			
学習到達目標	中学校学習指導要領の特別の教科「道徳」の内容を理解する。道徳教育に関する基本的な知識を身に付け、実践方法を学ぶ。日本の道徳教育の歴史を踏まえ、現在求められている道徳教育の実践方法を学ぶ。「道徳」に関する自分なりの観念を持てるようにする			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員を目指す大学生として、道徳教育に関する的確な知見を有しているか。(試験による評価)</li> <li>・現代社会が抱えている諸問題に関心を持ち、幅広い視野をもって生徒を指導しようとする意欲を有しているか。(講義後のコメントシート、学習指導案の内容)</li> <li>・学習指導案の作成、模擬授業を意欲的に行えたか。(学習指導案の提出。模擬授業の評価に関しては、感想文や他の受講生からの評価を反映する)</li> <li>・自身が道徳を教える立場として相応しい学習態度であるか。</li> </ul>		
	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義後のコメントシート(20%)</li> <li>・道徳の授業の学習指導案と模擬授業(30%)</li> <li>・期末試験(50%)</li> </ul>		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規定第14条・人間社会学部規定第14条に定める。		
教材	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』。その他必要と思われる文献や資料を授業で紹介する。			
備考	なぜ今、道徳教育が取り上げられ、その重要性が叫ばれているのか？一緒に考えましょう。その上で自分なりの意見を持ってほしいです。			

科目名	特別支援教育概論			
クラス	対象学年	1年	開講学期	後期
			曜日・時限	金5
担当教員	岩橋 翔		単位区分	◎(必修)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	特別支援教育の制度の理念や仕組みのもと、通常学級に在籍する発達障害等を中心とした障害をもつ生徒、障害はないが教育的ニーズをもつ生徒の、学習および生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対し組織的に支援を行うための知識と支援方法を理解する。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。			
授業方針	本講義では、特別支援教育に関する基礎的な内容について、幅広く講義する。特別支援教育は、通常学級においても実践されるものであり、教育現場で実践する上では各自がより深めていくことが求められる。従って、特別支援教育に関する基礎的な内容をもとに、あらゆる教職に関する科目との関連を鑑みながら、自身がどのような実践を営むことができるのか、また営むべきか、共に考えていく姿勢で臨んでいただきたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1.授業の概要と進め方、インクルーシブ教育システムについて 2.インクルーシブ教育システム(1)：障害に関する世界や日本の動向とインクルーシブ教育システム 3.インクルーシブ教育システム(2)：就学相談・支援、合理的配慮、学校間連携等 4.インクルーシブ教育システム(3)：特別支援教育の理念や対象、個別の教育支援計画、教育課程等 5.障害の理解と教育の基本(1)：ADHD、LD 6.障害の理解と教育の基本(2)：ASD、知的障害 7.障害の理解と教育の基本(3)：視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、重複障害 8.障害の理解と教育の基本(4)：言語障害、情緒障害、病弱・身体虚弱 9.特別支援学校の教育：教育課程、自立活動、特別支援教育コーディネーター、センター的機能等 10.中学校等の特別支援教育(1)：支援体制の構築、個別の指導計画、交流及び共同学習等 11.中学校等の特別支援教育(2)：特別支援学級、通級による指導の仕組み、関係機関や家庭との連携等 12.中学校等の特別支援教育(3)：「発達障害の子どもたち：“自立”を目指して」DVD視聴(レポート) 13.中学校等の特別支援教育(4)：障害をもつ特別の教育的ニーズをもつ児童への支援の実際 14.中学校等の特別支援教育(5)：障害はないが個別の教育的ニーズをもつ児童への支援の実際 15.まとめ及び試験			
準備学習	事前に、授業内容にかかる文部科学省HPにある資料や学習指導要領、参考資料等を読み、理解できていること、不明なことなどを確認する。授業後は復習を行う。予習及び復習時間はそれぞれ2時間程度とする。			
学習到達目標	1.共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠な特別支援教育の、その制度の理念や教育課程などの仕組みを理解する。 2.個別の教育的ニーズをもつ生徒を理解するために必要な知識を理解し、個別の教育的ニーズに対し、関係機関などと連携し組織的に生徒の生きる力を育むための支援方法を理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1.共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠な特別支援教育の、その制度の理念や教育課程などの仕組みを理解することができたか。 2.個別の教育的ニーズをもつ生徒を理解するために必要な知識を理解することができ、個別の教育的ニーズに対し、関係機関などと連携し組織的に生徒の生きる力を育むための支援方法を理解することができたか。		
	成績評価 方法	レポート(40%)、試験(60%)を合計したものを成績評価基準にあてはめて決定する		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程・人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』『特別支援学校高等部学習指導要領』 国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本』ジース教育新社			
備考				

科目名	教育相談				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本科目では生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。				
授業方針	授業では、発達過程にある生徒の心と体に関する基礎的な理解、教育相談の進め方とその技法(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)、その際に必要となる組織的な取り組みと連携について論じる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談とは何か</li> <li>2. 「教師に相談する」ということ</li> <li>3. 児童期・青年期のパーソナリティ</li> <li>4. パーソナリティの理論と測定</li> <li>5. 児童期・青年期の自己意識と人間関係</li> <li>6. カウンセリングの理論(1)行動療法, 認知行動療法</li> <li>7. カウンセリングの理論(2)クライアント中心療法</li> <li>8. カウンセリングの理論(3)教師とカウンセリング</li> <li>9. 学校の教育相談体制</li> <li>10. 生徒との面談</li> <li>11. スクールカウンセラーとの連携</li> <li>12. 児童期・青年期の不適応</li> <li>13. 保護者との面談</li> <li>14. 学部専門機関との連携</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>				
準備学習	教科書の該当章を事前に読み不明な箇所を調べておくことに加えて、前時の復習をすることが次時に向けての準備となる。指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。準備学習と課題それぞれ2時間程度を想定している。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動の位置づけを理解する。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解する。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解する。</li> <li>4. 教師として生徒に働きかけていくために必要な心構えを持つ。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動を適切に位置づけることができたか。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解できたか。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解できたか。</li> <li>4. 教師として生徒に接する心構えを持つことができたか。</li> </ol>			
	成績評価 方法	授業時の課題とレポートにより評価する。内訳は課題60%、レポート40%である。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 嶋崎政男『入門 学校教育相談』(学事出版), ISBN978-4-7619-2068-5 参考書 近藤邦夫『教師と子どもの関係づくり 学校の臨床心理学』(東京大学出版会), ISBN978-4-13-013300-5 参考書 文部科学省『生徒指導提要』(教育図書), ISBN978-4-87730-274-0 その他 『中学校学習指導要領』, 『高等学校学習指導要領』を適宜参照する他、必要に応じて資料を配布する				
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。				

科目名	教育相談			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火5
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本科目では生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。			
授業方針	授業では、発達過程にある生徒の心と体に関する基礎的な理解、教育相談の進め方とその技法(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)、その際に必要となる組織的な取り組みと連携について論じる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談とは何か</li> <li>2. 「教師に相談する」ということ</li> <li>3. 児童期・青年期のパーソナリティ</li> <li>4. パーソナリティの理論と測定</li> <li>5. 児童期・青年期の自己意識と人間関係</li> <li>6. カウンセリングの理論(1)行動療法, 認知行動療法</li> <li>7. カウンセリングの理論(2)クライアント中心療法</li> <li>8. カウンセリングの理論(3)教師とカウンセリング</li> <li>9. 学校の教育相談体制</li> <li>10. 生徒との面談</li> <li>11. スクールカウンセラーとの連携</li> <li>12. 児童期・青年期の不適応</li> <li>13. 保護者との面談</li> <li>14. 学部専門機関との連携</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>			
準備学習	教科書の該当章を事前に読み不明な箇所を調べておくことに加えて、前時の復習をすることが次時に向けての準備となる。指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。準備学習と課題それぞれ2時間程度を想定している。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動の位置づけを理解する。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解する。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解する。</li> <li>4. 教師として生徒に働きかけていくために必要な心構えを持つ。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動を適切に位置づけることができたか。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解できたか。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解できたか。</li> <li>4. 教師として生徒に接する心構えを持つことができたか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	授業時の課題とレポートにより評価する。内訳は課題60%、レポート40%である。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書 嶋崎政男『入門 学校教育相談』(学事出版), ISBN978-4-7619-2068-5 参考書 近藤邦夫『教師と子どもの関係づくり 学校の臨床心理学』(東京大学出版会), ISBN978-4-13-013300-5 参考書 文部科学省『生徒指導提要』(教育図書), ISBN978-4-87730-274-0 その他 『中学校学習指導要領』, 『高等学校学習指導要領』を適宜参照する他、必要に応じて資料を配布する			
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。			

科目名	<b>教育実習I</b>			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	小川 毅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	教育実習 I は教職課程を履修する3年生の科目である。次年度の教育実習に備え、教職の意義及び教員の役割を再確認する。模擬授業では受講者間でその内容や方法について相互に批評し合い、各自の課題を確認する。教育実習において授業実習が可能な水準に到達するまで、模擬授業は繰り返し行われる。教育実習に臨むうえでの自分自身の目標と課題を明確にすることが最終的なねらいである。			
授業方針	教育実習の徹底した事前指導を行う。1、2年時に学んだ教職に関する基本的な知識を再確認したうえで、授業を計画する能力、授業を進める技能が身についているかの見極めを行う。時間や約束の厳守、挨拶など日常の基本的な振る舞いが身についているかも同時に確認し、水準に達していない、または実習前までに改善の見込みがないと判断した場合、単位は出さない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習の意義 第 2回 教員の役割 第 3回 生徒理解と生徒の人権 第 4回 学習指導案の作成(学習指導要領を踏まえて) 第 5回 模擬授業と授業の相互評価(高校数学) 第 6回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・生物) 第 7回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・化学) 第 8回 模擬授業と授業の相互評価(高校工業) 第 9回 模擬授業と授業の相互評価(高校情報) 第10回 模擬授業と授業の相互評価(高校公民・現代社会) 第11回 模擬授業と授業の相互評価(中学校理科) 第12回 模擬授業と授業の相互評価(中学校数学) 第13回 模擬授業と授業の相互評価(中学校社会) 第14回 模擬授業と授業の相互評価(中学校技術) 第15回 まとめー教育実習における目標と課題の設定ー			
準備学習	①これまでに受講した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。(20時間) ②単元の内容精査を行い、学習指導案を作成して模擬授業の準備をすること。(35時間) ③友人の模擬授業等から学んだことを整理して、自分自身の授業に活かす準備をすること。(5時間)			
学習到達目標	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につける。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正する。 ④教育実習における目標と課題を設定する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教職の意義及び教員の役割等について再確認することができたか。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につけることができたか。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正することができたか。 ④教育実習における目標と課題を設定することができたか。		
	成績評価 方法	学習指導案40%、模擬授業50%、参加姿勢(コメント)10%で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	<b>教育実習I</b>			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月4
担当教員	佐藤 由美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	教育実習 I は教職課程を履修する3年生の科目である。次年度の教育実習に備え、教職の意義及び教員の役割を再確認する。模擬授業では受講者間でその内容や方法について相互に批評し合い、各自の課題を確認する。教育実習において授業実習が可能な水準に到達するまで、模擬授業は繰り返し行われる。教育実習に臨むうえでの自分自身の目標と課題を明確にすることが最終的なねらいである。			
授業方針	教育実習の徹底した事前指導を行う。1、2年時に学んだ教職に関する基本的な知識を再確認したうえで、授業を計画する能力、授業を進める技能が身についているかの見極めを行う。時間や約束の厳守、挨拶など日常の基本的な振る舞いが身についているかも同時に確認し、水準に達していない、または実習前までに改善の見込みがないと判断した場合、単位は出さない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習の意義 第 2回 教員の役割 第 3回 生徒理解と生徒の人権 第 4回 学習指導案の作成(学習指導要領を踏まえて) 第 5回 模擬授業と授業の相互評価(高校数学) 第 6回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・生物) 第 7回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・化学) 第 8回 模擬授業と授業の相互評価(高校工業) 第 9回 模擬授業と授業の相互評価(高校情報) 第10回 模擬授業と授業の相互評価(高校公民・現代社会) 第11回 模擬授業と授業の相互評価(中学校数学) 第12回 模擬授業と授業の相互評価(中学校理科) 第13回 模擬授業と授業の相互評価(中学校技術) 第14回 模擬授業と授業の相互評価(中学校社会) 第15回 まとめー教育実習における目標と課題の設定ー			
準備学習	①これまでに受講した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。(20時間) ②単元の内容精査を行い、学習指導案を作成して模擬授業の準備をすること。(35時間) ③友人の模擬授業等から学んだことを整理して、自分自身の授業に活かす準備をすること。(5時間)			
学習到達目標	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につける。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正する。 ④教育実習における目標と課題を設定する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につけることができたか。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正することができたか。 ④教育実習における目標と課題を設定することができたか。		
	成績評価 方法	学習指導案40%、模擬授業50%、参加姿勢10%(コメント)で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				



科目名	<b>教育実習I</b>			
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	教育実習 I は教職課程を履修する3年生の科目である。次年度の教育実習に備え、教職の意義及び教員の役割を再確認する。模擬授業では受講者間でその内容や方法について相互に批評し合い、各自の課題を確認する。教育実習において授業実習が可能な水準に到達するまで、模擬授業は繰り返し行われる。教育実習に臨むうえでの自分自身の目標と課題を明確にすることが最終的なねらいである。			
授業方針	教育実習の徹底した事前指導を行う。1、2年時に学んだ教職に関する基本的な知識を再確認したうえで、授業を計画する能力、授業を進める技能が身についているかの見極めを行う。時間や約束の厳守、挨拶など日常の基本的な振る舞いが身についているかも同時に確認し、水準に達していない、または実習前までに改善の見込みがないと判断した場合、単位は出さない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習の意義 第 2回 教員の役割 第 3回 生徒理解と生徒の人権 第 4回 学習指導案の作成(学習指導要領を踏まえて) 第 5回 模擬授業と授業の相互評価(高校数学) 第 6回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・生物) 第 7回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・化学) 第 8回 模擬授業と授業の相互評価(高校工業) 第 9回 模擬授業と授業の相互評価(高校情報) 第10回 模擬授業と授業の相互評価(高校公民・現代社会) 第11回 模擬授業と授業の相互評価(中学校数学) 第12回 模擬授業と授業の相互評価(中学校理科) 第13回 模擬授業と授業の相互評価(中学校技術) 第14回 模擬授業と授業の相互評価(中学校社会) 第15回 まとめ－教育実習における目標と課題の設定－			
準備学習	①これまでに受講した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。(20時間) ②単元の内容精査を行い、学習指導案を作成して模擬授業の準備をすること。(35時間) ③友人の模擬授業等から学んだことを整理して、自分自身の授業に活かす準備をすること。(5時間)			
学習到達目標	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につける。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正する。 ④教育実習における目標と課題を設定する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教職の意義及び教員の役割等について再確認することができたか。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につけることができたか。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正することができたか。 ④教育実習における目標と課題を設定することができたか。		
	成績評価 方法	学習指導案40%、模擬授業50%、参加姿勢(コメント)10%で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	教育実習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習中の過ごし方 第 2回 「教育実習の記録」の記入について 第 3回 模擬授業と教材研究1 第 4回 模擬授業と教材研究2 第 5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第 6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第 7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第 8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第 9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					



科目名	教育実習Ⅲ			
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	佐藤 由美			単位区分 ◎(必修),○(選必)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。			
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成			
準備学習	①教育実習テキストを熟読すること(10時間) ②授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) ③教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)			
学習到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 ②教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。		
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	メディア教育論										
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期						
				曜日・時限	水5						
担当教員	高橋 優			単位区分	_(選択)						
				単位数	2						
概要 (目的・内容)	コンピュータやネットワークの発達に伴い、メディア教育は新たな展開を迎えている。多様なツールの特性を見極め、学習者にとって最適なツールを選択しそれを使いこなすことで、これまで以上に効果的な教育実践が可能となる。本講ではこうしたメディアの理解と実践のための技術の習得を目的とする。ツールの理解だけでなく、ネットワークの発展に伴う倫理的側面や認知科学的側面についても触れていきたい。										
授業方針	授業は座学と実習の両方を含み、授業外の時間での作業も少なくない。意気込みのある者の受講を望む。										
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア教育の意義:コミュニケーションメディアの特性</li> <li>2. 授業におけるメディアの特性</li> <li>3. 教育現場における著作物の利用:発表資料を例として</li> <li>4. 情報機器の操作:視聴覚機器の操作と注意点</li> <li>5. マルチメディア基礎:画像の特性と操作</li> <li>6. 電子ファイルの共同編集と公開</li> <li>7. 発表実習(1):教具の特性とは</li> <li>8. 発表実習(2):教育におけるPCの利用</li> <li>9. マルチメディア応用</li> <li>10. ネットワークと教育(1):情報機器とプライバシー</li> <li>11. ネットワークと教育(2):情報検索の課題</li> <li>12. ネットワークと教育(3):知る権利・忘れられる権利</li> <li>13. ネットワークと教育(4):子どもたちとネット</li> <li>14. 成果発表と相互評価:成果物の発表</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>										
準備学習	授業内で指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。課題に必要な時間は、平均して毎回4時間程度だが、発表準備などではこれを大きく上回るものと思われる。										
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解する。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになる。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになる。</li> </ol>										
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解したか。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになったか。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになったか。</li> </ol>									
	成績評価 方法	授業内の課題(レポート、発表)80%、授業への参加(授業への参加、発表へのコメント)20%とする。									
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。									
教材	<table> <tr> <td>教科書</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>参考書</td> <td>授業の際に指示する</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>適宜、必要な資料を配付する</td> </tr> </table>					教科書	指定なし	参考書	授業の際に指示する	その他	適宜、必要な資料を配付する
教科書	指定なし										
参考書	授業の際に指示する										
その他	適宜、必要な資料を配付する										
備考	授業ではPCを使用する。基本的な操作方法についてあらかじめ確認しておくこと。また、授業内で指示された課題は期日までに提出すること。										

科目名	メディア教育論			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 水5
担当教員	高橋 優			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	コンピュータやネットワークの発達に伴い、メディア教育は新たな展開を迎えている。多様なツールの特性を見極め、学習者にとって最適なツールを選択しそれを使いこなすことで、これまで以上に効果的な教育実践が可能となる。本講ではこうしたメディアの理解と実践のための技術の習得を目的とする。ツールの理解だけでなく、ネットワークの発展に伴う倫理的側面や認知科学的側面についても触れていきたい。			
授業方針	授業は座学と実習の両方を含み、授業外の時間での作業も少なくない。意気込みのある者の受講を望む。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア教育の意義:コミュニケーションメディアの特性</li> <li>2. 授業におけるメディアの特性</li> <li>3. 教育現場における著作物の利用:発表資料を例として</li> <li>4. 情報機器の操作:視聴覚機器の操作と注意点</li> <li>5. マルチメディア基礎:画像の特性と操作</li> <li>6. 電子ファイルの共同編集と公開</li> <li>7. 発表実習(1):教具の特性とは</li> <li>8. 発表実習(2):教育におけるPCの利用</li> <li>9. マルチメディア応用</li> <li>10. ネットワークと教育(1):情報機器とプライバシー</li> <li>11. ネットワークと教育(2):情報検索の課題</li> <li>12. ネットワークと教育(3):知る権利・忘れられる権利</li> <li>13. ネットワークと教育(4):子どもたちとネット</li> <li>14. 成果発表と相互評価:成果物の発表</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>			
準備学習	授業内で指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。課題に必要な時間は、平均して毎回4時間程度だが、発表準備などではこれを大きく上回るものと思われる。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解する。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになる。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになる。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解したか。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになったか。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになったか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	授業内の課題(レポート、発表)80%、授業への参加(授業への参加、発表へのコメント)20%とする。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書	指定なし		
	参考書	授業の際に指示する		
	その他	適宜、必要な資料を配付する		
備考	授業ではPCを使用する。基本的な操作方法についてあらかじめ確認しておくこと。また、授業内で指示された課題は期日までに提出すること。			

科目名	教育制度論(教育課程を含む。)				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育制度論」では日本の学校制度を中心に、近代学校制度がどのように構築されたのか、現行の学校制度や教育課程はどうなっているのか、どんな問題を抱えているのか、学校以外の教育制度はどうなっているのかを学んでいきます。また、諸外国の学校制度にも触れ、日本の学校制度の特徴や問題点について検討していきます。				
授業方針	授業は講義形式が中心になります。将来、学校で勤務することを念頭に置き、必要な知識を身につけるとともに、学校制度が抱える問題点について事例を紹介しながら考察を重ねていきます。毎回の授業で簡単な課題を出して意見を求めます。共有したい意見や疑問点については次の授業で紹介する取り組みをしています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育制度とは 第 2回 戦後の日本の教育－憲法と教育基本法－ 第 3回 教育法規にみる現在の教育 第 4回 日本の学校制度 第 5回 日本の学校制度(続) 第 6回 制度外の学校 第 7回 制度外の学校(続) 第 8回 教育の国際化 第 9回 教育課程を考える 第10回 教育課程を考える(続) 第11回 学習指導要領の変遷 第12回 学習指導要領の変遷(続) 第13回 諸外国の学校制度と教育課程① 第14回 諸外国の学校制度と教育課程② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 指定したテキストや参考文献の該当箇所を事前に読んで、専門用語の意味などを調べておくこと。(20時間) 2) 授業で配布するレジュメをもとに学習したことを整理して次時の学習に臨むこと。(30時間) 3) 現代の教育に関する新聞記事等に目を通しておくこと。(10時間)				
学習到達目標	1) 教育制度の構造・領域を理解し考察に活かすことができる。 2) 日本の教育(学校)制度と教育課程の史的変遷を理解し、現行の教育(学校)制度と教育課程の課題について考察することができる。 3) 諸外国の学校制度と教育課程を調査・理解し、日本の学校制度や教育課程と比較することによって現状の課題について考察することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 教育制度の構造・領域を理解し考察に活かすことができるか。 2) 日本の教育(学校)制度と教育課程の史的変遷を理解し、現行の教育(学校)制度と教育課程の課題について考察することができるか。 3) 諸外国の学校制度と教育課程を調査・理解し、日本の学校制度や教育課程と比較することによって現状の課題について考察することができるか。			
	成績評価 方法	平常点30% 試験70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	蔭山雅博・國枝マリほか『はじめて学ぶ教育の原理』学文社				
備考	学習内容は多少前後することがあります。教育関係の時事問題についても取り上げます。				

科目名	学習指導I			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	月1
担当教員	小川 毅		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	「教える」ことを学ぶ科目である。教えるためには当然その教科の学力がなければならないが、学力があれば教師はつとまるというわけではない。教えるということの意味を理解した上で、指導案の作成、授業の設計、授業中の態度・動作、板書の仕方など多くの要件をマスターしておく必要がある。授業とは教える者と学ぶ者の協同作業であり、教師は言語・非言語両方のメッセージにより場面を適切に導くことが求められる。			
授業方針	この講義は教師志望者のための授業技術入門をねらいとしている。教室での模擬授業を中心に、実践的な授業を展開する。実際の授業と同様の経験を重ねることで、「教育力」を向上を図る。自身の模擬授業だけでなく、他の受講者の模擬授業に「生徒」として参加することも大切である。自分ならどうするかを常に考えながら、積極的に実習に臨んでほしい。高等学校の授業見学も予定している。自分なりの問題意識を整理しておかなければ経験者から学ぶことはできない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1: 学校教育の現状と課題 2: 中学・高校の学習指導要領、教育法規、通知・通達等 3: 中学・高校現場における授業づくり及び諸課題と授業改善 4: 教材研究と指導法 5: 学習指導案作成1(教材・指導観・展開・評価) 6: 学習指導案作成2(授業のねらい、まとめや情報機器の活用) 7: 附属高校の授業見学の事前調査・研究 8: 附属高校での授業見学(1・2時限目授業見学) 9: 附属高校での授業見学(3・4時限目授業見学) 10: 附属高校での授業見学の事後研究1(授業見学についての討議) 11: 附属高校での授業見学の事後研究2(授業見学の考察及び発表) 12: 模擬授業の実施(班別学習を取り入れた授業) 13: 模擬授業の実施(情報機器等を駆使した授業) 14: 模擬授業の講評 15: まとめ			
準備学習	① 次回の講義内容に関する参考文献等を読み、専門用語等の意味などを理解していること。 ② 授業にて小テストを実施するので復習しておくこと。			
学習到達目標	1. 教職に就く意味を理解する。 2. 授業を構成する要因を理解する。 3. 指導案の作成ができるようになる。 4. 教師の役割を理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教職に就く意味を理解したか。 2. 授業を構成する要因を理解したか。 3. 指導案の作成ができるようになったか。 4. 教師の役割を理解したか。		
	成績評価 方法	指導案作成40%、模擬授業50%、模擬授業参観の取り組みおよび附属高校授業見学レポート10%とする。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	中・高等学校学習指導要領(総則・解説)			
備考	模擬授業の準備不足は他の受講者の学習機会を奪うことになる。熱意を持って受講することを求める。			

科目名	学習指導Ⅱ				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1
担当教員	小川 毅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学習指導における基礎的な授業内容を基に、学校現場の様々な職務に対応できる教師力を育成する。学習指導は単に授業のみにあるものではなく、広範な学校教育に関わるものであることを意識して、実践的指導力を強化する。				
授業方針	学校現場の教育内容に合わせ、実践的な学習内容と生徒・進路指導等の総合的な教師養成の学びとする。教師として身に付ける具体例として教員採用試験対策を取り入れ、現実的な教師力を強化する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 学習指導と学校教育の現状・課題 2 学習指導と教育法規、学習指導要領、通知・通達等 3 実践的指導力の強化1(教育の意義に関する授業力) 4 実践的指導力の強化2(情報機器を活用した授業改善) 5 実践的指導力の強化3(ディスカッションを通じたコミュニケーション能力の開発) 6 実践的指導力の強化4(発展的授業指導力の研究) 7 学習指導と教育改革(討議) 8 学習指導案作成 9 模擬授業1(教科「中学理科」、「中学数学」) 10 模擬授業2(教科「高校理科」、「高校数学」) 11 模擬授業3(教科「中学社会」、「中学理科」) 12 模擬授業4(教科「地歴」、「公民」) 13 模擬授業5(教科「情報」、「工業」) 14 模擬授業の反省(討議) 15 まとめ				
準備学習	①次回の講義内容に関連する参考文献等を読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に示す課題について、レポート・小論文を作成すること。(10時間) ③指導案作成・模擬授業の準備(30時間)				
学習到達目標	①学校現場の現状と課題を理解し、その改善策を自ら考え判断し、行動できる教師を目指す。 ②学校現場の状況を理解し、学習指導の改善及び強化を図る。 ③指導案作成、模擬授業により、実践的指導力を強化する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①レポート、小論文の内容が目標に達成しているか。 ②指導案作成が満足できるか。 ③模擬授業が満足できるか。			
	成績評価 方法	レポート10%、小論文30%、指導案30%、模擬授業30%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	学習指導要領(総則編、解説編) および毎回の授業で教材を適宜配布する。				
備考					

科目名	教職実践演習(中・高)				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	佐藤 由美			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	これまで学んだことを振り返り、改めて教師としての資質とは何かを考える。また、指導は講義だけでなく、履修者間のディスカッションや学校教育現場への見学、現職教員を招いての講話などにより、教師としての実践的な指導力を養成する。履修者は、積極的にこの演習に取り組み、自ら教師として成長していくための課題を明らかにし、教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を身につける。				
授業方針	これまで学んできた教職課程のすべてについて総合的に理解し、教師としての知識、技能を補完する。具体的には、学校教育現場への見学や現職教員をゲストティーチャーとして招いたレクチャーを通じて、学校教育が直面しているより現実的な課題について把握する。また、履修者間で活発なディスカッションを通じて、自らが教師となったとき教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を養成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学修を振り返る</li> <li>2. 教職の意義、教員に求められる資質を考える</li> <li>3. 学級経営に求められるもの</li> <li>4. 保護者・地域との連携</li> <li>5. 生徒理解の実際(1): 青年期の心理と行動の理解</li> <li>6. 生徒理解の実際(2): 教育実習を踏まえて</li> <li>7. 学校現場の理解(1): 附属高校の教員を招いて</li> <li>8. 学校現場の理解(2): 附属高校での授業参観</li> <li>9. 学校現場の理解(3): 授業参観を終えてのディスカッション</li> <li>10. 模擬授業(1): 教材提示</li> <li>11. 模擬授業(2): 発問と解説</li> <li>12. 模擬授業(3): 履修者による模擬授業と討論</li> <li>13. 教科内容の指導力を高めるには</li> <li>14. 教職課程を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間)</li> <li>②授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(30時間)</li> <li>③毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる小テストを実施するので復習しておくこと。(10時間)</li> </ol>				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになる。</li> <li>2. 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになる。</li> <li>3. 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができる。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになったか。</li> <li>2. 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになったか。</li> <li>3. 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができるようになったか。</li> </ol>			
	成績評価 方法	発表内容30%、課題・レポート70%の総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『三訂 教育実習テキスト』				
備考	教師として働く意志を持って受講すること。				

科目名	教職実践演習(中・高)			
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	小川 毅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	これまで学んだことを振り返り、改めて教師としての資質とは何かを考える。また、指導は講義だけでなく、履修者間のディスカッションや学校教育現場への見学、現職教員を招いての講話などにより、教師としての実践的な指導力を養成する。履修者は、積極的にこの演習に取り組み、自ら教師として成長していくための課題を明らかにし、教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を身につける。			
授業方針	これまで学んできた教職課程のすべてについて総合的に理解し、教師としての知識、技能を補完する。具体的には、学校教育現場への見学や現職教員をゲストティーチャーとして招いたレクチャーを通じて、学校教育が直面しているより現実的な課題について把握する。また、履修者間で活発なディスカッションを通じて、自らが教師となったとき教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を養成する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学修を振り返る</li> <li>2. 教職の意義、教員に求められる資質を考える</li> <li>3. 学級経営に求められるもの</li> <li>4. 保護者・地域との連携</li> <li>5. 生徒理解の実際(1): 青年期の心理と行動の理解</li> <li>6. 生徒理解の実際(2): 教育実習を踏まえて</li> <li>7. 学校現場の理解(1): 附属高校の教員を招いて</li> <li>8. 学校現場の理解(2): 附属高校での授業参観</li> <li>9. 学校現場の理解(3): 授業参観を終えてのディスカッション</li> <li>10. 模擬授業(1): 教材提示</li> <li>11. 模擬授業(2): 発問と解説</li> <li>12. 模擬授業(3): 履修者による模擬授業と討論</li> <li>13. 教科内容の指導力を高めるには</li> <li>14. 教職課程を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 次回の講義内容に関連する参考文献等を読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間)</li> <li>② 事前にこれまでの教科、教職科目および各自の教育実習での課題を再確認すること。(30時間)</li> <li>③ 授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。(10時間)</li> </ol>			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになる。</li> <li>② 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになる。</li> <li>③ 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができる。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになったか。</li> <li>② 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになったか。</li> <li>③ 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができるようになったか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	発表内容30%、課題・レポート70%の総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『三訂 教育実習テキスト』			
備考	教師として働く意志を持って受講すること。			